530
67

0031391000

0031391-000

５３０－６７ロ

税関論

小林行昌・著

巌松堂書店

訂６版
昭和５

AEB

帝國圖書館

〔改訂〕

稅關論

早稻田大學
教授商學士 小林行昌著

東京 巖松堂書店 發兌

昭和五・四・二〇 帝國圖書館

530-67

第五版ニ就テ

前版ニ於テ大體必要ノ補綴ヲ加ヘタルモ、昭和四年三月關稅定率法ノ稅率中新ニ改正若クハ增加セラレタルモノ數十種ニ及ビ、同月贅澤品關稅中ノ品目十四種ヲ削除シ、尙ホ一部ノ細目ヲ變更シタルモノアルヲ以テ、是等ヲ訂正スルト同時ニ、從價稅ノ課稅標準、其他所々ノ誤植ヲ改ムルコト、爲セリ。

昭和五年四月

著者識

第四版改正ノ序

大正十三年九月本書改訂ノ後、稅關官制ノ改正、贅澤品關稅並ニ關東州ノ生產品ニ對スル特惠關稅ノ設定アリ、多年ノ懸案タリシ關稅定率法並ニ附屬稅表ノ改正モ亦成ヲ告ゲ、其他國內諸稅法モ幾多改正セラレ、再ビ本書ヲ訂正スルノ必要ヲ感ジタルモ、其機ヲ失シタルヲ以テ、大正十五年四月ノ第二版ニ於テハ、單ニ附錄中ノ法規ヲ增補スルニ止メタリ。

然ルニ爾來開港ノ制限撤廢、其廢止及ビ新設、稅關ノ職務ト其官吏、監視署及ビ支署ノ增設、贅澤品關稅ノ品目並ニ開港港則及其施行規則ノ改正、手數料ノ增加、一部書式ノ改正等アリ、從價稅ノ課稅價格、協定稅率、關稅手續ニ關スル國際條約、航空法等ニモ亦補綴ヲ加フルノ必要アリタルヲ以テ、更ニ大部分ニ亘リテ版ヲ新ニスルコト、爲セリ、而シテ關稅ノ經濟論ハ大體舊稿ニ依リタルモ、統計ノ如キハ總テ最新ノ數字ニ據リテ之ヲ改メ、以テ一般ノ資料トシテモ、遺憾ナカラシムルコトヲ期セリ。

尙ホ本書ノ改訂ニ當リ、當時大藏省主稅局ニ在勤シ、現在朝鮮總督府財務局ノ事務官タル內海幹一君ガ、本書ノ全部ヲ閱讀シ、現行法規ニ關スル誤謬ヲ訂正セラレ、特ニ有益ナル材料ヲ供セラ

レタル好意ニ對シ、深ク感謝ノ意ヲ表スルモノナリ。

昭和三年六月

著者識

〔注意〕關稅ニ關シテハ拙稿「支那關稅問題」（大正十四年十二月發行早稻田商學第二號）、「陸境關稅論」（昭和三年七月發行同誌第四卷第一號）並ニ「關稅ト物價」（昭和五年四月千倉書房發行）ヲ一讀セラレンコトヲ望ム。

改版ニ就テ

本書ハ最初「倉庫及稅關」ト題シテ刊行セシモノナルガ、其後便宜上「倉庫編」及ビ「關稅編」ノ二部ニ分チ、倉庫編ハ數次訂正シテ今日ニ至リタルモ、稅關編ニ至ツテハ其時機ヲ失ヒ、爾來殆ンド絕版ノ如キ姿トナリ、敎壇ニ於テモ僅ニ簡單ナル「シラバス」ヲ交付スルニ止メタリキ。然ルニ稅關及ビ關稅ニスル法規ハ其後屢改正セラレ、通商條約ハ多ク期滿チテ改正ノ必要ニ迫ラレ、大戰後內外產業貿易ノ狀態ハ俄ニ變革シテ、關稅率ノ增減ヲ必要トシ、一方國際聯盟ハ各國ノ稅關手續ヲ統一シ、且ツ之ヲ周知セシムルノ計畫アリ、各國商業會議所ノ聯合會ハ此擧ヲ贊シテ「ヂェネヴァ」會議ノ開催ヲ促シ、更ニ航空ノ發達ハ航空通商ノ端緖ヲ開キ、內外共ニ之ニ關スル法規ヲ定ムルニ至リ、商學研鑽ノ學徒ハ固ヨリ、一般實業家ニ於テモ、稅關ニ關スル研究ヲ要スル事項少カラズ、乃チ舊著ヲ改訂シテ其梗概ヲ說述シタル所以ナリ。而シテ商業學上稅關ニ關スル研究ノ目的ハ、主トシテ其手續ニ在リ、外國貿易實務ノ一部ニ過ギザルガ如クナレドモ、之ニ伴フ關稅制度、其稅率、其改廢ニ至ツテハ、影響スル所極メテ廣ク、從テ最モ周密ナル研究ヲ要スルモノナレバ、本書ノ如キ一小編ヲ以テシテハ、到底之ヲ詳論スルノ餘地ナク、單ニ其要綱ヲ示ス

ニ過ギザレドモ、是等ハ普通商業政策並ニ財政學ノ一部トシテ、說明セラル、ヲ以テ、實務的研究トシテハ、本書ノ如キ概說ニ止ムルモ、亦大過之ナカルベシト信ズ。尙ホ實務方面ニ於テ必要ナルハ、我邦ノ關稅率並ニ重要通商諸國ノ通關手續及ビ其稅率ナレドモ、前者ハ目下其改正立案中ニ屬スルヲ以テ、之ガ添附ヲ他日ニ期シ、後者ハ之ヲ其專門書、例ヘバ「ケリー」ノ Customs Tariffs of The World, 1923. ノ類ニ讓ルコト、爲セリ、讀者乞フ之ヲ諒トセラレンコトヲ。

大正十三年六月

著者識

改訂

稅關論

目次

第一章　稅關……一
　第一節　稅關ノ意義及種類……一
　第二節　稅關ノ組織及職員……六
　第三節　開港……一一
　第四節　稅關ノ所在地及管轄區域……一一
第二章　稅關及諸收入……二二
　第一節　關稅ノ性質及負擔……二九
　第二節　關稅ノ目的及產業ノ保護……二九
　第三節　關稅ノ領域ト立法……四二
　　第一項　關稅領域……五八

第二項　關稅ノ立法……六五
第四節　稅率ノ組織……七六
第一款　對外關係……七六
第一項　單一稅率……七六
第二項　國定稅率及協定稅率……七六
第三項　最惠國條款……八〇
第四項　最高最低稅率……八七
第五項　三重稅率其他……九二
第二款　對內關係……九七
第一項　從價稅及從量稅……一一〇
第二項　從量稅其他ノ長短……一一〇
第三項　稅率表ノ分類……一二八
第四項　無稅品及禁制品……一三六
第五節　我邦ノ關稅率……一四二
第一項　我邦關稅率ノ變遷……一五九
第二項　條約ト關稅……一七二
第三項　現行協定稅率……一八四
第四項　我邦ノ無稅品・免稅品及禁制品……一九三
第六節　戻稅及交付金……二一一
第七節　輸出稅及通過稅……二二四
第一項　輸出稅……二二四
第二項　通過稅……二二九
第八節　消費稅……二三一
第九節　噸稅……二三七
第十節　諸收入……二三九
第三章　貨物輸入手續……二四九
第一節　緒說……二四九

第二節　貨物ノ船卸及陸揚……二五一
第三節　輸入ノ順序……二五八
第四節　輸入申告書及添附書類……二六八
第五節　旅客携帯品及郵便物……二七五
第六節　其他ノ特別貨物……二七八
第一項　動植物及銃砲火薬ノ輸入……二七八
第二項　免税品ノ輸入……二七九
第三項　消費税ノ納付……二八一
第四章　貨物輸出手續……二八五
第一節　緒說……二八五
第二節　輸出ノ順序……二八七
第三節　輸出申告書……二八八
第四節　旅客携帯品及郵便物……二九〇

第五節　其他ノ特別貨物……二九二
第六節　戻税品ノ輸出及消費税等ノ免除……二九三
第七節　税關貨物取扱人……三〇四
第五章　積戻・運送及收容……三〇七
第一節　積戻……三〇七
第二節　運送……三〇八
第三節　收容……三一一
第六章　船舶出入港手續……三一四
第一節　船舶入港手續……三一四
第二節　船舶出港手續……三二三
第三節　外國貿易船ノ不開港出入……三二三
第四節　船舶ニ對スル税關長ノ職權……三二六

第七章　異議及訴願……三二七

第一節　異議……三二七

第二節　訴願……三三〇

第八章　自由港……三三四

第一節　保護關稅ノ緩和制度……三三四

第二節　自由港ノ意義及種類……三三四

第三節　自由港ノ利害……三三四

第九章　稅關手續ト國際會議……三三九

第一節　國際聯盟ノ提案……三四四

第二節　本邦商工業者ノ意見……三四四

第三節　「ヂェネヴァ」會議……三四九

第十章　航空ト稅關……三五一

第一節　航空ニ關スル國際條約……三五九

第二節　航空ニ關スル國內法……三六九

附錄

（第一）關稅法……一

（第二）關稅法施行規則……一四

（第三）稅關官制……二六

（第四）關稅調查委員會官制……三一

（第五）開港港則……三二

（第六）開港港則施行規則……三九

（第七）關稅定率法……五六

（第八）關東州生產品ノ輸入稅免除ニ關スル法律……一一三

（第九）關東州生產品ノ製產原地證明ニ關スル件……一一五

（第十）贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律……一一七

（第十一）貴石・半貴石又ハ琥珀ノ輸入税一部免除ニ關スル件……一二三
（第十二）税關貨物取扱人法……一二四
（第十三）税關貨物取扱人法施行細則……一二六

附錄書式

第一號　積荷目錄
第二號　輸入申告書及輸入免狀
第三號　輸入免許前引取申請書及輸入免許前引取認許書
第四號　輸出申告書及輸入免狀
第五號　通關申告書・通關許可書及通關票
第六號　貨物收容解除申告書及貨物收容免狀
第七號　積戻申告書及免狀
第八號　海路運送申告書及海路運送免狀
第九號　陸路運送申告書及陸路運送免狀

——（目次終）——

訂正

税關論

商學士　小林行昌著

第一章　税關

第一節　税關ノ意義及種類

一、税關ノ意義　税關(Custom House)ハ開港又ハ陸接國境ニ在リテ、輸出入ノ貨物若クハ船舶ヨリ租税ヲ徴收シ、且ツ之ニ關聯スル諸般ノ事務ヲ取扱フ官廳ニシテ、外國貿易並ニ海運業トハ最モ密接ナル關係ヲ有シ、其他衞生、風俗、公安、工業所有權ノ保護等ヲモ圖ラントスルモノナリ。我本國若クハ英本國ノ如ク、四面環海ノ島國ニ在テハ、税關ハ總テ海港ニ設ケラル、モ、瑞西ノ如ク大陸諸國ノ間ニ介在スル國ノ税關ハ、總テ陸接國境ニ在リ、又海陸兩方面ノ國境ヲ有スル多數ノ國ハ、其税關ヲ海港ト陸接國境トノ兩地ニ設ケザルベカラズ、我朝鮮ニ於テ、諸海港ト、北部ノ國境トニ之ヲ設ケタルガ如キハ、蓋シ其適例ナリ。

政府ガ稅關ナル官府ヲ設クル主タル目的ハ、海陸ヲ問ハズ、苟モ國境ヲ通過スル貨物並ニ船舶ニ對シ、關稅其他ノ諸稅ヲ賦課徵收スルニ在ルモ、之ト同時ニ出入ノ貨物並ニ船舶ヲ監督シ、保稅事務ヲ取扱ヒ、戾稅ヲ交付シ、倘ホ衞生、風俗ヲ紊リ、若クハ特許權ヲ侵害スル貨物ノ輸入ヲ取締リ、殊ニ戰時ニ在テハ、貨物ノ輸出入ヲ制限シ、敵國トノ通商禁止ヲ監督スル等、外國貿易其他各方面ニ關係ヲ有スルガ故ニ、專ラ國內稅ヲ徵收スル稅務署トハ、大ニ趣ヲ異ニスルモノトス。稅關ハ上記ノ如ク、本來關稅ヲ賦課徵收スル官廳ニシテ、之ニ關聯シテ外國貿易ニ交涉シ、之ガ發達ヲ幇助スルモノナレドモ、近年我邦海運業者ノ間ニ、航海ニ關スル行政上ノ諸手續ヲ簡捷ナラシメ、以テ航海ニ關スル經濟的活動ヲ敏活ナラシメントスルノ議アリ、政府ニ對シ航海行政ノ統一ヲ圖ランコトヲ建議セシガ、大正十三年財政及行政ノ整理ヲ機トシ、府縣港務部及植物檢查所ノ事務ヲ稅關ニ移管セシムルコト、爲リタル爲メ、稅關ノ事務ハ著シク擴張セラル、ニ至レリ。

【註】港灣行政ノ統一　政府ハ更ニ港灣法ヲ制定シ、港務部、海港檢疫、植物檢查、水上警察、府縣ノ港灣事務、港灣土木、上屋、棧橋ノ管理等ヲ統一スベキ特別機關ヲ全國樞要港六箇所（小樽、橫濱、神戶、大阪、名古屋及關門）ニ設置スルノ議アリ、昭和三年末ノ議會ニ提出スベキ意向ナリト云フ。

我邦ノ稅關ハ大藏省ノ管轄ニ屬シ、左記五種ノ事務ヲ掌ル。（稅關官制第一條）

(甲)稅　務

一、關稅、噸稅、稅關諸收入、砂糖及織物ノ消費稅竝ニ骨牌稅ニ關スル事項
二、戾稅及交付金ニ關スル事項

(乙)保稅事務

一、保稅倉庫、保稅工場、其他ノ保稅地域ニ關スル事項

(丙)關稅警察及犯則處分

一、船舶貨物及運送通路ノ取締、並ニ貨物ノ收容ニ關スル事項
二、關稅法及噸稅法犯則者ノ處分ニ關スル事項

(丁)港務行政

一、開港港則ノ施行ニ關スル事項
二、開港港則ノ施行ニ直接必要ナル港內ノ行政警察ニ關スル事項

(戊)檢疫事務

一、開港檢疫ニ關スル事項
二、獸畜其他ノ貨物ノ檢疫ニ關スル事項
三、植物ノ檢查及取締ニ關スル事項
四、植物ノ病菌及害蟲ノ研究、調查ニ關スル事項

二、稅關ノ種類　稅關ヲ其徵收スル稅金ノ性質、並ニ其所在地ノ如何ニ依リ區別スルトキハ、國內稅關及ビ國境稅關ノ二種ニ大別シ、更ニ國境稅關ヲ別チテ、海港稅關及ビ陸上稅關ノ二種トス。

(甲)國內稅關　關稅ハ普通國境ニ於テ輸出入ノ商品ニ對シテ賦課スル租稅ヲ指スモ、之ヲ廣ク觀ルトキハ、商品ガ國內水陸交通ノ要路ヲ通過スル場合ニ賦課スル、所謂國內關稅（又內部關稅

トモ云フ）ヲモ包含ス。國內稅關ハ卽チ此種ノ關稅ヲ徵收スル機關ニシテ、往時ハ內外共ニ少カラズ、就中佛蘭西ノ如キハ其最モ著シキモノナリシガ、國內ノ交通ヲ妨ゲ、商業ノ發達ヲ害スルコト著シキ爲メ、十七世紀ノ中葉ニ至リ、全然此制度ヲ廢止スルコト、爲セリ。而シテ現今ニ於テハ、佛、墺、伊並ニ巴爾幹諸邦ノ都市ニ入市稅ヲ存スル外、各國共ニ斯ル制度ヲ存スルモノ稀ナレドモ、支那ニ於テハ、今尙ホ至ル所ニ國內稅關（常關）ヲ設ケ、盛ンニ常關稅若クハ釐金ト稱スル租稅ヲ徵收シ、主トシテ地方財源ノ一要素ト爲シ居レリ。

（乙）國境稅關　ニハ海港ニ設ケラル、モノト、陸接國境ニ設ケラル、モノトノ別アリ、我本國、英本國、若クハ濠洲ノ如ク、四面繞ラスニ海ヲ以テスルモノハ、總テ海港稅關ナレドモ、大陸諸國ノ如ク、陸接國境ヲ有スルモノハ、其國境ニ於ケル一定ノ通路ニ稅關ヲ設クルヲ常トス。卽チ陸上稅關ニシテ、其徵收スル關稅ノ稅率ハ、海路ヨリスルモノト同一ナルノ理ナレド、往々之ヲ輕減シ若クハ增加シタルモノアリ。例ヘバ支那ト佛領東京及ビ英領緬甸トノ貿易、西藏ト印度トノ貿易ハ陸路關稅ヲ輕減シタル例ニシテ、嘗テ塊地利ガ茶、珈琲ノ如キ植民地產物ノ自國ノ港（トリースト」及ビ「フューム」）ヨリ入ルモノト、陸路ヨリ入ルモノトヲ區別シ、陸路關稅ヲ高メテ、獨逸ノ通過貿易ヲ妨ゲタルガ如キ（一八八二年）若クハ米國ガ一八九七年ノ條例中ニ「合衆國ニ隣接セザル外國ノ生產品又ハ製造品ニシテ、隣接セル國ヨリ輸入セラレタルトキハ、一割ノ增稅ヲ賦課ス」ト爲シ、隣邦加奈陀ニ輸入セラル、モ、米國消費ノ目的ニ出ヅル、加奈陀鐵道輸送ノ貨物ヲ妨碍セントシタルガ如キハ、陸路關稅ヲ高メタル例證ナリ。

【註】支那ノ陸路關稅　北部ニ於テハ、露西亞トノ條約ニ依リ、露國ヨリノ輸入品ニ對シ、原則トシテ三分一減ト爲シ、朝鮮滿洲間モ亦三分ノ一減トシ、南方ニ於テハ、佛蘭西トノ條約ニ依リ、東京トノ境界ニ於テ輸入稅ハ三割減、又輸出稅ハ四割減ト定メ（一八八七年）、英國トハ一八六年ノ北京條約ニ依リ、一八九三年西藏通商章程ヲ定メ、亞東ヲ開放シテ五箇年ノ無稅ヲ約シ、其翌年ノ倫敦條約ニ依リ、前記東京貿易ニ對スルト同樣ノ減稅ヲ許與スルコト、爲セリ、然ルニ一九二二年二月六日、華盛頓會議ニ於テ支那、日本、米國、英國、佛蘭西、伊太利、白耳義、和蘭及葡萄牙ノ九箇國間ニ調印セラレタル支那關稅條約第六條ハ海陸均一ノ制度ヲ認メ、是等ノ差別ヲ撤廢スルコト、爲セシガ、同年四月一日露支間ノ特惠ヲ廢止シタル外、今尙ホ之ヲ行ヒ居ルガ如シ、一九二五年十月二十六日ヨリ北京ニ於テ開催セラレタル關稅特別會議ニ於テハ、右ノ原則ヲ實行センコトヲ期セシモ、前記條約ニ「廢止スベキ關稅上ノ特惠ガ或ル地方的經濟上ノ利益ノ代償トシテ許容サレタルモノナレバ、公平ナル處置ヲ採ルベシ」ト云ヘル條件アルヲ以テ、英佛及我邦ハ、此條件ニ依リ、依然特惠ヲ繼續セントスル意向ナリト云フ。（早稻田商學第二號（大正十四年十二月）拙稿「支那關稅問題」參照）。（我邦ハ近ク之ヲ撤廢スルガ如シ）

三、國境貿易　陸接國境ニ於テハ、其或地點ニ徵稅官廳ヲ設ケ、關稅ヲ徵收スルモノ多キモ、亦往々國境ヨリ一定ノ距離ヲ劃シ、自由地帶（Free zone）ヲ設ケ、相互ニ此區域內ニ於ケル輸出入品ヲ無稅トシ、或ハ一定ノ條件ノ下ニ、生活必需品ノ加工貿易等ヲ便ナラシムルモノアリ、所謂狹義ノ國境貿易（Small frontier traffic；Frontier traffic in the narrower sense）ナルモノニシテ、畢竟國境住民ノ便宜ヲ圖ルト同時ニ、密輸出入ヲ防ガンカ爲メナリ。例ヘバ支那ト露西亞ハ、一八六二年ノ陸路貿易章程ニ於テ、沿線百淸里（五十露里）以內ノ貿易ヲ無稅ト定メタルガ如キ（其後一九一三年一月露西亞先ヅ之ヲ廢棄シ、翌年四月支那モ亦之ニ對シテ廢止セリ）、墨西哥モ亦嘗テ北部

ノ國境全部ヲ通ジ、國境ヲ距ル十二哩半ノ地域ヲ劃シテ自由地帶トシ（但シ自由地帶ハ最初ハ純粹ノ自由地帶ナリシガ、其後此區域ニ輸入セラル、貨物ハ、一般稅率ノ一割一分五厘ヲ賦課シ、之ヨリ內地ニ移入セラル、場合ニ、殘額ヲ納附セシムルコト、爲セリ）又現在佛、瑞、獨等歐羅巴大陸諸國ガ相互ニ此制度ヲ施行シ居ルガ如シ。例ヘバ瑞西ハ國境ヨリ十「キロメートル」ヲ自由地帶ト認メ、對手國ガ互惠主義ヲ採ル場合ニ限リ、衣服、靴ノ修繕、材木、小麥ノ加工等ニ關シ、其地帶ノ住民ニ對シ、自由交通ヲ許スノ類ナリ。我朝鮮ガ陸接國境ニ於テ、二里マデ自由地帶トシ、鐵道以外ノ旅客用品、職業上ノ必要品、地域內住民ノ生產品ニテ、自ラ輸出入ヲ行フモノ等ニ限リ、關稅法ヲ適用セザルガ如キモ、亦其適例ナリ。

第二節　稅關ノ組織及職員

一、稅關ノ組織　ハ稅關官制及稅關分課規定ノ定ムル所ニシテ、次ノ如ク稅關長官房ノ外四課二部ニ分チ、各事務ヲ分掌セシム。

（一）稅關長官房　ハ稅關長ノ秘書的事務、官吏ノ進退、異議訴願等ヲ掌ル係ニシテ、分課規定ニ依レバ、其取扱事務ハ次ノ如シ。

一、機密ニ關スルコト
二、官吏ノ進退身分ニ關スルコト
三、官印及庶印ノ管守ニ關スルコト
四、文書ノ接受、發送、編纂、保管ニ關スルコト
但シ稅關長ハ、必要ト認ムル場合、部又ハ課ノ事務ニ關スル文書ノ發送ヲ、其ノ部課ニ掌ラシムルコトヲ得ベシ
五、飜譯ニ關スルコト
六、異議、訴願及訴訟ニ關スルコト
七、外國貿易船不開港出入ノ特許ニ關スルコト
八、保稅倉庫、保稅工場、其ノ他保稅地域ノ設置、變更、廢止ニ關スルコト
九、他ノ部課ニ屬セサルコト

（二）總務課　ハモト監査課ト稱シ、主トシテ船舶貨物ニ關スル書類ヲ受理調査シ、且ツ之ニ關スル免許認許等ヲ與フル係ニシテ、例ヘバ輸出入ノ申告書其他ノ諸申告、並ニ積荷目錄ヲ受理シ、船舶國籍證書其他ノ書類ヲ預リ、並ニ保管スルガ如キ、或ハ檢査スベキ貨物ヲ指定シ、檢査ノ結果ヲ調査シ、稅率適用ノ當否ヲ審査シ、正當ト認メタルトキハ、徵收係ヲシテ、申告書ニ依リ徵稅ノ手續ヲ了セシメ、然ル後輸入免狀ヲ交付スルガ如キ、其他貿易統計事務ノ如キハ、皆此課ノ分掌ニ屬ス、今分課規定上ノ事務ヲ見ルニ次ノ如シ。

一、船舶貨物及船用品ニ關スル文書ノ調査ニ關スルコト
二、船舶貨物及船用品ニ關スル免許、特許、認許其ノ他ノ處分ニ關スルコト
但シ開港港則、海港檢疫法、家畜傳染病豫防法、畜牛結核病豫防法、輸出入植物取締法、輸出獸毛製刷子取締規則及內地產獸毛消毒規則ニ關スルモノヲ除ク
三、檢査スヘキ貨物ノ指定ニ關スルコト

四、諸稅及諸收入ノ賦課徵收、竝ニ豫算ニ關スルコト
五、稅金ノ擔保ニ關スルコト
六、統計及諸表ノ作成ニ關スルコト

(三)檢査課　ハ舊檢査課ト鑑定課トヲ合併セルモノニテ、總務課ヨリ廻附セル輸出入申告書及ヒ仕入書ニ照シテ貨物ヲ檢査シ、必要ニ應シ品質價格ヲ鑑定シ、有稅無稅ヲ分チ、有稅品ナルトキハ、其稅率ヲ擬定ス、分課規定ニテハ。

一、貨物及船用品ノ檢査鑑定ニ關スルコト
二、見本品ノ採取、保存ニ關スルコト
三、仕入書ノ整理、保存ニ關スルコト

(四)植物檢査課　ニ於テハ次ノ事務ヲ掌ル、但シ函館稅關ニハ當分ノ內植物檢査課ヲ置カズ、監視部ニ於テ其事務ヲ掌ラシム。

一、輸出入又ハ移出入植物ニ關スル檢査取締ニ關スルコト
二、輸出入又ハ移出入植物ノ病菌及害蟲ノ研究調査ニ關スルコト

(五)會計課　ハ會計、官有財產、交付金等ニ關スル事務ヲ處理ス、規定上ニテハ次ノ如シ。

一、經費ノ豫算、決算及會計ニ關スルコト
二、官有財產及物品ニ關スルコト
三、交付金及諸拂戻金ニ關スルコト
四、營繕ニ關スルコト

(六)監視部　ハ卽チ稅關ノ警察ニシテ、其重ナル職務ハ密輸入其他ノ脫稅ヲ防ギ、船舶貨物ヲ保護シ、犯則事件ノ調査處分ヲ行フニ在リ、分課規程ニ依レバ。

一、船舶貨物及船用品ノ取締ニ關スルコト
二、保稅地域及運送通路ノ取締ニ關スルコト
三、貨物ノ整理及收容處分ニ關スルコト
四、倉庫事務ニ關スルコト
五、犯則事件ノ調査處分ニ關スルコト
六、旅客携帶品ノ檢査ニ關スルコト(但シ輸出入植物取締法ニ依ルモノヲ除ク)
七、船內船用品ノ檢査ニ關スルコト
八、艙口申告書、旅客氏名表及船內船用品目錄ノ調査ニ關スルコト
九、稅關構內ノ取締ニ關スルコト

(七)港務部　ニ於テハ次ノ事務ヲ掌ル、此部ハ大正十五年五月ノ改正ニ依リ、植物檢査課ト共ニ新ニ設ケラレタルモノニテ、主トシテ港務行政及檢疫ヲ掌ラシム、卽チ次ノ如シ。

一、開港港則ニ關スルコト
二、開港港則ノ施行ニ直接必要ナル、港內ノ行政警察ニ關スルコト
三、海港檢疫ニ關スルコト
四、輸入又ハ移入ノ獸毛其ノ他ノ貨物ニ對スル家畜傳染病豫防法、又ハ畜牛結核病豫防法ニ依ル檢疫檢査ニ關スルコト(但シ函館稅關ニ於テハ當分ノ內、監視部ヲシテ之ヲ掌ラシム)
五、內地製獸毛ノ消毒ニ關スルコト

二、稅關ノ官吏

稅關ニハ稅關長(四人勅任)ヲ始メトシ、事務官、關稅官、鑑査官、植物檢査官、

港務官、醫官、獸醫官、（以上ハ奏任）、事務官補、監視、港吏、鑑査官補、植物檢査官補、醫官補、獸醫官補、藥劑手、監吏及技手（以上判任）ナル十八種ノ職員アリ、職員ノ定員ハ稅關ヲ通ジテ約千三百十三人ニシテ、其職務ハ次ノ如シ。（大正十五年五月、十二月及昭和二年五月、十二月改正、附錄「稅關官制」參照）

（一）稅關長（六人）ハ大藏大臣ノ指揮ヲ受ケ、稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル、其權限ハ稍廣ク、職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ（一）船車ノ出發ヲ留メ、又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得ベク、（二）船車、倉庫其他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得、又（三）必要ニ應ジ海軍ノ援助ヲ求メテ船舶ノ停止ヲ命ジ、若クハ鑑船長ヲシテ兵力ヲ用ヒシムルコトヲ得ベシ。

（二）事務官（九人）ハ各稅關ニ分屬シ、稅關長ノ命ヲ承ケ稅關ノ事務ヲ掌ル。

（三）關稅官（七人）ハ稅關支署長タル者ノ外、上官ノ命ヲ承ケ稅關ニ於ケル經理ニ關スル事務ヲ掌ル

（四）鑑査官（十六人）ハ上官ノ命ヲ承ケ、貨物ノ檢査鑑定ニ關スル事務ヲ掌ル。

（五）植物檢査官（四人）ハ上官ノ命ヲ承ケ、植物ノ檢査及病菌害蟲ノ研究調査ヲ掌ル。

（六）港務官（九人）ハ上官ノ命ヲ承ケ、開港港則及檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル。

（七）醫官（八人）ハ上官ノ命ヲ承ケ、海港檢疫及醫務ヲ掌ル。

（八）獸醫官（六人）ハ上官ノ命ヲ承ケ、獸畜ノ檢疫、檢査及醫務ヲ掌ル

（九）事務官補（三〇四人）ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス。

（十）監視（八四人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス。

（十一）港吏（二一五人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、開港港則及檢疫ニ關スル事務ニ從事ス。

（十二）鑑査官補（一五三人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、貨物ノ檢査鑑定ニ從事ス。

（十三）植物檢査官補（二五人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、植物ノ檢査及病菌害蟲ノ研究調査ニ從事ス。

（十四）醫官補（六人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、海港檢疫及醫務ニ從事ス。

（十五）獸醫官補（一七人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、獸畜ノ檢疫、檢査及醫務ニ從事ス。

（十六）藥劑手（五人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、調劑ニ從事ス。

（十七）監吏（五六〇人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、關稅警察、犯則處分、開港港則及檢疫ニ關スル事務ニ從事ス。

（十八）技手（六九人）ハ上官ノ指揮ヲ承ケ、技術ニ從事ス。

（十九）檢疫員（判任待遇）、檢疫獸醫（奏任待遇又ハ判任待遇）ハ海港檢疫費豫算定額內ニ於テ、臨時ニ置クコトヲ得。

（保稅地域等ニ常時派出スル稅關官吏ハ右ノ定員外トス）

第三節　開港

一、開港ノ意義　開港（Ports open to commerce）トハ、外國貿易ノ爲メニ開放サレタル港ニシテ、貨物ノ海上ヲ經由スル輸出入ハ、海難其他已ムヲ得ザル場合、若クハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合等ノ外、原則トシテ開港ニ依ルニアラザレバ行フコトヲ得ズ、外國貿易船（外國貿易ノ爲メ外國ヘ往來スル船舶ニテ、外國船及內國船中ノ或モノ）モ亦前記例外ノ場合ノ外、開港以外ノ港ヘ出入スルコトヲ得ザル規定アリ、從テ稅關ハ勿論稅關支署ノ如キモ、一二ヲ除ケバ、皆開港ニ置カル、モノトス。

〔注意〕不開港ノ輸出入　大正九年ノ關稅法改正（第二十四條及九十八條）ニ依リ、貨物ハ開港ヲ經由セザルモ、輸出入ヲ行ヒ得ルコト、爲レリ、但シ不開港ニハ二、三ノ例外（東京、堺、舞鶴、廣島等）ヲ除ケバ稅關官署ノ設ケナキヲ以テ、是等ノ港ニ於テハ輸出入ノ手續ヲ行ヒ難キ不便ア

ルノミナリ。

二、開港ノ種類　開港ヲ沿革上ヨリ區別スレバ、條約港ト普通ノ開港トニ別ツコトヲ得、條約港(Treaty ports)トハ我邦ノ開港當初ニ於ケル開港、若クハ支邦ニ於ケル開港ノ如ク、外國ニ強要セラレ、條約ニ依リ、條約上ノ義務トシテ開キタルモノヲ謂ヒ、普通開港トハ自國ガ單ニ貿易上ノ便宜ヲ圖ランガ爲メニ設ケタル港ヲ謂フ。兩者貿易上ニ於テハ區別ナキモ、條約港ハ當初ノ條約ガ効力ヲ有スル限リ、自國ノ都合ニ依リ、猥リニ閉鎖スルコト能ハザルノ差アリ。

【註】條約港　支那ガ初メテ貿易港ヲ設ケタルハ、一八四二年英國トノ間ニ締結セル南京條約ニシテ、此特典ハ他ノ諸國ニモ許與シタルガ、當時ノ條約港ハ廣東、厦門、福州、寧波及上海ノ五港ニ過ギザリキ。

開港ハ亦一般貨物ノ輸出入ヲ、無制限ニ行ハシムルヤ否ヤニ依リ、一般開港ト、特別開港トニ區別スルコトヲ得、我邦現在ノ開港ハ總テ一般開港ナレドモ、嘗テ住ノ江、青森及根室ノ如キハ、輸入ヲ禁ジ若クハ輸入品ヲ制限シタルコトアリ、或ハ舊制度ニ於ケル特別輸出港ノ如ク、單ニ或ル種類ノ商品ノ輸出ノミヲ許シタルモノアリキ。而シテ關稅ヲ賦課スルヤ否ヤニ依リテ港灣ヲ區別スルトキハ、普通ノ開港ト自由港トニ別ツヲ得、自由港トハ關稅ヲ賦課セザル開港ナレドモ、現在我邦ニハ未ダ其設ケナシ。(第八章參照)

三、本邦開港ノ沿革　古來我邦ハ朝鮮、支那トノ貿易ヲ營ミ、筑紫ノ那ノ津、攝津ノ難波、堺ナド、之ガ港津ト爲リ、天文年間葡萄牙トノ通商ヲ開始シ、幾何モナク、西班牙船モ亦來航シ、平戸長崎ノ兩港ハ、貿易港トシテ繁榮セリ。而シテ織田氏ハ天主教ニ歸依シタル爲メ、葡西兩國ノ貿易モ亦盛ンナリシガ、秀吉ハ之ヲ壓迫シ、家康モ亦心中喜バザリシ爲メ、兩國ノ貿易ハ稍打擊ヲ蒙リタルモ、家康ハ通商ノ利ヲ慮リ、葡西兩國ヲ始メ、和蘭、英國及支那トノ貿易ヲ許容スルコト、爲セリ。然ルニ葡西兩國ノ商民往々專橫ナルノミナラズ、之ガ爲メ切支丹傳播ノ虞アリシカバ、委忠ニ至リ、先ヅ西班牙トノ通商ヲ禁ジ、後葡萄牙トノ貿易モ禁止シ、單ニ和蘭及支那ノ兩國人ニノミ通商ヲ許容スルコト、爲シ、寛永十八年長崎港ヲ以テ唯一ノ貿易港ト定ムルコト、爲セリ。是レ顧フニ我邦開港ノ嚆矢トモ謂フベキモノニシテ、從來ハ特ニ貿易港ヲ指定セルニアラズ、平戸、長崎兩港ガ事實上ノ貿易港タルニ過ギザリシヲ、此年更メテ長崎港ヲ指定スルコト、爲シ、爾來嘉永七年ニ至ル二百餘年間、長崎ハ我邦ノ外國貿易ヲ獨占シ、和蘭人ガ日歐貿易權ヲ掌握スルコト、爲レリ。

然ルニ天明文化ノ頃ヨリ露西亞、英吉利ノ如キ歐洲新興國、並ニ米國ノ勢力ハ漸ク東漸シ、或ハ長崎ニ來リテ薪水ヲ求メ、且ツ交易ヲ要求シ、後ニハ浦賀等ニ入港シ、當時幕府ハ堅ク鎖國主義ヲ守リ、往々異船ヲ打拂フコトアリシガ、其後幕議漸ク變シ、打拂ノ禁ヲ弛フスルヤ、偶嘉永六年六月三日(西曆一八五三年七月八日)米國水師提督「ペリー」ハ、軍艦四隻ヲ帥ヒテ浦賀ニ來航シテ修交ヲ求メ、貯炭所ノ設置、一、二避難港ノ選定、一、二貿易港ノ開放ヲ要求シ、我邦ノ回答ニ幾分ノ猶豫ヲ與ヘンガ爲メ、明春ノ再航ヲ約シテ引上ゲタリ。

「ペリー」ノ去ルヤ、月餘ニシテ露國使節「プーチチャン」モ亦軍艦四隻ヲ率ヒテ長崎ニ來リ（二）將來ノ紛爭ヲ避ケンガ爲メ、兩國ノ境界ヲ定メ（二）交易ノ爲メ一、二港ヲ開カンコトヲ要求セシガ、露使ノ都合ニ依リ、十月一旦長崎ヲ去リ、十二月再ビ渡來スルヤ、我邦ノ代表ト數次折衝ノ末、國境ノ議ハ之ヲ他日ニ讓リ、開港ハ、若シ他國ニ對シテ開放セバ、露國ヲ以テ最初ト爲スベキヲ約シテ去ラシメタリ。

翌嘉永七年一月米使「ペリー」ハ前年ノ回答ヲ得ンガ爲メニ、軍艦八隻ヲ率ヒテ江戸灣ニ入リ、現時ノ横濱港ニ投錨セシカバ、浦賀奉行ハ林大學頭外四名ト共ニ應接シ、遂ニ十二箇條ヨリ成ル日米和親條約ヲ締結シ、下田及函館ノ二港ヲ開クコト、爲セリ。卽チ二百餘年間ノ鎖國主義ハ此條約ニ依テ破ラル、コト、爲リタルモノニテ、同年八月英國トモ條約ヲ結ビテ長崎、函館ノ二港ヲ開キ、十二月ニハ露國ト約シテ下田、函館ノ外長崎オモ開放シ、安政二年十二月和蘭ニモ同樣ノ特典ヲ與ヘ、同四年五月ニハ米國ト下田條約ヲ締結シテ、長崎ヲ開キタルガ、翌五年先ツ米國總領事「ハリス」ト修交通商條約十四箇條ヲ定メ、江戸及大阪ノ開市、下田、函館ノ外神奈川、長崎、新潟及兵庫ノ開港其他重要事項ヲ協約シ（下田ハ神奈川開港後六箇月ニシテ閉鎖スルコトヲ約セリ）、翌六年六月二日先ツ神奈川ニ代ヘテ横濱ヲ開キ、同日長崎及函館ヲモ開港トシ、慶應三年十二月神戸ヲ、又明治元年十一月新潟ヲ開クコト、爲セリ。卽チ五港ナリシガ、翌二年墺洪國トノ條約ニ依リ、佐渡ノ夷ヲ加ヘ、爾來夷ヲ新潟港ノ一部トシテ取扱ヒ、慶應三年十二月ノ布告ニ依リ、大阪ヲ開港ニ改メタルヲ以テ、合計六港ト爲ルニ至レリ。前述ノ如ク維新前後ヨリ我邦ノ貿易ハ右六港ニ依リテ行ハル、コト、爲リシガ、對朝鮮貿易ノミハ、此制限ニ拘ラズ、從來ノ慣習ニ依リ、開港ノ外沿岸各地ニ於テ輸出入スルコトヲ許シ居タリ。然ルニ英米各國モ亦對鮮貿易ヲ行ハントスルニ至リシカバ、日鮮貿易モ亦開港ニ限ルコト、改メ、唯例外トシテ嚴原、下關及博多ノ三港ヲ朝鮮貿易ノミニ開放セリ。而シテ爾來朝鮮並ニ露領方面ノ外國貿易ガ發達スルニ及ビ、明治二十三年四月ニ佐須奈、鹿見ヲ朝鮮貿易港ニ、同二十六年四月ニ宮津ヲ露領浦鹽斯德及朝鮮ノ貿易港ニ、翌二十七年八月ニ、伏木、小樽ヲ露領沿海州、薩哈璉及朝鮮ノ貿易港ニ指定シタリ。是ヨリ先キ明治二十二年八月特別輸出港ノ制度ヲ定メ、四日市、下關、門司、博多、口ノ津、唐津、三角、伏木、小樽ヲ指定シ、帝國臣民ニ限リ、是等ノ港ヨリ、或ル種ノ商品ノミノ輸出ヲ行フコトヲ得セシメタルガ、其商品ハ最初、米、麥、麥粉、石炭及硫黃ノ五種ナリシガ、三十一年七月木炭、「セメント」、硫酸、滿俺鑛、晒粉等ヲ加フルコト、爲セリ。

其後時勢ノ進運ニ鑑ミ、朝鮮貿易港、特別輸出港等ノ制度ヲ廢シ、舊七港ノ外三十三港ヲ開港トシタルヲ以テ、合計四十ノ貿易港ヲ見ルニ至リタリ、卽チ次ノ如シ。（昭和二年十二月現在）

神奈川縣（橫濱）、長崎縣（長崎）、北海道（函館）、兵庫縣（神戸）、新潟縣（新潟）、新潟縣（夷）、大阪府（大阪）以上舊開港
靜岡縣（清水）、愛知縣（武豐、名古屋）、三重縣（四日市）、廣島縣（尾道、鯛崎）（一港）、愛媛縣（今治）、山口縣（德山、下關、萩）、福岡縣（門司、若松、博多、三池）、佐賀縣（唐津、住ノ江）、熊本縣（三角）、鹿兒島縣（鹿兒島）、長崎縣（嚴原、口ノ津）、沖繩縣（那覇）、島根縣（濱田）、鳥取縣（境）、京都府（宮津）、福井縣（敦賀）、石川縣（七尾）、富山縣（伏木）、青森縣

（青森）、北海道（小樽、根室、釧路、室蘭）、樺太（大泊、真岡）、貨物ノ制限　樟腦又ハ樟腦油ノ輸出又ハ輸送ヲ行ヒ得ベキ港ハ横濱、神戸、大阪、敦賀、下ノ關、門司（並ニ基隆、淡水）ニ限リ、獨逸染料ノ輸入ハ横濱及神戸ニ制限セラル。

右ノ如ク新ニ多數ノ貿易港ヲ設ケタルモ、清水以下ノ新港ニハ一ノ條件アリ、卽チ滿二箇年毎ノ輸出入貨物ノ價格ガ五萬圓ニ達セザルトキ（但シ戰爭又ハ事變ニ後リ、五萬圓ニ達セザル場合ヲ除ク）及ビ五萬圓ニ達スルト否トヲ問ハズ、交通發達ノ爲メ、其附近ニ新ニ開港ヲ設クル場合ニ於テ、將來存置ノ必要ナシト認ムルトキハ、大藏大臣ハ三箇月前ニ公告シテ、之ヲ閉鎖スルコト、卽チ是レナリ。

四、開港ノ區域　ハ開港々則（明治三十一年七月勅令第百三十九號ニテ發布其後十數回改正）ニ依リテ定メラル、例ヘバ次ノ如シ。

（一）横濱ノ港界　ハ十二天鼻ヨリ北四十六度、東五海里ニ引キタル一線及該線ノ北東端ヨリ正北ニ引キタル一線以内。

（二）神戸ノ港界　ハ新在家ノ東角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト、和田岬ヨリ北八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内。

（三）新潟ノ港界　ハ燈臺ヲ中心トシ、二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内ニ含マル。

（四）大阪ノ港界　ハ神崎川口東岸ヨリ南西微南ニ引キタル一線ト、大和川口南岸ヨリ正西ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内。

（五）長崎ノ港界　ハ小瀬戸浦ノ東南端ヨリ鳳島ノ外端ヲ經テ、蔭ノ尾島長刀埼ニ引キタル一線ト、蔭ノ尾島三角點（一五四呎）ヨリ正南ニ向ヒ、香燒島ニ引キタル一線、及香燒島石燈籠ノ鼻ヨリ深堀村堂ノ埼ニ引キタル一線内。

（六）函館ノ港界　ハ阿野間崎ヨリ、東方沖合半海里ノ所ヨリ、上磯町有川口ノ東岸マデ引キタル一線内ニ含マル。

（七）名古屋ノ港界　ハ西突堤燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内。

（八）下關ノ港界　ハ彦島弟子待ノ鼻ヨリ巖流島ノ南東端マデ、夫ヨリ北東微北ニ向ヒ引キタル一線、及彦島海士浦ノ鼻ヨリ北東ニ引キタル一線以内。

（九）萩ノ港界　ハ大瀬鼻ヨリ笠山ノ山頂ニ引キタル一線以内。

（十）門司ノ港界　ハ白木崎ヨリ北西四鍵ノ所ヨリ門司崎ニ引キタル一線ト、白木崎ノ北西四鍵ノ所ヨリ西南四鍵ノ所ニ引キタル一線、及其線ノ南端ヨリ一番橋川口ニ引キタル一線トノ三線ヲ經界トナシタル三線内。

以上ハ港灣ノ區域ナレドモ、此内現在開港港則全部ヲ施行セラル、横濱、神戸、大阪、長崎及門司ノ五港ニ付テハ、開港港則施行規則（昭和二年四月遞信省令第七號）ニ依リ、港内ノ錨地、航路、航法其他ニ付制限ヲ受ケ居レリ、例ヘバ次ノ如シ。

横濱港ノ境界

第一區　北防波堤及東防波堤内ノ水域。

第二區　横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線マデ引キタル線ノ南方ノ水域。

第三區　横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線マデ引キタル線ノ北方ノ水域中第四區ヲ除キタル水域。

第四區　鶴見埋立地先防砂堤及防波堤亙同防波堤ニ沿ヒ港界線迄引キタル線内ノ水域。

各種ノ船舶ハ其錨地ニ付キ次ノ如キ區別ニ依リ、各區域内ニ於テ港長ノ指定ヲ受クルモ、港長ハ港内ノ實況ニ依リ、必要アリト認ムルトキハ、是等ノ區域ニ拘ラズ、錨地ヲ指定スルコトヲ得ベシ。

第一區　汽船、總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船、但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル。

第二區　軍艦。

第三區　汽船、總噸數五百噸以上ノ帆船及爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶。

第四區　汽船、帆船、雜種船及容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶。
（入港船ガ港長ヨリ錨地ノ指定ヲ受クル場所モソレゾレ一定ス、例ヘバ横濱ニ在リテハ「本牧桂燈浮標ノ内方」ト定メラル、ガ如シ）。

航路表ニ於テハ神戸、大阪及長崎ノ三港ニ關シ、各航路ヲ定メ、航行船舶ヲ限定セリ、例ヘバ神戸港ニ在テハ第一航路ヨリ第五航路、外二航路（内港ニ出入スル航路及安治川筋ニ出入スル航路）ヲ分チ、總噸數二千噸未滿ノ船舶ハ、已ムヲ得ザル場合ノ外、第一航路ヲ航行スルコトヲ得ズト爲スガ如シ。

○五、**開港々則**　ハ前記港界ヲ定ムル外、船舶ノ出入手續、他船及陸地トノ交通、碇泊所、公ケノ航路ノ保護、各船舶ガ夜間揭グベキ船燈ノ件、暴風雨ノ際ノ處置、爆發物、可燃燒物ヲ積載セル船舶ノ碇泊及荷役、失火ノ場合、傳染病豫防ニ關スル件、其ノ他港内ニ於ケル對船舶ノ行政的事項ヲ規定シ、尙ホ同施行細則ヲ以テ補足スルコト、爲セリ。故ニ船舶ハ關稅其他ノ財務ニ關シテハ稅關ノ管轄ヲ受クルモ、前記ノ如キ内務行政的事項ハ港長（府縣港務部）ノ支配ヲ受ケ、例ヘバ船舶ノ入出港ノ如キモ、双方ニ届出ヲ要スルガ如キ重複ノ手續ヲ要セシモ、大正十三年府縣港務部ノ事務ヲ稅關ノ管下ニ移シテヨリ、斯ル手續ヲ簡約スルコトヲ得ルニ至レリ、尤モ英國ノ如キモ、亦港灣ハ一方地方ノ港務部（ポートオーソリチー）ニ屬スルト同時ニ、他方大藏省ノ關稅（カストムズ、エンド、エキサイズ、デパートメント）及國内稅部ニ屬シ、内務行政的ノ事項ハ港務部ニ依テ處理セラル、如シ。

【註】倫敦港務部（Port of London Authority, 1903）ノ權限及ビ責任ハ一九〇八年ノ法律ニ依リテ定マル、其幹部ハ十名ノ任命委員ト、十八名ノ選出委員ヨリ成リ、權限ハ（一）港灣使用ノ船舶及貨物ニ課稅シ（從テ港灣ノ秩序ヲ維持スル責任ヲ有ス）（二）港内航行ニ關スル細則ヲ定メ、（三）爆發物、石油其他危險品ノ輸送ニ關スル規定ヲ定メ、且ツ稅關ノ法規ニ抵觸セザル範圍ニ於テ、港長ヲシテ港内ノ航行及碇泊ニ關スル規定ヲ作ルノ權利ヲ與ヘ、（四）（A）航海ノ安全ヲ圖ランカ爲メ、燈火、浮標、立標ヲ定メ（B）生命財產ヲ保護センガ爲メ港灣、船渠ノ警察ヲ行ヒ、尙ホ（C）商人及船主ノ爲メニ評量人ヲ設クルノ權アリ。

六、諸開港ノ貿易　我邦ノ貿易ハ近年長足ノ進歩ヲ示シ、諸開港ノ貿易額モ亦ソレゾレ著シク增加シタリト雖モ、大部分（八割七分）ハ横濱、神戸及大阪ノ三港ニ依リテ行ハレ、名古屋、門司之ニ次キ、四日市、若松、長崎、清水、小樽ハ第三位ト爲リ、函館、三池、武豐、鹿兒島、新潟、青森、敦賀ノ順序ニシテ、門司マデノ五港ノ合計歩合ハ九割二分八厘、小樽マデノ九港ノ合計九割七分、上記十六港ノ合計九割七分八厘ヲ占ム、卽チ次ノ如シ。

（昭和二年）本邦貿易金額各港別表　（千圓未滿四捨五入）

港名	輸出金額	輸入金額	合計	歩合(%)	港名	輸出金額	輸入金額	合計	歩合(%)
横濱	七四九、〇〇六	五七四、八二〇	一、三二三、八二六	三一・三五	口ノ津	—	九三	九三	〇・〇二
神戸	七〇五、七三〇	九六六、一九二	一、六七一、九二二	四〇〇・七九	三角	一三	二、九一六	二、九二九	〇・七〇
大阪	二六三、三五〇	二六四、九二四	六二八、二七三	一五〇・六二	鹿兒島	二三八	九、二三五	九、三三三	二・二四
長崎	一〇、四六二	二三、八四三	三三、九四三	八・六二	嚴原	二九	四八	七七	〇・〇二

| | | |

管理ニ移シ、十七年五月關稅局ヲ廢シテ、主稅局ニ移サレ、十九年二月再ビ關稅局ヲ復興シ、二十四年七月更ニ主稅局海關稅課ニ屬シ、四十一年三度關稅局ノ設置ト爲リ、後主稅局關稅課ノ管理ト爲リテ、以テ今日ニ至レリ。

二、稅關ノ所在地及管轄區域　ハ「稅關管轄區域」ナル勅令（大正六年六月九日發布、勅令第五十八號）ニ依リテ定メラル、卽チ次ノ如シ。

稅關ノ所在地及管轄區域

名稱	位置	管轄區域
橫濱	神奈川縣橫濱市	東京府、神奈川縣、埼玉縣、茨城縣、群馬縣、栃木縣、千葉縣、靜岡縣、山梨縣、長野縣、新潟縣、福島縣、宮城縣、山形縣
神戸	兵庫縣神戸市	兵庫縣、岡山縣、愛媛縣、高知縣
大阪	大阪府大阪市	大阪府、京都府、和歌山縣、奈良縣、三重縣、滋賀縣、福井縣、石川縣、富山縣、岐阜縣、愛知縣
長崎	長崎縣長崎市	長崎縣、佐賀縣、福岡縣ノ內（久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三潴郡、八女郡、山門郡、三池郡）熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣
門司	福岡縣門司市	山口縣、大分縣、福岡縣（但シ久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三潴郡、八女郡、山門郡及三池郡ヲ除ク）
函館	北海道函館市	北海道、秋田縣、岩手縣、青森縣、樺太

三、稅關支署及出張所　稅關支署ハモト稅關出張所ト稱ヘタルモノニテ、明治三十年之ヲ支署ニ改メ、別ニ稅關ノ出張所及ビ稅關支所ノ出張所ナルモノヲ設クルコト、爲セリ。支署長ハ關稅官若クハ事務官補ヲ以テ之ニ充テ、稅關長ノ指揮ヲ受ケ、其管轄內ノ事務ヲ掌ル。而シテ其所在地ハ、東京ヲ除ケバ、皆開港ニ屬スルモノトス（東京ノ有志ハ稅關ヲ設置センコトヲ請願セリ）。

稅關支署ノ所在地及管轄區域（大正六年六月九日勅令第五十九號（八年、十年、十一年、十三年、及昭和二年十二月十日改正））

所管稅關	名稱	位置	管轄區域
橫濱	東京	東京府東京市	東京府ノ內（東京市、南葛飾郡、南足立郡、北豐島郡、豐多摩郡、荏原郡）
	新潟	新潟縣新潟市	新潟縣（但シ佐渡郡ヲ除ク）山形縣
	清水	靜岡縣安倍郡清水町	靜岡縣（但シ田方郡及賀茂郡ヲ除ク）
	夷港	新潟縣佐渡郡兩津町	新潟縣ノ內（佐渡郡）
神戸	尾道	廣島縣御調郡糸崎町	廣島縣ノ內　福山市、尾道市、深安郡、神石郡、比婆郡、甲奴郡、蘆品郡、雙三郡、世羅郡、御調郡、沼隈郡、豐田郡、高田郡、賀茂郡
	濱田	島根縣那賀郡濱田町	島根縣ノ內（安濃郡、邇摩郡、邑智郡、那賀郡、美濃郡、鹿足郡）
	境	鳥取縣西伯郡境町	鳥取縣、島根縣ノ內（松江市、八束郡、簸川郡、大原郡、能義郡、仁多郡、飯石郡）兵庫縣ノ內（城崎郡、美方郡、出石郡、養父郡、朝來郡）

大阪	今治	愛媛縣今治市
	武豐	愛知縣知多郡成岩町
	名古屋	愛知縣名古屋市
	四日市	三重縣四日市市
	宮津	京都府與謝郡宮津町
	敦賀	福井縣敦賀郡敦賀町
	七尾	石川縣鹿島郡七尾町
	伏木	富山縣射水郡伏木町
	唐津	佐賀縣東松浦郡唐津村
	住ノ江	佐賀縣杵島郡福富村

愛媛縣	愛媛縣ノ內（豐橋市、岡崎市、北設樂郡、南設樂郡、東加茂郡、西加茂郡、八名郡、渥美郡、寶飯郡、額田郡、幡豆郡、碧海郡、知郡多（但シ大高町、岡田町、三和村及上野村ヨリ常滑町ニ至ル沿海各町村ヲ除ク）
愛知縣	愛知縣ノ內（名古屋市、一宮市、愛知縣、東春日井郡、西春日井郡、丹羽郡、葉栗郡、中島郡、海部郡、知多郡ノ內大高町、岡田町、三和村、及上野村ヨリ常滑町ニ至ル沿海各町村）
三重縣	三重縣（但シ阿山郡、名賀郡、北牟婁郡及南牟婁郡ヲ除ク）
京都府	京都府ノ內（與謝郡、加佐郡、中郡、竹野郡、熊野郡）
福井縣	福井縣
石川縣	石川縣
富山縣	富山縣
佐賀縣	佐賀縣ノ內（東松浦郡、西松浦郡）
長崎縣	長崎縣ノ內（北松浦郡）
佐賀縣	佐賀縣ノ內（佐賀市、佐賀郡、小城縣、杵島郡、藤津郡、神埼郡、三養基郡）

長崎	口ノ津	長崎縣南高來郡口ノ津村
	三池	福岡縣三池郡三川町
	三角	熊本縣宇土郡三角町
	鹿兒島	鹿兒島縣鹿兒島市
	嚴原	長崎縣下縣郡嚴原町
	那覇	沖繩縣島尻郡那覇市
門司	若松	福岡縣若松市
	博多	福岡縣福岡市
	德山	山口縣都濃郡德山町
	萩	山口縣阿武郡萩町
	青森	青森縣青森市

口ノ津	長崎縣ノ內（南高來郡、北高來郡）
三池	福岡縣ノ內（久留米市、大牟田市、浮羽郡、三井郡、三潴郡、八女郡、山門郡、三池郡）
三角	熊本縣ノ內（玉名郡、鹿本郡、菊池郡、阿蘇郡）
鹿兒島	熊本縣ノ內（熊本市、宇土郡、飽託郡、下益城郡、上益城郡、八代郡、葦北郡、球磨郡、天草郡）
嚴原	鹿兒島縣
那覇	宮崎縣
若松	長崎縣ノ內（上縣郡、下縣郡）
博多	沖繩縣
德山	福岡縣ノ內（若松市、八幡市、遠賀郡、鞍手郡、嘉穗郡、朝倉郡、宗像郡）
萩	福岡縣ノ內（福岡市、糟屋郡、筑紫郡、早良郡、糸島郡）
青森	山口縣ノ內（大島郡、玖珂郡、熊毛郡、都濃郡、佐波郡、吉敷郡）
	山口縣ノ內（阿武郡、美禰郡、大津郡）
	青森縣、秋田縣、岩手縣

函館	小樽	北海道小樽市	北海道ノ內（札幌市、小樽市、旭川市、札幌郡、石狩郡、厚田郡、濱益郡、久遠郡、奥尻郡、太櫓郡、瀨棚郡、壽都郡、島牧郡、歌棄郡、磯谷郡、岩內郡、古宇郡、小樽郡、高島郡、忍路郡、余市郡、古平郡、美國郡、積丹郡、空知郡、夕張郡、雨龍郡、樺戶郡、上川郡、（石狩國）上川郡（天鹽國）中川郡（天鹽國）、增毛郡、留萌郡、苫前郡、天鹽郡、宗谷郡、枝幸郡、利尻郡、禮文郡、網走郡、斜里郡、常呂郡、紋別郡）
	根室	北海道根室郡根室町	北海道ノ內（根室郡、花咲郡、野付郡、標津郡、目梨郡、國後郡、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡、紗那郡、振別郡、擇捉郡、蔈取郡）
	釧路	北海道釧路郡釧路市	北海道ノ內（釧路郡、白糠郡、足寄郡、阿寒郡、川上郡、厚岸郡、河西郡、河東郡、上川郡（十勝國）中川郡（十勝國）十勝郡、廣尾郡）
	室蘭	北海道室蘭郡室蘭市	北海道ノ內（室蘭郡、有珠郡、虻田郡、幌別郡、勇拂郡、白老郡、千歲郡、山越郡、浦河郡、沙流郡、新冠郡、靜內郡、三石郡、様似郡、幌泉郡）
	大泊	樺太大泊郡大泊町	樺太ノ內（大泊郡、留多加郡、富內郡、長濱郡、豐原郡、榮濱郡、元泊郡、敷香郡、新問郡、散江郡）
	眞岡	樺太眞岡郡眞岡町	樺太ノ內（本斗郡、眞岡郡、野田寒郡、泊居郡、久春內郡、鵜城郡、名好郡）

稅關出張所及稅關支署出張所ノ名稱及位置

名稱	位置
橫濱稅關東橫濱驛出張所	神奈川縣橫濱市東橫濱驛停車場構內
橫濱稅關橫濱驛出張所	神奈川縣橫濱市橫濱驛停車場構內
東京稅關支署東京驛出張所	東京府東京市東京驛停車場構內
東京稅關支署汐留驛出張所	東京府東京市汐留驛停車場構內
神戶稅關神戶驛出張所	兵庫縣神戶市神戶驛停車場構內
尾道絲崎稅關支署尾道出張所	廣島縣尾道市東御所町
神戶稅關廣島出張所	廣島縣廣島市宇品町
大阪稅關櫻島出張所	大阪府大阪市西區櫻島町
大阪稅關大阪驛出張所	大阪府大阪市大阪驛停車場構內
大阪稅關宮島出張所	大阪府大阪市北區宮島町
大阪稅關梅小路驛出張所	京都府京都市梅小路驛停車場構內
大阪稅關堺出張所	大阪府堺市吾妻橋通三丁目
名古屋稅關支署名古屋驛出張所	愛知縣名古屋市名古屋驛停車場構內
敦賀稅關支署敦賀港驛出張所	福井縣敦賀郡敦賀港驛停車場構內
宮津稅關支署舞鶴出張所	京都府加佐郡舞鶴町大字北田邊
長崎稅關長崎驛出張所	長崎縣長崎市長崎驛停車場構內
門司稅關下關出張所	山口縣下關市中ノ町
門司稅關下關驛出張所	山口縣下關驛停車場構內

四、稅關監視署　ハ監視若クハ監吏ヲ長トシ、署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ、關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌ル、其所在地ハ次ノ如ク、總テ不開港ニ屬スルモノトス、是レ不開港ニハ稅

關若クハ支署ノ設ケナク、往々犯則者ヲ生ジ易キガ爲メナリ。

稅關監視署ノ名稱及位置（昭和二年十二月十日改正）

稅關名稱	稅關監視署位置
横濱	
大島	東京府大島元村
父島	東京府小笠原島父島大村
横須賀	神奈川縣横須賀市
浦賀	神奈川縣三浦郡浦賀町
三崎	神奈川縣三浦郡三崎町
銚子	千葉縣海上郡銚子町
勝浦	千葉縣夷隅郡勝浦町
館山	千葉縣安房郡館山町
下田	靜岡縣賀茂郡下田町
見付	靜岡縣盤田郡見付町
石卷	宮城縣牡鹿郡石卷町
神戸	
尼崎	兵庫縣尼崎市
西宮	兵庫縣西宮市
明石	兵庫縣明石市
洲本	兵庫縣津名郡洲本町
玉島	岡山縣淺口郡玉島町
西郷	島根縣周吉郡西郷町
門司	
六連	山口縣豐浦郡彦島町
大分	大分縣大分市
佐賀關	大分縣北海部郡佐賀關町
小倉	福岡縣小倉市
部崎	福岡縣企救郡東郷村
長崎	
島原	長崎縣南高來郡島原町
伊萬里	佐賀縣西松浦郡西山代村
呼子	佐賀縣東松浦郡呼子村
若津	福岡縣三潴郡大川町
大島	鹿兒島縣大島郡名瀨町
八重山	沖繩縣八重山郡石垣村
函館	
壽都	北海道壽都郡壽都町
鷲泊	北海道利尻郡鷲泊村
稚内	北海道宗谷郡稚内町
紗那	北海道紗那郡紗那村
土崎港	秋田縣南秋田郡土崎港町
安別	樺太名好郡名好村
內路	樺太敷香郡內路村
大阪	
堺	大阪府堺市
大島	和歌山縣東牟婁郡大島村
和歌山	和歌山縣和歌山市
羽	三重縣志摩郡鳥羽町
木	石川縣淺洲郡小木町
長	
佐世保	長崎縣佐世保市
本	長崎縣壹岐郡香椎村
酸	長崎縣下縣郡豆酸村
奈	長崎縣上縣郡佐須奈村
戸	長崎縣北松浦郡平戶町
戸	長崎縣西彼杵郡崎戶村
島	長崎縣西彼杵郡松島村
江	長崎縣南松浦郡福江町
戶	
浦	島根縣知光郡浦鄉村
品	廣島縣廣島市
庄	香川縣小豆郡土庄町
島	愛媛縣宇和島市

第二章　關稅及諸收入

第一節　關稅ノ性質及負擔

一、關稅ノ意義　關稅(Custom duties ; Customs ; Tariff)ヲ廣義ニ解スルトキハ、國境若クハ國內ノ或地域ヲ通過スル貨物ニ對シテ賦課スル租稅ニシテ、國境ヲ出入スル貨物ニ對スルモノヲ國境關稅（外部關稅）ト謂ヒ、國內ノ或地域ニ於テ賦課スルモノヲ國內關稅（內部關稅）ト稱ス。然レドモ現今ニ在テハ國內關稅ヲ賦課スルモノ稀ナルヲ以テ、關稅ハ普通外部關稅ノミヲ指スヲ常トス。而シテ外部關稅ハ之ヲ分テ輸出稅(Export duties)、輸入稅(Import duties)及ビ通過稅(Transit duties)ノ三種ト爲スコトヲ得ルモ、現今輸出稅及ビ通過稅ヲ賦課スル國少キヲ以テ、單ニ「關稅問題」ナド、呼ブトキハ、專ラ輸入稅問題ニ限ラル、場合多キガ如シ。

輸出稅ハ往時盛ンニ行ハレタルコトアリ、稅率亦甚高ク、其目的ハ初メ其種ノ貨物ヲ國內ニ抑留シテ、以テ其市價ノ騰貴ヲ防グニ在リ(例ヘバ穀物)。或ハ產業保護ノ爲メ、及ビ廉價貨物ノ輸出ヲ防グ爲メ、粗製品又ハ原料品ヲ國內ニ留ムルニ在リ、其負擔ハ皆外國消費者ニ歸スルモノト信ジタリシモ、各國漸ク其非ヲ悟リ、輸出稅ハ多ク內國生產者ニ歸シ、外國ニ於ケル販路ヲ縮少ス

ルニ止ルヲ發見シタルヲ以テ、文明諸國ハ相踵デ之ヲ廢止セリ。卽チ英國ガ一八四二年、獨逸ガ一八七三年、和蘭ガ一八七七年、佛國ガ一八八一年條約改正、關稅定率法施行ト共ニ之ヲ全廢シタルガ如キハ其適例也。唯智利ノ硝石、印度ノ阿片、巴西ノ珈琲ノ如ク特有物產ナルカ、我臺灣朝鮮ノ如ク特別ノ事情アルモノ、ミ之ヲ存シタルニ過ギズ。現今輸出稅ヲ以ヲ重要ノ財源トシ、幾多ノ貨物ニ賦課スルモノハ、土耳古、埃及、波斯、巴西、「チユニス」、墨西哥、蘭領印度、葡領印度、同南東亞弗利加、巴奈馬共和國、亞爾然丁、支那等僅々十數箇國ニ過ギズ、而モ支那以外ノ國ニ於テハ課稅品目モ僅少ナリトス。（後節參照）

通過稅ハ商品ノ賣價ヲ騰貴セシメテ、其需要高ヲ減ジ、若クハ供給國ヲシテ他ニ通路ヲ求メシムルニ至リ、通過國ハ仲介、運輸、保險等ノ利益ヲ失フニ止マルヲ以テ、現今各國之ヲ棄ツルニ至レリ、往昔都市時代ニ在ツテハ、盛ンニ之ヲ用ヒテ收入ノ源泉ト爲セシガ、十七八世紀ニ及ビテハ、漸ク通過ノ自由ヲ認メ、自由港若クハ保稅倉庫ノ制度ニ依リテ、貨物ノ集中ヲ圖リ、十九世紀ノ後半期（希臘ハ一八四四年、獨逸聯邦ハ一八六一年、瑞西ハ一八七四年、墺地利ハ一八七八年ニ廢止セリ）ニ至ツテハ、殆ンド其跡ヲ絕チ、唯中歐ノ一部ニ入市稅ヲ存シ、又支那ニ於テ落地稅又ハ釐金稅ノ如キ、一種ノ通過稅之アルノミ。

【註】但シ農作物不作ノ際一時穀物ノ輸出稅ヲ課スルガ如キ、希臘ノ補助貨輸出稅、諾威ノ材木輸出稅、英國ノ石炭輸出稅（一九〇〇年賦課セリ、蓋シ一時ノ必要ニ由ル）或ハ戰後ニ於ケル獨逸ノ輸出稅ノ如キハ、孰レモ特別ノ事情ニ基ク異例ニ過ギズ。

二、關稅ノ性質　關稅ハ財政學上ノ所謂消費稅ノ一種ニシテ、消費稅トハ或種ノ消費物ニ對シテ賦課シ、其負擔多ク納稅者ニ歸セズシテ、消費者ニ歸スル租稅ノ總稱ナリ。例ヘバ酒造稅、煙草稅若クハ輸入稅ノ如キ類ニテ、酒造稅ハ清酒製造家ヨリ納附スルモ、製造家ハ賣價ヲ高メテ之ヲ卸賣商ニ轉嫁シ、卸賣商ハ更ニ之ヲ酒ノ代價ニ含メテ小賣商ニ移シ、小賣商ハ更ニ之ヲ酒ノ購賣者卽チ消費者ヨリ支拂ハシムルガ如シ、卽チ消費稅ノ名アル所以ニシテ、又消費稅ヲ以テ、所謂間接稅ノ適例ト爲ス理由也。彼ノ煙草專賣、砂糖專賣ノ如キモ、亦畢竟消費稅徵收ノ一手段ニ外ナラズ。政府ガ特別ノ高價ヲ附シテ是等ノ物品ヲ賣下グルハ、卽チ間接ニ租稅ヲ賦課スル所以ニシテ、酒稅ヲ製造家ニ賦課スルト異ナラズ。又輸入稅ヲ賦課シテ輸入貨物ノ價ヲ高ムルトキハ、多クノ之ヲ消費スル內地ノ消費者ニ負擔セシムルコト、ナレバ、是亦消費稅ノ一種タルベク、我邦ノ砂糖、織物ノ消費稅ノ如キハ、卽チ消費稅ノ一種類ニ外ナラザルナリ、之ヲ表示スレバ次ノ如シ。

消費稅
- 一、國產稅（酒類造石稅、淸凉飮料稅、砂糖消費ニ課スルモノ）
- 二、國家專賣制度（煙草、鹽、樟腦等ノ獨占的國家專賣制度）
- 三、關稅（輸出入稅ノ如ク、國境ニ於テ徵收スルモノ）

此他消費稅ヲ其目的ヨリ分チ（一）食料（之ヲアルコール性ト否トニ分ツ）及ビ（二）飮料（之ヲアルコール性ト否トニ分ツ）及ビ（三）

其他ノ物品（之ヲ製成品ト粗成品トニ分ツ）ノ三種ト爲ス者アリ。

【註】（一）消費稅　茲ニ物ノ消費トハ、廣キ意味ニテ、酒、煙草、石油ノ如キモノノ、消費ハ固ヨリ紙、織物、鐵、時計其他ノ器具類ノ使用ヲモ含ムモノトス。

「物ノ消費ナル意味ヲ極端ニ廣ク解スルトキハ、總テノ租稅ハ消費稅ナリト云フコトヲ得ルニ至ル、何トナレバ總テ租稅ハ物ノ消費（普通ノ）又ハ使用ニ對シテ賦課スルモノナレバナリ、故ニ消費稅ナル語ヲ使用スルハ穩當ナラズ」ト云フ說アリ、（アダムス）氏是亦一理ナキニアラザルモ、暫ク普通ノ用法ニ從フ。

（二）直接稅ト間接稅　租稅ヲ大別シテ直接稅及ビ間接稅ノ二種ト爲スハ從來ノ慣習ニシテ、而モ財務行政上ニテハ多ク使用セラル、所ナリ、直接稅ハ其負擔ガ納稅者ナルヲ豫期スル地租、所得稅ノ如キモノ、又間接稅ハ其負擔ガ消費者ニ轉嫁セラルヽコトヲ豫期スル消費稅ノ如キモノヲ云フ、次ニ述ブルガ如ク、租稅ノ轉嫁ハ同一ノ課稅目的物ニテモ、場合ニ依リテ異ナリ、多少漠然タル所アルモノナルガユエニ、學理上各種ノ租稅ヲ此二種ニ分類スルハ、頗フニ純理ノ許サヾル所ナルベシ、然レドモ便宜上大體ノ區別トシテハ、全ク之ヲ排斥スベキモノニアラズト信ズ。

右ノ如ク關稅ハ消費稅ノ一種ナルヲ以テ、一般徵稅ノ法則ニ從ヒ、例ヘバ收入力ノ大ナル物品ヲ選ムトカ、徵收費ノ節約ヲ圖ルトカ、手續ヲ簡易ナラシムルトカ云ヘル、財務行政上ノ法則ニ適合セシムベキハ固ヨリ、其轉嫁ニ注意シ、成ルベク負擔ノ公平ヲ期スルト共ニ、國家全般ノ生產竝ニ分配上惡影響ヲ及ボサヾルノ方針ヲ採ラザルベカラズ、殊ニ國際ノ經濟交通益親密ヲ加フルニ從ヒ、國內稅トノ關係ハ愈密接ヲ來スベキガ故ニ、例ヘバ地租ヲ增徵スル場合、幾分輸入米ノ關稅ヲ高ムルガ如ク、兩者ノ間ニ權衡ヲ保タシムルト同時ニ、一方ニ於テハ關稅制度ヲ利用シテ、以テ國產稅其他內國稅ノ不適正ヲ補ハザルベカラズ。

三、關稅ノ利弊　現今各國ガ關稅收入ヲ以テ、重ナル財源ノ一（全歲入ノ二、三割ヲ占ム）ニ數フル所以ノモノハ、（一）逐年膨脹セル軍費其他ノ行政費ハ、直接稅及ビ內國間接稅ノミヲ以テシテハ、到底充スコト能ハザルコト、（二）輸出入貨物ハ年ト共ニ增加シ、假令稅率ヲ高メザルモ稅金額ハ年々自然ニ增加スルコト、（三）其負擔多ク間接ニシテ、消費者ガ之ヲ納附スル上ニ於テ苦痛少ク、隨テ增稅ニ對スル怨嗟ノ聲ハ、少數ナル輸入商、其他直接利害關係者ニ限ルコト、（四）其賦課徵收比較的容易ナルコト（此點ハ英國ニ於ケル砂糖、煙草、茶、珈琲ノ如ク、自國ニ產セザル物品ニ課稅スル場合ニ於テ殊ニ著シ）、（五）內國消費稅ノ如ク、生產技術及ビ取引ニ關シ、絕ヘズ煩苛ナル監督ヲ行フノ必要ナキコト（六）直接稅ノミヲ以テシテハ、國民所得ノ一部ガ租稅ノ逋脫ヲ圖ルヲ防ギ難キヲ以テ、關稅其他ノ消費稅ヲ以テ之ヲ補フコト、（七）內國ニ於ケル有望但シ幼稚ナル產業ヲ保護スルノ手段ト爲スコト、等ニ在リト雖モ、重ナル原因ハ（一）乃至（三）及（七）ニ在リ、是等ハ蓋シ關稅（一）乃至（三）ノ如キハ消費稅（全體）ノ長所ナルト同時ニ、其或モノ、裏面ニハ、却テ短所タルモノ之ナキニアラズ、例ヘバ（一）關稅ハ租稅負擔者ニ苦痛ヲ感ゼシムルコト少ク、徵收容易ナル爲メ、爲政者ハ之ニ乘ジ、濫用スルノ弊アリ、（二）國內產業保護ヲ名トシテ租稅ヲ重課シ、徒ラニ物價ヲ騰貴セシメ、少數ノ生產者ニ不當ノ利益ヲ與フルコト、（三）關稅ハ外國品ニ課稅スルモノナル爲メ、或品目ニ低廉ナル協定稅率アルトキハ、內國消費稅ヲシテ之ト權衡ヲ得セシムル爲メ、故ラニ消費稅ノ稅率ヲ低下セシメ、（四）若クハ我砂糖

ノ舊戻稅ノ如キ、煩雜ナル制度ヲ設クルノ必要ヲ生ジ、(五)或ハ稅率ノ交涉上國交ヲ破ルガ如キコトアリ、(六)其他收入多キ物品ヲ選ムガ爲メ、日用品ニ課稅スル場合少カラズ、隨テ國民ノ收益ニ應ジテ負擔セシムルコト能ハザルガ如キ缺點アリ、(例ヘバ富豪ノ使用スル石油一升モ四錢、車夫馬丁ノ使用スル石油モ、亦一升四錢ヲ負擔スルガ如シ)此點ハ品種ノ分類宜キヲ得バ、多少緩和スルコトヲ得ベキモ、想フニ消費稅一般ノ通弊ナルベシ、(七)更ニ品目ノ類別宜シキヲ得ザルカ、稅率重キニ過グルトキハ、徵稅上ノ監督如何ニ嚴重ナルモ、往々虛僞ノ申告、密輸入、收賄ノ危險ヲ助長スルコト等モ、亦偖ニ關稅ノ一短所ナリトス。

四、關稅ノ負擔　凡ソ租稅ノ負擔問題(Incidence)ハ租稅ハ結局何人ガ支拂フヤ、其傾向ヲ窺フニ在リト雖モ、各種ノ租稅ノ終局ノ分配ハ實際上之ヲ追及シ能ハザルコト多ク、單ニ大體ノ傾向ヲ窺フニ過ギザルモノトス。例ヘバ酒ノ稅ハ納稅者タル製造家ガ之ヲ卸問屋ニ轉嫁シ、卸問屋ハ之ヲ小賣商ニ移シ、小賣商ハ更ニ之ヲ購買者卽チ消費者ニ負擔セシムルノ傾向ヲ有ス。卽チ造石稅トシテ政府ニ納附セル金額ハ、漸次轉輾セラレテ、飮用者ニ歸スル場合多キヲ常トス、(一小部分且ツ增稅後當分ハ製造家、又ハ商人ニ歸スルコトアルベキモ)負擔ノ問題ハ此徑路ト此負擔ト、此分擔割合ノ大體ノ傾向トヲ研究スルニ止リ、敢テ其他ニ及バザルモノトス。何トナレバ酒ノ消費者ガ勞働者ナリトシ、其第二ノ必需品タル酒ノ價ヲ高メラル、爲メ、其賃銀ヲ高メ、其一部又ハ全部ヲ傭主ニ轉嫁シ、傭主ハ更ニ之ヲ其生產品ニ轉嫁スルコト之ナキヲ保セズ。是等ノ分配ハ演繹的ノ理論上ニ於テハ一定ノ法則ニ從フモノニアラザレバナリ。而シテ製造家若クハ商人ガ假令租稅ノ全額ヲ轉嫁シ得ルモ、或ハ一般ノ消費高ヲ減ジ、營業全體ノ利益ヲ減少スルガ如キコト之レアルベキモ、是等ハ租稅ノ間接ノ結果ニシテ、負擔ノ問題ニアラズ。更ニ課稅ノ結果或種ノ職業、若クハ資本ノ放下ニ異動ヲ生ズルガ如キ、或ハ新稅賦課ノ結果、某製造技術ノ進步ヲ促シ、租稅ノ苦痛ヲ感ゼザルヤ否ヤノ如キ(苦痛ナキニ至ルヲ負擔消滅ト稱スル者アリ)モ、亦固ヨリ負擔問題ノ範圍外ニ屬スルモノトス。

租稅ガ結局如何ニ各人ノ所得ヲ侵スヤヲ研究スルハ全ク無益ノ業ニアラズ、又各種ノ租稅ガ、遂ニ國民全體ノ所得ノ孰レカノ部分ヨリ抽出セラルヽハ、疑フベカラザルノ事實ナリト雖モ、之ガ分配又ハ波及ノ法則ニ關シテハ、未ダ明確ナル斷案ヲ得タルヲ聞カズ。或ハ(一)租稅ハ結局各關係者ヨリ全體ニ波及スルモノニテ、自由競爭ノ社會ニ於ケル各人企業又ハ財產ノ利潤ハ均等ナルヲ以テ、或期間ノ後ハ各種ノ租稅モ亦均等ニ分配セラルヽモノナリト云ヒ、(租稅ノ源泉ハ利潤ニアルユエ)(二)或ハ各種ノ租稅ハ結局最モ抵抗少ナキ所ニ侵入スルモノニテ、餘裕アル者ハ最モ多クヲ負擔スルト云フ。前說ノ結果トシテハ、總テ歲月ヲ經タル租稅ハ良稅ニシテ、新稅ハ多クハ惡稅ヲ意味スルコト、爲ル、若シ此說ノ如クンバ、多數ノ租稅ハ公平ニシテ、後說ノ如シトスルモ、公正上大過之ナキノ理ナリト雖モ、社會ノ實際ハ是等ノ諸說ニ反シ、舊稅ノ負擔分配決シテ公正ナラズ、又富者必ズシモ、其擔稅力ニ應ズルダケ租稅ノ多クヲ負擔セズ、貧者却テ誅求ニ苦

シム場合少カラザルヲ如何セン。要之終局歸着點ノ問題ハ、其重要ノ度多キニ拘ラズ、未ダ滿足ナル解決ヲ得ザルヲ遺憾トス、以下前記ノ範圍ニ於テ關稅ノ負擔ヲ講究スベシ。

凡ソ一國ガ外國ヨリ輸入スル貨物ハ、全然其國ニ產出ナキカ、又ハ產出乏シキモノハ、若クハ其國ニ於ケルヨリ有利ニ（安ク）生產セラルヽモノナルヲ常トス。卽チ運賃、保險料、手數料竝ニ輸入稅等ノ諸掛ヲ附加スルモ、尙ホ且ツ相當ノ利益アレバコソ、多少ノ危險ヲ冒シテ輸入スルノ勞ヲモ惜マザルナリ。而シテ商人ハ專ラ利益ノ多カランマトヲ望ムベク、隨テ賣價ハ一厘ニテモ高キヲ欲スルハ、固ヨリ其所ナリト雖モ、需要者ガ之ニ投ゼントスル程度モアリ、又猥リニ價ヲ高ムルトキハ販路ヲ失ヒ、此點ニ於テ利益ヲ減少セラル、ガ故ニ、多クハ「數デコナス」主義ヲ採リテ適度ノ利益ニ甘ンジ、價ノ低廉ニ依リ顧客ヲ吸收スルニ勉ムルヲ、現今一般ノ常態トス。是ヲ以テ一般輸入商ハ（生產者ガ輸入スルコトアレドモ、這ハ生產者ニシテ輸入商ヲ兼ヌルモノト見ルヲ妥當トス）特別ノ場合ノ外、過度ノ利益アルモノハ、忽チ競爭者ノ出現ヲ促ガシ、各種商品ノ利益ハ遂ニ其商品相當ノ水平線ニ歸スベキ傾向ヲ有スルモノトス。是故ニ新ニ輸入稅ヲ課スルカ、又ハ從來ノ稅率ヲ高ムル場合ニ於テハ、此習慣上ノ利益ヲ減殺セラレザランガ爲メ、之ヲ賣價ニ込メテ回收セントスルノ希望ハ、先ヅ輸入者ノ念頭ニ現ハル、希望ニシテ、他ニ著シキ不利益ナキ限リハ、全ク其負擔ヲ免レンコトヲ期スルモノナリ。唯賣價ヲ高メタル爲メ消費者ノ需要ヲ減ジ、又ハ內地ニ於ケル同種產業ノ發達ヲ促シ、或ハ第三國ヨリノ輸入ヲ誘フコト、爲リ、其結果利益ヲ失フノ虞アル場合ニ於テノミ、多少自ラ負擔スル場合アリトス。

更ニ之ヲ消費者ノ側ヨリ觀察スルニ、消費者ガ、外國品ノ一般ニ高價ナルニモ拘ハラズ、之ガ使用ニ甘ンズル所以ノモノハ、內地ニ產出ナキカ、又ハ內國產　比シ利益アルガ爲メニテ、使用消費ノ多年ノ惰性ハ、些少ノ値上ゲノ爲メニ、之ヲ廢スルモノニアラズ、殊ニ日用品ノ如キハ此傾向多キヲ以テ、俄ニ著シク値上ゲシタルカ、又ハ低廉ナル競爭品ノ之ニ代ヘラル、場合ノ外、輸入商ノ相當ノ要求ハ、之ヲ容ル、ニ吝ナラザルベシ。之ヲ要スルニ、大數ノ上ヨリ觀レバ、輸入稅ノ全部又ハ一部ハ普通消費者ニ轉嫁セラル、ノ傾向ヲ有スルモノナリト謂フヲ得ベシ。然レドモ是レ單ニ大體ノ法則ニシテ、各種ノ輸入品ハ、各特別ノ事情ヲ有スルガ故ニ、其負擔ハ實際上各種ノ品目ニ就テ調査セザルベカラズ、今其條件ヲ考フルニ、大凡次ノ如シ。（次節參照）

一、需要ノ消長

輸入商ハ一般ニ輸入稅ヲ消費者ニ轉嫁センコトヲ期ス。然レドモ租稅ノ全部ヲ賣價ニ加ヘ、俄ニソレダケノ値上ゲヲ敢ヘテスルハ、其騰貴歩合ガ僅少ナルカ、其物品ガ必需品ニシテ販賣高ヲ減ズルノ虞ナキ場合ニシテ、賣價ノ騰貴ガ需要ヲ減ジ、全體ノ利益ヲ減少スト見ルトキハ、其程度ニ應ジ、或ハ一部、或ハ全部ヲ負擔スルナルベシ。畢竟貨物需要ノ屈伸力如何ニ依ルモノニシテ賣價ノ高低ガ需要高ニ影響スルコト甚シキトキハ、租稅ノ轉嫁ハ難ク、其影響少キトキハ、之ヲ

轉嫁スル機會多キモノトス。而シテ需要ノ屈伸力ハ物品ノ種類ニ依ルモノニテ、必需品ハ屈伸力少ク、必要ノ程度ガ減少スルニ從テ屈伸力多キ（卽チ需要減ズ）ヲ加フルモノトス。例ヘバ石油ノ如キ物ハ賣價ヲ高ムルモ、其使用ヲ廢シ難キモ、（多少使用ハ節約セラレンモ其減少ノ度少シ）上等ノ煙草、酒ノ如キハ、市價ノ些少ノ騰貴モ、忽チ其販賣高ヲ減ズルガ如シ。然レドモ是亦概則ニシテ、贅澤品ヲ用フル者ハ、多ク富裕ノ者ナルヲ以テ、著シキ贅澤品（「シャンペン」ノ如キ）ハ、價格騰貴ノ爲メ毫モ需要高ヲ減ゼザルコトアルベシ（但シ稅率ノ多少ニ依ルコト勿論ナリ）。

二、競爭品ノ有無

輸入國ニ同種又ハ類似ノ生產物アルカ、又ハ現在微々タルモ、價格騰貴ノ爲メ其勃興ヲ見ルガ如キ場合、又ハ他國ヨリ輸入セラレ、又ハ輸入セラルベキ虞アル同種物品アルトキハ、賣價ヲ高メテ轉嫁セシムルコト難シ。然レドモ是亦程度問題ニテ、輸出國（販賣國）ノ生產條件著シク有利ニシテ、賣價ノ騰貴モ尙ホ需要國ニ於ケル獨占ノ地位ヲ保ツヲ妨ゲザルトキハ、固ヨリ轉嫁ニ妨ナシ。但シ假令獨占ナルモ賣價ノ騰貴ガ販賣高ヲ減ジ、總利益ヲ少カラシムル場合ハ、敢テ稅額ダケ賣價ヲ高ムルヲ欲セザルベシ、獨占市場ヲ有スルトキハ、賣價ハ必ラズシモ生產費ノ如何ニ依テ決セラルヽモノニアラザレドモ、其最大利益點タル賣價ハ、必ラズシモ「舊價＋稅額全部」ニアラザレバナリ（獨占品ニテモ賣價高キニ過グレバ需要ヲ減ズ）。

現今他國ニ產出ナキ特產物ヲ有スルコト稀ニシテ、多クハ競爭品若クハ代用品ヲ有スルモノナレド、需要品ノ程度、取引ノ慣習等ニ依リ、事實上獨占ニ近キ販路ヲ有スル場合少カラズ。例ヘバ大戰前ニ於テ、我邦其他各國ニ對スル獨逸ノ人造藍、我邦ニ於ケル英、獨ノ上等ノ羅紗、英國ノ硫酸「アンモニユーム」、白耳義ノ窓硝子（戰前）、英國ニ對スル米國ノ小麥、獨逸ニ對スル露西亞ノ「ライ」麥ノ如シ。殊ニ生產者ノ合同又ハ聯合ハ獨占ノ效力ヲ多カラシムルヲ以テ、此方面ヨリ輸入品ノ市價ヲ觀察スルハ、負擔問題ニ關スル一要件タラザルベカラズ。

三、稅額ノ多寡

商人ハ些少ノ費用モ之ヲ忽ニセザルモノナルヲ以テ、明カニ加ハリタル稅額ハ、假令些少ニテモ之ヲ賣價ニ加フルヲ勉ムベシ。需要者ノ側ニ於テモ亦購買ノ惰性上、少額ノ騰貴ハ意ニ介セザルベキヲ以テ、稅額（又ハ增稅）少キトキハ、多ク之ヲ消費者ニ轉嫁シ得ベキモ、稅額大ナルトキ

ハ、輸入商ハ少クモ自ラ其一部ヲ負擔スルニ至ラン。

四、供給ノ彈力

輸入國ニ於ケル販賣高ヲ減ジタル場合ニ於テ、其販路ヲ第三國ニ發見シ得ルトキハ、轉嫁ニ容易ナルベク（第三國ニ於ケル賣價ガ有利ナルヤ否ヤニ關スルコト勿論ナリ）、又其生產品ニ投ジタル資本ヲ他ニ轉ズルコト容易ナランカ、其商品ノ輸出引合ハズト見バ、直ニ他ノ事業ニ移ルコトヲ得ベク、隨テ轉嫁ノ困難少カルベシ。然レドモ各國ノ輸出品ハ、豫メ需要國ヲ見定メ、內國及ビ第三國ノ需要以外ニ、特ニ其國向トシテ多量ノ生產ヲ行フモノナルヲ以テ、一朝目的國ノ販賣ヲ縮少スルトキハ、俄ニ新販路ヲ求ムルコト極メテ困難ナルガ故ニ、此點ニ於テハ輸入者ハ頗ル不利益ノ地位ニ在ルモノトス。例ヘバ我邦ノ綿絲、海產物、燐寸ノ如キハ支那ヲ主要販路トシ、我邦輸出生絲ノ大部分ヲ占ムル太絲ハ、米國ヲ常得意トスルモノナルニ、若シ支那ガ前者ニ對シ、又米國ガ後者ニ對シテ是等ノ輸入稅ヲ著シク引上ゲ、若クハ新ニ課稅センカ、假令一部ヲ需要者ニ轉嫁スルモ、我生產者及ビ輸出商ハ忽チ其販賣高ヲ減少セラレ、大打擊ヲ蒙ルガ如シ。而シテ輸出品ガ農產品タルト鑛產品タルト、將タ又工業品タルトヲ問ハズ、現今ノ產業ハ、概シテ不動產ニ放資スル割合多キヲ以テ、生產物ノ市價多少下落シテ事業不振ニ陷リタレバトテ、直ニ之ヲ他ノ事業ニ轉ズルコト能ハズ、且ツ大規模ノ生產ヲ利トスルモノ多キガ故ニ、俄ニ其生產額ヲ縮少スルコト困難ナル不利益アリ。時トシテハ大生產ノ利益ヲ得ンガ爲メニ、故ラニ普通ノ需要以上ニ生產シ、其過剩貨物ヲ他國ニ投賣スル（Dump）コトサヘアリテ、斯ノ如キ場合ニハ輸入稅ノ大部分ハ、生產者ノ負擔ニ歸スルヲ常トス。

五、輸出稅ノ負擔　モ亦外國競爭品ノ有無ト、其貨物ノ需要セラル、程度等ニ由リテ同ジカラズト雖モ、特有物產（印度ノ阿片、智利ノ硝石ノ如キ）ノ外、大部分ハ輸出國ノ生產者ニ歸スルヲ常トス。何トナレバ輸出稅ヲ外國消費者ニ轉嫁セシメントスルモ、多數ノ商品ハ輸入國又ハ第三國ノ競爭品ヲ有シ、且ツ輸入國ニ於ケル輸入稅ナル障碍物ヲ有スルヲ以テ、異例ノ場合ノ外猥リニ輸出稅ヲモ回收シ得ルマデ價格ヲ高ムルコト能ハズ。獨占市場ヲ有スル特產品ニテモ、代用品ノ發見セラル、虞アルモノハ（多クハ是ナリ）、販路縮少ノ危險ヲ冒シテ代價ヲ高ムルコト能ハザルベキガ故ニ、少クモ一部ハ生產者自ラ負擔スルコト、爲ルベシ。加之輸出稅賦課ノ結果輸出貿易不振ニ陷リ、之ガ爲メ輸入貿易ヲモ阻礙シ、延テ一國全般ノ產業ヲ衰ヘシムルコト之アルベキガユエニ、金利モ貸銀モ低落セシメ、資本家、勞働家モ亦窮スルニ至ラン、是レ蓋シ各國ガ爭フテ輸出稅ヲ廢棄セル所以ナリ。

齊シク關稅ニシテ輸入稅ハ他國ノ租稅ナル爲メ多ク消費者ノ負擔ニ歸シ、輸出稅ハ輸出國ノ課說ナル爲メ大部分生產者ニ歸ストセバ、一見矛盾スルガ如シト雖モ、輸入稅ハ一國ニ輸入シ來ル某種ノ貨物ニ對シ、普通均一ニ賦課スルモノナルヲ以テ、內國生產者ニ對シテハ不利益ノ地位ニ置カル、モ、輸入各國間ニハ競爭上ノ難易ヲ生ゼザルニ反シ、競爭國ノ一ガ、輸出稅ヲ廢スルトキ

ハ、ソレダケ生產費ヲ減少スルヲ以テ、之ト同一市場ヲ爭フ場合ニ於テハ、輸出者自ラ輸出稅ヲ負擔スルカ、又ハ輸出國ノ政府自ラ之ヲ廢セザルベカラズ、況ンヤ列國多ク輸出稅ヲ存セザル今日ニ於テヲヤ。

第二節　關稅ノ目的及產業ノ保護

一、目的上ノ區別　輸出稅ハ稀ニ輸出防遏ノ目的ヲ以テ賦課セラルヽコトアリト雖モ、普通ハ專ラ國庫ノ歲入ヲ目的トシ、通過稅ノ如キモ、亦一ニ歲入ヲ獲ルニ在リ。然レドモ輸入稅ハ歲入ヲ獲ルト同時ニ、往々之ヲ他ノ目的ニ供スルコト珍シカラズ、所謂保護關稅(Protective duties)ナルモノハ、國內ノ幼稚ナル產業ヲ保護センガ爲メ、之ト同種類ノ外國生產品ニ比較的高率ノ輸入稅ヲ賦課シ、以テ內地ニ於ケル國內生產品トノ競爭ヲ防ガントスルモノナリ。其最モ極端ニ走レルモノハ、卽チ禁止稅(Prohibitive duties)ニシテ、稅率餘リニ高キトハ、輸入者ハ遂ニ其貨物ノ輸入ヲ斷念スベク、其結果輸入禁止ヲ命ズルト同樣ナルヲ以テ此名アリ。而シテ甲國ガ乙國ノ輸入品ニ保護主義ノ高稅ヲ賦課スル復讐手段トシテ、乙國モ亦甲國ノ輸入品ニ對シ稅率ヲ高ムルガ如キハ、其目的保護ニモ歲入ニモアラザルヲ以テ、之ヲ呼ンデ報復關稅(Retaliatory duties)トハ云フ。而シテ特惠關稅(Preferential duties)トハ、例ヘバ植民地ガ母國ヨリノ輸入貨物ニ對シテノミ、低稅率ヲ課スルガ如ク、一般稅率ニ比シ特ニ低廉ナル稅率ヲ、一國若クハ數國ニ許與スルモノニテ、所謂互惠關稅(Reciprocal duties)ハ北米及ビ南米ノ通商條約(若クハ母子國間)ニ見ルガ如ク、甲國ガ自國產ノ某々貨物ヲ乙國ニ輸入スル場合ニ、乙國ガ特ニ低稅率ヲ課スル旨ヲ約スルキ、自國モ亦乙國產ノ某々貨物ニ特惠稅率ヲ課スルヲ云フ。此他一國ガ他國ノ附與スル輸出奬勵金ノ效力ヲ無效ナラシメンガ爲メ、之ト同額ノ關稅ヲ賦課スルコトアリ、其目的ハ亦主トシテ自國ノ產業保護ニアレド、特ニ奬勵金賦課ノ國ノミノ輸入品ニ對シテ賦課スルモノナルヲ以テ、之ヲ相殺關稅ト呼ブ者アリ。又加奈陀ノ如ク廉賣防遏關稅(Anti-dumping duties)ナルモノヲ設ケ、若シ或ル國ガ加奈陀國內ニ於テモ產出スル貨物ヲ、輸出國ノ市價ヨリモ低廉ニ輸入スルトキハ、普通關稅率ノ外從價一割五分ヲ超ヘザル範圍內ニ於テ、特別稅ヲ附加スベシト規定セルガ如キモノアリ。尙ホ近年、米國等ニ於テ科學的關稅(Scientific tariff)ト稱シ、輸出國ノ生產費ト輸入國ノ生產費トノ差額ヲ課稅セントスル者アリ。乃チ關稅徵收ノ目的ハ歲入ヲ主トスル外、產業保護カ、國際交涉カ、某國特惠カ、孰レカ特殊ノ目的ヲ帶ブルヲ見ルベシ。然レドモ主トシテ學者、爲政家間ニ議論ノ存スルハ歲入主義ヲ守ルベキ乎、將又保護主義ヲ採ルベキ乎ノ點ニ在リトス。

【註】補償稅　例ヘバ我邦ニ於ケル砂糖等ノ奬勵稅ノ中、輸入品ニ課スルモノハ、內國ノ砂糖ニ課稅スルニ當リ、之ガ補償トシテ同率ヲ外國品ニ課スルモノナルヲ以テ(內國品ニノミ課スル時ハ、外國品ニ壓倒セラル)、之ヲ補償稅ト呼ブ者アレド、政府ノ目的ハ主トシテ歲入ヲ得ルニ在ルヲ以テ、是亦歲入稅ノ一種ニ外ナラズ、我邦ノ砂糖ノ消費稅ハ、當初ノ目的之ヲ內國產ニ課センガ爲メ外國產ニ課スルニアラズシテ、却テ外國品ニ對シ輸入稅(輸入品ニ課スル消費稅ハ性質上輸入稅ナリ)ヲ附加增額センガ爲メ、條約上內國產ニ課シタルガ如キ觀アリ。何トナレバ當時是等貨物ノ輸入額ハ內地產額ノ

三倍又ハ二倍ニ上リタレバナリ。

齊シク輸入品ニ對スル消費稅ニテモ、印度ノ綿製品國產稅ノ如ク、却テ輸入稅ノ數力ヲ歲入ノミニ止メ、內地紡績等保護ノ結果ヲ避ケンガ爲メニ課スルモノアリ、是亦一種ノ補償稅ニ外ナラザレド、全ク反對ノ目的ヲ有スルモノトス。

二、歲入關稅ト我國ノ主義　輸入稅ハ其全部又ハ一部ヲ、內國消費者ニ負擔セシムル場合多シト雖モ、其苦痛比較的間接ナルノミナラズ、稅關ノ如キ限定セラレタル通路ニ於テ徵收スルモノハ、徵收上頗ル容易ナルノ利アリ。加之逐年輸入貿易額ノ增加ハ、別ニ稅率ヲ高メズシテ歲入ヲ增加シ得ルヲ以テ、各國競テ之ニ依リテ歲入增加ヲ求メザルハナク、中ニハ名ヲ產業ノ保護ニ藉リテ、其實歲入ノ增加ヲ目的トスルモノアリ。又一部ノ目的ヲ產業ノ保護トスルモ、此目的ヲ達スル傍ラ歲入ヲモ增加セントシ、其目的ノ曖昧ナルモノ少カラズ。殊ニ文化ノ發達ト國際間ノ競爭トハ、國家ノ行フベキ職務ノ範圍ヲ廣大ニシ、所謂社會政策ノ實行ハ、益國家ノ事務ヲ增加スルノ傾向アリ。交戰諸國ハ戰後國費ノ尨大ヲ免レザルベキガユヘニ、歲入ノ補塡增殖ヲ冀フノ程度ハ、年ト共ニ增加スベク、事實上ノ歲入的關稅モ亦隨テ增加スベキヤ疑フベカラズ。我邦ノ如キモ亦輸入稅徵收ノ主タル目的ハ、歲入ヲ得ルニ在リト雖モ、我關稅定率法ハ、大體ノ方針トシテ原料品ノ課稅ヲ輕減又ハ免除シ、精製品及奢侈品ニ重課シタルノミナラズ、齊シク原料品ニテモ、本邦ニ競爭品ナキ物ハ無稅トシ、本邦ニテモ產出ノ見込アル物ハ多少課稅シタル點、及ビ國內ニ有望ノ同種生產品アル場合ニハ、日用品ニテモ稅率ヲ高メタル點ヨリ觀レバ、事實上保護主義ヲ

併用セルヤ蔽フベカラズ。又定率法第四條ニ於テ

本邦ノ船舶、生產品若ハ輸出品又ハ本邦ヲ通過シタル物品ニ對シ、他國ノ船舶、生產品若ハ輸出品又ハ他國ヲ通過シタル物品ヨリモ不利益ナル取扱ヲ爲ス國ノ生產品若ハ輸出品又ハ其ノ國ヲ通過シタル物品ニ對シテハ勅令ヲ以テ物品ヲ指定シ別表ニ定メタル關稅ノ外其ノ物品ノ價格ト同額以下ノ關稅ヲ課スルコトヲ得

トシ、他國ノ不公平ナル課稅ニ酬ヒンガ爲メ、本邦ニ於テモ、亦其物品ニ重稅ヲ課シ得ルノ準備ヲ爲シタルハ、全ク報復主義ヲ加味シタルモノヲ謂フベク、又其第五條ニ於テハ、別表ニ定メタル關稅ノ外、勅令ヲ以テ奬勵外國ニ於テ輸出奬勵金ヲ受ケタル物品ニ對シテハ、金ト同額ノ關稅ヲ課スルコトヲ得。

ト定メタルハ、所謂相殺關稅賦課ノ準備ヲ爲シ、一ハ以テ奬勵金交付ノ貨物輸入ヲ豫防シタルモノニ外ナラズ。而シテ大戰後ニ至リ、定率法ノ中ニ第五條ノ二ヲ加ヘ、不當廉賣品ノ輸入ヲ防ガントシタルハ、廉賣防遏關稅ヲ賦課センガ爲メニ外ナラズ。卽チ次ノ如シ。

不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ因リ、本邦ニ於ケル重要產業ガ、危害ヲ被ルノ虞アルトキハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ不當廉賣審查委員會ノ審查ヲ經テ、當該物品ヲ指定シ、之ニ對シ期間ヲ定メ、別表ニ定ムル關稅ノ外、其ノ正當價格ト同額以下ノ關稅ヲ課スルコトヲ得。

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル物品ニシテ、既ニ輸入セラレ、不當廉賣者又ハ其ノ代理人ノ所有又ハ所持ニ係ルモノニ對シテハ、前項ノ規定ニ準シ、不當廉賣者又ハ其代理人ヨリ附加關

稅ヲ追徵スルコトヲ得。前項ノ規定ニ依リ追徵スル附加關稅ハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス。

試ニ歐洲大戰前ニ於ケル各國ノ關稅收入ガ總歲入ノ幾何歩合ヲ占ムルヤト觀ルニ、多キハ六割餘ニ上リ、少キモ一割前後ニ及ブ、卽チ次ノ如シ。（各國關稅平均率ハ第九章第三項ヲ參照）

國名 / 項目	加奈陀	米國	獨逸	英吉利	佛蘭西	露西亞	支那	日本
歲入	二七四、三七八千円	一、九九〇、四三二千円		一、八二三、八三五千円	一、七四〇、八六六千円	三、〇四二、九八一千円	一、八三二、一三〇千円	六八八、四六一千円
關稅	一七〇、六二四	六三二、八三〇		三九、二八四	三八、四八五	三七、四四七	四二、〇七四	六八、四九七
歩合	六二・二歩	三一・三歩		八・二歩	二・一歩	一・一歩	二・〇歩	一〇・二歩

【備考】　右ハ明治四十四、又ハ大正元年ノ分ニテ、支那ニハ右ノ外輸入鴉片ノ釐金（四百六十萬圓）アリ、我國ニハ砂糖及織物ニ對スル輸入消費稅（此金額凡ソ八百萬圓）アレバ、實際ハ右ヨリ多キ理ナリ（石油凡ソ九十萬圓）。釐金ハ支那ノ一種ノ關稅ニテ、其事實上ノ率ハ二三歩ニ上レルモノナリ。

尙ホ大戰後ニ於ケル加奈陀、米國及英國ノ歩合（一九二二年ニ終ル年度）獨逸（一九二三年ニ終ル豫算）並ニ我邦ノ歩合（昭和元年度）ヲ覩ルニ次ノ如シ。

國名 / 項目	加奈陀	米國	英吉利	獨逸	日本（臨時共）
歲入	三八一、九五二千弗	四、一〇三、七四二千弗	一、一二四、八八〇千弗	一一五、五二一百萬馬	二、〇五六、三六一千圓
關稅	一〇五、六八七	三五七、五四五	一三〇、〇五二	八、〇〇〇	一五〇、六一二
歩合	二七・七%	八・七%	一一・六%	七・〇%	七・三%

更ニ英、米、獨、佛、伊及加奈陀ノ六箇國ニ於テ、最近八箇年乃至十箇年ノ輸入貿易總額ニ對スル關稅收入ノ歩合ヲ見ルニ、平均九分一厘ニ當レド、我邦ニ於テハ大正元年ヨリ同九年ニ至ル九箇年間ノ平均歩合ハ僅ニ四分七厘ニ過ギズ、大正十年度ハ五分五厘ニ止レリ。是レ大正五年以降ノ物價騰貴ニ因リ輸入金額著シク增加セシニモ拘ラズ、大部分從量稅タル關稅收入ハ、自然增加スルコト少キニ因ル。最近九箇年ノ本邦輸入平均額ハ十一億六千萬圓ナレバ、其九分一厘トスルトキハ、關稅收入一億五百餘萬圓ニ達スルモ可ナルノ理ナリ。

【註】　大正十四年ノ我邦總輸入額ハ二、五七二、六五八、〇〇〇圓、內有稅品八六三、二五四、〇〇〇圓、關稅收入ハ一一一、四〇九、〇〇〇圓ナレバ、總輸入額ニ對シテハ、四分三厘三毛ニ當レド、有稅品ニ對シテハ、一割六分ニ上ル。

三、保護關稅　凡ソ保護稅トハ、國內ノ產業ヲ保護センガ爲メ、同種類ノ輸入品ニ對シ、高キ輸入稅ヲ賦課シ、又ハ舊稅率ヲ增加スルノ謂ナレドモ、此點ニ關シ政府ノ意思如何ハ寧ロ從タル關係ニ有リテ、政府ノ意思ガ主トシテ歲入ヲ獲ルニ在ルモ、苟モ國內ノ一產業ト同種類ノ外國生產品ニ輸入稅ヲ課シ、其結果內國產業ニ利便ヲ與フルモノナルトキハ、總テ之ヲ保護關稅ト稱スルヲ得ベシ。

純粹ノ歲入關稅ハ大戰前ノ英國ノ如ク、主トシテ國內ニ生產ナキ貨物ノミニ課シ、偶國內ニ同種生產品之アルモノハ、恰モ印度綿製品ニ對スル國產稅ノ如ク、之ニ同率ノ稅額ヲ賦課シ、內國產業ニ何等特別ノ利便ヲ與フルコトコレナキヲ云フ。（尤モ印度ニ於テハ大正六年二月マデハ、輸入稅モ國產稅モ共ニ從價三分五厘ナリシガ、三月ヨリ戰時稅トシテ輸入稅ヲ引上ゲ七分五厘ト爲シ、其後

更ニ國產稅ヲ七分五厘、輸入稅ヲ一割五分ト爲シタルヲ以テ、七分五厘ノ保護率ト爲レリ）隨テ現今多數ノ國家ガ行フ如ク、數十百種ノ貨物ヲ擧ゲテ、課稅物件ト爲スニ於テハ、單ニ國內ニ生產ナキ貨物ノミヲ選ムコト能ハズシテ、被保護貨物意外ニ多キヲ致スハ、亦自然ノ勢ナリト謂フベシ。但政府ノ意思ガ、最初ヨリ主トシテ某種ノ產業ヲ保護スルニ在リ、其稅率モ亦著シク高キモノモ少カラズ、所謂保護關稅トシテ論議ノ目的ニ供セラルヽハ、多ク是等ノ關稅ニ在ルガ如シ。

四、歲入ト保護　我邦ヲ始メ其他ノ諸國ニ於テモ、國庫ノ歲入ヲ得ルト同時ニ、國內ノ產業ヲ保護セントスルモノ少カラズ、是等兩主義ハ全ク相容レザルモノナルヤ。

說ヲ爲ス者アリ、曰ク「產業保護主義ハ外國品ノ輸入ヲ阻礙シ、國庫歲入主義ハ却テ其輸入額ノ增加ヲ望ムベキガ故ニ、兩者ハ併立シ得ルモノニアラズ」ト、然リ兩者各極端ナル場合ヲ假定シ、產業保護ハ外國品ノ絕對禁止ヲ意味シ、歲入主義ハ專ラ國庫ノ收入ノミヲ目的トシ、唯其增加ヲ冀フモノトセバ、此兩者ハ併立シ得ザルコト、洵ニ說者ノ如シ。然レドモ極端ナル高率ノ保護稅ヲ課スル場合ノ外、外國品ハ相當ノ輸入ヲ繼續シ、國庫モ亦之ニ依テ豫期ノ歲入ヲ收メ得ベキコト、我邦其他米、獨、佛等ノ現狀ニ觀ルモ明カナリ。唯保護ノ目的ヲ達スルノ期ニ近ヅクニ從ヒ、其輸入品減少シ、國庫ノ收入ヲ減ズベキ傾向アルコト、固ヨリ言ヲ須ヒザルベシ。

又曰ク「農產物保護ハ歲入主義ト兩立スル場合多キモ、製造品保護ハ兩立セズ、製造品ハ假令內國產業ガ發達スルマデ、依然外國品ノ輸入アリテ、其間歲入ヲ獲ルモノトスルモ、內國人民ハ、保護關稅ノ爲メニ高價ト爲レル輸入品及內國生產品ニ對シ費ス所多キヲ以テ、他ノ有稅品ニ對シ費ス金高ヲ減ジ、隨テ間接ニ國庫ノ歲入ヲ減ゼザルヲ得ズ」ト、然レドモ農產物ノ輸入ノ多寡ハ、主トシテ內國ニ於ケル（時トシテハ外國ノ）收獲ノ豐歉ニ因ルモノニシテ、之トテモ稅率著シク高キトキハ輸入ヲ妨ゲ、歲入ヲ減ズベキコト疑ヲ容レズ。唯農產物ハ普通報酬遞減ノ法則ニ支配セラルヽヲ以テ、著シク其產出ノ增加ヲ望ム能ハズ、隨テ內國人口ノ增加率ガ農產物增加率ニ超ユル國柄ニ在ツテハ、國家ハ此稅ニ望ヲ囑シ得ルコト、比較的確實（此點ノミヨリ觀テ）ナリト謂フヲ得ベシ。

製造品ニ關スル說者ノ言モ亦一理ナキニ非ラズ。例ヘバ我輸入砂糖ノ稅率ガ、現行定率法ノ如ク高メラレタルトキハ、國內ニ於ケル砂糖ノ消費ヲ減ズル（或ハ其增加率ヲ減ズル）外、菓子ノ賣高ヲ減ジ、更ニ砂糖菓子等ガ高價ト爲リ、之ニ費ス金額增加スル爲メ酒ノ消費ヲ減ジ、煙草ノ消費ヲ減ズルガ如キ影響、之ナキヲ保セザルベシ。然レドモ國富ノ增加、生活程度ノ昂進ハ、俄ニ物價ノ幾分ノ騰貴ニ驚キテ、卒然多年消費ノ慣行ヲ破ルヲ許サヾルノ傾向モアリテ、假令一時ハ多少ノ消費ヲ減ズルモ、永ク其程度ニ甘ンズルモノニアラザルハ、煙草、酒ノ國內稅增加ニ於テ、其例證ヲ觀ルヲ得ベシ。且ツ夫レ終ニ國民所得ノ就レノ部分ヨリカ吸收セラルベキ租稅ナルモノハ、其何種タルヲ問ハズ、多少一般ノ消費力ヲ減ズル筈ニテ、此點ヨリ國庫ノ歲入減少ヲ說キ、關稅ノ缺點ト爲スガ如キハ穩當ニアラズ。

五、農業保護ト工業保護　所謂保護關稅中ニ截然タル二種ノ別アルヲ觀ル、卽チ農業保護及工業保護ニシテ、農業保護稅トハ、一國ノ農業ヲ保護センガ爲メニ、穀物、棉花其他農產品ノ輸入ニ賦課スルモノヲ云ヒ、工業保護稅トハ、原料品及ビ食料品ノ輸入稅ヲ免除又ハ輕減シ、精製品ニ重クシテ、以テ製造業及ビ貿易ヲ保護スルモノヲ云フ。我邦ガ棉花、羊毛、繭等ヲ無稅トシテ、生絲、綿絲、織物ニ重課シ、米、佛ガ生絲、銅ヲ無稅トスルモ、羽二重、陶磁器ニハ相當ニ課稅スルガ如キハ、此適例ナリ。是等兩主義ハ或ハ對立シテ行ハル、コトアルモ、又往々氷炭相容レズ、互ニ鎬ヲ削リテ爭ヒタルコトアリ、否性質上衝突スルヲ寧ロ當然トス。何トナレバ農產物就中穀物ニ重稅ヲ賦課スルトキハ、一部ノ地主ハ利益センモ、食料騰貴シテ賃銀ノ騰貴ヲ來シ、且ツ原料ハ農產品多キヲ以テ、是亦騰貴スベケレバナリ。隨テ農業保護ト工業保護ト同時ニ行フトキハ、工業保護ノ効力ハ遂ニ農業保護ニ厚キダケ相殺セラレザルヲ得ズ。此結果ハ往々直ニ顯ハレズ、又其相殺ノ程度モ、場合ニ依リテ同ジカラザルベシト雖モ、而モ此傾向アルハ蔽フベカラザルノ事實ナリトス。是ヲ以テ是等兩主義ヲ同時ニ行フカ、又ハ工業保護國ガ更ニ農業保護ヲ行ハントスルトキハ、農產品ノ輸入稅率低キ場合ノ外、工業品ノ輸入稅モ相伴フテ高メザルベカラズ。隨テ一般輸入稅著シク增加シ、物價モ亦過度ニ騰貴シ、保護稅ノ弊害甚シク、到底其利益ヲ補フニ足ラザルヲ以テ、茲ニ自由主義ノ利ヲ說ク者ヲ生ズルハ、史實ノ證明スル所ナリ。

產業保護主義ニハ、前述ノ如ク農業保護ト工業保護トノ二種アレド、此他更ニ一般產業保護卽チ農工保護トモ稱スベキ主義アリテ、各國多クハ一般產業保護ヲ唱ヘ、事實ニ於テ或ハ工業ニ重キヲ置キ、或ハ農業ヲ主トスルニ至リ、就中工業本位ノモノ多キヲ占ムルモノトス。獨逸ニ於テハ、彼ノ農業保護主義ノ關稅法案發表セラレタルトキ、農業保護說ハ「ワグナー」ヲ中心トシ、「オルデンブルヒ」「ボーレ」等諸氏ノ祖述スル所ナリ。

(甲) 農業保護論　ヲ唱フル者ノ主張ヲ概括スルトキハ、次ノ如シ。

(一) 農業ヲ國是トスル未開國モ、早晩工業國ト爲ルベキヲ以テ、工業立國ハ危險ナルコト。

(二) 英國ハ大英帝國主義、露西亞ハ汎亞米利加主義ト云ヘルガ如ク、列强互ニ他ヲ排シ、其領域內ニ於テ經濟獨立ヲ全フセントスル傾アルヲ以テ、食料品、原料品ノ供給地、製造品ノ販賣先ニ窮スルコトナキヲ保セズ。

(三) 國內ノ農業勃興スルトキハ、一國內ニ於テ安全廣大ナル市場ヲ得ルコト。

(四) 工業ヲ主トスルトキハ、外國ニ對スル服從關係ヲ增加ス、例ヘバ一八六〇年ノ米國ニ於ケル棉花輸出稅ノ賦課、竝ニ一八九二年ノ露國防穀令ノ場合ニ、英、獨兩國ノ蒙リタル損害ノ如シ。

(五) 工業保護ノミニ專ラナルトキハ、戰時糧道ヲ絕タル、ノ危險アリ。

(六) 工業ノ進步ト農業ノ衰頹ハ地方ヲ萎縮シ、都會ヲ膨脹セシメテ浮華ノ惡風ヲ生ジ、忠實健全ノ兵ヲ得難キニ至ラシム。

(七)　穀物ノ輸入稅ヲ高ムル時ハ穀物ノ價ヲ騰貴セシメ、穀物ノ騰貴ハ一般消費者及勞働者ノ負擔ヲ重カラシメ、且ツ小地主、小作人ヲ苦シメテ、大地主ノ勢力ヲ大ナラシムルニ止ルトハ、工業保護論者ノ反駁スル所ナレドモ、穀物ハ一國ノミヨリ輸入セラルヽモノニアラズシテ、多少競爭國ノアルモノナレバ、國內ノ消費者ガ輸入稅ノ全部ヲ負擔スルモノニアラズ、一部ハ外國ノ生產者ニ歸スル、一方ニ於テ、國家ハ此關稅收入ヲ以テ、勞働者其他ノ者ノ爲メニ社會改良ノ施設ヲ爲スコトヲ得ベク、又地價地代ガ騰貴スル爲メ、土地兼併等ノ弊ヲ生ズルコト之アルベキモ、是レ亦程度問題ニテ、適度ニ輸入稅ヲ引上グル時ハ、既ニ下落セル地價等ヲ引上グルノミナラズ、土地就中田畑ノ如キモノハ、其賣買讓渡ノ度數比較的少キガユヘニ、穀價ガ地價等ニ影響スルハ遲々タルモノニテ、情誼慣習等モ亦之ヲ左右スルモノナレバ、工業黨ノ唱フルガ如キ影響ハ、極メテ緩漫些末ノモノナルベシ。

(八)　穀價ノ下落ハ細民ノ增加ヲ促シ、細民ノ增加ハ喜ブベキ社會的現象ニアラザルヲ以テ、穀價ノ多少ノ騰貴ハ却テ健全ナル國民ヲ造ル所以ナリ。

(乙)　**工業保護論**　更ニ飜テ工業黨ノ說ク所ヲ聽クニ。

(一)　穀價ノ騰貴ハ一時農業ノ收益ヲ增加スベキモ、之ニ依テ生ズル地代、小作料ノ騰貴ハ復再ビ其收益ヲ減少セシムルモノナレバ、之ヲ保護セントセバ、絕エズ其輸入稅ヲ引上ゲザルベカラズ、且ツ農業ノ發達ニハ殆ンド際限ナキガ故ニ、國家ハ工業保護ニ依テ、ヨリ多クノ利益ヲ見ルベキニ、農業保護ハ食料品及原料品ヲ騰貴セシメ、其發達ヲ阻礙ス。

(二)　農業ヲ保護スレバ國內ノ購買力ヲ增シ、安全ナル販路ヲ供スト云フモ、天災地變若クハ戰亂ノ如キハ、外國ニノミアリテ內國ニハ之ナシト云フ筈ノモノニアラザレバ、假令內國市場ニ依賴スルモ、必ズシモ安全ヲ期スベカラズ、要スルニ此點ハ五十步百步ナリ。

(三)　現今幼稚ナル工業國ニシテ將來發達セバ、自國工業品ノ販路ヲ失フベシト云フモ、凡ソ人ノ欲望ニハ際限アリ、又各國ニ種々ノ工業ガ勃興スルモ、各特徵アルノミナラズ、現今世界ヲ文野ノ二種ニ分ツトキハ、文明國民ハ二億七千萬人、未開若クハ半開國民ハ十二億ト號スル有樣ナレバ、此點ニ依リテ國家ノ政策ヲ定メントスルハ早計ナリ。

(四)　農業保護主義ハ農產國民多數ノ怨望ヲ買ヒ、關稅戰爭ヲ惹起シ易シ。

(五)　農業保護主義ハ食物並ニ日用品ノ騰貴ヲ促スガユヘニ、細民ヲ苦シメ大地主ノミヲ利ス。

(六)　穀價ノ騰貴ニ依リテ利益ヲ得ルハ、農產物賣却ノ餘裕アル大農ノミナレバ、農民ノ大部分ヲ占ムル小農ハ恩澤ヲ蒙ルコト少ク、土地兼併ノ弊ヲ助長ス。

(七)　農業保護主義、卽チ自足生活主義ハ鎖國主義ニシテ、廣大ナル領土ヲ有スルモノ、外、時勢ニ適セズ、工業立國王義ヲ採ルモ、海軍力ヲ擴張セバ、戰時糧道ヲ絕タルヽノ虞ナシ。又悉ク國境封鎖セラルヽモノトセバ、假令農業立國トシテモ、其他ノ必需品ヲ獲ルノ途ナク、且ツ全國ノ壯丁ガ皆干戈ヲ採テ起ツ場合ニ於テハ、充分ナル糧食スラ得ベカラザルヤ明カナリ云々。

今兩派ノ所論ヲ比較觀察スルニ、各一理ナキニアラズト雖モ、大地主及農業立國論者ハ農業保護ヲ、商工業者及商工立國論者ハ工業保護ヲ主張シ、各自己ノ主張ニ偏シテ他ノ長所ヲ無視シ、幾分我田引水ニ傾ケルコト、猶ホ自由保護ノ如キニ非ラザルカ、凡ソ工業ト云ヒ、農業ト云ヒ、普通ノ國民經濟ニ於テハ、缺クベカラザルモノニシテ、極端ニ一方ノミヲ重ンジ、其保護ノミニ厚キハ、曾ニ不公平ノ嫌ヒナキニアラザルノミナラズ。一國ノ經濟上ヨリ觀ルモ、亦決シテ策ノ得タルモノニアラズ。而シテ或一國ガ或時代ニ於テ、保護的關稅ニ依リテ其產業ヲ保護セントスルニ當リ、農業ト工業トノ中、多少ニテモ其保護ノ程度ヲ異ニスル、亦固ヨリ不可アルナク、其程度ハ其國ノ事情ト對外關係、生產品ノ種類等ニ由リテ同ジカラズト雖モ、概論スレバ工業保護ノ方農業保護ニ比シ有效ニシテ、弊害ヲ生ズル危險比較的少キガ如シ。蓋シ農業ノ優劣ハ多ク自然的條件ニ依リテ定マルモノナルヲ以テ、之ヲ保護セントセバ、稅率ヲ高クシ、一旦其保護ヲ施セバ、之ヲ廢スルコト最モ困難ニシテ、却テ年々稅率ヲ高ムルノ必要ヲ生ジ、之ガ爲メ食料品、原料品ノ市價ヲ高メ、他ノ產業及ビ一般消費者ヲ害スル程度多ケレバナリ。是レ各國關稅史ノ證明スル所ニシテ、保護貿易國ニ於テ、自由貿易說ノ唱道セラルヽハ、多ク農業保護熱ノ熾ンナリシ時ナル事實ニ依テモ、亦推知スルニ難ラザルナリ。一國ヨリ觀テ農業ノ衰フルハ固ヨリ喜ブベキ現象ニアラズ、中等農民ハ健全ナル國民ニ缺クベカラザル要素ナリト雖モ、農業ヲ發達セシムルノ策ハ關稅ノミニアラズ、關稅ハ農業保護ニ其效薄クシテ弊害多シトセバ、開墾補助、地租輕減、產業組合、農業敎育ノ普及、資金ノ融通等ノ手段ニ依リテ其保育ヲ圖リ、多少ノ關稅ハ賦課スルモノトスルモ、其割合ハ低減スベキモノナリ、況ンヤ關稅ノ爲メニ利スル者ハ、餘裕アル少數ノ地主ニ止ルコト事實ナルニ於テヲヤ。

六、產業保護ト關稅　產業ノ保護策中關稅政策ト密接ノ關係ヲ有スルハ、工業ノ保護ナレドモ、工業保護策ハ必ズシモ關稅政策ニ限ルニアラズ（甲）對內的ノ方法トシテハ、技術ノ發達、發明ノ奬勵、熟練職工ノ養成、科學的管理法、重要原料及製品ノ運賃特別割引、低利資金ノ融通、租稅ノ減免、製造高ニ對スル奬勵金ノ交付、利益配當率ノ保證等アリ。（乙）對外策トシテモ、輸出品ノ檢查、貿易金融機關ノ發達、海運及海軍ノ强大、輸出品陳列館ノ設置、海外放資、領事及商務官ノ派遣、海外廣告策、輸入品特許策、貿易者ノ養成等枚擧ニ遑アラズト雖モ、關稅政策ハ工業奬勵並ニ輸出促進策トシテ重要視セラルヽモノナレバ、次ニ之ヲ手段トスル重ナル方法ヲ列擧スベシ。

〔第一〕**輸入稅ヲ手段トスル政策**　之ヲ次ノ如ク區別スルコトヲ得。

(1) 積極策……外國輸入品ニ對シ重稅ヲ課シテ、內國ニ於ケル同種類ノ產業ヲ保護セントスルモノニテ、最モ普通ノ保護政策ナリ。之ニ農業保護ト工業保護ト工業保護ノ區別アルコト、既ニ述ベタル所ノ如シ。

(2) 消極策……外國輸入原料品ノ如ク、產業ニ必要ナル貨物ヲ免稅又ハ減稅シテ、間接ニ產業ヲ保

讓スルノ政策モ、保護主義ノ半面ニ外ナラズ。例ヘバ我邦ノ如ク數百ノ輸入品ニ課稅シナガラ、棉花、羊毛等ヲ無稅トスルハ、一面ヨリ觀ルトキハ、一種ノ奬勵金ヲ附與スルニ異ナラズ。何トナレバ、是等ノ原料品ニモ課稅シテ國庫ノ歲入ヲ增シ、依テ以テ他ノ租稅ヲ輕減スルコトモ爲シ得ルモノナルニ、此手段ヲ採ラズシテ免稅スルトキハ、恰モ國庫ノ歲入ヲ割キテ、紡績業者若クハ毛織物業者ニ與フルガ如キ結果ト爲レバナリ。

(3) 禁止策……輸入稅率ヲ著シク高メ、某外國品ノ輸入ヲ全ク禁遏セントスルモノニテ、重商主義、英國ノ穀物條例ノ如キハ其一例ナレドモ、現今ハ極メテ稀ナリ。但シ彼ノ一國ノ公安、衞生又ハ風俗上ヨリ絕對ニ輸入ヲ禁止スル、若クハ戰時ニ某々貨物ノ輸入ヲ禁止スルガ如キ、或ハ我邦ニ於ケル贅澤品關稅(從價十割)ノ如キハ、自カラ別問題ナリト知ルベシ。

(4) 協定策……外國ト低廉ナル稅率ヲ協定シテ、其國生產品ノ輸出ヲ圖ルモノニテ、其目的ハ輸出稅ヲ廢止、又ハ輸出奬勵金交付ニ齊シ、此他外國ヲシテ特惠稅率ヲ設ケシメ、若クハ互惠的ニ低稅率ヲ約スルガ如キモ、亦此策ノ一種ト見ルヲ如ベシ。

〔第二〕輸出稅ヲ手段トスル政策　此政策ハ現今稀ニシテ、現時輸出稅ヲ存スルハ、專ラ歲入ヲ獲ルニ在ルモノ、如シ、是亦次ノ如ク分ツヲ得。

(1) 積極策……輸出稅ヲ賦課シテ、穀物若クハ原料品ノ如キ產出ニ限リアルモノヲ國內ニ抑留シ、其價格ヲ低廉ナラシメントスルモノニテ、課稅貨物ノ生產者ハ消極的ニ損失ヲ蒙ルモ、其消費者ハ利益ヲ享クベシ。

(2) 消極策…輸出稅ヲ免除シテ輸出ヲ奬勵スル策ニテ、我邦始メ各國ノ行フ所ナリ。是レ亦原料品輸入稅免除ノ如ク、一種ノ間接奬勵金ト看做スコトヲ得ベシ。

(3) 禁止策……輸出稅率ヲ禁止的程度ニ高メ、原料品食料品等ヲ國內ニ抑留スルモノニテ、畢竟(1)ノ過度ナルモノナリ。共ニ重商主義ノ時代ニ行ハレ、各國平時ハ之ヲ行ハザレドモ、(支那ノ防穀令等ノ例外アレド)戰時ニ於テハ、特種貨物ノ輸出ヲ禁止シタルコト、歐洲大戰中ニ於ケルガ如シ。

〔第三〕奬勵金ノ手段ニ依ル政策　純粹ノ奬勵金制度ハ近年跡ヲ斷チタレドモ、古來往々行ハレタルコトアリ、現今モ他ノ形式ニ於テ之ヲ存ス。

(1) 輸入奬勵金……重商主義ノ時代ニ、英國ガ植民地產ノ海軍材料品(「タール」、瀝青、麻、製艦用材木等)其他ニ對シ、巨額ノ輸入奬勵金ヲ下附シタルガ如キハ、其適例ナリ。

(2) 輸出奬勵金……他ハ自國商品ノ輸出ニ對シ、政府ガ特ニ或割合ノ金額ヲ交付スルモノニテ、是亦重商主義時代ニ行ハレ、近年ノ例ハ獨、佛其他歐洲大陸ノ諸國ガ、甜菜糖ノ輸出ニ對シ、競テ奬勵金ヲ交付セシモノナリ、是等ハ畢竟自國ノ歲入ヲ割キ、他國ノ消費者ニ贈與スルガ如キ結果ト爲ルニ止ル(代價下落ノ爲メ)ヲ以テ、一九〇一年萬國砂糖會議ヲ開キ、同三年九月ヨリ之ヲ廢止シタリ。

此ノ如ク純粹ノ奬勵金ハ現今之アルヲ聞カザルモ、我邦ノ如ク、戾稅、交付金、再輸出品免稅ノ

制度アルモノハ、亦一種ノ輸出奬勵金ヲ交付スルモノト云フヲ得ベシ。

(1) 戻稅　……ニハ酒造稅、麥酒稅、砂糖消費稅ノ如キ、消費稅ヲ拂戻スモノト、輸入原料品ヲ用ヒテ、肥料、砂糖等ヲ製造シタル場合ニ拂戻スモノトノ別アリ。

(2) 交付金……ハ鹽ノ如キ政府ノ專賣品、若クハ消費稅ヲ納附シタル織物ヲ輸出スル場合ニ交付スル金額ニテ、專賣ハ亦一種ノ消費稅徵收法ニ外ナラザルヲ以テ、是亦性質上戻稅ニシテ、或意味ノ輸出奬勵金ト見ルコトヲ得。

(3) 再輸出免稅……或貨物ヲ輸入シ、一箇年以內ニ再ビ輸出スルトキハ、輸入稅ヲ免除スル規定アリ、是亦輸出奬勵金ト見ルモ不可ナラズ。加工ノ爲メ一時輸入スル貨物ノ免稅、保稅工場若クハ保稅倉庫ノ免稅ノ如キモ、亦同樣ノ目的ニ出ヅルモノトス。(後節參照)

第三節　關稅ノ領域ト立法

第一項　關稅領域

一、關稅領域(Customs area)　トハ同一關稅法ノ下ニ在リ、且ツ多ク同一關稅率ノ行ハル、範圍ヲ謂フ。普通ノ國家ニ於テハ此範圍ハ概ネ政治的ノ領域ト符合スルモノナレドモ、一國內ニ於テモ特別ノ事情アル島嶼、小領地等ハ往々特殊ノ關稅率ヲ有シ、時ニ却テ他國ノ關稅領域ニ入リ、又小國ガ隣邦ノ關稅領域ニ加ハルコトノ之ナキニアラズ。例ヘバ「コルシカ」ハ佛蘭西ノ一部ナルニモ拘ラズ、之ヲ外國視シ、「コルシカ」ハ獨立ノ稅率ヲ有シ、一八八八年マデノ「ハンブルヒ」及「ブレーメン」ガ、獨逸關稅同盟ニ加ラズ、「アドリアチック」海ニ臨メル「トリースト」及「フユーム」ガ、一八九一年マデ、墺匈關稅同盟ノ外ニ立チタルガ如キ、墺地利領ナル「ユンゴールツ」及「ミツテルベルヒ」ノ二領地ガ、一八六八年及一八九〇年ノ協定ニ依リ、獨逸ノ關稅領域ニ加ハリ、其他小國ナル「ルクセンブルグ」ガ一八四二年ノ條約ニ依リ、是亦獨逸關稅同盟ニ入リ(一九一九年ノ平和條約ニ依リ、此同盟ヲ離レ、民族自決ニ依リ、佛國ニ屬セリ)、「リヒテンシユタイン」ガ墺匈關稅同盟ニ入リ、「モナコ」ガ佛蘭西ニ、「サン、マリノ」ガ伊太利ニ從屬シタルガ如キハ、孰レモ其例證ナリ。

此他保稅倉庫其他ノ保稅地域、自由港、若クハ自由地帶ノ如キハ、國內ニ在テ、關稅ノ施行セラレザル他ノ區域ニシテ、關稅同盟ハ獨立國間又ハ母子國間ヲ結合シ、加盟國以外ノ諸國ニ對シ、一關稅領域ヲ造ラントスルモノナリ。

二、植民地ノ關稅　ニ關シテハ(一)母國トノ關係(二)母國以外ノ外國トノ關係(三)各植民地間ノ關係ヲ區別シ、且ツ植民地自ラ關稅取極ノ自主權ヲ有スルヤ否ヤヲモ考慮セザルベカラズ、加奈陀、濠洲ノ如キ自治植民地ハ關稅法制定ノ權利ヲ有シ、之ヲ有スルモノハ、多クハ本國ト獨立セル關稅率ヲ定ムルヲ常トスルモ、完全ナル關稅ノ自主權ヲ有セザルモノニテモ、往々本國ト獨立ニ稅率ヲ定ムルコトナキニアラザレバナリ。

凡ソ本國ガ其植民地ヲシテ如何ナル關稅政策ヲ採ラシムルヤハ、國ニ依テ同ジカラズ、其數例ヲ示セバ次ノ如シ。

(一) **獨逸**　ハ戰前ニ於テ、本國ト其植民地又ハ保護國ヘ輸入セラルヽ獨逸商品ハ、最惠國條款ノ適用ヲ受ケ、是等ノ國ト其植民地トノ間ニ於テモ、何等關稅上ノ特惠ナシ。

(二) **和蘭**　ハ本國ト植民地間ノ自治ヲ認ムルノ風アリシガ、一八九二年ノ關稅法ニ依リ、大體植民地ニ對シ、所謂關稅同化策(Tarif assimilation)ヲ採リ、母子國間並ニ各植民地間ノ貿易ヲ、成ルベク自由ニシ、本國ノ生產者ノ爲メニ、植民地(「モロツコ」「アルヂエリア」「チユニス」等亞弗利加ノ植民地、「マダカスカル」、印度支那等)ノ消費者ヲ犧牲ニシ、本國ノ貿易ニ便スルコトヽシ、一九一三年ノ法律モ亦此主義ヲ強メタリシガ、將來ハ植民地ノ發達ト共ニ漸次植民地ノ利益ヲ圖リ、其關稅入格(Tarif personality)ヲ認ムルコトヽ爲ルベシ。

(三) **佛蘭西**　ニ於テハ、一八六六年後一時、植民地ノ自治ヲ認ムルノ風アリシガ、一八九二年ノ關稅法ニ依リ、大體植民地ニ對シ、所謂關稅同化策(Tarif assimilation)ヲ採リ、母子國間並ニ各植民地間ノ貿易ヲ、成ルベク自由ニシ、本國ノ生產者ノ爲メニ、植民地(「モロツコ」「アルヂエリア」「チユニス」等亞弗利加ノ植民地、「マダカスカル」、印度支那等)ノ消費者ヲ犧牲ニシ、本國ノ貿易ニ便スルコトヽシ、一九一三年ノ法律モ亦此主義ヲ強メタリシガ、將來ハ植民地ノ發達ト共ニ漸次植民地ノ利益ヲ圖リ、其關稅入格(Tarif personality)ヲ認ムルコトヽ爲ルベシ。

(四) **米國**　ニ於テモ亦、比律賓(並ニ巴奈馬運河地帶及「サモア」群島中ノ或部分)ヲ除ケバ、大體關稅同化策ヲ採リ、母子國間ノ貨物ハ例外ノ場合ノ外無稅トス。而シテ比律賓ノ產物モ、一九〇二年ノ米國ノ法律ニテハ、對外關稅率ノ七割五分ヨリ、比律賓ハ一九〇五年ノ法律ニ依リ、本國產ノ商品ニ課稅セシガ、一九〇九年ノ米國關稅法ハ、斯ル互惠主義ヲ改メ、大體上相互無稅主義(卽チ同化策)ヲ採ルコト、爲セリ。卽チ米國ノ屬領地ハ殆ンド本國ノ關稅領域ニ屬スルコト、爲リタルモノトス。

(五) **英國**　ノ植民地中所謂自治植民地(加奈陀、濠洲、南阿、新西蘭等)ガ關稅自主權(多少ノ條件ハアレド)ヲ獲タルハ十九世ノ中葉頃ニシテ、植民地相互ノ間ニ於ケル互惠主義ヲ認メ、且一植民地ガ他ノ植民地ニ許容シタル利益ハ、本國モ亦之ニ均霑スベシトノ意見有力ト爲レリ。而シテ本國ガ植民地ニ於テ特惠ヲ受ケタル場合、最惠國條款ヲ有スル外國モ、亦其利益ニ浴スルコトヲ得ベキヤ否ヤニ就テハ、從來議論ノ存シタル所ニシテ、既ニ一八九七年加奈陀カ英本國ニ與ヘタル利益ヲ獨逸ニモ與ヘザリシ爲メ、獨逸モ亦加奈陀ニ對シ、最惠國ノ待遇ヲ與ヘザリシコトアリキ。然レドモ英國側ノ解釋ハ英帝國內ノ取極ハ、國內的性質ヲ有スルモノナリトシ、當然外國ニ及ボスト爲セリ。サレド此點ハ尙ホ問題ニシテ、現ニ一九一九年ニ發行セル、米國關稅委員會ノ「互惠主義ト通商條約」ニ關スル報告ニ於テハ「英國ノ自治植民地ナルモノハ、關稅自主權ヲ有スルカユヘニ、英帝國關稅組織ナルモノヽ之ヲアル筈ナシ」トシテ、此主義ニ反對シ、巴里平和會議ニハ是等ノ植民地モ獨立ニ加ハリ、從來特惠ヲ與ヘザリシ英本國ガ、一九一九年ノ財政法ニ依リ、新ニ植民地ニ對シ特惠ヲ與ヘタルヲ以テ、將來此問題ハ再論議ヲ見ルナルベシ。

英帝國ガ帝國內ニ於ケル一般的特惠制度ヲ完全ニ認メタルハ、大戰ノ影響ニ因レルモノニテ、卽チ一九一七年四月ノ英帝國戰時內閣ノ決議ニ依リテ定マリ、帝國內ノ富源開發ヲ圖リ、特ニ英國ヲシテ食料品、原料品並ニ重要產業ニ關シ、他國ヨリ獨立セシメンガ爲メ、帝國內ノ各地方ハ、他地方ノ生產物及製造品ニ、特殊待遇ヲ與フルノ主義ヲ採リ、一九一九年ノ財政法(Finance Act)ハ、此主義ノ實現ヲ試ミ、其直轄ニ屬スル植民地ニ對スル方針ヲモ一變セリ。

英領植民地中加奈陀、濠洲、南阿、新西蘭ノ如キハ、從來英本國ノ商品ニ對シ、二割乃至五割減ノ特惠關稅ヲ賦課セシモ、本國ハ傳統的ノ自由貿易主義ヲ固守シ、何等酬ユル所ナカリシガ、前記ノ財政法ハ英國ガ當時課稅セル商品ニ對シ、英帝國內ニ於テ生產、製造セラレ、且ツ積送セラレタル場合ニハ、商品ノ種類ニ依リ、普通稅率ノ(一)六分ノ五(茶、コヽア、珈琲、チコリー、乾葡萄、乾果、砂糖、煙草等)(二)三分ノ二(自動車、自動自轉車、同部分品、樂器、同部分品時計等ニテ、普通稅率ハ三三⅓%)(三)葡萄酒　對シテハ五割乃至七割、(四)「スヒリツツ」ハ一九一九年九月一日マデ全額ヲ賦課スルコト、爲セリ。(其後勞働黨內閣ハ、(一)(二)ノ稅率ヲ低下スルト同時ニ(一九二四年四五月ノ交ヨリ)(三)ノ關稅(マツケナ關稅)ヲ同年八月一日ヨリ廢止スルコト、爲シ、且ツ特惠關稅ニモ反對シ居レリ)。

我邦ノ植民地タル朝鮮、臺灣及樺太ハ如何ト云フニ、現今ニ於テハ大體上同一關稅領域ニ屬シ、朝鮮ニ於テ多少ノ特例ヲ認ムル外、外國ヨリノ輸入品ニ對シ同一ノ定率法ヲ施行シ居レリ。臺灣ニ對シテハ明治三十二年一月一日ヨリ關稅定率法ヲ施行シ、同四十三年四月一日ヨリ關稅法ヲ施行シタルモ、從來特產物ニ對スル輸出稅並ニ出港稅ヲ存シ、又四十年十月一日ヨリ種魚、支那麵

類、人參、棉花等十一品目ニ對シ、特別輸入稅ヲ設ケアリタリ。

朝鮮ニ於テハ明治四十三年八月二十九日ノ併合宣言ニ依リ、其後十年間關稅ヲ其マヽ據置クコトト爲シ、明治四十五年三月ノ勅令ニ依リ、其特有ノ輸入稅輸出稅及噸稅ヲ賦課シ、之ガ爲メ、朝鮮對內地、臺灣、樺太ニ移出入稅ナル國內關稅ヲ起シ、關稅上ニ於ラハ全然別國ノ觀アリシガ、大正九年八月勅令第三百號ニ依リ、關稅法、關稅定率法、明治三十三年法律第八十六號(外國ヨリ輸入スル鹹魚及燻製魚ニ關スル件)、保稅倉庫法及保稅工場法ヲ施行スルコト、シ、唯多少ノ例外ヲ認メタルニ過ギザルヲ以テ、大體本國ト關稅領域ヲ同フスルモノト謂フヲ得ベシ。

朝鮮ニ於ケル例外トハ、例ヘバ(一)輸入稅率ニ於テ馬、綿羊、鹽、煙草、礦油、「コークス」、木材等ニ對シ、異レル稅率ヲ設ケタルコト、(二)免稅品ノ種類ヲ異ニスルコト、(三)凶作其他已ムヲ得ザル場合ニハ、期間ヲ指定シ、穀類ノ輸入稅ヲ減免シ得ルコト、(四)陸接國境二里ヲ自由地帶トセルコト、(五)朝鮮(又ハ臺灣)ヨリ內地又ハ樺太ヘ移出スル物品中、出港稅アルモノアリ(例ヘバ、輸入地ニ於テ內國稅ヲ賦課スルモノ)、若クハ(六)內地、臺灣又ハ樺太ヨリ酒類、醬油、砂糖、織物等ヲ移出スルトキハ、內國稅ヲ免除又ハ拂戾シ、又ハ交付金ヲ交付スルガ如キ類ナレド、此(五)(六)ノ如キハ、國內稅ノ有無ニ因ル不公平ヲ補正スルニ過ギザルモノナリ。關東州ハ固ヨリ植民地ニハアラザレドモ、特殊ノ關係ヲ有スルヲ以テ、大正十四年六月十八日ノ法律(附錄參照)ニ依リ、其特產物ニシテ無稅輸入ヲ許スヲ便トスル藥品、原料品約三十種ノ品目ニ對シ輸入稅ヲ免除スルコト、爲セシガ、更ニ昭和二年四月法律第四號ヲ以テ改正シテ(乙)表ヲ加ヘ、大豆硬化油及布帛製品ノ稅率ヲ、定率表ヨリ低減スルコト、爲セリ。

樺太ニ對シテハ明治四十二年四月一日ヨリ關稅法、關稅定率法及噸稅法ヲ施行スルコト、爲セシガ、出港稅アルモノハ朝鮮ニ準ジ、陸接國境貿易ハ大泊稅關支署ニ於テ之ヲ行フコト、爲セリ。

南洋群島ニ於テモ、亦大體關稅法及關稅定率法ニ依ルコト、爲セリ。

三、關稅同盟

(Customs union [法] Zollverein [獨]) トハ經濟上若クハ政治上利害關係深キ二國以上ガ結合シ、相互ノ關稅ヲ撤廢シ若クハ輕減シテ、貿易ヲ自由ナラシムルト同時ニ、諸外國ニ對シテハ經濟上一單位ヲ成シ、同一ノ關稅ヲ賦課スルヲ謂フ。而シテ此種ノ同盟ハ普通獨立國間ニ成立スルモノナレドモ、必ラズシモ然ルヲ要セズ、母子國間若クハ植民地間ニ於テモ成立ス。又同盟國ノ間ニ全然關稅ヲ撤廢スルハ理想的ナレドモ、是亦必ズシモ全廢スルヲ要セズ、內國ノ諸稅其他經濟上ノ理由ニ因リ、其間ニ中間關稅ヲ設クル必要アリテ、之アルモ亦關稅同盟タルニ妨ゲナキモノトス。

關稅同盟ハ其結合ノ程度ニ種々アルヲ以テ、之ヲ大別シテ、完全ナルモノト不完全ナルモノトノ二種ト爲スコトヲ得、完全ナル同盟ハ二個以上ノ獨立國家ガ條約ニ依リ、相互間ノ一切ノ關稅ヲ撤廢スルト同時ニ、諸外國ニ對シテハ總テ同一ノ關稅ヲ設ケ、全然統一セル關稅團體ヲ組織シ、關稅制度、其稅率、其立法、行政等モ總テ統一セラレ、同一統轄ノ下ニ在ル官吏ノ徵收シタル關

稅ハ、或標準ニ依リ各國ノ間ニ分配セラルヽモノニテ、獨逸關稅同盟、墺匈關稅同盟（一八六七年）ノ如キハ其適例ナリ。而シテ此種ノ同盟ハ、國力、利害略相齊シキ諸邦ノ間ニ其成立ヲ見ルノミナラズ、範圍狹小、國力微弱ナル邦國ト、附近ノ大國トノ間ニモ往々實現セラルヽモノニテ、是レ弱小國ガ通商條約締結、其他經濟上大國ト事ヲ共ニスルノ利アルノミナラズ、大國モ亦經濟上若クハ政治上ノ利益ヨリ、之ヲ勸誘若クハ强制スルガ爲メナリ、此ノ如キ場合ニハ、小國ハ關稅收入ノ一部ヲ分配セラルヽノミニテ、大體大國ノ指揮ニ從フモノナルヲ以テ、之ヲ「關稅加入」ト稱スル者アリ。

不完全ナル關稅同盟ハ或ハ關稅ノ一部ヲ廢棄シ、又ハ單ニ輕減スルモノニテ、更ニ此方法ノ如何ニ依リテ關稅協同ト關稅聯合トニ區別セラルヽモノトス。

關稅協同トハ同盟國間ノ關稅ニ限リテ之ヲ輕減シ若クハ其一部ヲ免除スルモノヲ云ヒ、保護國若クハ自治植民地ト本國トノ間ニ於ケルガ如ク、既ニ政治上、經濟上特別ノ關係ヲ有スルモ、尙ホ貿易ノ自由ヲ行ヒ難キ邦國ノ間ニ行ハルヽモノトス。一八五三年二月獨逸關稅同盟ト墺地利トハ、特ニ通商條約ヲ結ビ、數多ノ商品ノ關稅ヲ全然免除シ、又一部ノ商品ニ對シテハ、一般稅率ヨリ二割五分乃至五割ヲ低減セルガ如キ、（此協同ハ他國ノ商品ガ同盟國ノ一國ヨリ他ノ一國ニ入リテ其產業ヲ害シ、又關稅收入ヲモ減ジタルヲ以テ、幾千モナク廢棄セラレタリ）又一八九〇年五月瑞典、諾威兩國ハ協商ノ結果、兩國ノ生產品ニシテ陸路ニ依ルモノハ、砂糖、煙草、コブランデイー」、珈琲、麥芽、骨牌ヲ除キ、一切無稅トシ（外國品ニ多少加工セル物ヲ除外ス）衣服、麻布、竝ニ一般ノ鋼鐵器ニ限リ、兩國ノ一般稅率ノ差額ニ等シキ區別關稅ヲ賦課シタルガ如キ、（現今ハ唯一定ノ國境貿易品ニ限リ免稅ス）一八九三年ノ西班牙、葡萄牙ノ關稅協同、一八九七年ノ露西亞、芬蘭ノ協同、扨テハ米國、「ポートリコ」ノ協同ノ如キ皆此適例ナリ。關稅聯合トハ同盟諸邦間ノ關稅ハ別ニ低減若クハ廢止セズ同盟以外ノ諸國ニ對シ一樣ナル高率ノ關稅ヲ賦課セントスルモノニテ、又「經濟聯合」ト稱スル者アリ、是等ノ聯合ハ嘗テ學者、爲政家ノ一理想ニ過ギザリシガ、一九〇三年ノ新西蘭關稅改正ニ於テ、同國ノ關稅率ハ、英國及英領（一部）ノ生產品ニ對シテ低キ一般稅率ヲ、又其他ノ國ニ對シテハ、何割カノ割增稅率ヲ賦課スルコト、爲セリ。

第二項　關稅ノ立法

一、關稅法規　關稅ニ關スル諸規則ヲ大別スルトキハ、條約ト國內法トニ分ツコトヲ得。條約中關稅ニ關係アルハ通商條約ノ一部（例ヘバ最惠國條款）、並ニ關稅率ヲ定メタル附屬議定書、特ニ關稅ノミヲ約セル關稅條約等ニシテ、是等ノ條約ハ普通國家ノ最高機關ガ批准シ、批准書ヲ交換シタルトキ成立シ、條約ノ分布ニ依ツテ國內法ト同一效力ヲ有セシムルヲ常トス。批准ハ君主政體ノ國ニ在リテハ、元首之ヲ行ヒ、共和政體ノ國ニ在ツテハ、大統領又ハ大統領ト他ノ最高官廳ト共同シテ之ヲ行フヲ常トス。例ヘバ佛蘭西ハ大統領之ヲ批准シ、米國ハ大統領ト元老院（セネート）（三分二以上）トニ批准ノ權利アルノ類ナリ。而シテ國ニ依リテハ批准ノ前又ハ後ニ、國會ノ協贊ヲ要

スルモノ少カラザレドモ、我邦ニ於テハ條約締結ノ權利ハ天皇ノ大權ニ屬シ、別ニ議會ノ協賛ヲ經ル必要ナク、唯批准前樞密院ニ諮詢スル習慣アルノミナリ。

關稅ニ關スル國內法ヲ大別スレバ、亦關稅行政ニ關スルモノト(Customs Act or Regulations)、關稅ノ稅率ニ關スルモノト(Tariff Acts)ヲ區別スルコトヲ得ベシ。而シテ後者ハ租稅ナルガユヘニ、我邦ニ於テハ必ラズ法律ヲ以テ定メザルベカラザレドモ、前者ハ重要ナルモノノ、外、勅令ヲ以テ定ムルコトヲ得ベシ。

(甲)　關稅行政ニ關スル法規　ニハ種々アレドモ、今其重要ナルモノヲ示セバ(一)關稅法(法律)(二)關稅法施行規則(勅令)(三)大藏省官制(勅令)(四)大藏省分課規程(官報)(五)稅關官制(勅令)(六)稅關分課規程(官報)(七)稅關管轄區域(勅令)(八)稅關支署ノ名稱、位置及管轄區域(勅令)(九)稅關出張所及稅關支署出張所(省令)(十)稅關監視署ノ名稱、位置(省令)(十一)開港及開港ニ於ケル貨物ノ指定(勅令)(十二)開港港則(勅令)(十三)開港港則施行細則(省令)等ノ諸法令ナリ。

前記諸法規中(一)及(二)ハ關稅ノ賦課徵收、船舶ノ出入港、貨物ノ輸出入、收容、異議及訴願、罰則、犯則事件ノ調査及處分、並ニ是等ニ關スル手續ヲ規定セル最モ重要ナルモノニテ、(三)乃至(十)ハ官廳ニ關スルモノ、(十一)乃至(十三)ハ開港ニ關スル法規ナリ。

右ノ如キ關稅ニ關スル固有事務ノ外、大正十三年稅關官制改正以來加ハリタル事務アル爲メ、次ノ如キ法規モ亦此一部ト爲ルニ至レリ。

(一)海港檢疫法　(二)畜牛結核豫防法　(三)家畜傳染病豫防法　(四)輸出入植物取締法。

尙ホ噸稅、消費稅、戾稅、稅關貨物取扱人、保稅倉庫、保稅工場等ニ關スル諸法規アルコト、後ニ述ブル所ノ如シ。

(乙)　關稅ノ稅率ニ關スル法規　ハ關稅定率法其他ノ從屬的法規、例ヘバ(一)贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律、(二)關東州生產品ノ輸入稅免除ニ關スル法律、(三)輸入稅ノ免除又ハ拂戾ニ關スル勅令等ニシテ、諸輸入品ノ稅率ハ大體定率法ノ附屬稅表ニ依テ定メラルヽモ、關稅ヲ廣ク觀ルトキハ、消費稅法ノ如キモ亦其一部ト看做スコトヲ得ベシ。而シテ我邦ノ定率法ハ法律トシテ定メラルヽヲ以テ、固ヨリ議會ノ協賛ヲ經ベキモノナレドモ、別ニ涉外法タル條約ニ依ル協定稅率ナルモノアルヲ以テ、定率法ノ稅表ニ列擧セル品目中、協定稅率アルモノハ、ソレダケ効力ヲ減殺セラルヽノ理ナリ。

二、稅率ノ立法手續　凡ソ物品稅ハ消費者ノ負擔ニ歸スル傾向ヲ有スルヲ以テ、國內物品稅ノ種類、稅率、減免ノ程度等モ亦固ヨリ重要ナルニ相違ナキモ、國內稅ハ專ラ歲入ヲ主トスルニ反シ、關稅ハ嘗テ逃ベタル如ク、歲入ノ外、產業保護其他ノ目的ニ供セラレ、輸入商品ノ消費者ガ關稅ノ大部分、若クハソレ以上ヲ負擔スルノミナラズ、課稅物品ト同種類若クハ類似ノ商品ヲ生產スル者ハ、之ガ爲メニ利スル所少カラザルヲ以テ、其一方之ヲ原料トスル生產業者ハ齊シク生產者ニアリナガラ、却テ打擊ヲ蒙ルガ如キコトアリ。例ヘバ銑鐵ノ輸入稅ヲ高ムルトキハ、製鋼會社ガ打

撃ヲ蒙リ、若シ製鋼會社ヲモ保護センガ爲メ、鋼鐵ノ輸入稅ヲモ高ムルトキハ、造船業者、機械製造會社ガ不利益ヲ蒙ルノ類ナリ。而シテ工業ノ保護ハ勞働ノ需要ヲ增加シ、其賃銀ヲ高ムルノ傾向ヲ有スルモ、廣ク工業ヲ保護スルトキハ一般物價ヲ騰貴セシメ、生活費ヲ增加スルガユヘニ、賃銀ノ增加ヲ相殺スルコト、爲ルベシ。假リニ之ガ爲メニ生ズル生活費ノ增加ノ程度少クシテ、賃銀增加ノ利益ヲ享クルモノトスルモ、之ヲ享クルハ工業勞働者ニシテ、地方ノ農業勞働者（其他ノ農民）ハ何等ノ利益ナクシテ、單ニ物價騰貴ノ不利益ヲ蒙ルニ止ルモノトス。然ラバ農業保護ノ爲メニ、穀物其他農產物ノ關稅ヲ增加センカ、工業ノ發達ヲ阻碍スルコト少カラズ。又從來保護關稅ノ高カリシモノ、例ヘバ我邦ノ砂糖ノ關稅ヲ俄ニ低下センカ、其事業ハ倏チ衰頹シ、勞資共ニ窮ス卜云ヘル如ク、關稅政策ノ影響スル所ハ、到底國內稅ノ比ニアラズ。加フルニ、單ニ關稅ト汎稱スルモ、課稅ノ目的物ハ數百千ニ上ルガユヘニ、之ヲ國內稅ノ如ク、酒造稅、舊賣藥稅ノ如ク、各商品每ニ一種類ノ租稅ト看做ストキハ、數百千種ノ物品稅ト爲ルノ理ナリ。殊ニ外國品ニ課稅スル爲メ、對外關係モ淺カラズ、往々之ガ爲メニ國交ヲ害スルコト珍シカラザルヲ以テ、關稅々率ノ創設、改廢ハ極メテ愼重ノ態度ニ出デザルベカラズ。是レ歐米ニ於テハ、夙ニ之ガ調查委員會ヲ設クルノ必要ヲ說ク者アリ、又我邦ヲ始メ米、獨、英ノ諸國ガ之ヲ實行スル所以也。

抑モ關稅改廢ニ關シ特別ニ委員會ヲ設クルノ必要ハ、前記ノ如ク其及ボス影響廣汎ナルニ、內地生產ノ技術及費用、竝ニ海外市場ノ如何等ヲ知悉スルニアラザレバ、適當ノ稅率ヲ定ムルコト能ハズ、且ツ當業者ノ利害關係淺カラザル爲メ、政治的壓迫ノ弊アルニ因ル。我邦ハ從來調查委員ヲ設クル主義ヲ採リ、之ヲ基礎トシテ政府ノ原案ヲ作成シ、然ル後議會ノ協賛ヲ經ルコト、爲セシガ、臨時ノ改正ハ多ク當業者ノ請願ニ依リ、大藏省ノ案ヲ作リテ議會ニ提出スルニ止ルガ如シ。

歐洲大戰中ヨリ物價ヲ主トシ、內外ノ經濟事情著シク變化シタルヲ以テ、臨機或ハ稅率ヲ改正シ、或ハ輸入廉賣防止條項ヲ加ヘタルガ、更ニ根本的ニ調查スルノ必要ヲ認メ、殊ニ各國トノ條約中既ニ滿期ト爲リタルモノモアリタルヲ以テ、政府ハ先ヅ臨時財政經濟調查委員會ニ諮問シタル後、具體案ヲ定ムルノ方針ヲ採リ、大正十年九月同會中ニ關稅改正特別委員會ヲ設ケ、政府ハ（大藏當局）單ニ改正ノ大體方針ヲ圖リ、特ニ原案ヲ示サズ自由ニ討議セシムルコトヽシ、單ニ當局ノ意見ヲ徵シタル場合、之ヲ陳述スルコト、爲セシガ、其特別委員ノ顏觸ハ、議員、實業家（主トシテ工業家）、日銀總裁、大藏省及外務省ノ官吏、學者等ナリキ。而シテ特別委員會ハ更ニ小委員會ヲ定メ、爾來大正十二年七月ニ至ルマデ、屢次會合シテ研究スル所アリシガ、同月之ヲ特別委員會ニ提出シ、其議決ヲ經ルコト、爲セリ。是ニ於テ大藏省ハ、別ニ關稅率調查委員會ヲ設ケ、西野大藏次官ヲ會長トシ、委員ニハ大藏省官吏四名、農商務省商務局長、外務省通商局長、遞信省管船局長、法制局參事官ヲ撰ミ、別ニ大藏省官吏二名ヲ幹事ト爲シ、每週一、二回會議ヲ開キ、調查ノ步ヲ進メタルガ、偶大正十二年九月一日ノ關東大震火災ニ遭ヒテ、重要資料ノ一部ヲ燒失シ、

且ツ經濟事情其他ニ變化ヲ來シタルヲ以テ、大正十三年八月再ビ政府部內ニ關稅率改正委員會ヲ設ケテ、改正法ノ立案ニ當ラシメ、同十五年三月ニ至リ、多年ノ懸案タリシ、關稅ノ一般的改正事業ヲ完成シ得ルニ至レリ。

然ルニ曩ニ臨時財政經濟調查委員會ハ關稅率ノ改正ニ關スル根本策如何ニ就テ、政府ニ答申スルニ當リ、附帶決議トシテ常設關稅率調查委員會ノ設立ヲ希望シタルノミナラズ、議會ニ於テモ亦斯ル趣旨ノ表明アリタルヲ以テ、改正法ノ公布後幾干モナク、同年五月遂ニ關稅調查委員會ノ設置ヲ見ルコトニ爲レリ。

我邦ノ關稅調查委員會ハ會長(大藏大臣)及委員三十人以內ヨリ成リ、此中各省高等官十八人(大藏六人、商工四人、農林三人、外務三人、內閣一人、內務一人)學識經驗アル者十二人以內ニシテ、大藏大臣之ヲ奏請シ、其任期ヲ四年トス、但シ必要アルトキハ、大藏大臣ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ臨時委員ヲ命ズルコトヲ得ベシ、而シテ此委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ、(一)大藏大臣ノ諮問ニ應ジテ關稅率ニ關スル事項ヲ調查審議シ、(二)又ハ關稅率ニ關スル事項ニ付、大藏大臣ニ建議スルコトヲ得ルニ止ルヲ以テ、單ニ大藏大臣ノ諮問機關、其調查機關ニ過ギザルモノトス。

要スルニ我邦ノ方法ハ、各關係官廳ノ專門官吏ガ原案ヲ作成シ、之ヲ關稅調查委員會ニ諮問シ、其調查ハ議員官吏及學者ガ之ニ參加シ、更ニ大藏省ヲ中心トスル官吏側ノ研究ヲ經テ、衆議院ニ提出セラレ、是亦特別委員ニ附託セラレ、衆議院ノ議決ヲ經テ、貴族院ニ至リ、其論議ヲ經テ始メテ決定スルコト、爲ルナリ。

關稅率ヲ改正スルニ當リ、特ニ調查委員會ヲ設置スルハ、歐米諸國ニモ行ハル、制度ナレド、之ヲ常設委員ト爲スベキカ、或ハ臨時委員ニテ足レリト爲スヤハ國ニ依リテ同ジカラズ、最初我邦ニ於テ大藏當局ガ經濟、財政調查委員會ニ附議スルヤ、理想トシテハ「常設委員會ヲ設置シ當局、學者及實際家ヲ網羅シ、臨機適宜ノ改正ヲ行ハシムレバ可ナリ」ト唱ヘタレド、此問題ハ斯ク輕々ニ決セラルベキモノニアラズ、常設委員會ノ人選宜シキヲ得、各委員關稅事項ニ精通シ、政治的、利己的色彩ナク、國民經濟全體ノ利害ニ立脚シテ公平ニ研究シ、且ツ或程度マデ權限ヲ有セシムルニ於テハ、此制度モ亦可ナリト雖モ、孰レノ國ニ於テモ立法部モ亦政府モ、斯ル團體ニ充分ノ權限ヲ有セシムルヲ好マズ、又權限ヲ有セシムルモ、委員會其モノガ、往々政治的色彩ヲ有シ、或ハ壓迫ヲ蒙リ、爲メニ充分ノ効果ヲ擧グル事能ハザルコト珍シカラザルガ如シ。但シ議會ニ於テ、或ハ選擧區民ノ爲メニ、或ハ大資本家ノ爲メニ、若クハ盲目的ニ左右セラル、弊害ハ、幾分除クコトヲ得ベシ。(國民經濟雜誌第三十八卷第一號、及第二號(大正十四年一、二月)拙稿「科學的關稅概論」參照。)

今試ニ重要諸國ガ如何ナル方法ヲ採レルヤヲ觀ルニ次ノ如シ。

(一)　**米國**　ニ於テハ、最近常設關稅委員會設置ノ運動熾ンナレドモ、下院ノ議員ヨリ成レル

委員會ハ、一八八二年ニモ設置セラレ、此委員會ハ諸種ノ資料ヲ蒐集シ、品目ノ分類法、關稅法等ヲ精査シ、米國關稅法規ノ基礎ヲ成セルノ觀アリキ。此委員會ハ幾分保護政策ノ色彩ヲ帶ビ、反對派ノ爲メニ消滅シ、爾來二十餘年間ハ、自由、保護孰レノ黨派ガ政權ヲ握レルヤヲ問ハズ、舊式ノ制度ニ從ヒ、單ニ下院ニ於ケル歲入委員會ニ依テ無雜作ニ決定セラレ、民衆ハ之ニ盲從スルノ有樣ナリシガ、一九〇六年頃ヨリ、漸次委員會設置ノ必要ヲ唱フル者アリ、一九〇九年「ペイン、オールドリツチ」關稅法ガ制定セラレ、大統領ノ諸問機關ト爲リ、單ニ或ル關稅法制定ノ爲メニスル、特殊ノ報告ヲ集ムルニ止メズ、廣ク關稅ニ關スル用語集ヲ編成スルニ在リシガ、元來共和黨内閣ノ手ニ成立シタルモノナリシカバ、民主黨ノ攻撃ヲ受ケ、一九一二年ニ廢止セラル、コト、爲レリ。越ヘテ一九一四年聯邦貿易委員法ノ制定セラルヽヤ、貿易關係調査ノ一要目トシテ、關稅ヲモ調査セシコトアリシガ、現在ノ關稅委員會ノ設立セラレタルハ、歐洲大戰ニ入リ、一般思想ノ變革アリタル後ニテ、即チ一九一六年ノ米國歲入法ニ依ルモノナリ。

【注】米國關稅委員會　ノ調査スヘキ項目ハ（一）現在及將來ノ米國關稅法カ如何ニ實施セラレ、又如何ナル影響ヲ財政上並ニ產業上ニ及ボスヤ（二）原料品、製成品並ニ半製品ニ對スル稅率ノ關係（三）從價稅、從量稅及複合稅（從價ト從量ノ）ノ影響（四）關稅法ノ表ノ排列及品目ノ分類ニ關スル諸問題（五）關稅ノ實施狀態ヲ一般的ニ調査シ、就中聯邦ノ歲入トノ關係、米國ノ諸產業並ニ勞働者ニ及ボス影響等ニシテ、是等ノ調査事項ハ必要ニ應シ、之ヲ大統領、下院ノ歲入委員、上院ノ財政委員ニ報告スルノ義務アリ。而シテ大統領若クハ是等ノ委員會或ハ下院ノ各部ガ要求スルトキハ、其調査及報告ヲ爲シ、毎年十二月調査ノ方法、經費並ニ年内諸報告ノ要項ヲ、下院ヘ報告スルノ義務アルモノトス。此委員會ハ（一）米國ト諸外國トノ關稅關係、（二）通商條約（三）特惠條項（四）經濟聯合（五）輸出奬勵金並ニ特惠稅率ノ影響（六）國内ノ生產及消費ト輸入額トノ比較（七）内外ノ產業ノ競爭ノ狀態、原因及結果（「ダムピング」及生產費ヲ含ム）ヲ調査スルノ權アリ。

此委員會ハ大統領ノ指名セル六名ノ委員ヨリ成リ、同一政黨ノ者ハ三名ヲ超ユルコトヲ得ズ。委員長ハ「ハーヴアード」大學教授ノ「タウシツグ」ナレド、畢竟諸問機關以上ニハ出ヅルコト能ハサコルト前記ノ如シ。

近年米國ニ於ケル關稅委員會設置ノ目的ニ、「科學的關稅率」（Scientific tariff）ナル主義アリ、之ガ爲メ内外ノ生產費ヲ調査シ、其差額ヲ關稅率トシテ賦課シ、依テ以テ競爭ノ公正ヲ期シ、國内ノ產業ヲ保護セントスルニ在リ。一方之ガ爲メ、自カラ調査會ヲシテ權威アラシメ、政治的壓迫若クハ腐敗ヲ免レシメントスルモノニテ、此主義ノ可否ニ就テハ、後ニ述ブルガ如ク、英米等ニ於テモ、尚ホ議論ノ存スル所ナルガ、一九二二年改正ノ米國新關稅法ニ於テモ、亦明ニ此方針ヲ採用セルモノ、如シ。例ヘバ、從價稅ノ價格算定法ニ於テ、上院ノ修正案ニ依リ、普通ノ商品ハ外國價格ヲ採ルモ、之ガ爲メ外國品ト競爭ノ地位ニ在ル米國生產品ヲ保護スルニ足ラザルトキハ、米國價格（輸出當時米國產品ノ米國主要市場ニ於ケル卸賣代價）ヲ以テ評價ノ基礎ト爲ス權限ヲ、大統領（即チ行政部）ニ與フルニ當リ、次ノ如キ條項ヲ挿入セリ。

第三百十五條　A　一定ノ貨物ニ就キ本法所定ノ關稅ガ、米國ト主タル競爭國トノ生產費ノ相違ヲ均等ナラシムルニ足ラズト認メタルトキハ、大統領ハ布告ヲ以テ、稅表番號ノ變更、稅率ノ增減ヲ命ズルコトヲ得、右布告ハ三十日ヲ經テ之ヲ實施ス。

但シ右稅率ノ增減ハ本法所定稅率ノ五割ヲ超ユルコトヲ得ズ。

B　前項ノ方法ニ依ルモ、生產費ノ相違ヲ均等ナラシムルニ足ラズト認メタルトキハ、大統領ハ右ノ事實並ニ當該貨物ヲ公示ス。此場合ニ於テハ、該貨物ニ對シテハ、米國ニ於ケル販賣價格ヲ以テ、從價稅ノ課稅價格トス。

前項ノ場合ニ於テハ、從價稅率ハ生產費ノ相違ヲ均等ナラシムルニ足ルモノタルヲ要ス。但シ本法所定ノ稅率ヨリ五割以上ノ輕減ヲ爲スコトヲ得ズ（本項ハ比律賓「バーサン」諸島「グアム」及「チユチユイラ」ニ適用セス）

C　生產費ノ相違ヲ認ムルニ就テハ、大統領ハ（一）米國ト主タル競爭國トノ貨銀、原料ノ價格、其他生產條件ノ差異（二）米國市場ニ於ケル內外品販賣價格ノ差異（三）外國生產者ガ政府其他ヨリ享ケル利益（四）其他競爭上ノ利不利ヲ考察スルヲ要ス。

但シ大統領ハ本條ニ定ムル生產費ノ差額ノ調査ハ、關稅委員會ヲシテ行ハシメ、其調査ノ結果ニ依ルニアラザレバ、本條ノ布告ヲ發スルコトヲ得ズト爲シ、尙ホ大統領ハ有稅品ト無稅品、並ニ課稅ノ形式ヲ變更スルコトヲ得ザル制限ヲ附シ居レリ。

我邦ニ於テモ、本邦ノ貨物又ハ船舶ニ對シテ、他國ニ比シ不利益ノ取扱ヲ爲シ、若クハ外國ニ於テ輸出奬勵金ヲ受クルモノ、不當廉賣品、米及籾ノ輸入稅率等ハ、一定ノ制限ノ下ニ、政府ニ於テ課稅額ヲ定ムルコトヲ得ルモ、米國ノ大統領（卽チ政府）ハ他國ガ米國品ニ對シ差別的待遇ヲ爲ス場合、其國ノ商品ニ對シ新ニ課稅シ、若クハ附加稅ヲ設クル外、場合ニ依リテハ、輸入ヲ禁止スルコトヲ得ル上ニ、前記ノ如キ廣キ權限ヲ認ムル爲メ、或ル程度マデ政府ノ手ニ依リ、任意稅率ノ變更ヲ行ヒ得ルコト、爲レリ。

（二）**獨逸**　ニハ別ニ關稅常置委員會ナルモノナク、內務省、大藏省等ノ諸官吏ニシテ、多年關稅事項ヲ調査シ、之ニ精通セル者ガ調査委員ト爲リ、諸方面ノ資料ヲ集メ、且ツ經濟委員會ノ援助ニ依リテ原案ヲ作リ、更ニ各省ノ官吏ヨリ成ル委員會ニ附議シ、然ル後聯邦議會（ブンデスラート）ニ提出シ、ソレヨリ帝國議會（ライヒスタグ）ニ提出シ、其特別委員會ニ附議セラレ、此委員ハ政府ノ官吏ト論議シ、其決議案ヲ議會ニ於テ承認スル順序ナリ。經濟委員會（Wirtschaftlicher Ausschuss）ハ皇帝ノ任命ニ依ル委員ヨリ成リ、委員ハ官吏ノ外農業、工業、海運、銀行等ノ代表者ヲ含ムモ、消費者、勞働者、小農、手工業者、若クハ小工業家ノ代表ナル者ナク、商人並ニ輸出商サヘ少數ナリシヲ以テ、是等ノ者ノ反感ヲ招キタルガ、果然此委員等ハ一意自己ノ利益ノ爲メニノミ稅率ヲ高ムルコトヲ圖リタルガ如シ。我邦ノ制度ハ獨逸ノ制度ニ類シ、經濟調查會ノ如キモ、亦獨逸ノソレヲ摸倣シタルノ觀アレド、是亦所謂資本家ニノミ偏シタル嫌アルガ如シ。

（三）**英國**　ニ於テハ從來政府ガ原案ヲ作成シ、之ヲ議會ノ特別委員會ノ手ニ移シ、此委員ガ、官私各方面ノ資料ニ依リテ調查セシガ、一九一六年獨逸ノ經濟調查會ニ類セル商工政策委員會（Committee on Commercial and Industrial Policy）ナルモノ設置セラレ、廣ク戰後ニ於テ採ルベキ商工政策ヲ研究スルコト、爲セリ。卽チ重要產業ノ保護策モ亦此會ノ調查項目ニ屬スルヲ以テ、一九一八年ノ報告中ニ、產業保護ニ關スル有力ナル常置委員會ノ設立ヲ力說シ、以テ政治上ノ壓迫ニ因ル繫實ヲ防ガントセシガ、學者中ニハ其趣旨ハ可ナルモ、到底政治問題ニ觸ル、コトヲ避クル能ハズトシテ反對スル者モアリ、未ダ成立ヲ見ザルガ如シ。

要スルニ關稅ニ關スル常設委員會ヲ設ケ、當業者ノ不正ナル運動、延ヒテ政治的腐敗ヲ防ガントスル其目的ニ就テハ、何人モ異論アルノ理ナキモ、之ガ爲ニハ、其制度ヲ愼重ニ考慮シ、各方面ヨリ委員ヲ網羅シ、委員ノ人格ト智識トヲ重ンズルト同時ニ、一般公衆ニ對シ關稅ニ關スル智識ヲ普及セシメ、以テ當業者ト議會トヲ監視セザルベカラズ。蓋シ當業者ハ往々國家ノ利益ヲ標榜シテ公衆ヲ瞞着スル一方、穩密ノ間ニ强力ナル運動ヲ試ミ、議會ノ委員モ議員モ共ニ淺薄ナル知識ニ依リ、或ハ黨略トシテ、不法ノ保護策ヲ採ルコトアルモ、公衆ニシテ盲目ナランカ、如何ナル制度ヲ行フモ、到底前記ノ如キ弊害ヲ防止シ得ベカラザレバナリ。

第四節　稅率ノ組織

第一款　對外關係

第一項　單一稅率

一、稅率ノ分類　凡ソ一國ガ或輸入品ノ稅率ヲ定ムルニ當リ、歲入主義ヲ採ルト保護主義ヲ採ルト、將又兩者併用主義ヲ採ルトヲ問ハズ、或商品ニ對シ一種類ノ稅率ヲ定ムレバ足ルベク、商品ノ生產國ニ依リ、稅率ヲ二三ニスルトキハ、自國ノ政策ヲ達スルニ不都合ナルノミナラズ、生產國ノ如何ヲ判別スル手續上ノ煩勞モ少カラザレドモ、他國ト貿易ノ便宜上、一商品ニ對シ二種以上ノ稅率ヲ設クルコト珍シカラズ。卽チ次ノ如キ區別ヲ生ズル所以ナリ。

一、單一關稅率（Single tariff ; Single-line tariff）

二、國定稅率及協定稅率（Autonomous and conventional tariff）

三、複關稅率（Double tariff ; Bi-linear tariff）若クハ最高最低稅率（Maximum and minimum tariff）

四、三重稅率（Treble tariff）若クハ複合稅率（Multiple tariff ; Multi-linear tariff）

此他佛蘭西、佛領印度支那、白耳義等ノ諸國ハ大戰後從量稅中ノ或モノニ對シ、一定ノ係數ヲ乘ズルコト、爲セシガ、其目的ハ戰後ニ於ケル異常ノ物價騰貴ニ適應セシムル一時的ノ手段ニ過ギザルベシ。（從量稅ノ部參照）。

【注】**稅率分類ノ主義**　關稅率ヲ大別シテ（一）單一稅率（二）國定、協定稅率（三）最高、最低稅率ノ三種ニ分ツハ、「ブルンツエル」ノ試ミタル方法ニシテ、爾來此主義ニ依ルモノ少カラズト雖モ、加奈陀ガ三重稅率ヲ作リタル以來、英領植民地中ニハ、之ニ倣ヘルモノアリ。從テ第四種ヲ加ヘザルベカラズ。而シテ單ニ形式ノ上ヨリ區別スレバ（一）單一稅率（二）複稅率及（三）三重稅率ノ三種ト爲リ（更ニ四重稅率ヲ加ヘレバ四種ト爲ル）又關稅自主權ノ如何ニ依リテ區別スレバ、次ノ如ク分ツヲ至當トス。

（甲）國定稅率
　（一）單一稅率（二）最高、最低稅率（三）三重稅率
（乙）協定稅率
　（一）片務ノ協定稅率（二）双務ノ協定稅率

右ノ中國定ノ單一稅率ノミナルトキハ、之ヲ單一稅率ト呼ビ、國定ノ單一稅率ノ外ニ協定稅率アルトキハ、國定、協定稅率、若クハ一般、協定稅率ト稱シ、國定ノ最高、最低稅率ヲ寢關稅率ト云ヒ、其三重稅率ヲ三重稅率若クハ寢合稅率ト稱スルモノトス。而モ寢關稅率ノ場合ニモ、亦三重稅率ニモ、協定稅率ノアルコト珍シカラザルコト、後ニ說明スル所ノ如シ。

關稅率ハ又現在實施シ居ルヤ否ヤニ依リ、現行稅率ト停止稅率トニ別ツコトヲ得、普通實際上ニ於テ謂フ所ノ關稅率ハ現行稅率ナレドモ、又濠洲ノ如ク停止稅率（Deferred scale of duties）ト稱シ、現在ハ之ヲ適用セザルモ、將來新產業ノ興ラントスル場合、直ニ適用シ得ル準備ヲ爲シタルモノアリ（一九二〇年三月二十五日施行）。

二、單一稅率　ハ前記ノ如ク自國ノ政策ヲ行フニ便アリ、又關稅行政ヲ簡易ナラシムルノ利益アル外、議會ガ稅率制度ノ全權ヲ握ルコトヲ得ルガ故ニ、今ヨリ約三十六七年前マデハ、西班牙ヲ除キ歐米各國モ亦之ヲ採用シタレド、一八九一年獨逸ハ此主義ヲ棄テ、國定協定稅率ノ方法ヲ採リ、翌年佛蘭西ガ複關稅ニ改メタル以來、重要諸國ハ相踵デ此制度ヲ廢止シ、英國ノ如キ自由貿易主義ノ國スラ、最近植民地ニ對シ、特惠關稅率ヲ設ケタルヲ以テ、現今ハ支那、印度等半開國ノ一部ニ之ヲ見ルノミト爲レリ。而シテ單一稅率制度ハ普通國定稅率ナレドモ、一八六八年白耳義ガ行ヒタルガ如ク、他國ト條約ニ依リ協定シタル稅率ヲ國定稅率中ニ加ヘ、其部分ノ國定稅率ヲ變更シタルモノ、如キハ、形式ハ單一稅率ニシテ、事實ハ國定、協定稅率ノ一變體ト見ルヲ得ベシ。又支那ノ如ク、輸入稅率ノ全體ガ協定稅率ニシテ、毫モ關稅自主權ノ之ナキモノモアレバ、單一稅率ハ必ラズシモ國定稅率ナリト謂フヲ得ザルナリ。

從來單一稅率制度ヲ採レル國ガ、何故ニ複關稅率等ノ主義ヲ採レルヤト云フニ、元來此制度ハ寧ロ自由貿易主義ヲ採ル國ニシテ、課稅品目モ少ク、稅率モ亦低キモノニ適シ、保護主義ヲ採リ、高率關稅ノモノ多キ國柄ニハ適セザルヲ以テ、各國保護ノ色彩濃厚ト爲ルニ從ヒ、漸次廢棄セラレタルモノナリ、蓋シ稅率ノ品目ヲ多クシ、稅率ヲ高メ、以テ內地ノ產業ヲ保護セントスル國ハ、同時ニ海外ニ於ケル自國商品ノ市場ヲ擴張スル必要アルニ、自國獨リ高率關稅ヲ課スルトキハ、他國モ亦稅率ヲ低下セズ、他國ヲシテ自國品ニ對スル稅率ヲ低下セシメンニハ、勢ヒ自國モ亦對手國ノ商品ニ對シ、稅率ヲ低下スルノ必要アルガ所以ナリ。

三、事實上ノ單一稅率　一國ノ關稅率表中ノアラユル商品ガ、總テ一商品一稅率ノミニシテ、唯或ル商品ガ別ニ協定稅率ヲ有スルコト、例ヘバ我邦ノ如クナルトキハ、普通之ヲ國定協定稅率ト呼ブモ、若シ協定稅率ヲ有スル品目ガ極メテ少數ニシテ、之ニ均霑スル國モ亦少キ場合アラバ、其制度ハ事實上單一稅率ノ制度ト稱スルヲ得ベク、又植民地ノ生產品ニ特惠ヲ與ヘタル以前ノ英國ノ如ク、我邦ハ稅率ヲ協定シアリタルモ、單ニ從來ノ無稅品ヲ無稅ノマヽ、據置ク旨ヲ約スルノミニ止マルトキハ、是亦事實上ノ單一稅率ト稱スルヲ得ベシ。尙ホ國ニ依リテハ複關稅率ヲ定ムルニ當リ、稅率表ニ列記セル率ヲ最低稅率トシ、之ニ何割カヲ附加シタルモノヲ最高稅率ト看做スモノ少カラズ。米國、智利、伯剌西爾ノ如キハ其例ナルガ、斯ル場合一九〇九年ノ米國ノ關稅法

（「ベイン、オールドリツチ」法）ノ如ク、普通稅率ニ二割五分ヲ加ヘタル稅率ヲ最高稅率ト爲スニ拘ラズ、此稅率ハ殆ンド有名無實ニシテ、實際上所謂最低稅率ヲ用ヒタルガ如キモ、亦事實上單一關稅率ト稱スルヲ得ベシ。要スルニ此區別ハ一見甚簡單ナルガ如キモ、實際ニ於ケル種々ノ變體アルコトヲ注意セザルベカラズ。從テ其優劣ノ如キモ輕々シク判定スルコトヲ得ザルモノトス。

第二項　國定稅率及協定稅率

一、國別

凡ソ一國ガ其國境ヲ超ユル貨物ニ課稅スルハ、其自主權ノ當然ノ一作用ニシテ、敢テ他國ノ制肘ヲ受クベキモノニアラズ、國定稅率ハ卽チ此權利ニ依リ、一國ノ法律ヲ以テ各國ニ對スル輸入稅率ヲ任意ニ定メントスルモノニテ、其制定變改ノ權一ニ其國主權者ノ掌裡ニ在リ、毫モ他國ト協商談議ヲ經ルノ要ナキガ故ニ、亦獨定稅率ノ名アリ。協定稅率ハ之ニ反シ、一國ガ稅率ヲ定ムルニ當リ、他國ト協議ヲ遂ゲ、通商條約又ハ關稅條約ニ依リテ定メタルモノナルヲ以テ、其條約ガ效力ヲ有スル間ハ、之ヲ變更スルコトヲ得ズ。之ヲ變更セント欲セバ、更ニ協商ヲ開キテ條約ヲ改正シ、之ヲ無效ナラシメンニハ、條約其モノヲ廢棄セザルベカラズ。而シテ條約ハ對手國ニ依リテ各別ニ締結スルモノナルヲ以テ、協定稅率ハ國ニヨリテ異ルベキモノナレドモ、現今各國ノ條約ニハ最惠國條款（次項參照）ナルモノアリテ、一國ガ某國ニ對シ許與シタル利益ハ、此條款ヲ有スル總テノ國家ニ及ブヲ以テ（例外アリ）、同一種類ノ物品ニ對スル協定稅率ハ、總テ同一ノ最低率ニ歸スルモノトス。之ヲ以テ英、佛、獨ノ如ク、我國ニ對シ相類スル輸入品ヲ有スルモノハ、我邦ト稅率ヲ協定スル場合ニハ、既ニ英國ナリ獨逸ナリガ、其重要輸入品（我邦ヘノ）ニ就キ稅率ヲ協定シアリテ、其貨物ノ稅率、我邦ノ許容シ得ル最低限度ナリトセバ、其他ノ國々ハ、便宜上唯自國ノ特產物ノミノ稅率ヲ協定シ、其他ハ最惠國待遇ヲ受クベク約セバ可ナリ。

二、協定稅率ノ起源

協定稅率ハ其端ヲ一八九一年ノ獨逸關稅政策ニ發シタルモノニテ、一八七九年比公ガ單一稅率ヲ高メ、諸種ノ產業ヲ保護セシ以來、一八九一年マデニ、內國製造業モ漸ク發達シ、曾ニ內國市場ヲ維持セルノミナラズ、更ニ進ンデ海外ノ販路ヲ擴張スル必要ヲ感ジタルニ、當時恰モ歐羅巴各國ハ保護貿易主義ニ傾キテ其關稅率ヲ高メ、米國モ亦高率關稅ニ依リテ、歐洲ノ生產品ヲ防遏セントシタルガユヘニ、是等ノ障壁ヲ除カンニハ、相互ニ稅率ヲ低減セシメザルベカラズ、是ニ於テカ獨逸ハ一方ニ於テ一八九一年ノ稅率ヲ一般稅率ト定ムルト同時ニ、附近ノ諸國ニ對シテ此稅率ヲ低減スベキ協商ヲ試ミ、遂ニ伊太利、瑞西、露西亞、羅馬尼亞、「セルヴィア」及ビ白耳義ノ七箇國ニ對シ、互ニ讓步シタル稅率ヲ約スルコト、爲セシガ、是レ卽チ協定稅率ノ嚆矢ニシテ、此稅率ハ更ニ最惠國條款ニ依リテ、其他ノ諸國ニモ均霑セラル、ニ至レリ。

三、協定稅率ノ適用

協定稅率ヲ設ケタル國ノ事實上ノ稅率ハ、國定稅率及協定稅率ノ二種ヨ

リ成リ、國定稅率中、協定稅率ノアル品目ハ、其適用ヲ受クル國ヨリ輸入スル場合、其實效ヲ失フコト、爲ルベシ。今兩種稅率適用ノ標準ヲ示セバ、次ノ如シ。

(a)　協定稅率ノ適用ヲ受クル國家　　ハ特ニ協定稅率ヲ定メタル國、(例ヘバ我國ト佛蘭西、伊太利)及ビ締盟國中最惠國條款ヲ有スル國々ニシテ、是等ノ國ヨリノ輸入品ニテ、協定稅率アル貨物ニ對シテハ協定率ヲ適用シ、アラザル貨物ニハ國定稅率ヲ適用ス(其他我邦ニテハ大正十四年法律第五十一號ニ依ラザル(卽チ免稅ノ特惠ヲ亨ケザル)關東州ノ生產品、支那產ノ銑鐵及錫ニ對シテハ協定稅率ヲ適用ス)本邦舊條約時代ニ於テハ、歐米ヨリノ重要輸入品ハ、棉花、羊毛、石油、麥粉、燐、鑛石等ヲ除キ、多ク協定稅率ノ適用ヲ受ケタリシガ、明治四十四年條約改正ト共ニ協定稅目著シク減少シタリ。(次節參照)

(b)　國定稅率ノ適用ヲ受クル國家　　ハ締盟國以外ノ國家、及ビ締盟國中最惠國條款ヲ有セザル國家ニシテ、例ヘバ我邦對亞細亞諸國ノ如シ。

國定稅率ノ外協定稅率ヲ設クル國ハ、最近國定稅率ノ低稅率ノ及ブ範圍ヲ限定セントスルニ在リ。此方法ハ複關稅率ニモ用ヒラル、所ナレド、協定稅率ヲ設ケシムル國ガ、協定ノ品目ヲ細分セシムルトキハ(稅率ノ數ハ國定ト協定トガ必ラズシモ一致スルモノニアラズ)却テ之ガ爲メ自國ノ利益ヲ圖ルヲ目的ト爲スモノナリ。

四、片務ト双務　　條約ニ稅率ヲ協定スルニ當リ、一方ヘノ輸入品ニ對シテノミ之ヲ定メ、他方ヘノ輸入品ニ關シテハ、何等協定ヲ爲サヾルコトアリ、之ヲ片務ノ協定稅率ト云フ。例ヘバ我邦ノ舊條約ノ如ク、英、獨若クハ佛國等ヨリ我邦ヘ輸入スル某々貨物ノ稅率ノミヲ協定シ、我邦ヨリ是等ノ諸國ヘ輸入スル貨物ノ協定稅率之ナキガ如シ、(日墺ヲ除ク)。双務ノ協定稅率ハ之ニ反シ、一國ガ他國ヨリ輸入スル貨物ノ稅率ヲ協定スルト同時ニ、他國ヲシテ自國ヨリノ輸入品ニ對シ稅率ヲ協定セシムルモノヲ云フ。例ヘバ大戰前ノ條約ニ於テ、我邦ガ獨逸ヨリ輸入スル染料、綿布、紙類、機關等ニ對シ稅率ヲ協定セバ、我邦モ亦獨逸ヲシテ、羽二重、手巾、漆器、麥稈眞田等ノ稅率協定ヲ承諾セシムルガ如シ。

相互ニ稅率ノ協定ヲ爲ス場合ニモ亦二種アリテ、其一種ハ前例ノ如ク兩締盟國相互ニ稅率ヲ低下スルモノ、又他ノ一種ハ、甲國ガ乙國ヨリノ輸入貨物ニ對シ、不公平不條理ノ輸入稅ヲ賦課シタルトキ、乙國ハ甲國ヨリノ輸入無稅品ニ對シ、新ニ相當ノ輸入稅ヲ賦課シ得ル規定(卽チ一種ノ報復關稅ノ規定)ヲ設ケ、自國(乙國)ハ現在ノ某無稅品ニ新ニ課稅セザル消極的利益ヲ與フルト同時ニ、他國ヲシテ稅率ノ協定、又ハ最惠國條款ヲ約セシムルモノナリ、是レ嘗テ米國ガ「マツキンレイ」、「タリフ」中ニ此種ノ規定ヲ加ヘ、伯剌西爾、玖巴、「ドミニカ」、「サンサルヴアドル」、「ニカラガ」等、中米諸國ニ對シ行ヒシ政策ニシテ、米國ハ當時是等諸國ヨリノ某々輸入無稅貨物ニ對シ、將來課稅セザルヲ約シタルノミニテ、巴西ヨリハ小麥、麥粉、豚肉、農事及工業用機械、石炭、鐵道材料無稅輸入權ト、他ノ或貨物ノ減稅トノ利益ニ浴シ、玖巴(西領)ヨリ三十九種ノ免

稅ト、若干貨物ニ對スル減稅(二割五分乃至五割)トヲ得、其他獨逸ヨリハ肉類輸入禁止ノ解除、農產物ニ對スル協定稅率ノ適用、又塊匈國ヨリハ最惠國待遇ヲ得タリ。是レ此二國ガ米國ヲ砂糖輸出ノ常得意トシ、砂糖ハ當時無稅ナリシガ故ナリ。嘗テ我邦ノ條約改正當時、英國ガ我邦ヨリノ輸入無稅品ニ課稅セザルヲ約シテ、我邦ト稅率ヲ協定シタルハ、蓋シ米國內務卿「ブレイン」氏ノ故智ヲ襲ヘルモノナルベシ。

五、國定稅率ト協定稅率ノ利害　一國ハ課稅獨定ノ權利ヲ有スルガユヘニ、國內ニ於ケル生產消費ノ經濟狀態ニ從ヒ、任意ニ輸入稅率ヲ定メ、如何ナル種類ノ貨物ニ幾何歩合ノ輸入稅ヲ賦課スベキヤハ、自國產業ノ保護及歲入ノ必要ヲ考慮シテ專決スルコソ得策ニテ、稅率ノ協定ハ勉メテ避クベキガ如シト雖モ、輸入稅ヲ高ムルノミガ能事ニアラズ、一國ハ或貨物ノ輸入稅ヲ高メテ、產業保護又ハ國庫歲入ノ目的ヲ達スルト同時ニ、亦自國ノ產物ヲ他國ニ輸出スルノ必要アルモノナルニ、自國獨リ稅率ヲ高メ、毫モ他國ノ利害ヲ顧ミザルトキハ、他國モ亦專門ノ輸入稅率ヲ定メ、爲メニ自國商品ノ販路ヲ閉鎖スルノ結果ヲ生ジ、結局雙方通商上ノ利益ヲ失フコト、爲ルヲ以テ、茲ニ相互讓歩ノ利益ヲ感ジ、或ハ稅率ヲ協定シ、或ハ最惠國待遇ヲ與フルコト、爲レルナリ。然レドモ協定稅率ハソレダケ我ガ課稅權ヲ制限スルコトヲ得ルニ至レバ、急激ニ稅率ヲ改ムルノ缺點アリ。而シテ我邦ノ如ク歐米諸國ニ對シ、未成品若クハ原料品ヲ輸出スル國柄ニ在ツテハ、假令雙務的協定稅率ヲ約スルモ、其失フ所、得ル所ヨリ大ナラザルヲ得ズ。何トナレバ、英國ノ如キ自由貿易主義ノ國ハ固ヨリ、佛、獨、米ノ諸國ニ在ツテモ、原料品等ハ其國產業ノ利益上、當然無稅又ハ低稅トシ爲スヲ利益トスルガ故ニ、是等ノ國ヨリ特ニ減稅ノ利益ヲ得難ク、若シ贏チ得レバ僅カニ新稅賦課ヲ行ハザル(是レ卽チ先方ノ利益ナリ)多クハ有名無實ノ利益ナルニ、自國ハ產業保護、歲入等ノ利益ヲ犧牲ニ供シ、多額ノ製造品ヲ減稅セザル可ラザレバナリ。殊ニ最惠國條款ノ作用ニ依リ、低稅率ノ利益ガ通商各國ニ及ブニ於テハ、其不利益大ナラザルヲ得ズ、但シ是レ唯協定稅率ニ關スル問題ニテ、最惠國條款ヲ有スルノ利害ハ、自カラ別問題ナリト知ルベシ。

協定稅率ノ利害ヲ考フルニ當リ、自國ノ輸出入品ガ原料品、食料品若クハ半製品ナルヤ、又ハ全製品ナルヤノ外、更ニ考フベキハ、或ル一國ガ他ノ強國ヨリ強制セラレテ、自國輸入品、而モ重要輸入品ノ稅率ヲ協約セルコト、我邦、支那、羅馬尼亞、塞耳比亞、白耳義等ノ如クナルヤ、或ハ一八九一年以來獨逸ガ行ヒタル如ク、自國ガ他國ニ對シ片務的ニ低稅率ヲ協定セシムルカ、若クハ双務的ニ協定スルモ、其目的ハ卽外國ニ於テ協定稅率ヲ得ルニ在リテ、之ガ爲メニ自國ノ失フ所少キ場合ナルヤノ點ニシテ、前者ノ場合ニ於テハ、利益ヲ與フル國ハ成ルベク品目ノ數ヲ少クシ、稅率ヲ低減セシメザルヲ利益トスルモ、後者ノ場合ニ在ツテハ、自國ノ招來スル不利益ハ、之ヲ他國ニ於テ受クル利益ト比較シテ考慮セザルベカラズ。假ニ相互ノ協定ヲ利益トスル場合アリトセバ、自國ガ某國ヨリ輸入スル貨物少ク、其國ヘ輸入スル

物品、就中製造品比較的多キトキハ、自國ノ輸入稅輕減ノ程度ヲ多カラシムルモ、先方ヲシテ齊ク低下セシムルコトヲ得バ利益アリ。又之ニ反スル場合ハ自國ノ許容スル讓步ノ程度ヲ少カラシムルヲ得ベシ。且ツ報復ノ患ヒナキ弱小國ニ對シテハ、有利ノ條件ヲ以テ條約ヲ締結シ、例ヘバ自國ヘノ輸入品ニハ高率ノ稅ヲ課シ、其弱國ヘノ輸入品ニハ低率ヲ課セシムルガ如キコトモ、亦爲シ得ザルニアラネド、其他政治上ノ問題（例ヘバ同盟ノ如キ）モアリ、他ノ利益交換問題モ之アルヲ以テ、一概ニハ論斷シ難キモノトス。又片務ハ概シテ双務ニ及バズト雖モ、双務ト雖モ、一方ノ得ル所失フ所ニ比シ少キトキハ、双務必ラズシモ利益ナラズ。又片務ニテモ、自國ノ許容スル協定品目少ク、其減稅ノ程度モ多カラザルニ、先方ヲシテ最惠國待遇ヲ與ヘシメ、此待遇ノ結果ガ、我ニ利スル所大ナリトセバ、片務強チ不利益ニハアラザルナリ。

六、本邦ノ協定稅率　我邦ガ明治二十七年ヨリ同四十四年七月十六日マデ、稅率ヲ協定シアリタル國々ハ英、佛、獨、及墺（墺地利ノミハ數種ノ品目ヲ限リ名目上ノ双務ナリキ）ノ四箇國ニシテ、最惠國條款ニ依リ其利益ニ均霑シタルハ、亞爾然丁、白耳義、伯剌西爾、丁抹、希臘、伊太利、墨西哥、和蘭、祕露、暹羅、瑞典諾威、西班牙、露西亞、米國、瑞西、及ビ印度、加奈陀、濠太剌利ノ如キ英領諸邦等ナリ、葡萄牙ハ特定ノ貨物ニ限リテ之ヲ適用ス。而シテ明治四十四年七月以後ノ條約改正以來、我邦ハ英國ガ羽二重、銅、麥稈眞田、樟腦及樟腦油、漆器等、總テ十種ノ無稅約定ヲ爲セルニ對シ、綿織物、毛織物、毛綿交織物、鐵類、「ペイント」等ノ減稅ヲ行ヒテ稅率ヲ協定シ、獨、佛、伊トモ協定稅率ヲ約シ、米國其他各國トモニ最惠國條款ヲ交換シタルヲ以テ、爾餘ノ諸國モ亦齊ク此利益ノ全部又ハ一部ニ浴スルコト、爲レリ。但シ日獨及日墺ノ協定稅率ハ大正十四年三月十日限消滅シタルヲ以テ、現在ハ佛、伊ノ二箇國ニ約セル稅率ガ爾餘ノ諸國ニ及ブノミナリ。

○第三項　最惠國條款

一、意義及種類　凡ソ通商條約中、關稅ニ關スル重ナル規定ハ、特別稅率ノ協定、現在稅率ノ引上ヲ爲サヾルコト、及ビ最惠國條款ノ三者ニシテ、就中影響多キハ最惠國條款ナリトス。

最惠國條款（The most favoured nation clause）トハ、締盟國ノ一方ガ他方ニ與ヘタル利益ヨリ以上ノ利益ヲ第三國ニ與ヘタルトキハ、他方モ亦其利益ニ均霑スベシト約セル條款ニシテ、之ヲ有スル國ハ、其他國ガ與ヘタル利益ガ條約締結ノ以前ナルト、同時ナルト、將又將來ナルトヲ問ハズ又條約ニ依ルモノナルト、事實上與ヘタルモノナルトヲ問ハズ、齊シク之ニ均霑スルコトヲ得。隨テ他國ニ於テ第三國ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受クルノ虞之ナキモノトス。是レ蓋シ此條款ノ主タル目的ニシテ、往時相手國ノ如何ニ由リテ、關稅上其他ノ待遇ヲ異ニシ、第三國ニ比シ不利益ノ地位ニ立タシメラレタルコト流行セシヲ以テ、此弊ヲ除カンガ爲ニ起リタルモノニ外ナラズ。而シテ此條款ハ我ガ通商條約ノ如ク、其效力ヲ通商及航海一切ノ事項ニ及ボスモノアリ、又單ニ其範圍ヲ關稅率ノミニ限ルモノアリ、或ハ最惠國タルベキ國名ヲ列擧シ、若クハ關稅同盟ノ如キ

例外ノ場合ニハ、之ヲ適用セザル旨ヲ約セルモノ（例ヘバ一八八一年ノ獨墺條約、一八六八年ノ墺西條約）アリ、一方ノミ此條款ヲ有スルコトアリ（例ヘバ我邦及ビ歐洲諸國ガ支那ニ對シテ有スルガ如シ）双方トモ有スルコトアリ（例ヘバ歐洲諸國間、歐洲諸國ト亞米利加諸國間、及ビ我國ト歐米諸國間ノ如シ）ト雖モ、最モ注意スベキ區別ハ、顧フニ其無條件ナルヤ、將又條件附ナルヤニ在リトス。

無條件ノ最惠國條款トハ、締盟國ノ一方ガ第三國ニ對シ或利益ヲ與ヘタルトキハ、「卽時ニ且ツ條件ヲ附セズシテ」之ヲ他方ニ與フルモノニテ、我邦ガ英、獨、墺、露、伊、白、丁、和ノ歐洲諸國竝ニ暹羅ト締結シタルモノ、卽チ是レナリ。此主義ハ一八六〇年英國ガ佛國ト締結シタル「コブデン」條約以來英國ノ採ル所ニシテ、一八六三年英、伊ノ間ニ成レル條約ヲ以テ嚆矢ト爲スガユヘニ、之ヲ呼ンデ英、伊條款（Anglo-Italian clause）ト稱ス。

日英通商航海條約第二十四條　兩締盟國ハ各締盟國ノ通商航海及工業ヲ總テ最惠國ノ基礎ニ置クノ意志ナルニ因リ通商航海及工業ニ關スル一切ノ事項ニ付其一方カ別國ノ船舶又ハ臣民若ハ人民ニ現ニ許與シ又ハ今後許與スルコトアルヘキ一切ノ恩典特權又ハ免除ヲ卽時且無條件ニテ他ノ一方ノ船舶又ハ臣民ニ及ホスコトニ同意ス。

條件附ノ最惠國條款トハ、締盟國ノ一方ガ第三國ニ對シ或利益ヲ與ヘタルトキ、第三國モ亦或利益ヲ供シタリトセバ、他ノ一方モ亦同樣ノ利益ヲ供シテ、其利益ニ均霑スベク、若シ又無條件ニテ利益ヲ與ヘタルトキハ、他ノ一方モ亦無條件ニテ均霑スベシトノ意ニテ、米國、墨西哥、伯剌西爾、祕露、智利等ノ諸國ハ、從來此主義ヲ採リタルヲ以テ、我邦其他ノ諸國ガ是等ノ諸國ト約セルモノハ、孰レモ此主義ニ依ルヲ常トス。此主義ハ一八四八年英國ト「リベリヤ」トノ間ニ成レル條約ヲ以テ起源ト爲スガ故ニ、之ヲ英「リベリヤ」條款（Anglo-Liberian clause）ト云フ。

日米通商航海條約第十四條　本條約ニ於テ別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外兩締盟國ハ通商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ付其ノ一方カ別國ノ臣民又ハ人民ニ現ニ許與シ又ハ今後許與スルコトアルヘキ一切ノ特權恩典又ハ免除ニシテ若シ右別圖ヘ無償ニテ許與シタルモノナルトキハ無償ニテ又若シ條件ヲ附シテ許與シタルモノナルトキハ同一又ハ均等ノ條件ヲ以テ之ヲ他ノ一方ノ臣民又ハ人民ニ及ホスコトニ同意ス。

二、利害　先ヅ此條款ヲ双務的ノモノトシ、且ツ其無條件ノ場合ヲ考フルニ、此條款ヲ有スル國ハ、相手國ニ於テ第三國ト同等ノ地位ニ立ツコトヲ得ベキガ故ニ、此點ニ於テハ甚ダ利益アルガ如シ。然レドモ例ヘバ我邦ト生產輸出ノ狀態ヲ同フセル某國ガ、相手國ニ於テ稅率ノ協定アランカ、我邦ハ此條款ヲ利用シテ利益ニ浴スルコトヲ得ルモ、同一經濟狀態ノ國ガ協定稅目ヲ有セズ、之ヲ有スル國ハ英、獨、佛ノ如キ我邦ト輸出品ヲ異ニスルモノナランニハ、我邦ハ之ニ依テ利スル所少ク、此條款ヲ有スル相手國ヲ利スル所大ナルベシ、例ヘバ現今歐米諸國ガ我邦ニ對スル關係ノ如シ。

又通商各國ト此條款ヲ有スル結果ハ、某國ノ得タル低稅率ハ忽チ各國ニ及ブヲ以テ、極端ナル保護熱ヲ緩和シ、通商自由ノ利益ヲ供スルモ、一方ニ於テハ、之ガ爲メ一國ガ行ハントスル保護政策ノ實ヲ擧グルコト能ハザラシムベシ。何トナレバ一國ガ高率關稅ヲ以テ國內ノ產業ヲ保護センストスルモ、之アルガ爲メ、某國ニ許與シタル低稅率ハ各國ニ及ビテ稅率ヲ低下スル一方、一國ガ他國ニ特惠ヲ與ヘントスルモ、其特惠ハ之ヲ有スル各國ニ及ブ爲メ、容易ニ之ヲ與フルヲ得ズ、隨ツ他國モ亦其國ノ商品ニ對シ特別ノ待遇ヲ與ヘ難キニ至レバナリ、（片務ナレバ他國ノミヨリ特惠ヲ得）。而シテ我邦ガ行ヒタル如ク、各國ノ通商條約ヲ新ニセントスル場合ニ於テモ、一旦某國ニ對シ減稅ヲ許ストキハ、締盟各國ニ及ブヲ以テ、其國ノミナレバ損害大ナラザルモ、其影響ノ大ナル爲メ讓歩ノ困難頗ル大ナル其一方ニ、相手國ハ其受クベキ利益ハ、將來他ノ通商競爭國ニ及ブベキヲ觀テ、其特惠ノ少キヲ不滿トシ、我國ノ要求ノ程度ヲ低下セシムルニ勉ムベシ。更ニ一國ガ通商各國ニ對スル協定稅目ヲ少カラシムルハ其利トスル所ナルモ、强大國ガ各別ニ其特產物ノ稅率協定ヲ要求センカ、個々ノ國ニ對シテ許容セル減稅品目ノ數ハ僅少ナリトスルモ、漸次各國ニ及ビテ、其一國ヨリ觀ルトキハ、將來多數ノ協定稅目ヲ有スルノ危險アリ。且ツ又關稅同盟ニ關シテモ、其不完全ナルモノヲ組織セントセバ、之ニ關スル異論アリテ其成立ヲ妨グベキ患ヒアリ、（豫メ除外セバ可ナルモ）。而モ唯得ル所ハ前述ノ待遇平等、若クハ將來受クルコトアルベキ待遇平等ノ一アルノミ、或學者中ニハ此條款ノ效力ヲ關稅以外ニ限ラントスルモノ、蓋シ一理ナキニアラズト謂フベシ。（一九二七年五月ノ國際經濟會議ハ無條件主義ヲ議決セリ（第九章第三節「ヂエネヴア」會議參照）

然ラバ之ヲ條件附ノモノトセバ如何ト云フニ、締盟國ノ或者ニ對シ多少優遇ヲ與ヘ得ベク、自國モ亦相手國ニ於テ第三國ニ比シ優遇ヲ受クルコトヲ得ルノ利益アリテ、無條件ノ場合ノ如キ弊害ナキヲ得ルモ、之ト同時ニ、最惠國條款其モノ、本來ノ效力ヲ減殺シ、自國ハ他國ニ於テ第三國ニ比シ薄遇セラルヽコトアルベシ。加之若シ現今ノ我邦ノ如ク、歐洲諸國ニ對シテハ無條件ノ最惠國條款ヲ交換シ、米、伯、祕ノ諸國ニ對シテノミ有條件ノ條款ヲ交換スルトキハ、歐洲諸國ニ對シテ許與シタル低稅ノ利益ハ、無條件ニテ是等ノ諸國ニモ均霑セシムベキニ、我邦ガ是等諸國ノ協定稅率ヲ適用セシメントスレバ、相當ノ利益ヲ與フベキ不利アリ、（是等ハ相當ノ條件ヲ附シテ協定シタル稅率ナルユヘ）此結果無條件主義ノ國ハ有條件主義ノ國ニ結ブヲ欲セズ、有條件主義ノ國ハ自カラ多數ノ無條件國ト相遠カル（此點ニ於テ）ベキ缺點アリ。然レドモ各國生產狀態及ビ貿易關係ヲ異ニスルヲ以テ有條件主義ヲ採リ、他國ノ許與スル利益ノ程度ニ應ジテ、自國モ亦相當ノ特典ヲ與フルトキハ、（卽チ互惠的）各國ニ對シ一々互惠的ノ協約ヲ爲シタルト同一ノ結果ヲ收メ、唯無條件ニ許與シタル場合ノミ、最惠國條款ノ效果ヲ現ハサシムルノ利アリ、（是レ一方ニ於テハ弊害ナレド）尤モ無條件主義ヲ解シテ「第三國ガ提供シタル條件以外ノ條件ヲ附セズシテ」ト解スルトキハ、有條件主義ト大差ナキニ至ル。

然ラバ全然最惠國條款ヲ約セザルトキハ如何ナル結果ヲ生ズルヤト云フニ、假令一方例ヘハ我邦

ガ相手國ニ對シ此條款ヲ有スルノ利益ヲ僅少ナリトシ、敢テ之ヲ求メズトスルモ、各國ハ其利益上我邦ニ對シ之ヲ強要スベキヲ以テ、我邦ハ之ヲ約諾スルニ至ルベシ。我邦自ラ此利益ヲ與フルトキハ、双務的ニ他國ニ於テモ亦之ヲ有セザレバ不利固ヨリ甚シキヲ以テ、現今全然此條款ノ外ニ立ツハ容易ニアラズ。要スルニ各國ニ對スル通商、經濟ノ事情ニ鑑ミ、有條件(又ハ無條件)ノ條款ヲ約シ、稅目ト讓歩ノ程度トヲ縮少シテ、以テ其弊害ヲ少カラシムルニ在ルノミ。

第四項　最高最低稅率

一、意義　最高最低稅率ハ又複關稅率トモ云ヒ、一國ガ輸入稅率ヲ定ムルニ當リ、最高及最低ノ二稅率ヲ設ケ、最高稅率ハコレヲ一般ニ適用シ、最低稅率ヲ以テ特ニ其國ト稅率ヲ協定シ、又ハ最惠國條款ヲ約スル國ニ適用セントスルモノナリ、卽チ國內法ノ定ムル國定稅率ヲ、二種ニ區別スルモノニテ、其最低稅率ハ、將來各國ト定メラルベキ協定稅率ノ限度トセラルヽモノナルガ故ニ、事實上國定協定ノ二稅率ト異ナラザルコトアルベク、又總テノ品目ガ二種ノ稅率ヲ有スニアラズシテ、單ニ最高稅率ノミニ止メタルモノアルヲ常トス。

凡ソ一國ガ各國ニ對シ、種々ノ協定稅率ヲ有シ、且ツ最惠國條款ヲ約スルトキハ、アラユル締盟國ニ對シ、低稅率ノ利益ヲ與ヘ、且ツ條約ノ有效期間內ハ何等ノ變改ヲモ加フルコト能ハザルノ不利益アリ。產業保護又ハ歲入增加ノ爲メ增稅ヲ行フコト能ハザルノミナラズ、條約締結ハ行政部ノ行フ所ナルヲ以テ、商人ハ其協定如何ニ由リテ、其都度稅率變更ノ影響ヲ蒙ルガユヘニ、是等ノ缺點ヲ除カンガ爲メ、此制度ヲ案出シ、保護關稅ノ存置ヲ鞏固ナラシムルト同時ニ、豫メ各國ニ對スル讓歩ノ程度ヲ限定シ、且ツ萬一相手國ガ自國ノ要求ヲ容レザランニハ、其高率ナル最高關稅ヲ賦課スベク威赫セントスルモノナリ、此制度ガ米、佛、獨、露、西ノ如キ保護主義ノ國ニ多キヲ觀テモ、其性質ヲ推知スルニ難カラザルベシ。

二、形式　複關稅率ニハ佛國式トモ稱スベキモノト、米國式トノ別アリ。佛國式ノ關稅稅率ハ一八九二年佛蘭西ガ始メテ此制度ニ改メタル場合ノ如ク、稅率表中或ル種ノ商品ニ對シ、最高最低二種類ノ稅率ヲ示シ、佛國ノ商品ニ對シテノミ最低稅率ヲ適用ス。而シテ若シ此適用ヲ廢止セントスル場合ニハ、一箇年前ニ豫告スルノ義務アレド、佛蘭西ハ此期限內ニ於テモ、任意之ヲ變更スルコトヲ得ベシ(但シ實際上ハ此權利ヲ利用セルコト稀ナルガ如シ)。

複關稅率ノ他ノ形式ハ先ヅ最低稅率ヲ一般的ニ定メ、之ニ若干歩合ヲ附加シタルモノヲ最高稅率ト爲スモノ(若クハ其反對ノ方法)ニテ、例ヘバ米國ガ一九〇九年ノ關稅法ニ於テ、一般的ニ最低稅率ヲ定メ、從價二割五分ヲ附加シタルモノヲ最高稅率ト爲シタルガ如キ、智利ガ一九一六年三月ノ法律ニ於テ、最惠國ノ待遇ヲ與フル國ノ生產品ニ對シテハ、最低稅率ヲ賦課シ、其他ノ國々ニ對シテハ、二割五分ヲ附加シタル最高稅率ヲ以テセルガ如キ、若クハ伯剌西爾ガ一九〇〇年三月ノ法律ニ依リ、最低稅率ヲ二倍セルモノヲ、最高稅率ト爲スカ如シ。但シ斯ル複關稅率ハ單一

稅率ノ制度ニ、附加稅ヲ課シ得ル權利ヲ政府ニ與ヘタルニ過ギズ、殊ニ伯剌西爾ノ如キハ、全然此權利ヲ實行シタルコトノナキヲ以テ、一種ノ單一稅率トモ看做スコトヲ得ベシ。

然レドモ此種ノ附加稅ト懲罰的ノ附加稅（Penalty surtax）即チ報復關稅トハ、相類スルモ全ク同一ニアラズ、何トナレバ、懲罰的附加稅ノ規定ハ他國ヲシテ、自國ノ商品若クハ船舶ニ對シ不利益ナル差別的待遇ヲ行ハザラシメンガ爲メニ設ケタルモノナレバナリ。（差別關稅ノ部參照）複關稅率ニ關シテ注意スベキハ、之ヲ設ケタル國ガ、對手國ニ對シ、最低稅率ノ利益ヲ與フル場合、契約當時ノ最低稅率ト定メテ、條約期間內之ヲ動カスコトヲ得ザルコト、猶ホ協定稅率ノ如クナルカ、者クハ單ニ其時々ノ最低稅率ヲ適用シ、自國ガ隨意之ヲ改正シ得ルヤノ點ニシテ、其孰レニ屬スルヤハ、條約ノ文言ト、之ヲ定ムル國ノ法制トニ依ルモノナレド、我邦ガ明治四十四年佛蘭西、獨逸等ト双務的ニ稅率ヲ協定シタル場合、條約ノ附屬稅表ニ品目ト稅率トヲ明定セルガユヘニ、條約期間中ハ之ヲ變更セザル意思ナリト見ルヲ至當トス。但シ日獨特別相互關稅條約第二條ニハ「……別國ノ生產ニ係ル同樣ノ物品ニ適用セラル、最低率ノ輸入稅ヲ課セラルベシ」トアリ、日佛通商航海條約附屬議定書ノ第二條ニハ「右稅率ハ之ヲ增減スルコトヲ得云々」トアルガユヘニ、兩國共ニ之ヲ變更シ得ルガ如クナレドモ、獨逸ノ場合ハ若シ附屬稅表ニ定メタル稅率ヨリ低キ稅率ヲ他國ノ生產品ニ課スルトキハ、日本モ亦之ニ均霑スルコトヲ得ルノ意ニテ、表ニ明記セル最低率ヲ引上グルノ意思ニハアラザルベク、又佛蘭西ノ場合ハ、稅率增加ノトキハ、

法令ノ公布ヨリ少クモ五箇月後ニ實施スベキ條件ノ外、斯ル場合ニハ他方ノ稅率ヲ廢棄セシムルコトヲ得ルヲ以テ、事實上ニ於テハ、低下シ得ルモ增加シ得ザルコト、爲ルナリ。

三、利害　此制度ヲ難ズル者ハ謂フ、（一）通商國ハ相互ニ利益ヲ交換シ、雙方ヨリ讓步スベキモノナルニ、此制度ハ自國ニ有利ナル限度ニ於テ稅率ヲ協定セントスルノミナラズ、保護主義ニ出デタル結果、其最低稅率ト雖モ、從來ノ協定稅率ニ比シ概シテ高キヲ以テ、他國モ亦其國ニ對シ、充分ノ減稅ヲ肯ンゼザルベク、（二）强ヒテ他國ヲシテ讓步セシメントセバ、最低稅率ヲ破リテ低下シ、此制度ノ趣旨ヲ沒却セザルベカラズ、（三）他國若シ何等ノ利益ヲ與ヘザルトキハ最高稅率ヲ賦課スル結果、他國ノ報復ヲ招キ遂ニ關稅戰爭ヲ惹起スベシ、（四）今其實例ヲ擧グレバ、一八七七年始メテ此制度ヲ設ケタル西班牙ハ、其後各國トノ條約ヲ締結スルニ當リ、最低稅率以下ノ稅率ヲ協定シ、佛蘭西ハ一八九二年ノ關稅法中ニ之ヲ加ヘタルモ、先ヅ瑞西ト協定ヲ試ミテ容レラレズ、遂ニ數十目ノ稅率ヲ、最低稅率ヨリ低下シテ締結セル假條約ハ、國會ノ否決スル所ト爲リ、一八九五年マデ、三年間關稅戰爭ヲ行ヒタル後、一部ノ稅率ヲ協定シテ僅ニ局ヲ結ビ、一八九三年露西亞モ亦此制度ヲ採用セシガ、翌年ノ獨露條約ニハ最低稅率以下ノ稅率ヲ示シ、一九〇二年獨逸ハ農業黨ノ主張ニ聽キ、農業保護ノ主張ニヨリ、從來ノ國定稅率ヨリモ高キ最低稅率ヲ定メタルヲ以テ、通商農產國モ亦獨逸製品ニ對シ、高率ノ關稅ヲ賦課シテ獨逸ノ輸出貿易ヲ妨ゲタリ、（五）關稅ニ關スル權利ヲ立法部ニ收ムルハ（法律ヲ以テ定ムルユヘ議會ノ協

賛ヲ要ス）慥ニ一利ナキニアラズト雖モ、國際貿易上ノ交渉ハ機敏ト秘密ヲ尊ブモノナルニ、法律ヲ以テ一様ニ之ヲ限定スルハ妙ナラズ、是等ハ宜シク商業ノ實際ニ通ズル公平ナル行政官ニ委スベキモノナリ、加之最モ公平ナルベキ是等ノ問題ヲ議會ニ問フハ、往々政黨者ノ好餌ト爲ルノ虞アリ、云々。

然レドモ此制度ノ目的ハ保護關稅政策ノ實行ヲ助ケントシ、從來ノ如キ稅率協定ヲ不利ト爲スモノニシテ、之ヲ設定スルニ當テハ、多少ノ不利アルヲ覺悟スルコソ當然ニテ、佛、獨、米ノ諸國ガ之ヲ行フハ、其利ハ以テ其弊ヲ償フニ足リ、少クモ從來ノ制度ニ優レルヲ信ズルガユヘナリ。卽チ、（一）他國ノ讓歩多少減ズルモ、尙ホ國內產業保護、國庫增收ノ實ヲ擧グルニ優レルニ因リ、（二）最低稅率ヲ破リタル先例ハ之アルモ必ラズシモ、稅率低下ノミガ他國ヲ屈セシムル唯一ノ手段ニアラズ、假リニ讓歩セシメ能ハズトスルモ、自ラ大ニ讓歩シテ以テ他國ヲシテ讓ラシムルニ優ル、（三）最高關稅ハ往々關稅戰爭ヲ惹起センモ、是レ亦稅率ノ高キ程度ニ由リ、稅率甚シク高ラザルトキハ、必ラズシモ戰爭ヲ生ゼズ、又最高關稅ノ稅率甚シク高キヲ標榜スルハ、畢竟報復規定ヲ設クルノ類ナルヲ以テ、其運用ハ亦巧妙ナラザルベカラズ、（四）實例ハ多ク良好ナラザルガ如キモ、其失敗ノ原因ハ最低稅率一般ニ高キニ過グル爲メニテ、制度其モノ、罪トノミ斷言ス可ラズ、（五）法律ヲ以テ劃一ニ定ムルハ多少ノ弊ナキニアラネド、一方ニ於テ前記ノ如キ利益アリ、行政官必ラズシモ公平ナリト云フベカラズ、以上三種ノ關稅制度ノ中、一國ガ執レヲ採ルヲ得策トスルヤハ、（一）國內ノ商工業ヲ保護スル方面、（二）歲入ノ方面、（三）對外交涉、及輸出入ノ方面、（四）關稅行政ノ繁簡等ヲ考察セザルベカラズ、而シテ是等ノ優劣ハ既ニ述ベタル所ナレド、概言スレバ、次ノ如クナルベシ。

(A) 單一稅率制度　ハ（一）（二）及（四）ニ於テ長所ヲ有スルモ、（三）ニ於テ不便ナルヲ以テ實際上、製造品ノ販路ヲ求ムルノ必要ナキ未開國、若クハ自由貿易國ニ於テ之ヲ採用スルノミナリ。

(B) 國定、協定制度ト複關稅率　國定、協定ノ制度ト此ノ複關稅率制度トハ、容易ニ優劣ヲ分チ難キモ、（一）ニ就テハ複關稅率ヲ優レリトシ、（二）ハ兩制度共大差ナク、（三）ハ複關稅率ハ最低限度ヲ豫定スルノ利益ナルガ如クナレド、ソハ強國ガ弱國ニ對スルカ、若クハ經濟上有利ナル國（例ヘバ對手國生產品ノ大得意先）ガ不利ナル國ニ對スル場合ニシテ、限度ヨリ引下ゲシメラレタル例モ少カラズ。從テ協定稅率ノ自由ナルニ如カズ、（四）ハ複關稅率ヲ稍優レリトス。然レドモ是等ノ優劣ハ國情ニ依リ、保護主義ノ濃淡ニ依リ、將亦外交ノ巧拙ニモ依ルガユヘニ、一概ニ客觀的方面ノミヲ見テ論斷スルコト能ハザルナリ。

次ニ述ブル三重稅制ハ母子間ノ關係ニ屬スルヲ以テ、別問題トス。

第五項　三重稅率其他

一、加奈陀ノ三重稅率　ハ一九〇七年加奈陀ガ初メテ試ミタル制度ニシテ、最近濠洲モ亦此制

度ニ改メ、尙佛蘭西及ビ其植民地中ニモ之ニ倣ヘルモノアルガ如シ。

加奈陀ガ最初英國其他英領植民地ノ產物ニ特惠ヲ與ヘタルハ、一八九七年ニシテ、當時ハ殆ンド總テノ有稅品ニ對シ、一般稅率ノ八分ノ一減ナリシガ、翌年四分ノ一減ト爲シ、一九〇〇年三分ノ一減ト爲セリ、然ルニ一九〇七年ノ改正ニ依リ、一般的ニ三分ノ一減ト爲スヲ改メ、商品毎ニ各稅率ヲ定メ、以テ產業及貿易ノ必要ニ應ズルコト、爲セリ。當時ノ稅率ノ二、三例ヲ擧グレバ次ノ如シ（括弧內ノ數字ハ最近ノモノナリ）。

	英國特惠稅率	中間稅率	一般稅率
「ポートランド」セメント	・八仙（五仙）	一一仙（八仙）	一二・五仙（八仙）
懷中時計ノ「ケイス」	二〇%（同）	二七・五%（同）	三〇・〇%（同）
「ナイフ」ノ刃	五%（？）	七・五%（？）	二〇・〇%（？）
毛絲	一二・五%（二〇・〇%）	一〇・〇%（二七・五%）	一〇・〇%（三〇・〇%）

右ノ如ク商品ニ依テ異ナレド、大體英國特惠稅率（British preferential tariff）ハ一般稅率（General tariff）ニ比シ凡ソ三分ノ一減ニシテ、中間稅率（Intermediate tariff）ハ一般稅率ノ約一割減ナリキ。而シテ特惠稅率ノ適用ヲ受クタル國々ハ、最初英本國、「ベルムダ」並ニ英領植民地中ノ英領西印度諸島、英領「ギアナ」、英領印度、錫蘭、海峽植民地、新西蘭、喜望峰、「ナタール」、「オレンジ」自由國、「トランスヴァール」、南「ローデシア」、其他「別記ノ方法ニ依リ、加奈陀ニ於ケル英國特惠稅率ノ利益ニ浴スルコトヲ得ル英領植民地及領有地」ト爲シ、尙ホ加奈陀政府ハ、英本國以外ノ諸國ニ許與シタル特典ヲ廢止シ得ル權利ヲ保留シタリ。其後一九一三年一月ノ法律ニ依リ、特惠稅率ヲ適用スル英領地ヲ增加シ、「スウエズイランド」外二十餘箇所ヲ加フルコト、爲セリ。又一九〇八年佛蘭西トノ條約ニ依リ、佛蘭西及「アルヂェリア」、佛領植民地及佛領有地、佛領印度支那ニ對シ、特別ノ稅率ヲ協定シ、此協定率ハ英本國其他ノ英領ニ及ビ、其稅率中ニハ一九〇七年ノ稅率ヨリ低キモノアリ。

加奈陀ハ又一九一三年ニ於テ西印度諸島トノ通商協定ニ依リ、ソレ等ノ諸島ニ對シテモ、特惠稅率ヲ適用スルコト、爲セシガ、更ニ一九二〇年六月ノ改正協定ニ依リ、特別ノ商品ヲ除キ、十箇年ヲ限リ、相互外國品ニ對スル稅率ノ五割減ト爲スコト、爲セリ。

中間稅率ヲ適用スル國ハ、前記以外ノ英領地並ニ加奈陀ニ對シ特惠ヲ與フル國々、例ヘバ、米、獨、日等ノ諸國竝ニ白、和及伊國產ノ特定貨物ナリ。元來此主義ハ植民他ガ英本國ニ對シテノミ、特惠稅率ヲ許シタルヲ不便トシ、外國ト折衝ノ便宜上、複關稅ノ最低稅率ニ當ル中間稅率ヲ設ケタルモ、其後佛蘭西及其植民地並ニ西印度諸島ニ對シ中間稅率ヨリ低キ稅率ヲ許シ、此低稅率ハ最惠國條款ニ依リ、多數ノ國ニ及ビタルヲ以テ、事實上此制度ノ關稅自主性ヲ減ジテ、國定協定主義ニ接近シ、且ツ三重稅率ニアラズシテ、四重稅率制度（Fourth-rate tariff）ト爲ルニ至レリ。

二、濠洲ノ三重稅率　濠洲ニ於テハ一九〇六年ニ南亞同盟ニ對シテ特惠稅率ヲ許容シ、次デ一九〇八年英本國ニ對シテモ亦稅率ヲ低下セシガ、一九二〇年ノ改正案ニ於テ、加奈陀ニ類スル三重

稅率制度ヲ定メタリ。卽チ關稅率ヲ特惠稅率（Preferential scale of duties）中間稅率（Intermediate scale of duties）及一般稅率（General scale of duties）ノ三種ニ分チ、特惠稅率ハ之ヲ英本國及英領地ノ或モノニ適用シ、中間稅率ハ外國及英領地中、將來濠洲ノ商品ニ對シ、特惠ヲ與フルモノニ對スル互惠條約ノ基礎トシテ使用シ（但シ對手國ノ經濟狀態ガ實質的ニ濠洲ヨリ劣レル場合ニハ、適用セズ）、一般稅率ハ之ヲ前記以外ノ一般外國ニ適用スルコト、爲シ、翌年六月頃ヨリ漸次施行セルガ、今其ニ三例ヲ示セバ次ノ如シ。

	特惠稅率	中間稅率	一般稅率
十四番以上ノ針金（從價）	二割一分	三割	三割五分
其他（一噸）	五二志	七二志六片	九〇志
フレキシブル、シャフチング（從價）	無稅	五分	一割

濠洲ノ改正法ニハ停止稅率（Deferred scale of duties）ナルモノアリ、制定ノ當時之ヲ適用セザルモ、將來濠洲ニ新產業ガ起リ、之ヲ保護スルノ必要アル場合ニ之ヲ適用セントスル、保護的高率關稅ナレドモ、其施行期日ニハ一九二二年六月一日（輸フーブ）ノ如キ近キモノアリテ、單ニ一時施行ヲ延期セルニ止マルガ如シ。

三、科學的關稅率　トハ嘗テ米國關稅調査委員會ノ部ニ於テ述ベタルガ如ク、內外ノ生產費ノ差額ニ依リテ、關稅率ヲ定メントスルモノニテ、一見競爭ノ公正ヲ圖ル方法トシテ當然ナルガ如クナルヲ以テ、我邦ノ臨時財政經濟調査會ノ關稅改正小委員會ガ、一般方針ヲ定ムルニ當リテモ、保護稅率ハ「原則トシテ內地生產品ガ本邦市場ニ於テ外國品ト正當ナル競爭ニ耐エ得ル程度ヲ以テ限度トスル」旨ヲ定メタリ。卽チ此制度ノ理想トスル所ハ、先ヅ如何ナル貨物ノ生產ヲ保護スベキヤヲ定メ、課稅貨物ニ影響スル內外ノ賃銀、原料品ノ市價、生活費等ヲ調査シ、之ニ依テ適當ノ稅率ヲ按出シ、臨機稅率ヲ變更セシムルニ在リ、之ガ爲メ常設關稅調査委員會ノ設置ヲ必要トスルモノナルガ、此制度ニハ實行上次ノ如ク種々ノ缺點アリ。

（一）生產費ナルモノハ、生產者ニ依リテモ異ナルガ故ニ、內外生產費ノ調査ハ極メテ、困難ニシテ、且ツ巨額ノ費用ヲ要スルコト。

（二）生產費ハ絕エズ變動スルヲ以テ、嚴格ニ之ニ適應セシメンニハ、絕エズ關稅率ヲ變更スルノ必要アルコト。

（三）一般的ニ內外生產費ノ差額ニ課稅スルトキハ、外國ニ於テ有利ニ（卽チ廉價ニ）生產セラル、貨物ノ輸入ヲ阻止シ、之ヲ極端ニ行ヘバ、外國貿易ハ行フコト能ハザルニ至ルベシ。

（四）內國ニ於テ生產費多ケレバ多キホド、課稅率ヲ高ムルコト、爲ルヲ以テ、一般ニ保護關稅ヲ增加シ、資本勞力ヲ不適當ナル事業ニ向ハシムルノ不利アルコト。

（五）此制度ヲ主張スル者ハ、一般消費者卽チ納稅者ノ負擔ハ成ルベク低減セシメ、國內ノ生產業ヲ保護シ、而モ國庫ノ歲入增加ヲ圖ラントスルモ、斯ノ如キハ所謂「哲學者ノ石」ヲ求ムルニ齊シク、到底不可能ノ事ニ屬ス。

（六）關稅ニ關スル種々ノ材料ヲ蒐集シテ研究スルハ、利益アレド、之ニ依テ關稅ヲ科學的ニ解決セントスルハ不可ナリ。表ノ編成ヤ、商品ノ區別ヤ分類ヤハ科學的ニ行フコトヲ得ベキモ、如何ナル商品ニ幾何歩合ノ關稅ヲ賦課スベキヤヲ決スルハ（卽チ保護スベキヤ、歲入ヲ主トスベキヤ、保護スルモノトスルモ、其程度如何等）到底科學的ニ決スルコト能ハザル筈ニシテ、畢竟政治問題ニ屬スレバナリ。關稅ヲシテ政治的手段ニ供スルヲ避ケシムルハ可ナルモ、前途ノ如キ問題ハ如何ニ精確ナル資料ヲ集ムルモ、所詮政治的論議ノ大問題タルヲ免ル、コト能ハザルナリ。以上ハ米國ニ於テ關稅調査會ノ委員長タリシ「エメリー」教授、「タウシッグ」教授等、自由貿易主義ノ學者ノ主張スル所ニシテ、保護策ノ一手段タル此制度（主張者ハ保護自由ノ問題ヲ超越スト云ヘド）ニ反對スルハ當然ナレドモ、一方此制度ノ主張者等ノ唱フル如ク、此制度ニ依テ關稅問題ヲ學理的ニ解決シ得タリト爲サバ、ソハ大ナル誤解ナリ。但シ常設委員會ノ如キ制度ヲ設ケ、常ニ種々ノ方面ヨリ關稅ヲ調査セシムルハ有益ナルニ相違ナキモ、之ヲ設クルニ當リテハ、委員ノ人選其他ニ對シ、充分考慮スベキコト、既述ノ如シ（國民經濟雜誌第三十八卷第一號及第二號（大正十四年一月及二月）所載、拙稿「科學的關稅概論」參照）。

四、差別關稅（Discriminating tariff）　トハ、輸入品ノ產出國又ハ輸入ノ方法ニ由リテ、關稅率ヲ區別セントスルモノニテ、曾テ廣ク行ハレタルコトアリシモ、現今ノ通商各國ニ於テハ、之ヲ設クルコト、比較的稀ナルガ如シ。現今ノ國家ト雖モ產業上若クハ政治上ノ理由ニ由リ、往々關稅上ノ區別ヲ設クルノ必要ナキニアラザルモ、最惠國條款ノ適用ハ、單ニ某々國ノミヲ優遇スルヲ妨グルノ事情アリテ、其實行ヲ難シト爲スノミ。然レドモ條件附最惠國條款、協定國定稅率、最高最低稅率若クハ特惠稅率ノ如キ手段アリ、又無條約ノ國モアリテ、事實上ニ於テハ、此區別ヲ設ケタルト同一ノ結果ヲ生ズルコト珍シカラズ。近世各國ノ狀態ハ、場合ニ由リ關稅上ノ區別ヲ設クルノ希望ヲ有スルコト、往時重商主義ノ時代ト異ナル所ナク、殊ニ大戰後ニ至リ、母子國間ニ於テ此傾向著シキ互惠關稅主義ノ如キモノアリテ、時ニ臨ミ何等カノ手段ニ依リテ此區別ヲ設ケントスルハ、寧ロ當然ナリト觀ルヲ得ベシ。

差別關稅ヲ大別シテ、方法ニ依ル區別、代價ニ依ル區別、及對手國ニ依ル區別トノ三種ト爲シ、對手國ニ依ルモノハ更ニ政治上ノ理由ニ依ルモノト、補償ノ目的ニ出ヅルモノトノ二種ト爲スコトヲ得、差別關稅ヲ廣義ニ解スルトキハ、條約ノ有無ニ依ル區別ノ如キモ、亦其一種ト觀ルヲ得ベシ。

（甲）貨物輸入ノ方法ニ依ル區別　之ヲ細別シテ次ノ三種トス。

（一）船舶ニ依ル區別　此區別ハ自國ノ船舶及其搭載貨物ニ對スル稅率ト、他國ノモノニ對スル稅率トヲ區別セントスルモノニテ、重商主義ノ時代ニ流行シタルコトアリ。英國ガ航海條例ニ依リ、此區別ヲ設ケテ海運造船ノ奬勵ヲ圖リタルガ如キハ、有名ナル事實ニシテ、佛蘭西ノ如キモ亦之ニ倣ヒタリシガ、現今ニ於テモ、葡萄牙ハ其所領ナル「アンゴラ」及ビ「モザンビーク」ヨリ輸入スル砂糖ニ對シ、關稅ヲ半減スルモ、此特惠ハ葡萄牙ノ船舶ニ搭載セル場合ニ限ルモノ

ト定メ、又大戰後米國ガ自國ノ船舶ニ依リテ輸入スル貨物ヲ減稅セントセシガ如キ事例（尤モ米國ハ一九一三年ノ「アンダーウード、シモンズ」法ニ於テモ、自國船ニ依ル商品ノ輸入稅率ヲ五分減ト爲シ居レリ）ノ外、其例稀ナルガ如シ。

（二）通路ノ海陸ニ依ル區別　此區別ニハ佛、墺、其他歐洲大陸諸國ノ如ク、海、陸兩方面ノ國境ヲ有スルモノガ、直接自國ノ海港ヘ輸入シタル貨物ト、一旦他國ヘ輸入シタル後、陸路ヨリ輸入セントスル貨物トヲ區別シテ、其他國ノ通過商業ヲ妨害セントスルモノアリ。又單ニ陸路輸入ノ貨物ニ對シテ、海路輸入ノ貨物ニ比シ高稅ヲ賦課シ、以テ隣國ヲ苦シメントスルモノ、並ニ陸路輸入ノ貨物ヲ却テ減稅スル場合アリ。嘗テ墺地利ガ茶、珈琲ノ如キ植民地產物ノ自國ノ港（「トリースト」及「フユーム」）ヨリ入ルモノト、陸路ヨリ入ルモノトヲ區別シ、以テ獨逸經由ヲ妨ゲタルガ如キハ、前者ノ實例ニシテ（一八八二年）、露西亞ガ陸路ヨリ入ル貨物ト、海路ヨリ入ル貨物トヲ區別シ、獨逸ノ高率關稅ニ對抗シタルガ如キハ第二ノ例ニシテ（一八九一年）、支那ガ陸路、朝鮮、佛領及英領ヨリノ輸入品ニ對シテ減稅スルガ如キハ、第三ノ例證ナリ。

（三）通過國ニ依ル區別　此區別ノ目的ハ、亦前者ノ如ク、隣國ノ通過貿易ヲ妨グルニ在リテ、殆ンド前區別ニ類ス。米國ガ一八九七年ノ條例中ニ「合衆國ニ隣接セザル外國ノ生產品又ハ製造品ニシテ、隣接セル國ヨリ輸入セラレタルトキハ、一割ノ增稅ヲ賦課ス」ト爲シ、隣邦加奈陀ニ輸入セラルヽモ、米國消費ノ目的ニ出ヅル加奈陀鐵道輸送ノ貨物ヲ妨害セントスルニ在リタルガ如キ、其一例ナリ。佛蘭西ガ現在歐羅巴諸國ノ生產物ニシテ、原產國以外ノ國ヨリ輸入スル或種ノ商品ニ對シ特別ノ附加稅（百基ニ付一法乃至五法）ヲ課シ、又歐羅巴以外ノ生產物ニシテ歐羅巴ノ或國ヨリ輸入スル某々商品（羊毛、「グヮノー」、鼈甲、眞珠、珈琲、茶、煙草、支那及日本ノ陶器等四十餘種）ニ對シ百基ニ付一法八十參乃至百法（絹織物）ノ附加稅ヲ課スルガ如キモ、亦他ノ適例ナリ。

（乙）**代價ニ依ル區別**　トハ輸入品ノ產出地如何ヲ問ハズ、其代價ガ內國產ニ比シ著シク低廉ナル場合ニ特別稅ヲ賦課センガ爲メ、豫メ法律ヲ以テ其權利ヲ行政部ニ附與スルモノニテ、各國ノ廉賣防遏條項、我邦ノ不當廉賣防止條項ノ如キハ其例ナレドモ、前記科學的關稅ノ如キモ、亦此一種ト見ルコトヲ得ベシ。

廉賣防遏ハ一九〇四年初メテ加奈陀ガ定メタルモノニシテ、若シ加奈陀ヘ輸出スル或ル商品ノ輸出國ニ於ケル輸出當時ノ普通ノ賣價ガ、加奈陀ノ輸入商ヘノ賣價ヨリ高キトキハ、所定關稅率ノ外、兩種賣價ノ差額ニ等シキ特別稅ヲ賦課スベシ。但シ此特別稅ノ割合ハ從價一割五分ヲ超エズ、（一）又普通ノ稅率ガ從價五割以上ナルモノ、（二）加奈陀ニ於テ國內消費稅ヲ賦課スベキモノ、並ニ（三）英本國ニ於テ精製シタル砂糖ヲ除ク旨ヲ定メタリ。

此規定ノ目的ハ米國ヲ初メ外國品ノ廉賣（Dumping）ヲ防グニ在ルモ、之ガ爲メ輸入品ガ申告價格ヲ僞ルノ弊ヲ防グコトヲ得ルノ利アリ、其實行方法トシテ米國各地ヘ吏員ヲ置キ、代價其他ヲ

調査セシムルコト、爲セリ。

我國ハ大正九年七月法律第四號ヲ以テ關稅定率法第五條ノ二ヲ加ヘ（後述）同年十一月ノ勅令ヲ以テ、不當廉賣審査委員會ヲ設クルノ規定ヲ定メタルガ、委員ハ會長ノ外官吏、議員、實業家、學者等二十名ヨリ成リ、商工大臣ノ監督ニ屬ス。而シテ不當廉賣品ノ輸入若クハ、輸入品ノ不當廉賣ニ依リ、本邦ニ於ケル重要產業ガ危害ヲ蒙ムル虞アリト認ムルトキハ、商工大臣ハ大藏大臣ト協議シタル上、審査ニ付スベキ事項ヲ定メテ右委員ノ審査ニ付シ、其決議ニ意見ヲ付シ、大藏大臣ガ必要ト認メタル場合、課稅ヲ行フモノトス。

英國、濠洲、米國等ニ於テモ亦相前後シテ（大正十年頃）廉賣防止ノ規定ヲ設ケタルガ、其目的ハ所謂「ダンピング」ヲ防グ外、爲替相場就中麻克ノ下落ニ因ル廉賣ヲ防止セントスルニ在ルモノ、如シ。

（丙）**對手國ニ依ル區別**　ニ次ノ二種アリ。

〔第一〕政治上ノ理由ニ基ク區別　ハ又別レテ三種ト爲ス。

（一）國家間ハ差別關稅　二國又ハ二國以上ノ國家ガ政治上及經濟上ノ關係ヲ親密ナラシメンガ爲メニ、當事國家間ノ關稅ヲ輕減スルモノニテ、（一）或ハ二國ガ政治上既ニ結合スルモ、兩國各自ノ經濟狀態ガ、未ダ完全ナル自由貿易ヲ許サザル場合ニ行ハレ、（近年マデノ諾威瑞典間ノ如シ）（二）或ハ二國又ハ二地方間ニ自由貿易ヲ行ハントスルモ、俄ニ之ヲ實行シ能ハザル事情アリテ漸次之ヲ行ハントスル場合ニ行ハレ、（米國「ポートリコ」間、露西亞芬蘭間ニ自由貿易ヲ行フ前、一時關稅ヲ輕減シタリ）（三）若クハ政治上獨立ノ國家ガ經濟上分離シ難キ事情アリテ、相互關稅ヲ低減セル西班牙、葡萄牙ノ如キモノアリ。然レドモ現今多數ノ國家ハ最惠國條款ニ依リテ繫ガル、ヲ以テ、某々國ノミヲ優遇スルコト困難ナリ。尤モ彼ノ關稅同盟ノ如キハ、最モ完全ナル差別關稅ノ實例ナレドモ、完全ナル關稅同盟ハ最惠國條款適用ノ範圍外ナルコト既述ノ如シ。

（二）**本國及植民地間ノ差別關稅**　獨立國ガ其植民地ニ對スル商業上及政治上ノ關係ヲ鞏固ナラシメンガ爲メ、差別關稅及噸稅ヲ設ケタルハ、古來其例ニ乏シカラズ。大發見後ノ所謂「植民時代」ニハ一般ニ之ヲ行ヒタルヲ觀ルベシ。西班牙ハ植民地ノ總テヲ失フマデ之ヲ行ヒ、和蘭ハ一八七二年マデ、其東印度屬領地ニ對シテ特惠關稅ヲ行ヒ、佛蘭西モ亦近年外國輸入品ト植民地產物トヲ區別シ、英國ハ十六、七世紀時代ニ之ヲ行ヒ、唯其程度他國ノ如ク甚シカラザリシニ過ギズ。而シテ十九世紀ノ前半ニ於テハ、一時本國植民地間ノ特惠關稅ヲ廢止シタルモ、近年國際間ノ競爭激烈ヲ加ヘ、保護關稅ヲ設クルモノ、單ニ外國ノミニ止マラズ、加奈陀、濠洲ノ如キ英國植民地ニモ亦之ヲ見ルニ至リタルヲ以テ、更ニ此制度ヲ採ラントスルノ說現ハレ、加奈陀、濠洲、南亞弗利加、新西蘭ノ諸邦ハ漸次之ヲ實行シ、英本國モ亦之ニ酬ユルニ植民地產物ノ稅率低減ヲ以テシタルコト、嘗テ述ベタル所ノ如シ。米國及我邦ノ如キハ、例外ノ場合ノ外、母子國ヲ同一關稅領域ニ屬セシムル爲メ、全然外國ト異ナルコト、爲レリ。

（三）報復關稅　モ亦一種ノ差別關稅ナリ。今之ヲ行ヒタル場合ヲ考フルニ、凡ソ三種アリ。

（一）他國ノ關稅ヲ不當ナリトシテ之ニ反抗スル場合　例ヘバ一八八六年乃至一八九三年ノ塊匈國對羅馬尼ノ關稅戰爭ニ於テ、塊匈國ガ羅馬尼ノ非常ナル高率關稅ニ反抗シタルガ如シ。

（二）他ノ諸國ガ自國ニ比シ優遇セラレタル場合　一八九三、四年ノ露、獨關稅戰爭ノ如キモノニテ、露西亞ハ獨逸ニ於テ他國ヨリ薄遇セラレタルニ因ル。

（三）通商條約ノ期限經過シ新條約ノ締結ニ當リ對手國ガ不當ノ要求ヲ爲シタル場合　此實例ハ佛伊、佛瑞又ハ獨西等ノ關稅戰爭ニ關シテ之ヲ觀ル、英國ガ我舊定率法ニ對シ、本邦輸出品ニ對シ新ニ關稅ヲ課スベシト威嚇セシガ如キ、亦此筆法ナリ。

報復關稅ヲ設クルノ權利ハ、各國法律ヲ以テ行政部ニ委任スルヲ常トスルモ、又議會ノ一院又ハ兩院ト共ニ有スルコトアリ。法律ヲ以テ定ムル中ニモ次ノ如ク種々アリ。

（一）日本　ハ嘗テ述ベタル如ク、我邦ノ船舶、生產品、輸出品又ハ本邦ヲ通過シタル物品ニ對シ、他國ヨリモ不利益ナル待遇ヲ爲ス國ノソレニ對シ、勅令ヲ以テ物品ヲ指定シ、國定稅率ノ外、其物品ノ價格ト同額以下ノ關稅ヲ賦課スルコトヲ得ト定ム。

（二）獨逸　ハ一九〇二年ノ關稅法ニ依リ、獨逸ノ商品若クハ船舶ニ對シ、他國ノソレ等ヨリ不利益ノ待遇ヲ爲ス國ヨリ輸入スル有稅品ハ、稅率表ニ揭グル稅率ノ外、其二倍若クハ商品ノ全價格ト同額ノ附加稅ヲ賦課スルモノトス。但シ無稅品ハ從價五割ヲ賦課ス。

（三）佛蘭西　ハ一九一〇年ノ關稅法ニ於テ、之ニ關スル規定ヲ設ケ、商品ノ場合ト船舶ノ場合トヲ區別シ、(甲)佛國ノ商品ニ附加稅又ハ特ニ高率ノ關稅ヲ課スルカ、若クハ他國ノ商品ヨリ不利益ノ待遇ヲ爲ス國ノ商品ニ對シテハ一般稅率ノ二倍若クハ其商品ノ價格ヲ超過セザル範圍內ニ於テ、附加稅ヲ課シ、無稅品ナレバ、五割ノ從價稅ヲ賦課ス。(乙)佛國ノ船舶ガ、佛國又ハ佛國ノ領地ニ入ル場合、之ニ對シ、及ビ是等ノ船舶ニ依リ輸送セラルヽ商品ニ對シ、佛國ノ國旗ガ蒙リタル不利益ヲ補フニ足ルベキ租稅又ハ附加稅ヲ賦課ス。

（四）米國　ハ一九二二年九月ノ新關稅法ニ於テ、或國ガ直接又ハ間接ニ米國商業ニ對シ、差別的待遇ヲ爲ス場合ニ於テハ、其國ノ產物ニ對シ、大統領ハ布告ヲ以テ、從價五割若クハ其相當額ヲ超エザル範圍內ニ於テ、新稅若クハ附加稅ヲ課スルコトヲ得ベク、公共ノ利益ニ從ヒ、大統領ハ之ヲ修正、廢止又ハ停止スルコトヲ得、又從來ヨリ差別的待遇ヲ爲シ、布告後モ之ヲ繼續シ、又ハ程度ヲ高ムル場合ニ於テハ、當該品ノ特定品ノ輸入ヲ禁止スルヲ得ト爲セリ。

〔第二〕補償的理由ニ依ル關稅　國家ハ或貨物ノ輸出奬勵ノ爲メ奬勵金ヲ交付スルコトアリ、畢竟輸入國ニ於テ其國（及ビ他國）ノ競爭品ニ對シ便ナラシムルニ在リ。輸入國ガ保護關稅ヲ課スハ其生產品ヲ保護セントスルモ、之ヲ無效ナラシムル場合アルヲ以テ、此奬勵金ノ效力ヲ減殺センガ爲メ、特ニ之ヲ補償スルノ關稅ヲ賦課スルモノニテ、又相殺關稅ノ稱アリ、近年マデ歐洲各國ハ甜菜糖ノ奬勵金ヲ與ヘタルヲ以テ、米國、英國、印度ノ如キハ、之ニ應ズルノ策トシテ、補

償的關稅ヲ賦課シタリ。我關稅定率法第五條モ亦之ニ關スル規定ヲ設ク、米國關稅法等モ亦略同様ノ規定ヲ設ケタレド、現今輸出奬勵金ヲ交付スル場合稀ナルヲ以テ、此規定ハ畢竟奬勵金ヲ豫防スルコト、爲ルナリ。

第二款　對內關係

第一項　從價稅及從量稅

關稅ヲ課稅標準ノ如何ニ依リテ區別スレバ、從價稅、從量稅及複合稅ノ三種ト爲スコトヲ得ベシ。

一、從價稅（Ad valorem duty）　トハ輸出入品ノ價格ヲ標準トシ、其何割何分カヲ賦課スルモノニテ、例ヘバ定率法ノ附屬稅表ニ依レバ次ノ如シ（左記品目中、ヲ附セルハ現在十割ヲ賦課スルモノナリ）。

(A) 從價五分ノモノ……馬、眞珠、貴石、水晶等
(B) 從價一割ノモノ……牛、甘草越幾斯、大麻織絲、麻織絲、磚炭、硝子ノ塊及粉等
(C) 從價二割ノモノ……豚、魚介ノ罐詰、壜詰、瓶詰、精製硫黃、肝油、人參、波狀ハ泥狀ノ天然藍、硫黃等
(D) 從價三割ノモノ……罐詰、瓶詰以外ノ蔬菜、過酸化水素、機寸、銃砲彈、調合藥、絹絲等
(E) 從價四割ノモノ……裝飾用羽毛、靴紐、石膏製品、珊瑚、刺繍布、線香、珊瑚等
(F) 從價五割ノモノ……珊瑚製品、絹製手巾、齒磨粉、散具、絹製傘、寫眞器、蓄音器、寫眞等
(G) 從價十割ノモノ……大正十三年七月三十一日ノ法律ニ依リ、當分ノ中輸入防遏ノ爲メ、若干ノ贅澤品ニ對シ（蜂蜜、酒類、眞珠、珊瑚、香水等）定率法ニ依ラズ、從價十割ノ輸入稅ヲ賦課スルコト、爲セリ（附錄參照）

右ノ外一割五分、二割五分等ノモノアリ、又高キハ三十五割五分（咀嚼煙草又噢煙草以外ノ煙草）ニ及ブモノアレド、コハ政府ノ專賣品ナルガ爲メニテ、普通ハ一割乃至三割位ニテ、四割五割ノモノハ、特ニ保護ヲ厚クスル必要アルモノ、若クハ奢侈品ナリ。

從價稅ノ稅率ガ如何ナル標準ニ依ラ斯ク區別セラルヤト云フニ、大體上其商品ガ日用必需品ナルヤ奢侈品ナルヤ、工業ノ原料品ナルヤ、半製品ナルヤ、製成品ナルヤ、軍事、敎育等ノ必要品ナルヤ否ヤ、政府ガ其商品ニ對シ歲入主義ニ止ムルヤ、將又保護ノ目的ヲ有スルヤ、齊シク保護スルモ其程度如何ニ依リテ同ジカラズ。其他從來ノ關係卽チ其商品ノ舊稅率ノ歷史、當業者ノ運動、政黨ノ黨略等ニ左右セラル、コト少カラザルナリ。我邦ノ臨時財政經濟調查會ノ關稅委員會モ亦前記ノ如キ方針ニ基キ、總品目ノ稅率ヲ次ノ如ク五種ニ大別シタリト云フ。

甲稅　從價　五分以上一割
乙稅　從價　一割五分以上二割五分
丙稅　從價　三割以上四割
丁稅　從價　四割五分以上
無稅

各商品ニ對スル稅率ヲ商品ノ種類ニ依リテ異ナラシムル方針ハ、我邦始メ歐米諸國ノ採ル所ナレド、國ニ依リ總テ劃一ニ步合ヲ一定セルモノナキニアラズ。我邦ノ安政條約ガ多數ノ輸入品ヲ從價五分、輸出稅ヲ總テ五分ト定メ、朝鮮ノ舊輸出稅ヲ從價五分トシ、支那ノ從量稅ハ總テ從價五分ノ均一從價稅ト爲スガ如シ。

二、從價稅ノ價格　ハ一般ニ卸賣相場ヲ採ルモ、之ニ輸出國ノ價格ト輸入國ノ價格トノ二主義ア

リ、輸出地ノ代價ヲ採ル場合ニモ亦「シフ」主義ト「エフ・オー・ビー」主義トノ別アリ。我邦ノ舊法、和蘭、瑞典、印度、南米諸國其他多數ノ國ハ「シフ」主義ヲ採ルモ、又米國、加奈陀、南亞、濠洲等ノ如ク「エフ・オー・ビー」主義ヲ採ルモノナキニアラズ〔英國ハ輸入港ニ於ケル保稅價格（運賃保險料込）〕。而シテ「シフ」主義ヲ採ル場合印度ノ如ク輸入ノ時ニ於ケル價格ト爲シ、又「エフ・オー・ビー」主義ヲ採ル場合、米國、加奈陀、南阿若クハ濠洲ノ如ク、輸出ノ時ニ於ケル價格ヲ採ルモノ多キモ、瑞典ノ如ク「シフ」價格ヲ採リナガラ、買入ノ時（委託販賣品ナレバ、發送ノ地及時）トガラ、輸出當時ノ價格ト爲サントセシガ如キ例アリキ。右ハ從價稅ノ課稅標準ニ關スル大體ノ區別ナレドモ、尙ホ一般的ニ細別スレバ、次ノ如ク種々ノ別アリ。

（甲）　評價ノ場所ニ關スル區別　ニハ（A）輸出國ノ代價ト（B）輸入國ノ代價トノ別アリ、輸出國ノ代價ニモ（一）買入地又ハ生產地ノ代價、（二）輸出港ノ代價、（三）到着港ノ代價ノ三種アリ、此（三）ノ到着港ノ代價ニモ輸出港ノ市場代價トF・O・B代價トノ別アリ、市場代價ハ其商品ニ對スル一般的卸賣代價ニシテ、F・O・B代價ハ特別ナル貨物ノ本船積込値段ナリ。而シテ輸入國ノ代價ハ輸入港ノ代價ヲ採ルヲ常トスルモ、亦輸入國ニ於ケル重要都市ノ市場代價ヲ平均シタルモノヲ用フルコトヲ得ベク、輸入港ノ代價ニモ本船渡（冲渡）、陸揚代價、保稅代價（英國ノ如シ）、通關後ノ市場代價ナド種々ノ別アルノ理ナリ、輸入港ノ本船渡代價ハ、一見「シフ」代價ト異ラザルガ如ク見ユルモ、「シフ」代價ハ輸出國ノ原價（確定セル）ニ運賃、保險料等ノ諸掛ヲ加ヘタルモノナルヲ以テ、評價ノ基礎ハ依然輸出港ノ代價ナレバ、之ヲ（A）ノ一種ト看做スベキモノナレドモ、（B）ノ輸入國ノ代價ハ、原價及諸掛ノ如何ニ拘ラズ、輸入港ニ於ケル陸揚又ハ本船上ノ値段ニシテ、輸出ノ時ト輸入ノ時トノ間ニ相場ノ變動ナク、且ツ兩地ノ市價ノ差異カ普通ナルトキハ、「シフ」ト異ラザルベキモ、常ニ「シフ」ト一致スベキモノニアラズ。

（乙）　評價ノ時ニ關スル區別　モ亦場所ニ關聯スルモノニテ（一）買入ノ時ノ代價カ（二）輸出ノ時ノ代價（之ニモ市場代價ト其商品ニ特殊ナルF・O・B代價トノ別アリ）カ、將又輸入ノ時ノ代價（之ニモ亦前記ノ如キ區別アリ）カヲ區別セザルベカラズ。而シテ買入代價、F・O・B代價ノ如キハ既定ノ事實ナルヲ以テ、仕入書（送狀）ノ如キ證明書類ニ依リテ、之ヲ知ルコトヲ得ベキモ、市場代價ハ輸入ノ際始メテ之ヲ定メ得ルノ理ナリ。

（丙）　一般ト特別　一般市場代價ニ依ルヤ、或ハ申告商品各別ノ代價ヲ採ルヤニ依リテ異ルコト、前述ノ如シ。

（丁）　其他ノ區別　ハ次ニ述ブル（一）申告法ト公定ノ評價法（二）包裝ヲ含ムヤ否ヤ（三）「シフ」ヲ採ルモ、其諸掛ノ內容如何等ニ依リテ差異ヲ生ズ。

要スルニ輸入品ノ價格ヲ定ムル標準ハ種々アリテ、各國任意ニ定ムルヲ以テ、貿易當業者ハ之ヲ

審ニスルノ必要アルト同時ニ、各國ノ統計ヲ比較スルニ當テモ、亦此點ニ留意セザルベカラズ。」

我邦ニ於テハ安政四年ノ和蘭トノ條約ニ「元代ニ從ヒ」トアリ、其他ノ條約モ亦同樣ニ解釋セラレテ、生產地ノ原價ヲ採リタレド、明治ノ初年ニ至リテ之ヲ輸出港ノ原價ニ改メ、港ニ依リテハ、F·O·Bヲ採リタルモノアリシモ、大體明治三十一年マデハ、此ノ主義ニ依リテ課稅シ居レリ、然ルニ翌三十二年一月ヨリ、改正條約カ實施サル、爲メ、關稅定率法ヲ定メ、其第六條ニ於テ

從價稅品ノ課稅價格ハ生產地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其他輸入港ニ到着スルマデノ諸費ヲ加ヘタルモノトス。

但シ原價及諸費ニ疑アルトキハ物品ノ輸入港ニ於ケル價格ヨリ輸入稅ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス。

ト定メ、原則トシテ「シフ」主義ニ依リ、例外トシテ輸入港ノ代價ヲ採ルコトヲ示シタリ、然ルニ明治四十三年四月發布（翌年七月ヨリ施行）ノ現行關稅定率法第二條ハ

從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ依リテ課稅ス

ト改メタルヲ以テ、輸入國ノ代價ヲ採ルコト、爲レリ、此文意ハ少シク曖昧ナレドモ、想フニ(一)評價ノ時ハ輸入ノ時（輸入申告ノ日ナラン）ニシテ、(二)輸入港ノ代價ハ「冲渡」値段（本船上ノ値段）ノ意味ナルベシ（「シフ」ニハアラズ）、到着價格ハ或ハ陸揚値段ト解シ得ザルニアラザレドモ、習慣上多クハ本船渡ナルヲ以テ、斯ク解釋スベキモノナルヘシ、（但シ保稅倉庫ヨリ出庫スル貨物ハ、普通ノ場合、出庫卽チ輸入申告ノ時ノ價格ナリ）就レニセヨ內地ノ市價ヲ標準トシタル本船受取ノ値段ナレバ、送狀等ハ參考的ニ添附スルニ止マルノ理ナルモ、實際ハ當業者ノ漠然タル申告價格ニ依ルコト多シト云フ。

從價稅制度ヲ採ル場合、輸出當時ノ輸出地ノ價格ヲ採ルトキハ、商人ハ豫メ稅金額ヲ豫知シ得ルノ便アレドモ、內地ノ稅關ニ於テ、世界各地ニ於ケル各商品ノ時價ヲ知ルハ容易ニアラズ、又同一商品ニテ輸出地ノ異ル爲メ、稅金額ヲ異ニスルハ、公平ニアラザルヲ以テ、是等ノ點ヨリ觀レバ到着價格ヲ可トスベキガ如クナレドモ、是亦評價上ノ不便ヲ免ル、コト能ハズ、輸出地ガ異レバ多クハ商品ノ品質ヲ異ニスルヲ以テ、稅金額異ルモ不公平ヲ生ズルコト稀ナレバ、必ラズシモ「シフ」代價ヲ定ムル方法ニモ種々アリテ、（一）我邦ノ舊法、瑞典等ノ、原價ニ諸掛ヲ加ヘル方法ヲ採ル中ニモ、一々實際ノ諸掛ヲ加ヘル爲メ、主トシテ送狀ヲ材料トスルモノト、一定步合ノ割增步合ヲ附加スルモノトノ別アリ。例ヘバ新西蘭ニ於テハ、輸出價格ニ其一割ヲ、秘露ガ二割五分、「ボリヴイア」ガ二割ヲ附加スルノ類ナリ、（二）到着港ノ市場代價ヲ採リ、之ヨリ輸入稅ヲ控除スルコト、我邦ノ舊法、和蘭、印度ノ如キモノアリ。

上記孰レノ方法ニ依ルヲ問ハズ、從價稅品ノ價格ヲ、其商品ノ特別ノ代價ト爲スヤ、或ハ一般ノ市場價格ヲ採ルヤノ別アリ、我邦ハ特別代價ヲ採ルガ如クナレドモ、米國、加奈陀、印度、濠洲等ノ如

ク市場代價ヲ標準トスルモノアリ。而シテ商品ノ代價ヲ決定スル場合、之ヲ商人ニ申告セシメ、(Declaration method) 多クハ之ニ依リ、特ニ低價ヲ附スル場合、官吏ガ之ヲ訂正スルコト我邦ノ如キ國多キモ、亦往々政府ガ各商品ニ對シ、豫メ公定價格 (Official valuation) ヲ作リ、之ニ依リテ課稅スルモノアリ(Valuation method or Valuation tariff)。南米諸國中、亞爾然丁「ウルグエー」「バラグエー」、「ボリヴィア」ノ如キハ後者ノ例ニシテ、祕露、智利ノ如キモ、近年マデ此制度ヲ採リ伯剌西爾ハ大體從量稅制度ナレドモ、從價稅ヲ加味セル爲メ、是亦此制度ヲ用ヒ居レリ。此制度ハ或期間一定ノ價格ニ依リ課稅スルモノナルガユヘニ、實ハ從價稅ノ假面ヲ被レル從量稅ト觀ルコトヲ得ベシ、從テ從量稅ノ如ク課稅徵收上ノ便宜ハ之アレド、表ノ作成上(卽チ品種ノ多キ上、一々之ヲ評價スルノ煩勞アリ)不便少カラズ。而シテ時價ニ應ジテ絕ヘズ訂正セバ可ナルベキモ是亦實行上ノ困難アリ、自然長ク一定ノ評價ニ据置クコト、爲ルノ傾キアリ、結局從量稅ト異ラザルニ至ルヲ以テ、漸次從量稅ニ改ムル者增加スルニ至レリ。

從價品ノ評價ニ於テ、容器、包裝ハ如何ニ取扱フベキヤ、商業上ノ習慣ニ於テハ、「エフ・オー・ビー」ト「シフ」トヲ問ハズ、荷造費ハ之ヲ約定代價ニ含マシムルヲ常トスルモ、賣買代價ハ包裝等ヲ除キタル數量ニ依リテ定ムルノ習ヒナレバ、課稅上ノ評價モ之ニ依ルベキヤ。我邦ニ於テハ法文ニ明記ナキガユヘニ、此點モ亦曖昧ナレドモ、「到着價格」ハ卽チ沖渡値段ナルベク、又從來ノ慣例モアレバ、荷造モ勿論包含セルモノトナルベシ。米國ノ如キハ荷造費モ亦課稅價格中ニ含マルベキモノトシ、加奈陀ハ若シ商品ノ送狀面金額中ニ荷造費ヲ含マシメザルトキハ、二割乃至二割七分五厘ノ特別稅ヲ賦課シ、其他ノ場合ニ於テハ、其商品ト同一ノ從價稅ヲ賦課スト爲セリ。

從價稅ノ課稅標準ヲ送狀面ノ金額ト爲ス場合、其金額ガ邦貨ナルトキハ、直ニ稅金額ヲ算出シ得ベキモ、外國貨幣ヲ以テスルトキハ、如何ナル割合ニ依リテ換算スルヤト云フニ、嘗テ我邦ニ於テハ金貨國ニ對スル割合ハ、法定平價ヲ採リ、銀貨國ニ對スル割合ハ爲替相場ニ依リ、前月ノ平均相場ヲ毎月一日ノ官報ニ揭示シ、翌月ヨリ之ニ依ラシムルコト、爲セシガ、大戰後金貨國中ニモ不換紙幣國ト爲リタルモノアリ、爲替相場ノ變動激シカリシ爲メ、大正六年八月ヨリ金貨國ノ割合モ亦爲替相場ニ依ルコトヽシ、横濱正金銀行ノ相場ヲ二日後レニテ使用セシガ、大正十年五月以降各稅關ニ於テハ、正金銀行ノ前々週ト前々々週ノ二週間ノ參着相場ヲ平均シ、一週間ヲ隔テ、其週ニ使用スルコト、爲セリ。但シ我邦ノ現行法ニ於テハ「到着價格」ヲ採リ、舊法ノ如ク「原價ニ諸掛ヲ加フ云々」ノ規定ナキヲ以テ、申告價格ハ邦貨ヲ以テスベク、稅關ニ於テモ亦輸入港ノ市價ニ準ジ、邦貨ニテ評價スレバ可ナルノ理ナルモ、申告者ハ殆ンド外國貨幣ヲ其マヽ、申告書ニ記載シ、且ツ送狀ハ依然重要ナル參考資料ナルヲ以テ、尙ホ換算ノ必要アルモノトス。一九二一年五月ノ米國緊急關稅法(エマーデエンシー、タリフ)ハ、大藏大臣ヲシテ、年四回外國貨幣ノ換算率ヲ公告セシメ、關稅徵收上外國貨幣ヲ換算スルノ必要アルトキハ、此公告率ニ依ルベキモ、右公告率ト、輸出當日紐育ニ於ケル爲替相場トノ差ガ五分ヲ超ユルトキハ、後者ニ依ルベキモノト爲セリ。

三、從量稅(Specific duty)　ハ輸出入品ノ重量、容積、面積又ハ個數等ノ數量ヲ標準トシテ、賦課スルモノニテ、我邦ノ數量單位ハ次ノ如シ。

(A) 個　數……每個(懷中時計、同部分品ノ一部、潛水器、自轉車ノ類、每打(帽子ノ類)。每罐(普通ノ筆噴、鉛筆ノ類)。每百個(西洋食器、自轉車用喞筒ノ類)。每千個(縫口用「キヤプシユール」ノ類。

(B) 重　量……每「グラム」(サルヴアルサン類)。每斤(襟飾、咀嚼煙草、嗅煙草、雙眼鏡又ハ隻眼鏡ノ類)。每百斤(大多數)每一萬斤(「コークス」)

(C) 才　積……每立方「メートル」(木材ノ一部)。總噸數每噸(船舶ノ一部)

(D) 桝　目……每百「ガロン」(鑛油)。每「リットル」(酒精ノ類。每百「リットル」(「ソース」、鑛水、曹達水、酒類、食酢、松精油ノ一部)。

(E) 平方積……每百平方「メートル」(硝子板ノ多數)

右ノ如ク種々アルモ、最モ多キハ百斤(十六貫)ヲ單位トスルモノニテ、歐米諸國モ亦重量ヲ單位ト爲スモノ多キヲ占ム。例ヘバ佛蘭西、獨逸、瑞地利、伊太利、西班牙等、歐羅巴大陸諸國ハ百基 quintal=26.₹667)英米ハ一封度、露西亞ハ「プード」又ハ「フント」等ノ重量一單位ニ付キ何程ト爲スモノ多キガ如シ。

我邦始メ各國ノ稅率表ヲ觀ルニ、從量稅ヲ主トシテ從價稅ヲ加味スルモノ多キモ、亦米國ノ如ク從價稅ヲ主トシ、英、佛、獨、露、加諸國ノ如ク、殆ンド從量稅ヲ用フルモノ、若クハ支那ノ如ク從價從量併用ノモノモ之ナキニアラズ。

(1) 米　國　大部分ハ從價稅ナレドモ從量稅ノモノモナキニアラズ、單位ハ封度、「オンス」、噸、「ガロン」、平方及立方呎、百呎一頭、一打等區々ナリ。

(2) 加奈陀　モ亦大多數從價稅ニシテ、從量稅ノ單位ハ封度、百封度、一噸、「プツシエル」、「ガロン」等一定セズ。

(3) 濠　洲　ハ封度、「セシタル」其他ノ從量稅ト從價稅トヲ採用ス。

(4) 印　度　ハ殆ンド從價稅ナレドモ、公定評價ヲ用フルヲ以テ從量稅ニ近シ。

(5) 英　國　ハ酒類、酒精、煙草、茶、珈琲、「チコリー」、砂糖、時計、樂器、自動車、機巧、菓子、煉乳、果物等ノ貨物ニ對シ、封度、「ハンドレッド」、「ウエイト」、「ガロン」等ノ從量稅ヲ賦課スルモ、時計類、自動車及樂器等三四種類ノ貨物ニハ從價稅ヲ賦課ス。

(6) 佛蘭西　モ亦殆ンド從量稅ニシテ、總量又ハ法定純量百基ヲ標準トス。

(7) 獨　逸　ハ總テ從量稅ニシテ、多數ハ純量百基ヲ標準トス。

(8) 露西亞　ハ總テ「プード」又ハ「フント」ニ對スル從量稅ナリシガ、近年ハ百基ヲ用フルガ如シ。

(9) 支　那　差等稅率ニ改メザル以前ノ稅率ハ一擔、一斤、一打其他ノ單位ニ對スル從量稅多ク、之ニ從價五分ヲ併用ス。從量稅モ亦總テ從價五分ヨリ換算セルモノナリ。

四、總量ト純量　從量稅ヲ賦課スル商品ノ中重量ヲ以テスルモノハ、我邦始メ各國共ニ純量即チ正味重量ヲ以テスルモノ多キモ、商品中ニハ液體若クハ纏詰ノ如ク、一々容器ト分離シテ秤量シ難キモノアリ、又包裝ヲ除クトスレルモ、一々實際ノ純量ヲ求ムベキヤ、若クハ便宜上法規ニテ一定セル風裝(包裝ノ重量)ヲ控除スルヤ、國ニ依リテ區々ナルヲ以テ、單ニ百斤、百封度若クハ百基ニ付キ何程ト稱スルモ、是等ノ重量ガ孰レニ屬スルヤヲ知ラザルベカラズ。今試ニ課稅ノ目的ヨリ、商品ノ重量ヲ區別スレバ、次ノ三種ニ大別スルコトヲ得ベシ。

(a) **總量**（Gross weight）トハ內裝及外裝共ノ重量ヲ云フ。

(b) **半總量**(Demi-gross or Semi-gross weight)トハ外裝ヲ除キタル重量、卽チ內裝共ノ重量ニシテ、是亦次ノ二種ニ區別スルコトヲ得。

(1) **法定半總量**（Legal demi-gross weight）トハ、總量ヨリ外裝ノ重量トシテ、法定ノ歩合若クハ重量ヲ控除セルモノヲ云フ。

(2) **實際半總量**（Real demi-gross weight）トハ總量ヨリ外裝ノ實際重量ヲ控除セルモノナリ。

(c) **純量**（Net weight）ハ總量ヨリ內裝及外裝ノ重量、卽チ總テノ包裝ノ重量ヲ控除セルモノニテ、之ニモ亦次ノ二種アリ。

(1) **法定純量**（Legal net weight）トハ、稅表上ニ特記アルモノ、外、總テノ包裝ノ重量トシテ、法定ノ分量ヲ控除シタルモノヲ云フモ、亦除外例ヲ設ケズ、總テノ包裝ノ法定重量ヲ控除スルモノモ之ナキニアラス。

(2) **實際純量**（Real net weight）トハ總テノ包裝ノ實際ノ重量ヲ控除シタルモノニ外ナラズ。右ノ如ク種々アル外、稅關若クハ輸入者ニ對シ、實際ノ重量ヲ秤ル權利ヲ與フル國ト、否ラサルモノトノ別アリ、又包裝ヲ除キテ秤ルモ、之ニ對シ特別稅ヲ課賦スルモノトセザルモノトアリ、加フルニ內裝外裝ノ區別ハ往々判別ニ苦シムモノアリ、包裝ヲ免稅スルトキ、若クハ貨物ト同一稅率トスルトキハ、故ラニ高價ノ包裝ヲ用ヒテ脫稅ヲ圖ル者アルガユヘニ、理論上ハ包裝ニ對シ特別ノ稅率ヲ賦課スベキ筈ナルモ、實行上煩ニ耐ヘザルノ弊アリ。要スルニ此問題ハ從量稅賦課上ノ一要目ニシテ、其他品質若クハ數量ヲ詐リ、若クハ誤ルガ如キ弊ナキニアラザルヲ以テ、從量稅ト雖モ、一般ニ信ゼラルヽガ如ク簡單ナルモノニハアラザルナリ。次ニ我邦其他數箇國ノ規定ヲ示スベシ。

(一)日本　ハ定率法附屬稅表ニ於テ、內裝等ト共ニ秤リタル重量ト記載セルモノ、外ハ、總テ純量ヲ以テスル規定ニシテ、其除外例ハ次ノ如シ。改正案モ亦原則トシテ純量ヲ採ルコト、爲セリト云フ。

(A) 內裝共ノ重量「プラスター」、膠袋、「カートリッヂ」、紡績用及繕糸用、「トラヴエラー」、ゴム製「チーツ」及褥、「セリユロイド」製ノ櫛、現像セザル寫眞用乾版、鷄卵紙及感光紙、感光性又ハ現像シタル寫眞用「フイルム」。

(B) 容器共ノ重量　罐詰又ハ壜詰ノ蔬菜及果實、コーコー及胡椒、(種子以外ノモノ)、「カリー」及「マスタード」(粉狀ノモノ)、蜂蜜、菓子、「ジヤム」及「フルート、ゼリー」類、「コンデンスミルク」、薫香ヲ附シタル石鹼、靴墨、寫字用又ハ筆記用「インキ」、液狀又ハ液狀印刷用「インキ」(樽入以外ノモノ)等。

(C) 容器內裝共ノ重量　薫香ヲ附シタル油、脂、蠟及其ハ製品、香水。

(D) 絲卷其他共ノ重量　木製ノ絲卷ニ卷キタル綿絲及綿絲(絲卷共)、書狀用紙、箱入封筒(箱共)、體溫計(「ケース」共)等。

(二)佛蘭西　ハ商品ノ種類ニ依リ、總量、實際純量、若クハ法定純量ヲ以テスルコト、次ノ如シ。

(A) 總量　壓搾セル葡萄及果實、粗製ノ懷中時計ノ「ケイス」及附屬品、稅率百基ニ付キ十法以下ノモノ、其他或ル特別ノ商品。

(B) 實際純重　ハ內外ノ包裝ヲ除キタルモノニシテ、例ヘバ金、銀、若クハ白金ノ如キ貴金屬、絹織物、貨幣、珈琲其他猛包裝ニテ輸入シタル、稅率百基ニ付キ十法以上ノモノ。

(C) 法定純量　ニ依ルモノハ(一)當事者ガ之ニ依ルコトヲ希望セル場合、若クハ(二)適當ノ時期ニ實際純量ニ依ル旨ヲ請求セザリシ場合ナリ。

(佛蘭西ニ於テハ、例外ノ場合ノ外、包裝若クハ容器ハ一般ニ價格ヲ有スルモノト看做シ、從テ商品ト離レテ課稅スベキモノト爲シ居レリ)

(三)白耳義　ハ純量主義ナレドモ、特別ノ場合ノ外、法定純量ヲ採ルコト次ノ如シ。

(A) 實際純量　ヲ賦課スルハ、特ニ之ヲ申告シタル場合ナレドモ、原產國ノ包裝ニ收メザル粗製糖ハ、强制的ニ之ニ依ラシム。

(B) 法定純量　前記ノ場合ノ外ハ總テ之ニ依ル。卽チ總テノ容器、包裝共ノ總量ヨリ、法定ノ風袋量ヲ差引キタルモノナレドモ、不完全ニ貨物ヲ蔽フニ止ル容器ハ、之ヲ差引カザル定メナリ。

(四)獨逸　ハ主トシテ法定純量ニ依ル。

(A) 總量　稅率百基ニ付キ六馬克以下ノモノ、若クハ稅率表上、特ニ之ニ依ル旨ヲ定メタルモノ。

(B) 法定純量　ハ總量ヨリ稅率表ニ定メタル風袋ノ歩合ヲ差引キタルモノニシテ、多クハ之ニ依ルモ、(一)輸入商ガ特ニ實際純量ニ依ルベキ旨ヲ請求シタルトキハ、「バター」ノ如ク秤量上ノ不便アル場合ノ外、之ニ依リ、又(二)包裝ノ重量ガ著シク法定ノ重量ニ異ルトキモ亦實際純量ニ依ル。而シテ貨物ノ稅率ガ百基ニ付キ五十馬克以下ナル或場合ノ外、或種ノ包裝ハ純量中ニ含マシムルモノトス。

(五)露西亞　ハ稅率表ニ特記アル商品ノ外、總テ法定純量ニ依ル。

(六)南米諸國　モ亦國ニ依リテ區々ニシテ、「コランビア」、「ヴエネズエラ」及「イクワドル」ニ於ケル多數ノ商品ハ總量ニ依ルモ、其他多クノ國ハ商品ニ依リテ異ナリ、概ネ稅率表中各品目ノ下ニ附記シ居レリ。

(A) 亞爾然丁　ニ於テハ、多クノ內裝共ノ重量、卽チ半總量ニ對シテ賦課ス。

(B) 「ボリヴイア」ハ特記アルモノノ外、純量ヲ標準トス。

(C) 伯剌西爾　ハ多クノ總量ニ依ルモ、亦法定純量ニ依ルモノ少カラズ、然レドモ法定ノ風袋中不適當ノモノ少カラザルヲ以テ、輸入商若クハ鑑定人ハ實際純量ヲ秤ルコトヲ請求スルコトヲ得ベシ。

(D) 秘露　ハ商品ノ性質ニ拘ラズ、包裝ノ種類ニ應ジ、一般的ニ控除スベキ風袋量ヲ法定スルモ、伯剌西爾ノ、如ク輸入商等ノ請求ニ依リ、實際ノ重量ヲ秤ラシムルコトヲ得。

(七)加奈陀　包裝ハ液體ヲ收ムルモノ、外、例外ノ場合ヲ除キ無稅トス。液體ヲ容ル、容器ハ、之ヲ特別ニ輸入スル場合ノ稅率ヲ賦課スルモ、稅率表ニ容器共同一ニ課稅スル旨ヲ附記シタルモノハ此限ニアラズ。又眞實ノ輸送以外ノ目的ヲ以テスル容器モ、亦之ヲ獨立ニ輸入スル場合ノ稅率ヲ賦課スルモノトス。

五、稅目ノ細分　近世工業ノ發達ト共ニ、商品ノ種類モ亦增加セラル、ガユヘニ、關稅々率表ノ品目ガ漸次增加、細分セラル、ハ自然ノ勢ヒナレドモ、此傾向ハ各國從量稅制度ヲ採ルモノ增加スルニ從ヒ、益多キヲ加フルガ如シ。蓋シ從量稅制度ニ依ツテ、總括的大項目ノ下ニ單一稅率ヲ賦課スルトキハ、自然劣等品ニ高ク、高價品ニ安キコト、爲リ、負擔ノ公平ヲ缺クコト、爲レバナリ。殊ニ品目ヲ細別スルトキハ、他國ニ對シ低稅率ヲ協定シ、或ハ最惠國ノ待遇ヲ與フル場合ニ於テモ、其特惠ノ範圍ヲ限定スルノ利益アルヲ以テ、各國細分主義ヲ採ルニ至リタルモ、之ガ

爲メ商人ヲシテ、自己ノ取扱フ商品ハ、果シテ孰レノ種類ニ屬スルヤヲ判知スルニ苦シマシムル缺點ナキニアラズ、我邦ノ稅率表中ニ於ケル、綿織物其他ノ織物ノ如キ其適例ナリ。

六、從量稅ト從價稅ノ異同　從量稅ト從價稅トハ、固ヨリ課稅標準ヲ異ニスルコト、言フヲ俟タザレドモ、從量稅ト雖モ、根本ノ標準ハ亦商品ノ價格ヲ標準トシタル、實ハ從價稅ニシテ、最初ヨリ單純ニ分量ヲ標準トシタルモノニアラズ。卽チ或ル期間內ノ平均價格ヲ求メ、之ニ基礎稅率タル二割、三割等ノ稅率ヲ乘ジタル金額ヲ從量稅率ト爲スモノナリ。換言スレバ稅率表ヲ編成スルニ當リ、總テノ商品ニ對スル從價稅率ヲ定メ、從量稅ニ改ムルモノハ、之ヲ換算シ、從價稅トスルモノトス。例ヘバ某商品ノ或ル期間ニ於ケル輸入平均價格（現行稅率ハ一般ニ大正十一年下半期及大正十二年上半期ノ一箇年ノ平均價格ヲ採リタリ）ガ百斤拾圓ナリトシ、其基礎稅率ヲ三割ト爲セバ、之ヲ從量稅ト爲ス場合、百斤ニ付キ三圓ト爲スノ類ナリ。然ルニ從價稅中ノ法定價格ニ依ルモノハ、輸入當時ノ價格ニ依ラズ、一定ノ評價ヲ標準トシテ課稅スルヲ以テ、形式ハ從價稅ナレドモ、其實從量稅ト大差ナキモノト爲ルノ理ナリ。

從量稅ハ斯ク如ク從價率ヨリ算出スルモノナレドモ、物價ハ絕ヘズ變動スルモノナルガユヘニ、稅率決定當時ハ大體ニ於テ、從價率ト異ラザルモ（之レスラ精確ニ符合スルモノニアラズ、從價稅ハ時價ニ依リ、從量稅ノ標準價格ハ、過去ノ平均價格ヲ採ルモノナレバナリ）、其後ハ事實上或ハ基礎稅率ヨリ高ク、或ハ低キモノト爲リ、此點ニ於テハ不公平ヲ免レザルナリ。支那ノ關稅ガ多ク從價五分ヨリ算出シタル從量稅ナルニ、之ヲ改ムルノ時機少キ爲メ、事實上著ク低率ト爲リ、大戰後ハ從量稅制度ヲ採ル各國共ニ低率、且ツ不公平ト爲リタルハ、世間周知ノ事實ニシテ、佛蘭西、白耳義ノ如キハ、之ヲ訂正スル爲メ、特ニ附加稅ヲ課スルニ至レリ。

然ラバ我邦ニ於ケル一部論者ノ意見ノ如ク、臨機平均時價ニ依リテ從量稅ヲ改算シ得ルモノトセバ如何ト云フニ、是亦實行上煩ニ耐ヘズ、請託ノ弊ヲ生ジ、商人ハ稅率ヲ豫知シ難キ不便アルヲ免レザルベシ。

七、複合稅　（Compound duties）ハ又混合稅（Mixed duties）トモ云ヒ、一品目ニ對シ從量稅ト從價稅トヲ結合シタル關稅ニシテ、之ニ次ノ如キ區別アリ。

（甲）從價稅ヲ主トシ、從量稅ヲ加味セルモノ、此制度ハ米國ニ於テ採用セラレ、其目的ハ品種ノ上ルニ從ヒ從量稅率ヲ高メテ以テ、高價品ニ對スル從價稅ヲ增加シ、且ツ保護稅率ノ程度ヲ藏ハントスルモノナリ。例ヘバ次ノ如シ。

米國關稅法（一九〇九年）……稅率番號第一五二號（附屬品ヲ有スルモノ）

懷中小刀類（折込ノ及又ハ定着セザル及若クハ附屬品ヲ有スルモノ）

一打ニ付キ	四　十	仙以下ノモノ（一個）……	從價	四割	
一打ニ付キ	四　十	仙ヲ超ヘ、五十仙以下ノモノ（同）……	同	四割	外一仙
一打ニ付キ	五　十	仙ヲ超ヘ、一弗二十五仙以下ノモノ（同）……	同	四割	同五仙
一打ニ付キ	一弗二十五仙ヲ超	、三弗以下ノモノ（同）……	同	四割	同十仙
一打ニ付キ	三弗ヲ超ユルモノ（同）……		同	四割	同二十仙

(乙)　從量稅ヲ主トシ、從價稅ヲ加味セルモノハ主トシテ從價稅ノ長所ニ依リ、從量稅ノ缺點ヲ補ハントスルモノニテ、米國ニ於テモ之ナキニアラザルモ、最モ著シキ例ハ、大戰ト末期ニ於テ佛蘭西ノ試ミタル方法ニシテ、其目的ハ物價騰貴ニ因ル從量稅ノ不公平ヲ補ヒ、保護ノ効力減殺ヲ防ギ、一方國庫ノ歲入增加ヲ圖ラントスルニ在リキ。卽チ一九一九年六月十四日ノ大統領令ニ依リ、從量稅ニ加フルニ、從價五分、一割、一割五分此方法ハ物價漸騰ノ際トテ、商人ガ申告價格ヲ詐リ易キコト、多數ノ證明ヲ要スルコト、稅關官吏ト紛議ヲ生ジ易キコト等、從價稅ニ伴フ種々ノ弊害ヲ生ジタルヲ以テ、幾干モナク之ヲ廢シ、從量稅ニ三マデノ係數ヲ乘ズルノ制度ニ改メ、此係數ハ一九一三年ト一九一八年ノ公定價格ノ比ヲ標準トシ、且ツ特ニ委員會ヲ設ケテ市價ノ高低ヲ調査シ、隨時此係數ヲ改ムルコト、爲セシガ、白耳義、佛領印度支那、佛領西印度等ニ於テモ、亦此制度ニ倣ヒタルガ如シ。

米國關稅法(一九一三年)……稅率番號第一六號

酒精含有ノ化學藥、藥劑、其他特記ナキ酒精含有物

含有酒精二割以下ノモノ(一封度ニ付キ)……十　仙、外從價二割

含有酒精二割ヲ超ヘ五割以下ノモノ(同)……二十仙、同　二割

含有酒精五割ヲ超ユルモノ(同)……四十仙、同　二割

【注意】米國ニハ、右ノ如ク從價稅率ヲ一定シ、漸次從量稅率ヲ高ムルモノ、外從價稅率ヲモ累進セシメタルモノアリ、例ヘバ眼鏡ノ如シ。

從量稅ノ係數　(Coefficient) ……(一)佛蘭西ニ於ケル從量稅ノ係數ハ最初此制度ヲ設ケタル當時(一九一九年七月)ニ於テハ、物價騰貴ノ勢ヲ增加セシメザル爲メ、三卽チ三倍ヲ以テ限度ト爲セシガ、其後之ヲ改正シ、一九二二年ニ於ケル稅率表ヲ見ルニ、最低一・一(沃度フオルム、蟻酸ノ如シ)ヨリ最高八・六(「ストレイト、シヤフツ」ノ如シ)ニ及ブ、纖物類ハ多ク五ナルガ如シ。(二)白耳義モ亦始メハ三マデナリシガ、一九二一年四月ヨリ六月マデ用ヒ得ルコト、爲セリ、但シ實際ハ三又ハ四マデノモノ多キガ如シ。然ルニ「フラン」ノ安定ト共ニ此制度ヲ廢止シ(一九二八年)、但卸賣物價指數ガ二割以上騰貴シタル場合ニハ、每三箇月政府ガ稅率ヲ改正シ得ルコト、爲セリ。

此他關稅ノ形式ニハ、一種ノ複合稅タル撰擇稅、並ニ歷史上ノ關稅タル滑準稅等アリ。

八、選擇稅 (Alternative duties)　モ亦複合稅ノ如ク、一商品ニ對シテ從價稅率ト從量稅率ノ二種ヲ定ムルモノナレドモ、二者ノ中孰レカ稅金額ノ多キモノヲ賦課スル制度ニシテ、自然高價品ト市價騰貴ノ際トニハ從價稅ヲ用ヒ、廉價品ト市價低落ノ際トニハ、從量稅ヲ用フルコト、爲ルベク、其目的ハ保護ノ効力若クハ歲入ノ減少ヲ防ガントスルニ在ルナリ。例ヘバ次ノ如シ。

濠洲關稅率(一九一四年)第一八號……菓子、甘味ヲ加ヘタル「コーア」又ハ「チヨコレート」、蜂蜜、「ヂヤム」、「ヂエリー」等……一封度ニ付キ二片半(又ハ從價二割五分ノ中、孰レカ多キヲ課ス)

此規定ノ結果ハ廉價品若クハ劣等品ニ對シ、從量稅ヲ賦課スルコト、爲レド、之ト同樣ノ目的ハ下級品ニ對シテハ一定率ノ從量稅ヲ課シ、高級品ニ對シテ從價稅ヲ賦課スルコト、米國關稅率(一九一三年)中ノ或モノ、如ク爲スモ、亦達スルコトヲ得ベシ、卽チ

米國稅率(一九一三年)第一八〇號

特ニ此部類中ニ記載セザル砂糖ノ「キヤンデイー」及總テノ菓子……一封度ニ付キ　二仙

價格一封度ニ付キ十五仙以下ノモノ……

價格一封度ニ付キ十五仙ヲ超ユルモノ……從　價　二割五分

又撰擇稅ト同一ノ精神ヨリ出デタル他ノ方法ニハ、從價稅ヲ定ムルモ、商品ノ最低價格ヲ公定シ若クハ反對ニ從量稅ヲ定メナガラ、一定ノ從價率ニ依ル稅金額ノ最少限度ヲ定ムルコトアリ、例ヘバ次ノ如シ。

加奈陀關稅率第五九二號

車輛類中ノ或種類並ニ此項目中ノ總テノ品目ノ完成部分ニ對シ從價稅率ヲ定メ、更ニ「課稅ノ目的ノ爲メニハ無蓋ノ馬車ノ最低價格ハ五十弗タルベシ」ト定メタリ。

瑞典關稅率第八類　Aノ註解六號ニハ「機械、器具、其部分品ニシテ、重量ニ依リテ課稅スルモノヽ、稅金額ハ、特ニ規定セル場合ノ外、總テノ場合、少クモ從價五分ニ達セザルベカラズ」。

九、滑準稅（Sliding-scale duty）　トハ商品ノ市價ガ騰落スルニ從ヒ、稅率ヲ昇降セシムルモノニテ、市價低落スレバ稅率ヲ引上ゲ、市價騰貴スレバ稅率ヲ引下ゲ、生產者ヲ保護スルト同時ニ消費者ヲモ害セザラシメ、其商品ノ正常代價ヲ維持セントスルモノナリ。從來之ヲ用ヒタルハ穀類ニ限リ、嘗テ英國、佛蘭西、葡萄牙等ニ行ハレ、近代ニ至リ獨逸ニ於テモ農業救濟策トシテ之ヲ唱ヘタル者アリ、學者ノ論議ヲ生ジタルモノナレド、輸入稅ノミガ商品ノ市價ヲ左右スルモノニアラズ、且ツ此方法ハ理想ノ如キ目的ヲ達スルコト能ハザルノミナラズ、投機的賣買其他ノ弊害ヲ釀シ易キ弊アリトテ、一般ニ之ヲ斥クルニ至レリ。

第二項　從量稅其他ノ長短

一、從價稅ト從量稅　凡ソ物品ノ價格ヲ標準トシテ課稅スルハ公平ニシテ、且ツ市價ノ變動ニ伴ヒテ稅額モ亦增減スルノ利アリ。是レ從價稅ノ長所ナリト雖モ、嘗テ述ベタルガ如ク、商品ノ價格ニハ產地ノ買價モアレバF·O·Bモアリ又輸入地ノ市價モアリ、其他包裝ヲ含ムヤ否ヤノ問題モアリテ、我邦ノ如ク漠然輸入地ノ價格ト定メタル國ハ固ヨリ、米國ノ如ク精密ニ規定シタル國ニ於テモ、價格決定上ノ困難少カラズ。輸入者ヲシテ仕入書等、價格證明ノ書類ヲ差出サシムルモ、虛僞ノ申告ヲ爲シ、仕入書ヲ僞造シテ脫稅ヲ圖ル者モ珍シカラズ、（我邦ノ如キモ、眞ノ送狀、販賣用ノ送狀及ビ稅關用ノ送狀トノ三通ヲ作ル者少カラズト云フ）正直ノ者ニ重ク課スルノ不公平ヲ生ズルノミナラズ、政府ノ收入モ亦減少スルノ缺點アリ。米國ノ如キハ此弊ヲ防ガンガ爲メ、送狀ニ輸出地駐在米國領事ノ證明ヲ要スルノ方法ヲ採リ、且ツ廉價ニ申立ツルヲ妨グル爲メ、稅關ニ貨物買收ノ權ヲ與ヘ、別ニ評價人ヲ選ミテ評價セシムルコトヽ爲シタレドモ、（我邦ニモ此規定アリ）猶リニ買收權ヲ行フハ實際上不便且ツ專斷的ナルノ缺點アリ。又評價人ノ人選モ容易ナラザルガ故ニ、豫期ノ如キ正當ノ評價ヲ得ル能ハズ。而シテ從價稅制度ニ於テハ、貨物ノ評價、稅額ノ決定一ニ稅關官吏ノ鑑定ニ依ルモノナルガ故ニ、曾ニ多數ノ專門的官吏ヲ要スルノミナラズ、輸入者ハ豫メ稅額ヲ知ルコト能ハズシテ不安ノ地位ニ立チ、又不正ナル稅吏ニ贈賄シテ互ニ私利ヲ圖ルコトナキヲ保セズ。米國ノ如キハ此弊ヲ避クル爲メ、非常ノ高給ヲ與フル稅務吏ヲ任用シ、徵稅費用少カラズト云フ。然ルニ從量稅ハ重量容積等、容易ニ量リ得ベキモノヲ標準ト

爲スヲ以テ、多少品質若クハ數量ヲ僞ルノ弊ナキニアラザルモ、徵稅上ノ困難ハ比較的少ク、徵稅上頗ル便宜ナルノ長所ヲ有スルモ、價格ノ高低ニ從テ稅額ヲ輕重スルコト能ハズ、一般ニ劣等品ニ重課スルノ缺點アリ。但シ品質ニ依リテ稅率ヲ分チ、下級ヨリ上級ニ進ムニ從ヒ稅率ヲ高ムルトキハ、略此缺點ヲ補フコトヲ得ルモ、是レ亦一方ニ於テ稅率ノ分類ヲ煩雜ナラシムルノ缺點ナキニアラズ。要之課稅ノ法則ヨリ觀察スル時ハ、從價稅ヲ可トスベキガ如クナルモ、此長所ハ到底徵稅上ノ大不便ヲ補フ能ハザルヲ以テ、多少ノ不公平、煩雜ヲ忍ンデモ、尙ホ從量稅ヲ採ルベキモノトセザルベカラズ、然レドモ貨物ノ種類ニ依リテハ、從量稅ノ不公平ヲ忍ビ能ハザルモノアルヲ以テ（價格ノ差若クハ市價ノ變動甚シキモノ、如シ）、是等ニ對シテハ從價稅ヲ適用スルコト、多數ノ國ノ採用セル方法ナリ。

我邦ニ於テハ、安政五年ノ修交條約ニ於テ從價主義ヲ採リ、後（慶應二年）英佛米及和蘭諸國ト締結セル改稅約書ニ於テ、從量稅（定額稅）ヲ加ヘ、明治三十年ノ關稅定率法モ亦從價稅ヲ主トセシガ、（協定稅率ハ從價率ヨリ從量率ニ換算セリ）三十九年ノ改正ニ於テ、從來ノ主義ヲ一變シ、從量稅ヲ主トスルコト、爲セリ、蓋シ一大進歩ニシテ、其後ノ改正モ亦此主義ヲ襲ヘルコト、嘗テ述ベタル所ノ如シ。

前述ノ如ク從價稅ニ在ツテハ、政府側ヨリ觀レバ、（一）平時ニ在リテモ、物價ガ漸騰スルトキハ增收ノ必要アルニ、從價稅ナルトキハ其自然增收ヲ得ベク（下落スルトキハ、歲入減少ノ弊アレド、此弊ハ比較的少シ）（二）保護ヲ加フル貨物ニ對シ、豫定ノ程度ノ保護ヲ加フルヲ得ベク、（三）納稅者ノ負擔ヲ公平ニシ、殊ニ下級品ノ課稅ヲ輕減シテ、社會政策的ノ目的ニ副ヒ易ク、（四）稅目ノ分類ヲ簡單ナラシムルコトヲ得ルノ利アリ。又納稅者ト雖モ此反面ノ利益ヲ享クルノ理ナレド、唯關稅行政上是等ノ利益ヲモ顧ルコト能ハザル弊アルヲ以テ、各國主トシテ從量稅制度ヲ採ルコト、爲レルモノトス。然レドモ是等ノ長短ハ大體物價ガ變動ナキ場合ノ比較ニシテ、物價ガ漸騰、若クハ漸落スルトキハ、自ラ趣ヲ異ニセザルヲ得ズ。

二、物價ノ騰落ト各種ノ組稅　ヲ比較センニハ、負擔ノ輕重、歲入、保護、一般物價トノ關係關稅行政等諸方面ヨリ觀察セザルベカラズ。

（甲）物價騰貴ノ場合　**（一）歲入ノ增減**　從價稅ナルトキハ歲入ヲ增加セシムルモ、從量稅ナルトキハ增加セズ、而シテ若シ物價騰貴ノ爲メ輸入額ガ減少スルトキハ、從價稅ノ場合ハ從量稅ノ場合ヨリ、減少ノ程度ヲ多カラシムルノ理ナルヲ以テ、此點ニ於テハ歲入增加ノ程度ヲ減ズルコト、爲ルベシ。

（二）負擔ノ輕重　從價稅ハ市價ノ騰貴スルト同一率ニ稅金額モ亦增加スルニ、從量稅ナルトキハ、稅金額ハ變化セザルヲ以テ、若シ輸入稅ダケ市價ヲ騰貴セシムルモノトセバ、從價稅ハ從量稅ニ比シ、騰貴ノ歩合ヲ大ナラシム。商品ノ市價ニ比例スル點ヨリ觀レバ公平ナルガ如クナレドモ、諸物價騰貴ノ際ハ、一般ニ收入ノ少キ者ホド生活難ニ陷ルヲ常トスルヲ以テ、從價稅ハ下層

階級ヲ壓迫スルコト、從量稅ニ比シ比較的多シト謂ハザルベカラズ。然レドモ此觀察ハ、課稅商品ガ米穀、石油、砂糖ノ如キ富豪モ、貧民モ同種類ノモノヲ消費スル場合ニ關スルモノナレドモ、更ニ奢澤品ト必要品トニ分チ、奢澤品ノ稅率ガ實際上高率ナルモノトスレバ、益其市價ヲ高メ、却テ富裕階級ニ重課スルコト、爲ルベシ。

(三)產業ノ保護　從價稅ナルトキハ、保護ノ目的ヲ有スル關稅ヲ高メ、其效力ヲ增加セシメ、商品ノ價格高キホド之ヲ多カラシムルモ、從量稅ニ在ツテハ、稅金額其モノハ變化セザルモ、市價ノ騰貴ニ伴ハザル爲メ、保護ノ效力ヲ薄弱ナラシムルノ弊アリ。

但シ保護ヲ要スルハ海外ノ市價ガ低落セシ場合ニシテ、海外ノ市價ガ騰貴セシトキハ、輸入稅額ヲ增加セザルモ、輸入數量ハ減少スル傾アルヲ以テ、此點ヨリ觀レバ、上記ノ影響ハ外觀ホド著シキモノニアラザルベシ。

(四)一般物價トノ關係　從價稅ハ物價騰貴ノ際、益輸入稅ヲ增加スルモノナルヲ以テ、物價ハ愈騰貴スルノ理ナルモ、從量稅ナルトキハ、物價騰貴スルモ稅額ニ變化ナキヲ以テ、物價騰貴ノ勢ヲ緩和スルノ效アリ。但シ商品ガ日用品ナルヤ否ヤニ依リテモ、此影響ヲ異ニスルコト嘗テ述ベタル所ノ如シ。(「早稻田商學」創刊號及第二卷第二號、拙稿「關稅ト物價ノ關係」參照)

從價稅ノ課稅標準ハF·O·BニセヨC·i·Fニセヨ、或ハC·i·F ヲ以テ(米國ノ新關稅法案ノ如ク、自國ノ市價ヲ標準トスルトキハ別ナレドモ)、本項ニ說ク所ハ、輸入品ノ輸出地ニ於ケル市價ガ騰貴セシ場合ニ關スルモノナレドモ、此問題ノ外、內地卽チ輸入地ノ市價若クハ諸物價ノ騰落ノ問題モアリテ、之ヲ考慮ニ入ルヽトキハ、種々ノ場合ヲ考察セザルベカラズ。例ヘバ或ル商品ノ內地ノ市價ガ依然タルカ、若クハ下向キナルニ、輸入品ノ市價ガ騰貴スルトキハ、從價稅ナレバ益內外ノ市價ノ開キヲ大ナラシメ、從テ輸入ヲ減少スルノ程度ヲ多カラシムルモ、從量稅ナルトキハ、其開キヲ少カラシメ、自然輸入減少ノ程度ヲ少カラシムルガ如シ。而シテ內地ノ市價モ共ニ騰貴スルトキハ(此傾向多シ)內地ノ市價ガ低落スル場合ニ比シテ、內外市價ノ開キニ對スル程度ハ異ルモ、大體上ニ於テハ、亦前記ノ如キ影響ヲ生ズルモノトス。

(五)關稅行政上ノ影響　從量稅ガ從價稅ニ比シ行政上容易ナルハ言フマデモナケレド、物價騰貴ノ際ニ於テハ、殊ニ此差異ヲ大ナラシムルノ傾向アリ。蓋シ物價騰貴ノ場合ニ於テハ、從價稅ハ益輸入商ノ負擔ヲ大ナラシムルヲ以テ、虛僞ノ申告、從テ不確實ナル證明書ノ提出、官吏トノ衝突、賄賂等ノ弊ヲ生ズル傾益增加スレバナリ。佛蘭西ガ大戰ノ末期ニ於テ從量稅ニ附加スルニ從價稅ヲ以テセシモ、斯ル弊ニ耐ヘズシテ、遂ニ從量稅ノ係數制度ニ改メタルハ其適例ナリ。

(乙)物價下落ノ場合　ハ前記ト正反對ノ結果ヲ生ズルガユヘニ、特ニ列記スルノ必要ナキガ如クナレドモ、次ニ要點ヲ示スベシ。

(一)負擔ノ輕重　從價稅ナルトキハ、負擔ヲ減ズルモ、從量稅ナルトキハ之ヲ增加ス。殊ニ下級

品ニ對シテ此傾多シ。故ニ單ニ社會政策上ヨリ觀レバ、物價騰貴ノ際ハ從量稅トシ、下落ノ際ハ從價稅ト爲セバ可ナルノ理ナリ。

(二)歲入ノ增減　從價稅ナルトキハ歲入ヲ減少セシムルモ、從量稅ナルトキハ此弊ナシ。

(三)產業ノ保護　從價稅ナルトキハ保護關稅ノ效力ヲ減ズルモ、從量稅ナルトキハ、其效方ヲ增加ス。殊ニ輸入品ノ市價ガ低落スルトキハ卽チ保護ヲ要スルトキナルヲ以テ、此點ニ於テハ從量稅ハ益有效ナリト謂ハザルベカラズ。

(四)一般物價トノ關係　從價稅ナルトキハ、物價低落ノ勢ヲ助長スルモ、從量稅ハ之ヲ妨グル傾アリ。

(五)關稅行政上ノ影響　從價稅ノ因習的弊害ヲ緩和スルモ、從量稅ニハ著シキ影響ナシ。

(丙)複合稅ト物價　複合稅ハ從量稅ト從價稅トヲ結合セルモノナルヲ以テ、物價ノ騰落共ニ相互補償作用ヲ生ズルモノトス。卽チ物價騰貴ノ場合ニ於テハ、單ニ從價稅ノミヲ賦課スル場合ニ比シ、稅金額ヲ少ラシムルト同時ニ、單ニ從量稅ノミヲ賦課スル場合ヨリモ稍多カラシメ、又物價下落ノ場合ニ於テハ、單ニ從價稅ノミヲ賦課スル場合ヨリ多カラシムルト同時ニ、單ニ從量稅ノミヲ以テスル場合ヨリモ少カラシムルコト、爲ルナリ。但シ從價ノ步合ヲ何程トシ、從量ノ金額ヲ幾何ニ定ムルヤ、換言スレバ、兩稅中孰レヲ主トスルヤニ依リテ、影響ヲ異ニシ、從量ノ分量多ケレバ、從量稅ニ類スル影響多ク、從價ノ分量多ケレバ、之ニ反スルコト、爲ルハ言フヲ俟タズ。

今假リニ百斤ニ付キ平均價格五拾圓ノ商品アリトシ、基礎稅率ヲ二割トシ市價ガ拾圓ヅヽ、騰落スルモノトシテ、從價稅、從量稅、並ニ複合稅（從價半額、從量半額トス）ノ金額各幾何ニシテ、從量稅及複合稅ノ金額ハ從價何程ニ當ルヤヲ見ルニ次ノ如シ。

從價稅從量稅及複合稅ノ比較表

商品ノ市價(100斤)	從價稅	從量稅		複合稅		
	稅金額(20%)	從價步合	從量步合	稅金額(5圓+1%)	從價步合
10圓	2圓	10%	10圓	5+ 1= 6圓	60%
20	4	20	10	5+ 2= 7	35
30	6	33⅓	10	5+ 3= 8	26⅔
40	8	25	10	5+ 4= 9	22½
50	10	20	10	5+ 5=10	20
60	12	16⅔	10	5+ 6=11	18⅓
70	14	14⅓	10	5+ 7=13	17⅐
80	16	12½	10	5+ 8=13	16¼
90	18	11⅑	10	5+ 9=14	15⅗
100	20	10	10	5+10=15	15

【備考】此表ノ市價ハ暗号カラシメンガ爲メ、等差級數的ニ上下セシメタルヲ以テ、從量稅モ亦寸分稅モ市價低落ノ場合、著シキ差ヲ以テ稅率ヲ增加スレドモ、之ヲ等比級數的ニ改メ、例ヘバ二割低落スルモノトセバ、即チ五十圓ヨリ四十圓、三十二圓、二十五圓六十錢ノ如ク下落スルモノトセバ、稅率ノ增加ハ斯ノ如ク著シカラザルヲケナリ。

撰擇稅ハ從價稅及從量稅ノ中、稅金額ノ多キモノヲ賦課スルヲ以テ、市價騰貴ノトキハ從價稅ヲ用ヒ、下落ノトキハ從量稅ヲ用フルコト、爲リ、從テ其結果ハ前表ニ依リテ知ルコトヲ得ベシ。

第三項　稅率表ノ分類

一、稅率表　(Tariff) トハ我邦ノ關稅定率法附屬稅表ノ如ク、課稅貨物ヲ列擧シテ、各稅率ヲ揭ゲタルモノニシテ、普通國定稅率ノミヲ示スヲ以テ、協定稅率ノ品目アル場合ニハ、之オモ併記セザレバ完全ナル關稅表ト稱スルヲ得ザレドモ、一般ニ國定稅率表ヲ指スヲ常トス。而シテ稅率表ニハ輸入稅率表 (Import tariff) ト輸出稅率表 (Export tariff) ノ二種アレドモ、現今輸出稅ヲ存スルハ少數ノ半開國ニ限ルヲ以テ、關稅々率ト云ヘバ、多ク輸入稅率表ヲ指スコト、嘗テ述ベタル所ノ如シ。

二、稅率表分類ノ目的　凡ソ輸入貨物ノ種類ハ千差萬別ナルヲ以テ、雜然數百千種ノ稅率ヲ列記スルトキハ、輸入者ハ固ヨリ、立法者ニ於テモ不便少カラズ。是ニ於テカ種々ノ標準ニ依リテ分類セラル、ヲ常トスルモ、單ニ商人ノ便宜ノミヲ主トスレバ、或ハ「イロハ」順、若クハ「A・B・C」順ニ列記スコト便ナルベク、又稅率討議ノ上ヨリ觀レバ、類似品ヲ一括スルヲ可トスベキモ、關稅ニハ歲入ヲ得ル外、產業保護ノ目的モアリ、又稅率協定上ノ政略モアリテ、單純ニ右ノ如キ標準ニノミ依ルコト能ハザルナリ。

三、稅率表分類ノ標準　稅率表ノ品目ヲ分類スル標準ニハ次ノ如ク種々アリ、稅率ノ數モ露西亞、南亞聯邦ノ如ク二百內外ニ止マルモノアレバ、日本、米國、佛蘭西、墺地利ノ如ク六百五十以上ノモノアリ、其他諸威、加奈陀ノ如ク七百五十餘、獨逸ノ九百四十六、更ニ多キハ秘露ノ三千四百十八、「ポリヴィア」ノ三千五百八十七ニ及ブモノアレバ、又「階級稅率」ヲ採ル國ニハ「ヴエネズエラ」ノ如ク僅々九種ノ稅率ヲ定メタルモノアリ、區々ニシテ一定セザレドモ、歐米各國共ニ、品目ノ細分ハ益增加スルノ傾向アリトス。

(甲)　稅率ヲ標準トスルモノ卽チ「階級稅率」(Class rate)　此方法ハ先ヅ稅率ヲ數種若クハ數十種ノ階級ニ大別シ、然ル後商品ヲ其孰レカニ屬セシムルモノニテ、南米諸國中ニハ尙ホ此方法ニ依ルモノアリ、「ヴエネズエラ」、「イクワドル」、一九一三年十二月マデノ「コロンビア」ノ如キハ其適例ナリ。此制度ハ商品ノ所屬階級ヲ定ムルモ、尙ホ其明カナラザルモノ多ク、其決定ハ臨機政府之ヲ行フヲ以テ、紛爭絕ユルコトナシト云フ。

(一)「ヴエネズエラ」……ニ於テハ、稅率ヲ九階級ニ分チ、一級品ニ對シテハ、總量一基ニ付キ〇・〇五「ボリヴアー」ヲ賦課シ、漸次增加シテ、九級品、一基ニ付キ二〇「ボリヴアー」ニ至ル。一九一二年七月ノ法律ハ、何等商品ノ品質、材料等ニ依ラズ、漠然分類セシガ、一九一五年七月ヨリ、是等ヲ考案シテ分類スルコト、爲セリ。而シテ此他商品ノ品質若クハ材料ニ依リ、從價又ハ從量ノ附加稅ヲ課シ得ルコト、爲シ、(一般的附加稅ノ外)以テ伸縮力ヲ有スルコト、爲セリ。

(二)「イクヲドル」……ニテハ(一九一二年)稅率ノ階級ヲ三十八種ニ分チ、第一級ヲ禁制品、第二級ヲ免稅品ト爲シ、第三級以下ハ總量一基ニ付キ一仙ヨリ六十「サツヤー」ニ至ル。

(乙)　商品ヲ標準トスルモノ　ニモ亦(a)單ニ形式的ニA·B·C順ナドニ依リ分類スル方法ト(b)實質的ニ、材料、內容、用途、若クハ加工ノ程度等ニ依リテ分類スル方法アリ。形式的方法ハ素人ニモ直ニ所要ノ稅率ヲ求ムルコトヲ得セシメ、又商品ノ類似性ヲ求ムルノ困難ナク、且ツ討議ヲ避クルコトヲ得ル利益(ナルト同時ニ其缺點ナレド)アリ、「獨逸ノ如キモ嘗テ之ヲ用ヒタルコトアリ、又支那ノ如ク單ニ歲入ヲ目的トスル均一五分稅ナルトキハ、便宜ナランモ、何等商品ノ實質ニ觸レズ、從テ關稅賦課ノ他ノ目的ニ適合セザル此ノ如キ分類法ハ、不合理ナリトシテ、一般ニ之ヲ用ヒザルニ至レリ。但シ一種類ノ商品中ニハ、A·B·C順ニ列記スルコトナキニアラズ。

然ラバ實質的ニ類似性ヲ標準トスルモノトシテ、扱孰レニ依ルベキヤト云フニ、單ニ仕上、材料、用途等一個ノ標準ノミニ依リテ分類スルトキハ、種々ノ困難ヲ生ズルヲ以テ、各國種々ノ標準ヲ併用スルヲ常トス。例ヘバ仕上ノ程度ヲ標準トシ原料品、半製品、製成品ノ如ク大別スルモ、食料品ヲ是等三種中ニ分配スルハ不便ナルベク、サレバトテ、往々試ミラルヽガ如ク、食料品外前記三種ト爲セバ、用途ト仕上トヲ併用スルコト、爲リ、又原料品、半製品等ノ區別モ往々明カナラズ、且ツ品目細別上ノ困難モ之アルヲ以テ、單ニ之ノミヲ用フルコト能ハズ。然ラバ材料ヲ標準ト爲サバ如何ト云フニ、是亦相當ノ理由モ便宜モナキニアラネド、單ニ材料ガ同一ナリトノ理由ニノミ依リ、餘リ用途ヲ異ニスル物品ヲ同一率ニ取扱フコト能ハズ、又混合材料ヨリ成ルモノ、如キハ、孰レニ屬セシムベキヤ判定ニ苦シムコトアリ。用途ヲ採レバ材料ヲ異ニスルモノオモ、同一率ニ包含セシムルコトヲ得ベキモ(是レ必ラズシモ公平ナラザレド)、特質ノ乏シキ貨物ハ種々ノ用途ヲ有スルガ如キコトアリ。更ニ油、紙、砂糖ト云ヘル如ク商品ノ實質ノミニ依ルモ不公平ヲ免レザルヲ以テ、遂ニ各種ノ標準ヲ採ルコト、爲ルニ至リタルモノトス。例ヘバ獨逸ノ如キハ編成者ハ最モ理想的ニ作成シ、經濟的類似性ヲ基礎トシ、同一又ハ類似ノ原料品ヲ造リ、若クハ、之ヲ用フルモノ、又ハ是等ノ原料品ヨリ成レル半製品ヲ造ルモノハ、勉メテ之ヲ集メ、先ツ植物性並ニ動物性ノ原料品ヲ第一類トシ、鑛物性ノ原料品ヲ第二類ト爲シ、第三類ヨリ第十九類ニ至ル各種ノ商品ハ、最モ簡單ナル製造品ヨリ、最モ精巧ナルモノニ至ル、アラユル工業製品ヲ網羅スト稱スルヲ以テ、卽チ仕上ト用途トヲ併用シ、原料品ハ材料ニ依リタルモノナリ。佛蘭西モ亦大體獨逸ニ類シ、先ヅ輸入品ヲ大別シテ動物性產物、植物的產物、鑛物並ニ製造品ノ四種ニ大別シ、更ニ之ヲ三十四種ニ細別シ、其第十八類以下ニ各種ノ製造品ヲ網羅セシガ、各種ノ品目モ亦、用途、材料等ニ依リテ區別シタリ。我邦ノ稅率表ハ第一類生活力ヲ有スル植物及動物ヨリ第十七類雜品マデ十七種ニ大別セルコト、表ノ示ス所ナルガ、各種ノ標準ヲ用ヒタルハ、一見知ルコトヲ得ベシ。而シテ各國此ノ如ク種々ノ標準ニ依リテ、稅目ヲ分ツモ、孰レニモ、屬セシムルコト能ハザル如キモノ多々アルヲ以テ、之ヲ終末ノ分類トシ「雜品」(Miscellaneous)「特ニ列記ナ

キ諸貨物」(Articles not otherwise mentioned)、若クハ「種々ノ原料ノ製造品」(Manufactures of various materials)等トシテ一括スルヲ常トス。

四、商品ノ細別　稅率表上ノ各商品ヲ細別スル目的ハ、一ハ從量稅ノ不公平ト從價稅ノ累進的ナラザル缺點ヲ補フニ在ルモ、主タル目的ハ、稅率協定ニ當リ、成ルベク特惠ノ範圍ヲ限定センコトスルニ在ルコト嘗テ述ベタル所ノ如シ。而シテ最初ハ品質又ハ名稱ニ依リ、或ル商品ヲ他ノ商品ト區別スルニ止マリタルガ、商品中ニハ單ニ斯ル分類ノミヲ以テ滿足スルコト能ハザルモノ、例ヘバ砂糖、礦物、絲類、織物ノ如キモノノ少カラザルヲ以テ、漸次分量的分類ヲ試ムルニ至レリ。分量的分類ノ標準中ニモ亦種々アリテ、其中重量、長、幅、高サ等ヲ以テ區別スルモノハ比較的容易ナレドモ、比重(米國ノ麥酒、我邦ノ礦油ノ一部)抵抗力(佛蘭西ノ鐵及鋼ノ「ケーブル」)、酒精含有量(我邦ノ葡萄酒、「シヤンパン」)、標準見本又ハ結晶ノ度合(砂糖)、經緯ノ數(織物)ニ依ルモノハ、相當ノ器械ヲ用ヒテ區別セザルベカラズ。我邦、佛蘭西、瑞西、伯剌西爾等ノ織物ノ如キハ、最モ複雜ナルモノ、適例ニシテ、呉服商人ト雖モ、例ヘバ金巾、更紗等ハ就レノ部類ニ屬スルヤヲ知ル事能ザルナリ。是レ想フニ細別主義ノ弊害ナレドモ、前記ノ如キ理由ニ依リテ、斯ノ如キ傾向ヲ有スルニ至レリ。固ヨリ保護主義ノ濃厚ナル國ニ於テハ必要多キヤ言ヲ俟タズ。

(一)織物…　我邦ニ於テハ、例ヘバ綿織物(二九八番)ノ中平織布ヲ(甲)生地ノモノ、(乙)單ニ漂白シタルモノ、(丙)其他ノ三種ニ大別シ、(甲)ヲ百平方「メートル」ノ重量(「キログラム」)ニ依テ五種ニ分ツコト次ノ如シ

(甲ノ一)……五基以下　(甲ノ二)……十基以下　(甲ノ三)……二十基以下　(甲ノ四)……三十基以下　(甲ノ五)……其他

更ニ此各號ヲ、五粍平方内ニ於ケル經緯ノ絲數ニ依リ五種ニ分ヲ各料率ヲ異ニス。

(イ)十九以下　(ロ)二十七以下　(ハ)三十五以下　(ニ)四十三以下　(ホ)其他

伯剌西爾ニテハ(四七二番)特ニ揭ゲザル平地及紋織ノ織物ノ稅率ヲ定ムルニ、經緯ノ絲數二十(15×15)ヲ標準トシ、一平方「メートル」ノ重量ハ八・五基ヲ有スル金巾ヲ輸入スルモノトセバ、次ノ如キ計算ニ依リ、一平方「メートル」ニ付六十八「グラム」ノ稅率ヲ賦課セラレ、品質ノ上ルニ從ヒ稅率ハ低下スルコト、爲ルナリ。

$$\frac{85 \times 20}{25} = 68\text{グラム}$$

現今ノ工業製品ハ漸次標準化スルノ傾向アルヲ以テ、各國ノ稅率表中ニモ商業上ニ用ヒラル、標準ヲ用ユレバ貿易上、竝ニ稅率交涉上便宜少カラザレドモ、重要商品ニテハ、砂糖ト絲類ヲ除キテハ、之ニ依ルモノ稀ナルガ如シ。

砂糖……ハ、和蘭標本(The Dutch standard)若クハ歩止リ(Yield)即チ結晶ノ度合(Polarisation)ニ依ル。我邦ヲ始メ支那、瑞典、葡萄牙ノ如キハ和蘭標本ヲ用フルモ、後者ニ依ル國多キガ如シ。

絲類……ハ英番手(English counts)若クハ佛番手即チ「メートル」式番手(Metric counts)ヲ用フ。綿絲ハ、日本、英國、米國並ニ獨逸、瑞典、露西亞、瑞西、希臘、「ブルガリア」、西班牙、葡萄牙等、佛蘭西、白耳義、伊太利等ヲ除キタル歐羅巴諸國ニ於テハ皆英番手ヲ用ヒ、麻絲モ亦英番手ヲ用フル者多キモ、毛絲ハ「メートル」法ニ依ルモノ多キガ如シ。

稅目ノ細分セラルヽハ多ク從量稅ニシテ、從テ品質若クハ數量ニ依リテ區別スルヲ常トスルモ、往々從量稅ニシテ價格ニ依リ、又從價稅ニシテ數量ニ依リテ細則セラルヽモノ之ナキニアラズ、獨

逸ノ馬ノ稅率（一〇〇番）ハ前者ノ例ニシテ、米國ノ「レース」ノ窓掛ノ稅率（二六五番）ハ後者ノ例證ナリ。

五、商品ノ分合　我邦始メ各國ノ稅率表ヲ見ルニ、相類スル商品ヲ一括シテ、一稅率ヲ定メタルモノアレバ、又之ヲ各別ニ列記シタルモノアリ。例ヘバ我邦ノ稅率表ニ於テモ豆類ノ如キハ、各別ニ稅率ヲ定ムルモ、葡萄酒（六四番）ト總稱シテ、其中ニ「シエリー」「ヴエルモット」等ヲ包含セシメタルガ如キ類多々アリ。細別スルモノハ、商品ガ重要ニシテ、品質ノ區別モ亦著シキ爲メナレドモ、此點ヨリ觀ルモ、單ニ稅率表ノ番號ノミニ依リテ、稅率其モノ、數ヲ判定スルコトノ能ハザルヲ知ルベシ。南米諸國ノ如キハ各品目毎ニ一稅率ヲ明記スルモ、我邦及米獨諸國ニハ包括的ノ項目少カラザレバナリ。殊ニ斯レノ國ノ稅率表中ニモ、諸品目ノ末號トシテ「其ノ他」（Not otherwise provided for）ト稱スル包括的項目（Blanket clauses）ヲ有スルモノ少カラザルヲ以テ、其品目ニ近キ種々ノ商品ハ、此一項ニ依リテ、廣ク網羅セラル、コト、爲ルナリ。

第四項　無稅品及禁制品

一、有稅品ト無稅品　有稅品（Dutiable goods）トハ一國歲入ノ必要、產業保護等ノ目的ヨリ關稅ヲ賦課セラルヽノ商品ニシテ、無稅品（Free goods）トハ產業、文化、通商、外交、軍事其他種々ノ目的ヨリ、關稅ヲ賦課セザル商品ヲ總稱ス。而シテ有稅無稅ノ區別ハ、各國共ニ稅率表、其條文、並ニ條約等ニ於テ之ヲ明カニスルヲ常トスルモ、若シ何等明記ナキ商品アルトキ、例ヘバ（一）代用品（二）新規ノ商品（三）稅率表ノ分類ニ符合セザル商業上ノ名稱ヲ有スルモノアルトキハ、如何ニ之ヲ取扱フベキカ。之ニ關シテ各國ノ主義ヲ窺フニ、大體不明品ニモ課稅スル主義（包括主義）ト不明品ヲ免稅スル主義（除外主義）トノ二種アレドモ、保護主義ヲ採ル國ノ多キ現今ニ於テハ、包括主義ヲ採ルモノ多キガ如シ。

上記孰レノ主義ヲ採ルモ、之ヲ法規ニ定ムルニ當リ、先ヅ關稅法ノ條文中ニ大體ノ主義ト施行方針トヲ示シ、然ル後稅率表中ニモ記載スルモノアリ。或ハ佛蘭西ノ如ク、全然現行法上ノ明文之ナキヲ以テ、沿革上ヨリ撰定スル外之ナキモノアリト雖モ、成ルベク之ヲ明定シ、包括主義ノ場合ニハ出來得ル限リ稅率表中ニ揭ゲ、不明品ノ範圍ヲ縮小セシムルヲ可トス。

包括主義ヲ採リ非列擧品アリタル場合、如何ナル稅率ヲ適用スルヤハ、國ニ依リテ同ジカラズ、或ハ一九〇七年ノ加奈陀ノ關稅法（七一一番）ノ如ク、均一ニ一割七分五厘（英國品ニ對シテハ、一割五分）ヲ賦課スルモノアレバ（南阿モ亦均一ニ一割五分ヲ賦課ス）、又米國ノ如ク、稅率表ニ揭グラレザル商品ハ、材料、品質、組織、又ハ用途ニ關シ、相類スル有稅品ノ稅率ヲ適用シ、若シ二種以上ノ商品ニ類セルトキハ、其中最モ高キ稅率ヲ有スル商品ト同一率ヲ賦課ストシ、所謂「類似規定」（Similitude rule）ヲ設クル者アリ。是レ亦保護主義ニ便ナルヲ以テ、各國此方法ヲ採用スルモノ多キガ如シ。

我邦ノ定率法ハ、第一條ニ於テ「外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス」ト定メテ以テ、包括主義ヲ明カニシ、更ニ稅率表ニ於テ各類（「植物及動物」等ノ）ニ於テ「別號ニ揭ゲザル動物」（一一番）、「別號ニ揭ゲザル飮食物」（六七番）等ノ所謂包括項目ニ依リテ、稅表ニ列擧セザルモノヲ網羅シ、最後ノ稅目（六四七番）トシテ「別號ニ揭ゲザル物品」トシテ、（一）未製品（一割）、（二）其他（貴金屬、貴石、眞珠、珊瑚、象牙又ハ鼈甲等ヲ用ヒタルモノハ五割、其他ハ三割五分）ト定ムルヲ以テ、是亦大體類似規定ヲ用ヒタルモノナリ。

【註】混成品（Mixed goods）（卽チ二種以上ノ材料ヨリ成ル商品ニ對シ、孰レノ稅率ヲ適用スルヤハ、各國關稅立法ニ當リテ困難トスル所ナルガ、大體之ニ關シテハ（一）各別ニ稅率ヲ適用スル主義ト（二）重ナル材料ノ稅率ヲ適用スル主義トノ別アリ。多クハ主要材料ヲ標準ト爲スモノト、如シ。米國關稅法（一九一三年）ノ如キハ其一例ニシテ、若シ非列擧品ニシテ二種以上ノ材料ヨリ成ルモノアルトキハ、全部主タル價格ノ材料ヨリ成ルモノト看做シ、就中最高ノ稅率ヲ適用ス、並ニ主タル價格ノ材料（Component material of chief value）トハ、其商品ノ材料中最大ノ價格ヲ有スルモノヲ云ヒ、各材料ノ價格ハ、其商品ヲ組成スル現狀ニ依リテ決定ス。而シテ輸入品中二種以上ノ稅率ヲ適用スベシ」（意譯）ト爲セリ。伯剌西爾ノ如キモ亦主要材料ヲ標準ト爲スモ、交織物（Mixed tissue）ニ關シテハ、特ニ詳密ナル規定ヲ設クルコト、爲セリ。

完成品ト部分品（Wholes or parts）關稅法ニ於テ商品ニ依リ部分品ノ稅率ヲ低下スルハ各國ノ通則ニシテ、其目的ハ內國ノ加工工業（Finishing industry）ヲ保護スルニ在ルモ、之ガ爲メ脫稅ヲ促スノ虞アルヲ以テ、各國種々ノ規定ヲ設ケテ之ヲ防ギ居レリ。例ヘバ次ノ如シ。

濠洲……有稅品ガ二種若クハ三種ノ部分ヨリ成ル場合、之ヲ各別ニ輸入スルモ、政府ノ命令ニ依リ、完成品ト同一稅率ヲ賦課スルコトヲ得。

西班牙……同一稅關若クハ數箇所ノ稅關ニ依リ、稅率表中ノ或商品ノ部分品ヲ輸入スル者アルトキ、稅關ニ於テ脫稅ノ目的ヲ有スルモノナルコトヲ證明シ得ルトキハ完成品ノ稅率ヲ賦課ス云々

墨西哥……ハ前記ト反對ニ「稅率表中ニ記載セル物品ヨリ成ル或ル製造品ヲ輸入スルトキハ、假令一包裝中ニ結合シ、各品ニ對シ、各別ニ申告書ヲ提出スルモ、重量ヲ知リ得ル限リ、各別ノ稅率ヲ適用スベシ」ト爲セリ。

日本……ニハ（甲）完成品ト部分品トヲ區別スル場合ト（乙）是等ヲ同一率ニ包含セシムル場合トノ二種アリ。例ヘバ次ノ如シ。

（甲）時計類、蓄音器、樂器、自動車、自轉車、寫眞器等

（乙）鐵盤、臺秤、活動寫眞器、幻燈器等

然レドモ、特ニ之ニ依ル脫稅ヲ防グ規定ヲ缺クヲ以テ、此種ノ脫稅頗ル多キガ如シ。

二、無稅品

ヲ大別シテ絕對的無稅品及條件附無稅品ノ二種ニ大別スルコトヲ得。絕對的無稅品トハ何人ガ何ノ爲メニ輸入スルモ課稅セザルモノニシテ、普通ノ商品ノ「無稅」ハ多クノ之ニ屬シ、米國、南阿ノ如ク、特ニ一表中ニ收ムルモノナキニアラズト雖、我邦始メ、佛、獨、露、伊加、濠ノ諸國ハ一般稅率表中、類似ノ商品ト共ニ揭グルモノ多キヲ占ム。是等ノ商品ハ各國產業ノ保護（例ヘバ原料品ノ無稅）、社會政策（食料品ニテ、之ハ一方工業ノ保護ニモ影響ス）、學術技藝ノ奬勵（書籍、新聞雜誌、地圖、書畫等）其他種々ノ政策上ヨリ、元來課稅スベキ商品ニ對シ、歲入減少ヲ犧牲トシテ免稅スルモノナルヲ以テ、國ニ依リテ品目ヲ異ニスルハ勿論（尤モ保護主義ノ國ニ於テ原料品ヲ無稅又ハ減稅ト爲ス點等ハ共通ナレド）同一國ニ於テモ、政策ノ變遷ニ依リ、臨時變更セラルヽモノトス。

條件附無稅品ハ我邦ノ免稅品ニ當リ、商品ノ種類、用途、輸入者、分量、其他ノ條件ニ依リ、特ニ免

稅セラレ、多クハ各國ノ通義ニ依リ課稅セザルモノニシテ、我邦ノ關稅定率法第七條ニ列記セラル、御料品、軍艦、外交官ノ物品、商品見本、旅客用品等ハ其適例ナリ。

(一)商品ノ種類ニ依リテ免稅セラルモノハ、例ヘバ我邦ノ軍艦、記錄文書其他ノ書類等ニシテ、是等ハ一般稅率表ニ揷入シ得ベキモノナリ。

(二)商品ノ用途ニ依ル免稅品ハ見本用商品、輸出品ノ容器、學校ノ標本又ハ參考品、旅客用品及其職業上ノ器具、外交官ノ自用品、慈善又ハ救恤ノ爲メノ寄贈品ノ如シ。

【註】商品ノ見本　ハ各國無稅トスルヲ通則トスルモ、若クハ毀損シテ使用又ハ販賣スルコトヲ得ザラシメ、之ヲ口實トシテ脫稅スルヲ防ガンガ爲メニ、或ハ分量ノ限度ヲ定獨逸ノ關稅法(一九〇六)……見本用「カード」及見本類ニシテ、單ニ見本ニノミ用ヒ得ルニ止マルモノハ、食料品又ハ消費品ノ見本ヲ除キ(但シ珈琲、「コーア」、砂糖、生煙草、乾果ニシテ、郵便ニテ輸入シ、重量三百五十「グラム」迄ノモノハ之ヲ含ム)無稅トス。

智利……ノ關稅率(一九一六年)第一七七四號……商品ノ見本ニシテ、輸入稅二「ペソ」以內ノモノハ無稅トス。

伯剌西爾……無價値又ハ些少ノ價値ニ止ル商品ノ見本ハ之ヲ無稅トス。茲ニ無價値又ハ些少ノ價値ノ見本トハ、商品ノ斷片又ハ一部分ニシテ、單ニ其性質、種類及品質ヲ現ハスニ、嚴格ニ必要ナル分量ニシテ、各包裝ニ付キ稅額千「レイス」以內ノモノニ限リ、且ツ稅關ハ必要ト認メタル場合、保證狀ヲ差出サシムルコトヲ得ルノ規定アリ。

佛蘭西……ノ方針ハ無價値ノ見本ノミヲ無稅トスルヲ以テ、布帛製品、例ヘバ手巾ノ如キモノハ、特ニ無價値ト爲ス爲メ、之ヲ毀損セシムル定メニシテ、其他稅金額又ハ商品ノ價格ニ相當スルモノヲ信託シ、六箇月以內ニ輸出スル約束ノ下ニ、無稅輸入ヲ許スコトアリ。米國モ亦之ニ類スル規定ヲ有ス。

日本……關稅定率法第七條ノ十三ニ單ニ「商品ノ見本、但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル」ト定メ、分量ノ限度其他ノ條件ヲ缺クヲ以テ、是亦脫稅ヲ誘フ弊アルガ如シ。

此他用途ニ依ル無稅品又ハ減稅品ハ各國ノ稅率表中ニ少カラズ、例ヘバ加奈陀ニ於テ、或製造業者ガ、自己ノ工場ニ於テ使用スル爲メニ輸入スル某々商品ヲ減稅又ハ無稅トシ、獨逸ガ造船用ノ材料ヲ無稅トシ、伯剌西爾ガ、農業用機械、鑛山用商品等ヲ免稅スルガ如キ、我邦ガ原料品トシテ使用スル砂糖、亞鉛、大豆、落花生等ヲ免稅シ、栽植用又ハ接木用ノ植物、枝、乾、莖及根ヲ無稅トシ、特ニ何々用ト明記セザルモ、棉花、羊毛、生ゴム、「コルク」樹皮等ノ工業用材料、農業上必要ナル肥料、穀、米糠等ヲ無稅ト爲スハ、畢竟同一趣旨ニ基クモノナリ。

(三)輸入者ニ依ル免稅品ハ、例ヘバ陸海軍、政府、移民(加奈陀)ノ輸入品中ノ或モノ、如キモノニシテ、前項ニ含マシメタル學校、外交官、旅客ノ輸入品等モ亦此部ニ加フルコトヲ得ベシ。

(四)分量ニ依ル免稅品ハ例ヘバ獨逸ノ關稅法(一九〇六年)ニ於テ(一)小包郵便ニ依ル輸入品ガ、重量二百五十「グラム」以下ナルトキ、(二)重量ニ依ル課稅品ニシテ、重量五十「グラム」以下ノモノ(三)稅金額五布未滿ノモノヲ免稅スルガ如シ。

(五)生產方法、輸入方法等ニ依ルモノハ、例ヘバ我邦ニ於テ「本邦ヨリ出漁シタル船舶ヲ以テ捕獲採取シタル魚介類、海獸、海藻其ノ他ノ水產物及其ノ製品ニシテ、工程ノ簡單ナルモノ、但シ當該船舶又ハ之ニ附屬セル船舶ヲ以テ、輸入シタルモノ」ハ之ヲ免稅スルガ如シ(定率法第七條ノ十九)。

三、一時的無稅品　モ亦一種ノ條件的無稅品ナレドモ、前記各種ノ免稅品ト異リ、期間ニ關スル條件ヲ含ムモノニシテ、例ヘバ我邦ニ於テ加工ノ爲メ、修繕ノ爲メ若クハ學術研究ノ爲メ、一

時輸入スルモノ、輸出貨物ニシテ輸出當時ノ狀態ニテ、五箇年以内ニ再輸入スルモノ、保稅倉庫若クハ保稅工場ノ入庫品ノ如キモノヲモ含ムモ、保稅倉庫等ハ拙著「倉庫論」(昭和二年改訂)ニ讓リ、茲ニハ次ノ二種ヲ說明スルコトヽスベシ。

(一)期節的免稅品トハ年內ノ或期間內ハ一定ノ輸入稅ヲ賦課シ、或期間內ハ之ヲ免稅シ、依テ以テ生產者ヲ保護スルト同時ニ消費者ヲモ保護セントスルニ在リ。其實例稀ナレドモ、獨逸ノ馬鈴薯及果實ノ如キハ其例ナリ。

獨逸稅率第二十三號……生鮮ナル馬鈴薯

二月十五日ヨリ七月三十一日マデ	二・五〇馬克又ハ一馬克
八月一日ヨリ二月十四日マデ	無稅

生鮮ナル果實ノ中林檎、西洋梨、楓桲(マルメロ)

九月二十五日ヨリ十一月二十五日マデ	國定稅率
十一月二十六日ヨリ九月二十四日マデ	無稅
九月一日ヨリ十一月三十日マデ	二・五〇馬克
十二月一日ヨリ九月三十一日マデ	無稅
	二・〇〇馬克

(二)臨時ノ免稅品　穀物ノ凶作其他重要商品ガ著シク缺乏ヲ告グル場合、一時其輸入ヲ免稅スル權限ヲ政府ニ與フルノ例ハ屢見ル所ニシテ、同一ノ目的ヨリ一時輸出ヲ禁止スルコト(若クハ豐作ノ場合生產者保護ノ爲メ輸入ヲ禁止スルコト)モ珍シカラザリキ。從來我邦ニ於テ勅令ニ依リ稅率ヲ低下シ得ルハ、單ニ米及籾ノミナリシモ、外國ニハ戰時其他特別ノ必要アル場合、種々ノ食料品其他ノ商品ノ稅率ヲ停止スル權限ヲ政府ニ與フルモノアリ。例ヘバ次ノ如シ。

佛蘭西……一八七年三月ノ法律ニ依リ、非常ノ場合、並ニ麵麭ノ代價ガ民衆ノ生活ヲ脅威スル程度ニ騰貴スルトキハ、政府ハ(議會閉會中ナルトキハ)大統領ガ閣議ニ上セタル命令ニ依リ、現行法ノ實施ヲ全部又ハ一部分停止スルコトヲ得ルモノトシ、更ニ一九〇六年七月ノ法律ニ依リ、佛蘭西ノ大陸的國境ニ於テ、陸軍ノ總動員ヲ行ヒタルトキヨリ、政府ハ小麥(粉共)、鹽漬ノ肉、燕麥、裸麥、乾燥シタル植物(大豆及豆)ノ關稅ヲ、全部若クハ一部分停止スルコトヲ得ルモノト爲セリ。而シテ前者ノ場合ニハ議會開會ノ際其承認ヲ得ベキコト、爲リ居ルモ、後者ノ場合ニハ之ヲ要セズ、唯成ルベク速ニ、停止稅ヲ再課スベキ義務アルノミニ止ル。

我邦平時ニ於テハ、凶作ノ場合、勅令ヲ以テ米及籾ノ輸入稅ヲ百斤ニ付四十錢マデ低減スル規定(定率法第六條)並ニ米穀ノ數量又ハ市價調節ノ爲メ必要アルトキハ、勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ、米穀ノ輸入稅ヲ增減若クハ免除シ、又ハ其輸出入ヲ制限シ得ル法律(米穀法第二條)アル外、政府ニ關稅減免ノ權限ヲ與ヘズ、大戰前ニハ米穀法モ之ナカリシヲ以テ、戰時中物價騰貴ノ爲メ生活難ノ聲高マルヤ、漸次法律又ハ緊急勅令ヲ以テ、朝鮮ヨリ移入スル、生牛、米糠、生絲等ヲ免稅シ、更ニ米及籾、大麥、小麥、小麥粉、大豆、生牛肉、鳥卵、綿織物等ノ輸入稅ヲ或ル時期マデ免除スルコト、爲セリ。先般ノ大震災ニ當リ、米穀、生牛肉及鳥卵、材木、鐵力、釘、鐵材等ノ建築材料、其他食料品、衣料等六十種ノ輸入稅ヲ免除シタルガ如キモ、亦同一趣旨ニ出ヅ。

(一)朝鮮ノ生產ニ係ル物品ノ移入稅免除(大正七年四月及大正八年四月法律四七號、法律第三七號)……之ニ依リテ免稅セラレタルモノハ、(一)生牛及生牛肉、(二)米糠(三)生糠(四)鐵ノ條、竿及板(五)鐵道用建築材料(製鐵ノモノ)(六)「コールタール」油、石炭酸、「ナフタリン」其他ノ「コールタール」分餾物及濃青ナリシガ、大正九年八月關稅法ヲ朝鮮ニ施行セシ爲メ、之ヲ廢止シタリ。

(二)米穀ノ輸入稅ノ低減又ハ免除（大正七年十月勅令「緊急勅令」第三七三號及同年同月勅令第三七四號）ニ依リ、先ヅ八年十月三十一日マデ免除セシガ、其後八年、九年、及十年ノ勅令ニ依リ、遂ニ大正十一年十月三十日マデ之ヲ延期スルコト、爲シ、更ニ十二年九月十一日ノ勅令第四〇七號ニ依リ、十三年三月三十一日マデ免稅スルコト、爲セリ。

(三)大麥、小麥及小麥粉ノ輸入稅減免（大正八年三月法律第二八號、同年同月勅令第三九號）ニ依リ、大麥及小麥ノ輸入稅ハ、大正八年十月三十一日マデ免除セシガ、其後ノ勅令ニ依リ、延期シタリ。小麥粉ノ輸入稅ヲ毎百斤一圓八十五錢ヨリ毎百斤七十五錢ニ低減セシガ、是亦

(四)大豆、生牛肉　綿織絲及綿織物（大正八年十一月勅令第四七八號ハ同九年三月勅令第五一號ニテ廢止セラレ、更ニ九年三月緊急勅令（第五二號及第五三號）ニ依リ九年十一月マデ免稅セシガ、其後ノ勅令ニ依リ、生牛肉及鳥卵ハ之ヲ延期シテ大正十二年十月三十日ニ至ラシメ、更ニ大震災ノ爲メ、十二年九月十一日ノ勅令第四〇八號ニ依リ、十三年三月三十一日マデ免除スルコト、爲セリ。

(五)生活必要品並ニ土木又ハ建築ノ用ニ供スル器具機械及ビ材料ノ輸入稅ノ低減又ハ免除（大正十二年九月十二日勅令第四一一號）先年ノ大震災ニ當リ、政府ハ先ヅ米穀、生牛肉及鳥卵ノ輸入稅ヲ免除シ、更ニ材木、板類、鍼力夜、釘其他ノ織材等ノ建築材料、魚介類、大豆、大麥、小麥粉等ノ食料品、綿絲布、毛織物等衣料品等五十七品目ヲ、十三年三月三十一日マデ免稅シタリ。

四、協定ノ無稅品　以上ハ主トシテ國定稅率ニ關シテ述ベタレドモ、協定稅率ニモ又無稅品アリテ、此場合ニモ亦次ノ二種アリ。

(一)國定稅率上ノ有稅品　ヲ條約ニ依リ無稅品ト爲ス（若クハ減稅ス）モノニテ、協定稅率ハ、主トシテ此目的ニ出ヅルモノナリ。而シテ斯ル場合、多クハ稅率ヲ減少セシムルニ止ルモ、亦全然無稅ト爲スコト之ナキニアラズ。例ヘバ我邦ガ伊太利ニ對シ、柑橘屬果實ヨリ製シタル揮發油（「オレンヂ」、「シトロン」、「バーガモツト」、「マンダリン」等ノ「エツセンス」）ヲ無稅ト爲シタル

類ナリ。

(二)國定稅率ノ無稅品　ヲ有稅品ト爲スト否トハ、一國政府ノ權限ニ屬スルヲ以テ、條約ニ依リ、其有效期間內ハ之ニ課セザル旨ヲ約スルモノニテ、我邦ガ嘗テ英國ヲシテ純絹製羽二重、同手巾等十種ノ品目ニ對シ無稅ヲ約セシメ、又現ニ伊太利ニ對シ、水銀ノ無稅ヲ約シタルガ如キハ、其適例ナレドモ、此種ノ協定稅率ハ著シキ效力ナキコト言ヲ俟タズ。

五、禁制品（Prohibited goods）　輸出入ノ禁止若クハ制限ハ、十六七世紀ノ頃、所謂重商主義ノ熾ナリシ時代ニハ、歐羅巴各國之ヲ行ヒ、又今次歐洲ノ大戰中ニモ、各國之ヲ實行シタレド、現今各國共、平時ニ在ツテハ公益若クハ公安上ノ理由ヲ原則ト爲スニ至レリ。卽チ通商ノ自由ヲ原則ト爲スニ至レリ。

禁制品モ亦絕對的禁制品ト條件附禁制品ノ二種ニ大別スルコトヲ得、絕對的禁制品トハ、衞生、風俗其他公益上ノ理由若クハ公安上ノ理由ニ依リ、全然輸入ヲ許サザルモノニシテ、「各國殆ンド共通的ニ其輸入ヲ禁止スルモノヲ謂ヒ、條件附禁制品トハ、其商品ノ產地、生產法、政府專賣等種々ノ理由ニ依リ、輸入ヲ禁止スルモノヲ謂フ。然レドモ各國共通的ニ輸入ヲ禁止スルモノ（例ヘバ特許權ヲ侵害スルモノ）ガ總テ絕對的禁制品ニアラズ、又此區別ハ嚴格ノモノニアラズト知ルベシ。而シテ禁制品ハ無稅品ト異リ、稅率表ト獨立ニ列記スル國多キモ、又佛蘭西、羅馬尼亞ノ如ク、一般稅率表中ニ收ムルモノ之ナキニアラズ。

禁制品ニハ絕對ニ輸入ヲ許サヾル種類ノモノト、特別ノ方法ニ依リテ輸入シ、政府ノ認可ヲ得タル場合ノミ輸入ヲ許可スルモノトノ別アリ。上來述ベタル禁制品ハ前者ニ屬スルモ、英國ノ稅率表ノ如キハ、前者ヲ絕對的禁制品（Goods absolutely prohibited to be imported）ト稱シ、後者ヲ制限附禁制品（Goods prohibited to be imported into the U. K. and the Channel Islands, except subject to the Restrictions on Importation herein contained）ト稱シ居レリ。茲ニハ便宜上前者ヲ普通禁制品ト呼ビ、後者ヲ特許輸入品ト稱スルコト、爲スベシ。

（甲）絕對的禁制品　ノ二、三例ヲ示スベシ。

（一）英國　ノ所謂絕對的禁制品ハ（一）「アセチリン」、（二）版權侵害ノ書籍、（三）英國製ヲ裝フ爲メ、英國ノ法定分析表、商標等ヲ附シタル模造ノ掛時計、懷中時計、其他ノ金屬製品（四）僞造ノ貨幣、（五）犬（特許シタルモノヲ除ク）（六）珈琲、「チコリー」、茶、煙草ノ「エキス」、若クハ是等ノ混合物（通過ノ爲メ、又ハ保稅倉庫ニ入庫スルモノハ除ク）、（七）猥褻ナル印刷物、繪畫、寫眞、書籍、「カード」、石版畫、其他淫猥ナルモノ、（八）傳染病ノ傳播ヲ防ガ爲メ、樞密院令ニ依リ輸入禁止ヲ行ヒ得ル、感染シタル家畜、羊、其他ノ動物、若クハ其死體、若クハソレ等ノ皮、革、角、蹄其他ノ部分、（九）嗅煙草製品、煙草ノ業柄及其粉末（商務院ノ認許シタルモノヲ除ク）、（十）機械其他　方法ニ依リ、刻ミ又ハ壓搾シタル煙草、（十一）外國ノ監獄、懲戒所等ニ於テ製作セルコトヲ證明シタル貨物（通過品、非營業品、英國內ニ於テ製造セラレザルモノハ除ク）ノ十一種ナレド、（五）及（九）ノ如キハ、寧ロ次ノ特許輸入品ニ屬スベキモノナルベシ。若シ上記ノ商品ヲ、違法ニ輸入セントスルトキハ、之ヲ沒收シ、且ツ委員會ノ命令ニ依リ棄却シ、又ハ其他ノ處分ヲ行フベシ。

英國ノ特許輸入品トハ（一）爆發物（二）不正ノ商標ヲ附シタル「スピリツツ」、（四）、煙草類（五）葡萄酒（六）兵器彈藥（七）、珈琲ノ葉（八）枯草及藁、（九）郵便切手（十）贋造切手（十一）富籤ニ關スル廣告物（十二）「サツカリン」等ニシテ、是等ヲ輸入セント欲セバ、例ヘバ相當船舶ニ依リテ輸入シ（「スピリツツ」煙草等）、或ハ特定ノ港ニ限リ（煙草類、葡萄酒、若クハ單ニ商務院ニ屆出デ（珈琲ノ葉）、或ハ一定ノ國々ノミヨリノ輸入ヲ許ス（枯草、藁）等、種々ノ條件ニ從ハザルベカラズ。

（二）米國　ニ於テモ、（一）猥褻ナル書畫、骨像、廣告其他不道德ノ性質ヲ有スル一切ノ物品、（二）懷妊ヲ妨ゲ若クハ墮胎ヲ促ス藥材（三）富籤ノ札、及其廣告ハ何人モ之ヲ外國ヨリ輸入スルコトヲ得ズ。之ニ背ク者ハ法律ノ規定ニ依リ起訴シ、差押ヘ、且ツ沒收スルモノトス。但シ（二）ノ藥品ヲ散荷ニテ輸入シ、前記ノ目的ニ使用セザルトキハ、此制裁ヲ加ヘザルモノトス。

（三）支那　ノ輸入禁制品ニハ（甲）條約ニ依リテ定マレル（一）兵器彈藥其他ノ軍需品（二）鹽、（三）鴉片ト（乙）國法ニ依リテ定マレル（一）猥褻ノ出版物（二）賭闘用ノ鳥類（三）僞造貨幣（四）銅貨（五）貨幣鑄造機、（六）空白銀行券紙等アリ。（乙）ハ多ク普通ノ禁制品ナレド、軍需品（外國駐屯軍用ノモノハ無制限無稅ノ輸入ヲ許シ、其他個人ノ自衛、外人義勇團、娛樂用ノモノハ一定ノ條件ノ下ニ、從價五分ヲ賦課シテ輸入ヲ許シ、醫藥、工學用ノ藥品ハ軍需品ノ性質ヲ有スルモ、是亦五分稅ヲ課シテ輸入ヲ許スコト、爲リ居レリ。

右ハ一般的ノモノナレド、上海海關ノ如キハ、別ニ禁制品及其例外ヲ定ムルガ如ク、他國ト趨ヲ異ニスルモノトス。

（乙）條件附禁制品　ニハ次ノ如ク種々ノ別アリ。

（一）工業所有權、著作權等ヲ侵害スルモノ　ハ我邦始メ英、米、加其他各國共ニ其輸入ヲ禁ズ。

（二）監獄ノ製作品　モ亦所謂「搾取サレタル勞力」ノ生產物ニシテ、通常ノ賃銀ヲ以テセルモノハ競爭スルコトヲ得ズトノ理由ニ依リ、其輸入ヲ禁止スル國少カラズ。英國、米國、加奈陀、濠洲、新西蘭、南亞ノ如キ、卽チ是レナリ。

（三）產業保護ノ爲メノ輸入禁止　ハ例ヘバ加奈陀ガ「オレオ、マーガリン」「バッタリン」其他「バ

ター」ノ代用品ノ輸入ヲ禁ジ、戰時中英國等ニ於テ保護貨物ノ輸入ヲ禁ジ、又我邦ガ獨逸製染料ノ中七十餘種ノ輸入ヲ制限スルガ如キハ、前記監獄ノ製作品、工業所有權侵害ノモノ、輸入禁止ノ如キモ、亦一種ノ產業保護的目的ヲ有スルモノト見ルヲ得ベシ。

(四)衞生上ノ禁制品　傳染病ノ虞アル家畜、黴菌ヲ含ム虞アル植物、其他故物ノ輸入ヲ禁止スルモノニテ、之ニ次ノ別アリ。

(A)一般的ノ禁止　トハ輸出國ノ如何ヲ問ハズ、病的ノ動物、又ハ或種類ノ植物ノ輸入ヲ禁止スルモノニテ、英、米、加、日諸國一般ニ行ハル、所ナリ、我邦ガ阿片ノ輸入ヲ禁止スルガ如キモ、亦此目的ニ外ナラズ。

植物ノ一般的禁止　ハ稀ナレドモ、亦其例ナキニアラズ。例ヘバ米國ニ於テ、純分及品質ガ劣等ニシテ、消費上大藏大臣ガ制定セル標準ニ適セザル、茶ノ如キ商品ノ輸入ヲ禁止スルガ如シ

(B)產出國ニ依ル禁止　ハ動物、植物、故物等ノ產出地ニ依リ輸入ヲ禁止スルモノニテ、例ヘバ次ノ如シ。

(1)動物……例ヘバ我邦ガ家畜傳染病法第十九條ニ依リ、當分ノ內支那、西比利亞ヨリ(又ハ之ヲ經テ)生牛ヲ輸入スルコトヲ停止シ(但シ食用ノモノニテ檢疫ヲ受ケ、直ニ屠殺スルモノハ可ナリ)又米國ガ馬、騾馬、驢馬、羊、山羊、豚ヲ亞細亞及亞弗利加ノ孰レノ國ヨリモ、米國及其屬領地ノ港ヘ陸揚スルヲ禁ジ、比律賓ヨリ總テノ動物ノ陸揚ヲ禁止シタルガ如シ。

(2)植物……布哇ヨリ發送シ又ハ布哇ニ陸揚シタル生果實、生蔬菜、其他臺灣又ハ歐米諸國ヨリ發送シ、若クハ是等ノ地ニ陸揚シタル或種ノ植物及容器包裝ニ使用シタル物ノ輸移入及收受ハ、輸出入植物取締法第七條ニ依リ、之ヲ禁止ス(大正九年八月農商務省令第二十一號)。

(3)故物……例ヘバ我邦ニ於テ(一)「ペスト」豫防ノ爲メ、現在印度、支那諸港、香港及臺灣ヨリ襤褸、古綿、古著類、古紙類、古革皮類、古羽毛類、古敷物類、古麻袋類ノ輸入ヲ禁止シ、唯特別ノ事由アリテ內務大臣ノ許可ヲ受ケタル者ノミ、之ヲ輸入スルコトヲ得ト爲スガ如シ。(明治三十三年十一月內務省令第五七四號、及大正四年二月同第二號)

英國ハ某々國ヨリ枯草及藁ヲ輸入スルヲ禁ズ。

(五)政府ノ專賣品　我邦ニテハ專賣品ニテモ輸入ヲ禁止セズ、唯例ヘバ煙草ニ對シテ禁止的高率關稅(三十五割五分)ヲ賦課スレドモ、外國ニテハ之ガ輸入ヲ禁止シ、佛蘭西ガ其專賣品タル燐寸及煙草ノ輸入ヲ禁ジアルガ如シ。

(六)調節的禁制品　現今食料品等ノ輸入ヲ禁止スルモノハ稀ナレドモ、葡萄牙ハ一九一四年ノ關稅法ニ依リ、穀物ノ輸入ヲ禁止シ、政府ハ每年輸入ノ數量ト稅金額ヲ定ムルコト、爲セリ。

(七)郵便物ノ禁制品　ハ例ヘバ我邦ニ於テ(一)內國郵便禁制品及(二)關稅其他ニ關スル法令ニ依リ輸出入ヲ禁ズル物品ヲ、外國郵便禁制品ト爲スガ如シ。內國郵便禁制品ハ次ノ如シ。

一、公安ヲ防害シ、又ハ風俗ヲ壞亂スベキ文書圖畫其他ノ物件

二、爆發性、發火性其他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ、又ハ郵便物ニ損害ヲ與フベキ物件(病原菌ニシテ特別ニ包裝シタルモノヲ除ク)

三、通貨、金銀、寶石ハ價格標記又ハ書留ト爲スニ非ラザレバ、郵便物トシテ差出スヲ得ズ。

(八)補助貨ノ輸入禁止　自國ノ貨幣制度ヲ妨グザラシメンガ爲ニ、補助貨ノ輸入ヲ禁止スルコトアリ、英國ガ一八八七年三月ノ法律ニ依リ金銀貨以外ノ輸入ヲ禁止スルハ亦此目的ニ出ヅ。

六、我邦ノ禁制品　中既ニ述ベタルモノアレド、更ニ之ヲ概括スレバ次ノ如シ。

我邦ニ於テハ關稅定率法第十一條ニ於テ四種ノ輸入禁制品ヲ揭グ、卽チ

一、阿片及阿片吸煙具、但シ政府ノ輸入スルモノヲ除ク

二、僞造、變造又ハ模造ノ貨幣、紙幣、銀行券及有價證券

三、公安又ハ風俗ヲ害スベキ書籍、圖畫、彫刻物其他ノ物品

四、特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ヲ侵害スル物品

此中二及三ハ前記ノ絕對的禁制品ニ當リ、一及四ハ條件附禁制品ニ當ルワケナリ。而シテ此他故物及植物ノ輸入禁制品アルコト既述ノ如クナレドモ、尙ホ之ニ關シテ述ブベキハ(一)畜牛結核豫防法及(二)犯則ノ制裁是ナリ。〔獨逸染料ノ輸入制限ハ次節第二項ヲ見ヨ〕

(一)畜牛結核豫防法（明治三十四年四月法律第三五號其後二回改正）　ニ依レバ、外國又ハ主務大臣ノ指定シタル地方ヨリ畜牛ヲ輸入又ハ移入セントスルトキハ、稅關長及檢查員ノ指揮ニ從ヒ、特定ノ場所ニ於テ之ヲ檢查シ、若シ結核病ノモノナルカ、又ハ其疑アルトキハ、稅關長又ハ檢查員ハ其輸入又ハ移入ノ禁止、繫留、其他必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得。是等ノ規定ニ從ハザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス。

(二)輸出入植物取締法（大正三年三月法律第十一號）　ニ依レバ、指定ノ植物ヲ輸入（又ハ輸出、移入移出）セントスル者ハ、其植物及其容器包裝ニ使用シタルモノニ付キ、植物檢查官吏ノ檢查ヲ受クルコトヲ要シ、之ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處セラル。檢查ヲ受クベキ、輸入（又ハ移入ノ）ノ植物ハ(一)植物及其ノ部分ニシテ栽植培養ノ用ニ供スルモノ(二)種子、地下莖及根ニシテ、繁殖ノ用ニ供スルモノ(三)柑橘ノ果實、(四)馬鈴薯ノ四種ト定ム。而シテ病菌又ハ害蟲ヲ輸入（又ハ移入）セントスル者モ、亦稅關植物檢查官吏ノ檢查ヲ受クベキモノト爲セリ。

(三)制裁　輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ、又ハ其輸入ヲ爲シタル者ハ、犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ、其貨物ヲ沒收スルヲ通則トスルモ、他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ、ソレニ依ルコト、關稅法第七十四條ノ規定スル所ナリ。他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノトハ、前記ノ畜牛、植物ニ關スルモノ、外、刑法（阿片及阿片吸煙具ノ輸入其他ノ罪ハ刑法第百三十六條乃至第百四十一條、又僞造變造ノ通貨等ニ關シテハ、同法第百四十八條乃至第百六十三條及明治三十八年法律第六十六號）特許權其他ノ工業所有權及著作權等ヲ侵害スル物品ノ輸入其他ノ罪ニ關シテハ、是等各法律ノ規定スル所ナリ。

七、輸出禁制品　往時ハ自國ノ工業ヲ保護センガ爲メニ、原料品、機械等ノ輸出ヲ禁ジ、又穀價ヲ低廉ニシ、生活ノ安易ヲ圖ランガ爲メニ、穀物ノ輸出ヲ禁ジタルコトアレドモ、近世ニ於テハ特別ノ理由アル場合ノ外、絕對ニ輸出ヲ禁止スルモノ、若クハ戰時ニ敵國ニ對シ、或ハ一般的ニ或種ノ商品ノ輸出ヲ禁止スルガ如キ例アルノミナリ。其稀ナル禁止ノ二、三例ヲ擧クレバ次ノ如シ。

(一)露西亞……一八九二年內國凶作ノ爲メ小麥ノ輸出ヲ禁止シタリ。

(二)獨逸及墺地利……一八九二年是亦凶作ノ爲メ秣ノ輸出ヲ禁止セリ。

(三)英國……兵器、彈藥其他ノ軍需品ヲ輸出シ、若クハ、輸出又ハ沿海輸送ノ爲メ、或地ニ致シタルトキハ、之ヲ沒收シ且ツ百磅ノ罰金ヲ賦課ス(戰前)。

(四)支那……ノ輸出禁制品ハ條約ニ依リテ定メラレンタル、(一)武器、彈藥、(二)鹽(三)銅錢、及(四)穀類ノ四種ナレドモ、鹽ハ專賣ノ爲メ、又銅錢ハ貨幣制度維持ノ爲メニシテ、特ニ論議ノ價値ナキモ、穀物ノ禁令ハ支那古來ノ政策ニシテ、依テ以テ一般民衆ノ食糧ヲ豐富ナラシメ、動亂ヲ防ガントスルニ在リ。然レドモ我邦ノ加キハ大戰後特ニ政府ニ交涉ッテ、其輸出ヲ認許セシメタルコトアリ。又滿洲ニ於テハ露支條約ニ依リ、米ノミヲ禁止セルヲ以テ、雜穀ノ西比利亞地方ニ輸出セラル、高少カラス、我邦モ一九〇八年以來屢支那ニ迫リテ、小麥、高粱其他ノ雜穀ノ解禁ヲ行ハシムルコト、爲セリ。

八、我邦ノ輸出禁制品　我邦モ亦開國ノ當初ニ在ツテハ支那流ノ思想ニ依リ、米麥、小麥粉、鐵等ノ輸出ヲ禁止シタルコトアリシモ、明治六年ヨリ漸次之ヲ廢止スルコト、爲セリ、然レドモ現今ニ於テモ尙ホ禁止シ得ルモノ、並ニ特ニ認可ヲ要スルモノハ之ナキニアラズ、卽チ次ノ如シ。

(一)馬匹ノ輸出禁止　大藏大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ、當分ノ內馬匹ノ輸出ヲ禁ズルコトヲ得、斯ル命令アルニモ拘ラズ、之ニ違反シテ馬匹ノ輸出ヲ爲シ、又ハ爲サントスル者ハ、一年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處シ、其馬匹ハ之ヲ沒收ス。

(二)輸出認可品　「イバラ」蟹ノ罐詰、植物、羽二重、花莚、眞田、燐寸、硝子製造品、琺瑯鐵器、莫大小、刷子、「セルロイド」製品、鉛筆及鉛筆ノ心、織物等ヲ輸出スル場合ニハ、認可又ハ檢查ヲ要ス。是等ノ規定ハ殆ンド大戰中、輸出品ノ粗製濫造ヲ取締ランガ爲メニ發布セラレタルモノナレドモ、多クハ單ニ農商務省令ニ依リ、其制裁モ亦僅々百圓以下ノ罰金ニ過ギザレバ、其效果ノ擧ラザル虞ナキニアラズ。

(三)金銀ノ輸出取締法　ハ大戰中(大正六年九月)特ニ制定シタルモノニシテ、金銀貨又ハ其地金ヲ輸出セントスル者ハ、大藏大臣ノ許可ヲ受クベキモノトシ(但シ外國ニ旅行スル者ハ金貨ハ百圓未滿、銀貨ハ五十圓未滿ヲ携帶スルコトヲ得)之ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處スコト、爲セリ。卽チ此規定ハ絕對禁止ノモノニアラズ、又一時的ノモノナレドモ、事實上普通ノ爲替銀行若クハ商人等ハ輸出スルコトヲ得ザルヲ以テ、其禁止ト同樣ノ結果ト爲レリ。而シテ大正七年八月ノ大藏省令第三十八號ニ依リ。金若クハ銀ヲ主タル材料トスル製品又ハ金若クハ銀ノ合金ヲ輸出セムトスル者ハ、大藏大臣ノ許可ヲ要シ、之ニ違反シタル者モ亦前記ト同樣ノ制裁ヲ受クルコト、爲セリ。

第五節　我邦ノ關稅率

第一項　我邦關稅率ノ變遷

我邦ニ於ケル開國以來ノ關稅ノ變遷ヲ、便宜上四期ニ大別シ、其梗概ヲ示スコト次ノ如シ。

第一期　開國ヨリ改稅約書取極ニ至ル時期

安政四年和蘭及露西亞トノ追加條約ニ依リ、始メテ關稅ニ關スル事項ヲ定メ、翌五年米、英、蘭、露及佛ノ五箇國トノ條約ニ於テ、多少細別シテ稅率ヲ定メタリ。卽チ金銀、現用衣服、家

具、版本ノ如キヲ第一種免稅品トシ、次ニ船舶用具、麵麭、石炭、材木、米、木綿及毛ノ製品等ヲ第二種五分課稅品トシ、酒類ヲ第三種三割五分、其他ヲ第四種二割ト爲セリ。然レドモ開港延期等交涉ノ都度、關稅ニ於テ讓步スルノ已ムナキニ至リ、慶應二年、英、佛、米、蘭ノ諸國ト改稅約書及附屬稅目ヲ定メ、其輸入稅表ハ第一種從量稅品（八十九種）、第二種無稅品（穀物、鹽、石炭ノ如キ食料品及原料品）、第三種禁制品（阿片）、第四種從價稅品（奢侈品、貴重品等二十四種及稅率表ニ列記セザルモノ）トシ、輸出稅表モ亦略同一ノ分類ヲ爲シ、共ニ從價五分、及ビ之ヲ基礎トシタル從量稅率ヲ定メタリ。卽チ輸出入品ノ多數ニ對シ、從價五分ヲ協定セルノミナラズ、從價稅ノ價格モ原產國ノ價格ヲ採リ、且ツ之ヲ從量稅ニ換算スルニ當リテモ、當時ノ價格ヲ以テシ、之ヲ改算スルノ規約ヲ有セザリシヲ以テ、從量稅額ハ物價騰貴ト共ニ從價五分ニ達セザルニ至リ、且ツ內國稅賦課ノ權利ヲモ拋棄シタリ。其後白、伊、丁ノ諸國トモ此種ノ約定ヲ結ビ、維新後ニ至リテ締結シタル瑞典、諾威、及西班牙トノ條約（二年）ノ如キモ、亦略同樣ノ主義ニ出デ、我邦ノ關稅ハ全ク外國ノ羈束ヲ蒙ルニ至レリ。

第二期　條約改正時期

改稅約書及其後各國トノ條約ノ不利甚シキコト、上述ノ如クナリシヲ以テ、明治五年七月條約期限ノ近クニ從ヒ、政府モ亦意ヲ之ニ用ヒ、明治四年ニハ岩倉卿ヲシテ各國ニ說カシメ、十一年ニハ日米間ニ略對等ノ條約ヲ締結シ、（各國ノ承諾ナキ爲メ實行セラレズ）其後十九年頃ニ至リ井上外務卿ノ條約改正事業、次デ大隈外務大臣ノ條約改正案、二十四年ノ青木案、二十五年ノ榎本案等モ幾多ノ障害反對ニ遇ヒテ奏效セズ、改正期ヨリ二十二年ヲ經過シタル明治二十七年七月、陸奧氏ノ時代ニ至リ、日英條約先ヅ締結セラレ、次デ各國ノ條約モ亦之ニ倣ハシムルヲ得タリ。要スルニ此時代ハ條約改正時代ナルト同時ニ、最舊條約（改正約書）ニ依ル最モ不利不面目ノ時代ナリシナリ。

第三期　改正條約施行時期

此時期ハ改正條約施行ヨリ明治四十四年七月ニ至ル時期ニシテ、之ヲ其以前ニ比スレバ、其進步勘カラズ、通商自由、領事裁判撤去、最惠國條款ノ相互的設定等我邦ヲシテ對等的地位ニ進メタルモノ之アリト雖モ、永代借地權、移民ニ關スル束縛、相手國ガ植民地ヲ除外シタルガ如キ、不對等ノ規約アルノミナラズ、關稅上ニ於テモ亦不利少カラザリキ、是レ畢竟舊條約時代ニ於テ異常ノ束縛ヲ受ケタル爲メ、改正條約當時ニ於テモ、俄ニ其全權ヲ恢復シ難カリシニ因ルナリ、今其不利ナリシ點ヲ擧グレバ次ノ如シ。

(1)　片務ノ協定稅率　（一）我邦ハ英、佛、獨ノ三國ニ對シ、是等ノ諸國ヨリ我邦ニ輸入シ來ル重要商品ノ低率關稅五分乃至一割五分ヲ協定シナガラ、我邦ヨリ是等ノ諸國ヘノ輸入品ニ對スル稅率ヲ協定セザリシヲ以テ、我邦ハ唯最惠國條款ニ依リテ、種類ヲ異ニスル他國協定品ノ利益ニ浴シ得ル（事實上利益少シ）外、何等得ル所ナキニ、是等諸國及其他ノ條約國ハ、此協定及最惠

國條款ノ作用ニ依リ、重要輸入品ニ平均一割ノ低稅率ヲ適用セシメ得タルコト、(二)米國ノ如ク條件附ノ最惠國條款ヲ交換シタル國ニ對シテハ、無條件ニ我協定稅率ノ利益ヲ與ヘ、我邦ハ對手國ニ於テ然ル能ハザリシコト、(三)日墺間ニハ双務ノ協定アリシモ、事實上片務ニ等シカリシコト、(先方ノ協定品ハ既ニ他國ニ對シテ低減シアリシモノナリキ)。

(2)　從量稅額ノ不公平　協定稅率ハ元來從價稅ナリシニ、議定書ニ於テ之ヲ從量稅率ニ換算スルヲ約シ、其價格ヲ議定書ノ日附前六箇月トシタルヲ以テ、同稅率施行(三十二年七月)前ノ價格ヲ採ルノ不條理ヲ生ジタルノミナラズ、之ヲ改算スルノ權利ヲ保留セザリシヲ以テ、(日英追加條約ニハ之アリシモ事實無效ト爲レリ)實際ノ稅金額ハ物價騰貴ト共ニ、當時ニ比シ多ク低率トナリ、協定稅率ノ不利ヲシテ一層大ナラシムルニ至レリ。今一二ノ例ヲ擧グレバ、生金巾ノ協定稅率ハ七分五厘(國定稅率ハ三割)ニシテ、當時ノ換算從量率ハ一方碼六厘ナルモ、近年ノ價格ヲ以テスレバ、一錢以上ト爲ルベク、隨テ六厘ノ割合ハ事實從價四分五厘ニ當リ、此他綿絲ノ如キモ、協定稅率ハ八分ナレドモ、時價ヨリ觀レバ、四分前後ニ過ギザルガ如シ。

(3)　見越輸入ノ弊害　關稅改正施行ノ時期ヲ豫メ知ルコトヲ得ルハ、輸入商ノ利トスル所ナルベキモ、見越輸入ハ往々經濟界ヲ攪亂シ、且ツ政府ノ關稅收入ヲ減ゼシムルノ不利アリ、(稅率低下ノ場合ニハ見越不輸入ヲ生ジ是レ亦同樣ノ結果ヲ呈ス、一八九四年ノ米國關稅法ノ如キハ卽チ是レ也)是ヲ以テ一八九七年ノ佛蘭西ノ如キハ、此弊ヲ防ガンガ爲メ、穀物、葡萄酒、獸類、肉類ノ稅率ヲ高メントスルトキハ、假リニ稅率ヲ高メ、若シ此稅率ガ法律ト爲ラザルトキハ、過剩稅金ヲ返戻スルノ規定サヘアリ、西班牙、希臘、伊太利及英國ノ如キモ、亦略同種ノ目的ニ出ヅル規定ヲ有ス。然ルニ我邦ニ於テハ、日獨條約ノ議定書ニ於テ、國定稅率改正ノ場合ニ於テモ、尙ホ六箇月前ノ豫告ヲ與フベキ旨ヲ約シ、日墺條約モ亦之ヲ有スルヲ以テ、國法ヲ以テ定ムベキ國定稅率ノ施行期限ニ對シテ、外國ノ束縛ヲ受クルノ不體裁ヲ生ズルノミナラズ、稅率增加ノ都度、見越輸入ノ弊ヲ避クルノ手段ヲ有セザリキ(協定稅率廢棄ノ場合ニモ、條約改正ノ豫告期間、卽チ一箇月又ハ六箇月ノ豫告期間アリテ、是レ亦此弊ヲ免ルベカラザルナリ)。

政府ハ條約ヲ改正スルト同時ニ、明治三十二年三月ヲ以テ關稅定率法ヲ定メ、其後三十二年及三十四年ノ二回ニ改正ヲ加ヘタリシガ、三十七年戰時稅トシテ非常特別稅法ニ依ル增稅ヲ行ヒ、爾來國費多端ノ爲メ之ヲ撤去シ難キト、(事實上)條約改正ノ一部トシテ諸種ノ改正ヲ加フルノ必要トニ因リ、三十九年三月末日ヲ以テ大ニ改正ヲ加ヘ、同年十月一日ヨリ之ヲ施行シタリ、卽チ四十四年七月十六日マデ斷行セラレタル國定稅率ニシテ、改正ノ要旨ハ次ノ如シ。

此定率法ハ條文十二箇條ト附屬稅表トヨリ成リ、條文中ニハ從價稅ト從量稅トノ換算法、協定稅率ノ適用ナキ國ノ生產品ニ對スル特別稅率、報復稅ノ規定、課稅價格算出法、免稅品、再輸出、輸入原料品ヲ以テ製造シタル物品ヲ輸出スル場合ノ拂戾、禁制品等ヲ規定シ、附屬輸入稅表ハ輸入貨物ヲ大別シテ十九類ト爲シ、品目五百三十八種ヲ分チ、更ニ各種ノ細別ヲ認メテ稅率ヲ定メ

タルガ、其趣旨ハ次ノ如クナリキ。

一、稅目分類上ノ整一　舊稅率ハ明治三十年ノ制定ニテ、稅率ノ有無輕重、內地產業ノ發達ニ伴ハザルヲ以テ之ヲ改メタルコト。

二、非常特別稅ノ廢止　日露戰爭ノ爲メ制定セラレタル非常特別稅法ハ關稅ニモ及ビ、益不公平ヲ重ヌルコト、爲リタレバ、之ヲ廢止セルコト（但シ稅率ハ大體ニ於テ增稅後ヨリ低減セラレザリキ）。

三、保護主義　齊シク原料品ニテモ內國ニ產出ナキモノハ無稅、產出アルモノハ輕少ノ課稅ヲ行ヒテ、原料品ハ其輸入ヲ容易ニシ、製造品、就中本邦ニ競爭品アルモノニハ、重稅ヲ課シテ以テ內地工業ノ發達ヲ保護シ、尙ホ奢侈品ノ如キハ、一層稅率ヲ高メタルコト。

四、歲入主義　國費多端ノ際トテ、歲入增加ノ必要アリ、且ツ我邦ノ稅率ハ諸外國ニ比シ甚低キガ故、之ヲ增加シタリ。卽チ舊定率法ノ稅率ハ平均一割（九・七一%）ナルニ、此稅法ハ平均一割四五分ニ高メタリ（然レドモ重要輸入品ニハ低廉ナル協定稅率之アルヲ以テ、此增率ノ效果ハ極メテ少ナシ）。

五、報復主義　外國ニテ我邦ノ生產品ニ不利益ノ取扱ヲ爲ストキハ、亦之ニ應ジテ稅率ヲ高ムルノ規定ヲ設ケタルコト。

六、協定稅率ノ適用ナキ國　例ヘバ支那ノ如キ國ニ對シテモ、物品ニ依リテハ勅令ヲ以テ協定稅率ト同樣ノ稅率ヲ課シ得ルコト、爲シタルコト。

七、從量主義　舊定率法ノ主義ハ主トシテ從價主義ニ在リテ、便宜從量稅ニ依ラシムルモノナレド、之ヲ顚倒シ、主トシテ從量主義ヲ採用シタルコト。

八、稅目ノ細別　舊定率法ノ稅目ハ其分類粗笨ニシテ課稅ノ公平ヲ望ミ難キ弊アルヲ以テ、歐米諸國ノ例ニ倣ヒ、物品ノ精粗、及品質ノ如何ニ依リテ精密ニ分類シタルコト。

九、厘位切捨　計算上ノ便ヲ圖リ、稅率ノ厘位ヲ切捨テタルコト。

第四期　條約改正後ノ時期

政府ハ三十九年定率法ヲ改正シタルモ、協定稅率ノ存スル爲メ稅率往々權衡ヲ得ズ、且ツ該法實施後僅ニ四箇年ニ過ギザレドモ、其間經濟狀態ノ變動ヲ來シ、各種產業貿易モ亦多少面目ヲ新ニシタルヲ以テ、四十四年七、八月ノ交、各國トノ條約期限滿チ協定、稅率モ亦消滅スルヲ機トシ、四十三年四月十四日ヲ以テ、更ニ定率法ヲ改正シ、四十四年七月十七日ヨリ施行スルコト、爲セリ。蓋シ我邦關稅史上特筆大書スベキ時期ニシテ、從來ノ如ク重要輸入品ノ大部分ガ協定稅目ニ屬セシト異リ、大體ニ於テ稅權ヲ恢復シ得タルハ、最モ慶賀スベキ事ナリ、唯英國、獨逸、佛蘭西等ニ對シ、數種ノ重要貨物ニ就テ稅率協定ヲ強ヒラレタルヲ遺憾ト爲スノミ。

此ノ定率法ハ本文十一箇條ト、附屬輸入稅表トヨリ成リ、本文ハ從價稅品ノ價格、特別協定ノ便益ヲ受ケザル地域ノ生產品ニ對シ、勅令ヲ以テ之ヲ與フルコト、報復關稅ノ規定、輸出奬勵金ニ對

スル相殺關稅、凶作ノ場合ニ米ノ輸入稅ヲ減ズルコト、免稅品、再輸入品免稅、輸入原料品免稅、船舶品免稅及ビ輸入禁制品ニシテ、輸入稅表ハ、第一類「生活力ヲ有セザル植物及動物」ヨリ第十七類「雜品」ニ至ルマデ、全體ヲ十七類ニ分チ、品目ヲ分テ六百四十七稅番（追加二十五稅番ヲ加フレバ六百七十二稅番）ト爲セリ、今改正ノ要旨ヲ窺フニ

保護主義　我政府ガ稅率ヲ改正シタル目的ハ、公平ヲ期スルト同時ニ、歲入ノ增加ヲ圖リタルヤ勿論ナルモ、各種ノ物品就中製造品ヲ保護センコトスルハ、從來ノ主義ナリシガ、今回ノ改正ニ於テモ特ニ此點ニ重キヲ置ケルモノ、如シ、唯或ハ稅率高キニ過ギ、成ハ權衡ヲ失スルモノアリタルハ、其缺點ナリ。

品目ノ分類　前定率法ハ品目ヲ分チテ五百三十八種ト爲セシガ、現行法ハ六百四十七種ト爲シ、品種ヲ異ニスルニ從ヒ稅率ヲ異ニシ、且著シク稅目ヲ增加セリ、是レ例外ノ場合ノ外從量稅ヲ採リタルト、稅率ノ均衡ヲ得ントノ目的ニ出ヅ、是レ蓋シ一進歩ナルモ（從量稅ヲ採レバ細別ヲ必要トス）分類尙ホ宜キヲ得ザルモノアリ。

稅率　ハ前法ニ等シキモノ多キモ、亦增加シタルモノ及ビ低減セシモノアリ、就中協定稅率アル品目ハ、舊國定稅率ガ從價三割ヲ標準トセシヲ、此ノ定率法ニ於テハ二割ニ減ゼシガ如キハ、著シキ改訂ニシテ、又一方ニ於テハ、事實上ノ稅率ハ異ラザルモ、價格變動ノ爲メ變改シタルガ如ク見ユルモノアリ、例ヘバ「ビスケツト」ノ稅率ハ、共ニ從價四割ヲ標準トシテ定メタルモノナルモ、從量ヲ以テ現ハシタル爲メ、舊定率ハ百斤ニ付キ十一圓ナルニ、此ノ稅率ハ十二圓三十錢ト爲レルガ如シ、是レ舊稅率平均價格ニ依リタルガ爲メナリ。

大正十五年ノ一般的改正　舊關稅率ハ明治四十三年ノ制定ニ係リ、爾來十餘年ノ歲月ヲ經過シ、殊ニ歐洲戰爭以來物價並ニ內外產業ノ狀態一大變動ヲ來シタルヲ以テ、品目間相互ノ權衡上ヨリ觀ルモ、亦產業保護ノ點ヨリ觀ルモ、時勢ニ適合セザルニ至リタレバ、戰時及戰後政府ハ臨機或種類ノ稅率ニ付部分的ノ改正ヲ加ヘタルモ、尙ホ一般的大改正ヲ加フルノ必要ヲ感ジ、大正十年八月之ニ關スル諮問案ヲ作リ、之ヲ臨時財政經濟調查會ノ議ニ附スルコト、爲セリ。是レ一ハ各國トノ通商條約ガ改正ノ時機ニ入レルヲ以テ、協定稅率改正ノ問題等ニモ關係アリタレバナリ。諮問案ノ項目ハ次ノ如シ。

（一）收入ノ目的ヲ以テ課稅ヲ爲スヲ適當トスル物品如何、竝ニ之ニ對スル課稅率ノ最高限度如何。

財政上ノ收入ヲ圖ルコトハ關稅設定ノ主要ナル目的ナルコト、前述ノ如シ、然ルニ現行稅率ハ十餘年前ノ制定ニ係リ、且ツ主トシテ從量稅率ニ依レル爲、近時物價ノ昻騰ニ伴ヒ當然增加スベキ收入モ之ヲ得ル能ハス、頗ル屈伸力ヲ缺クノ憾アルヲ以テ、相當改正ノ必要アルハ論ヲ俟タス、然リト雖モ總テノ物品ニ對シ、收入ヲ本位トシ關稅ヲ賦課スルハ、一般消費者ヲ苦シムルノミナラス、却テ產業ノ發展ヲ阻止スルコトアルベキヲ以テ、收入主義ニ依リテ課稅スベキ物品ノ選定、竝其ノ賦課率ノ限度ニ關シテハ、最モ考慮ヲ拂フヲ要スヘシ。

（二）　産業保護ノ見地ヨリ課稅ヲ爲スヲ必要且適當トスル物品如何。

關稅ハ收入ノ目的以外ニ生産業保護ヲ主要ナル目的トス、現行關稅モ亦産業保護ノ意味ヲ加味シテ制定セラレ居ルコト、既ニ述ブルトコロノ如シ、サレバ内外産業狀態一變セル今日ニ於テハ、更ニ産業政策ノ見地ヨリシテ根本的ニ考慮ヲ加ヘ、今後經濟競爭ニ對應スベキ適當ノ制度ヲ定ムルノ必要アリ、然レドモ若シ其ノ方策ニシテ宜シキヲ失センカ、獨リ所期ノ目的ヲ達成シ得ザルノミナラス、却テ之ト關聯スル他ノ産業ノ發達ヲ阻害シ、又ハ一般消費者ヲ苦シムルノ虞ナキヲ保セズ、故ニ保護關稅ヲ課スルヲ必要トシ、且之ヲ適當トスル物品ニ付テハ、愼重ナル考慮ヲ加フルヲ要スヘシ。

（三）　課稅ノ權衡並ニ課稅上ノ便宜ヲ圖ル上ニ於テ、其ノ稅目等ノ按配如何。

現行制度ニ於テハ課稅上ノ簡便ヲ期スル爲メ、多數ノ物品ニ付キ從量率ヲ定メタルガ、現時ニ於テハ制定當時ニ比シ物價著シク變動セルヲ以テ、此ノ間課稅上ノ不權衡ヲ來シタリ、且稅目ノ分類煩ニ過ギ課稅上不便尠ナカラズ、故ニ課稅ノ權衡ト便宜トヲ考慮シ、從價稅ト從量稅トノ按配、及稅目ノ分類ノ如何ニスベキヤハ、頗ル研究ヲ要スル問題ナルベシ。

（四）　將來外國トノ稅率協定ハ如何ナル方針ニ依ルベキカ。

條約ニ依ル關稅ノ協定ハ從來漸次其ノ種類ヲ減シ、現ニ之ヲ存セルモノハ英佛伊ノ三國トノ間ノミナルガ、此等諸國トノ通商條約モ既ニ改訂ノ機近ツキ居ルコトナレバ、今後稅率ノ協定ニ付テハ如何ナル方針ニ出ツベキカ、是亦關稅ノ一般改正ヲ爲スニ付テ、豫メ考慮シ置クヲ要スル點ナルベシ。

斯クテ同調査會ハ特別委員會ヲ組織シ、更ニ小委員會ヲ選出シテ、大正十年九月ヨリ同十二年七月頃マデ前後四十三回ノ會議ヲ重ネ、答申原案ヲ起草シ、之ヲ特別委員會ノ總會ニ附シ、調査會ノ承認ヲ得テ政府ニ答申シ、政府ハ更ニ各品目ノ稅率ヲ決定スル爲メ、大藏省ノ官吏ヲ中心トシ、之ニ外務、農商務、遞信等ノ官吏ヲ加ヘタル「關稅率改正委員會」ヲ大藏省内ニ設ケ、之ガ調査ヲ試ミタルニ、大正十二年九月ノ大震災ニ遭テ中絶シ、更ニ十三年八月之ヲ設ケテ調査セシメタルコト嘗テ述ベタル所ノ如シ。次ニ新聞ノ報ズル所ニ依リ（大正十三年八月時事新報所載）經濟調査會小委員會ノ原案ノ大要ヲ示スコト、スベシ。

（一）　諮問案第一項　歲入上ノ見地ヨリスル標準

（イ）歲入ヲ確保シ得ベキ輸入品ニ對シテ之ヲ賦課シ、其稅率ハ當該物品ノ輸入額ヲ減少セシメザル程度トス。

（ロ）奢侈品ニ對シテハ最高率ヲ課シ、順次國民生活必要ノ程度ニ應ジテ、稅率ノ按配ヲ行フコト。

（二）　諮問案第二項　産業保護ノ見地ヨリスル標準

原則トシテ内地ノ産品ガ本邦市場ニ外國品ト正當ナル競爭ニ耐ヘ得ル程度ヲ以テ限度トス。是レ我邦ガ天産品其他ノ原料品ニ乏シキ爲メ、極端ナル保護政策ヲ採ルトキハ、消費者側ノ被ル打擊少カラザルヲ以テ、此點ヲ顧慮シタルモノナリト云フ。

前項ト關聯シ、物價政策ノ立場ヨリ、生活必要品ニ對シテハ、保護政策ニ背馳セザル限リ減免ヲ行ヒ、一面ニ於テ貨銀ト物價トノ平衡ヲ期セントス。一例ヲ擧グレバ大正十一年九月、政府ガ緊急勅令ヲ以テ減免ヲ斷行セントセシ生蔬菜、鹽魚、乾魚、卵粉等ハ此際同樣ノ趣旨ニ依ッテ減免セラレ、米及籾ハ當然免稅セラル、性質ノモノナレドモ、産業保護ノ見地ヨリ、現在通リ勅令ヲ以テ隨時

課稅ヲ免除スルコトヲ得ベキ前提ノ下ニ、依然有稅品ト定メ、又薪炭類ノ如キハ、貨銀騰貴ノ影響ヲ受ケ、價格ヲ騰貴セシメタルヲ以テ、之ヲ無稅品トスルニ至ルベシ。

軍需品、文化、敎育、及衞生上ノ必要品ハ課稅上ノ便宜ヲ圖ルベキ稅目ノ按排

(二)　諮問案第三項　課稅ノ權衡並ニ課稅上ノ便宜ヲ圖ルベキ稅目ノ按排

之ハ原則トシテ從量稅ヲ採リ、已ムヲ得ザルモノ、ミ從價稅ヲ採ルコト、爲セシガ、委員會最初ノ案タル、從價稅品ニシテ適用上從量稅ヲ課スルヲ便トスル場合ニハ、一定期間ノ平均價格ニ依リ換算シタル從量稅ニ變更シ得ルノ制度（之ハ明治三十九年ノ定率法ニアリタルモノナリ）ハ終ニ容レラレザルコト、爲レリ。

諮問案第四項……協定稅率ノ件

此項ハ最初原則トシテ國定及協定稅率制ヲ採用スルコト、爲シタル爲メ、別ニ小委員會ノ論議ニ上ラズ、單ニ口頭ニテ次ノ如キ申合ヲ爲シタルニ止レリト云フ。

協定稅率ノ改正ニ就テハ國定稅率ガ確定シタル後、外務省ヲシテ之ヲ行ハシメ、協定ノ相手方並ニ範圍ハ出來得ル限リ之ヲ制限シ、苟モ片務的協約ヲ結ブガ如キ不利ヲ敢テセザルコト

尙ホ委員會ニ於テハ嘗テ述ベタルガ如ク、品目全部ニ亘リ稅率ヲ無稅外四種ニ大別シ、標準價格ヲ大正十一年十月ヨリ十二年九月ニ至ル平均價格ニ求ムルコト、爲セリ。

大正十五年政府ガ關稅改正ノ法律案ヲ議會ニ提出セシ場合ノ理由書ヲ見ルニ大要次ノ如シ。

大體ノ趣旨ハ歲入ノ增加ヲ目的トセズ、奢澤稅ノ物品ニハ暫ク手ヲ觸レズ、(一)內地產業ノ生產條件ヲ有利ナラシムルト共ニ、(二)重要產業ニ付テハ外國品ニ對シ必要ナル程度ノ保護ヲ加ヘ、(三)他面消費者ノ利害ヲ考慮シテ國民生活ノ安定ヲ策シ、(四)且ツ稅率ノ適當ナル按配ヲ圖ラムコトヲ期セリト云フ、卽チ

第一　產業方面ニ於テハ、我邦ニ生產ナキカ、又ハ生產ニ乏シキ原料品ニ付テハ、現行稅率ノ通リ、無稅又ハ低稅ヲ據置クノ外、新ニ之ヲ無稅トスルニ努メ、

第二　重要產業ニシテ今尙發達ノ道程ニアルモノ、及將來新ニ成立ノ見込アルモノニハ、外國品ノ競爭ニ對シ、必要ナル程度ノ保護ヲ與フルコト、シ、

第三　事業ノ基礎鞏固ナルカ、又ハ我國ノ生產豐富ニシテ、外國品トノ競爭ニ堪ヘ得ルモノニ對シテハ、或ハ稅率ヲ輕減シ、若ハ現行稅率據置ノ方針ヲ採リ、

第四　國民生活ノ必需品ニ對シテハ、稅率ヲ輕減シテ成ルベク低稅トシ、若ハ現行稅率ヲ據置クコト、シ、

第五　嗜好的消費ニ屬スル物品ニ對シテハ、其ノ消費ヲ抑制スル趣旨ヲ以テ、相當ノ高稅ヲ課スルコト、爲セリ

第六　課稅ノ技術上ヨリ從價稅ハ成ルベク從量稅ニ改ムル方針ヲ採リタルコト、

第七　關稅ノ賦課減免及拂戾ニ關シテ必要ナル改正ヲ加フルコト、爲セシコト

更ニ當時大藏當局ノ意見トシテ傳ヘラレタル所ニ依レバ次ノ如シ。

「現行法（大正十五年改正前ノ）課稅品目ハ六百四十七種（外ニ追加二十五種アリ）ニシテ、之ヲ細別スレバ一千五百八十四ト爲リ、此中從價稅ハ一千百ニ上ルモ、從量稅ノ課稅標準價格ハ明治四十一、四十二、四十三年ノ三箇年ノ平均輸入價格ナルヲ以テ、物價指數二二〇ヲ示ス現在ニ適セザルハ言ヲ俟タズ。卽チ諮問案ヲ附議シタル所以ニシテ、小委員會ノ大方針ハ價格ノ變動甚シキモノ、例ヘバ貴重品、奢侈品其他染料等ノ如ク、其種類多ク、價格ニモ亦甚シキ差違アルモノハ、現在ノマヽ從價稅トシ、其他ハ大體ニ於テ從量稅トシ、之ヲ甲乙丙ノ三種ニ區別シ、丙（二割以上三割）ハ保護政策、甲（五分以上一割）ハ自由貿易主義的ニ主トシテ原料品、粗製品等ニ課稅シ、乙（一割以上二割）ハ其中間ヲ採ラントス。而シテ之ガ爲メ幾何ノ歲入增加ヲ期シ得ルヤハ、固ヨリ不明ナレドモ、大藏當局ノ增收見込額ハ現在關稅收入額ノ約三割、卽チ大正十年ノ關稅收入一億二百萬圓、十一年ノ一億一千貳百萬圓ヨリ見テ、初年度七百五十萬圓、次年度以降約二千萬圓ナリト云フ」。（實際ハ三四百萬圓ノ增收ナリト云フ）

第二項　條約ト關稅

一、條約改正

今我ガ現行條約改正ノ徑路ヲ觀ルニ、日米條約ハ明治四十四年四月四日批准交換ヲ了シ、日英條約モ亦四月六日ヲ以テ發表セラレ、瑞典トノ條約ハ七月十二日ヲ以テ批准交換濟ト爲レリ。而シテ獨逸、諾威、及西班牙トノ條約モ亦同月十四日ヲ以テ批准交換セラレタルヲ以テ、條約有效期限ナル七月十六日迄ニ（日佛、及日墺條約ハ八月三日ヲ期限トス）條約改正ノ目的ヲ達シ得タルハ、上記六箇國ニシテ、白、和、丁、瑞西及加奈陀等ニ對シテハ、條約期限後一時無條約ノ狀態ニ陷ルヲ避クル爲メ、互ニ最惠國條款ヲ保留スルノ暫定條約ヲ締結シ、伊太利モ亦未締結ナリシヲ以テ、七月十七日ヨリ直ニ新條約關係ヲ持シ、改正關稅率ヲ施行シ得タルハ上記諸國ニシテ、佛墺兩國ニ對シテハ、八月三日マデ舊協定稅目以外ノ貨物ニ對シテ國定稅率ヲ適用シ、八月四日マデニ新條約ヲ締結スルコト、爲セリ、是等ノ諸改正條約ハ關稅ニ關シテ如何ニ面目ヲ改メタル乎。

英、獨、白、西ノ諸國ト我邦トノ通商條約ハ、四十四年七月十七日（期限）ヨリ無效ナラシメンガ爲メ、四十三年七月十七日ニ於テ（一ケ年前ノ讓告ヲ必要トス）、各締盟國ニ通告シ、佛墺ノ二國ニ對シテハ、四十四年八月四日ヨリ無效タラシメンガ爲メ、四十三年八月四日之ヲ通告シタリ。

二、日米條約

ハ其第五條ニ於テ「輸入稅ハ今後兩國間ノ特別取極又ハ各自ノ國內法ニ依リテ之ヲ定ムベシ」ト約シ、更ニ其議定書ニ於テ「關稅ニ關スル特別取極ノ締結セラルヽニ至ルマデハ千八百九十四年、十一月二十二日ノ條約中ニ存スル關稅ニ關スル規定ヲ維持スベシ」ト定メタルヲ以テ、米國ニ對シテハ、關稅特別條約ノ締結セラルヽマデハ（爾來特別取極ナルモノナシ）現狀維持ニシテ、卽チ相互條件附最惠國條款ヲ有スルニ止ムルモノトス。

三、日英條約　舊日英條約ニ於テハ、協定稅率ハ條約ノ存在期間之ヲ變更スルコトヲ得ズト雖モ、新條約ニ於テハ、本條約ノ期限ハ十二箇年ナルモ、關稅ニ於テハ、四十四年七月十七日ヨリ一箇年ヲ經過シタル後ハ、兩締盟國ノ一方ガ協定稅表ニ修正ヲ加ヘシコトヲ希望シ、之ヲ他ノ一方ニ通告スルコトヲ得、通告後六箇月以內ニ商議結了セザルトキハ、爾後一箇月以內ニ、更ニ六箇月ノ豫告ヲ以テ協定稅率ヲ廢棄スルコトヲ得、卽チ本條約ト獨立シテ協定稅率ヲ改廢スルコトヲ得トセシハ、一面ヨリ觀レバ甚利ナルガ如キモ、我邦ガ這般稅率ヲ協定セシハ、英國ノ抗議ニ由ルモノニシテ、僅ニ此程度ノ讓步ニ止ムルヲ得タル結果ナレバ、今後特別ノ事實ノ生ゼザル限リ寧ロ我邦ニ不利ヲ與フルナキヲ保セズ、換言スレバ我邦ガ協定稅目ヲ撤去又ハ低減シ得ルノ機會ヨリハ、英國ガ無稅品ヲ有稅品ト爲スノ虞多キガ如シ。

更ニ舊條約ト異ル所ハ其協定稅目ナリ、我邦ハ自由主義ナル英國ニ對シテハ双務協定ノ餘地ナキヲ以テ、最初ヨリ協定ノ意思之ナク、ソレカアラヌカ、國定稅率モ舊協定品目ニ對シテハ約一割ヲ引下ゲタルニ、英國ノ抗議ニ由リ、我邦ハ又日英同盟ノ如キ重大ナル政治的問題ヲ考慮シ、遂ニ「ペイント」、亞麻織絲、綿織物、毛織物、及交織物、竝ニ鐵ノ五目ニ對シ、改正國定稅率ヨリ更ニ四分ノ一乃至三分ノ一ヲ低減シテ協定稅率ヲ定メタリ、是レ尙舊協定稅率ニ比シ約二倍ノ稅率ニシテ、品目モ舊日英協定稅目ノ三十九目（六十四種）ニ比シ著シク減少シタリトテ、政府ハ其成效ヲ誇ル、蓋シ一進步タルヤ明カナレドモ、是等五目ハ尙ホ英國ヨリノ重要輸入品ニシテ、他ノ締盟國モ亦最惠國條款ニ依リ均霑スベキガユエニ、我邦ノ不利尠少ナラズ、殊ニ双務ノ名ヲ得ンガ爲メ、英國ヘ輸入スル羽二重、銅、麥稈其他ノ眞田、樟腦等十種ノ貨物ニ對シテ無稅ヲ約シタルガ如キハ、已ムヲ得ザル窮策ナリトハ云ヘ、其對價ノ甚安直ナルニ驚カザルヲ得ズ、而シテ此ノ如キ双務ノ協定ニ出デンヨリ、寧ロ我ガ定率法ヲ改正スルノ優レルコト、一部論者ノ唱ヘタルガ如シ。（日英協定稅率ハ大正十四年三月十日限廢止セラレタリ）

四、日獨條約　獨逸モ亦我邦ニ迫リテ稅率ヲ低減セシメ、革類ノ一部、サリチール酸、鹽酸及硫酸キニーネ、人造乾藍、アリザリン其他ノ染料、毛織絲、毛綿交織物ノ一部、包裝及燐寸用紙、亞鉛原板、瓦斯機關、電機中重量大ナルモノ等、稅目十一個ニ就キ協定稅目ヲ設ケ、國定稅率ニ比シ七分ノ一、五分ノ一、四分ノ一等ヲ減ジ、甚シキハ五割六分ヲ減ゼシモノサヘアルモ（キニーネ）、最重要輸入品タル人造乾藍ノ稅率ヲ國定稅率ノマヽニ據置キ（百斤四拾圓）染料、毛織絲ヲ二割減ニ喰ヒ止メタルハマダシモナリト謂フコトヲ得ベシ。而シテ我邦ハ之ガ對價トシテ我邦ヨリ獨逸ヘ輸出スル重要貨物ノ稅率ヲ協定シ、羽二重、羽二重手巾、漆器、花莚、金具製釦卸、麥稈眞田、經木、木蠟、寒天等ノ九品卽チ獨逸國定稅品十二ニ渉リ、或ハ稅率ヲ輕減シ、或ハ現行稅率ノ据置ヲ約定シ、從來ノ如ク我邦ハ獨逸ヨリノ重要輸入品五十九種（改正定率法ノ七十目ニ當ル）ニ對シ低稅率ヲ協定セルニ、先方ハ單ニ最惠國待遇ヲ與フルニ止メタルニ比シ、一大進步ヲ示スコトヲ得タリ、（獨逸ニ限ラズ各國ニ最惠國條款ヲ約セルコト依然タリ）然レドモ是等協定

稅目ヲ比較スルニ、獨逸ガ我邦ヘ賣ル所ニ比シ、其金額遙ニ多ク、而モ我邦ガ其重要輸出品タル羽二重、(三匁付以上)及眞田ニ關シ、獨逸現行率ノ据置ヲ約セシムルニ止メ、三匁以下ノモノハ協定外ニ逸シ、殊ニ樟腦ノ如キ主要品ヲ協定外ニ置キタルハ、事實上ノ大讓歩ニハ非ラザル乎、樟腦ハ現今無稅ニシテ獨逸工業ノ必要原料ナリト雖モ、保護主義ノ獨逸ハ或ハ之ヲ以テ報復課稅ノ材料ト爲スナキヲ保セズ、要スルニ獨逸トノ双務協定モ亦充分ナル成功ト觀ルコト能ハザルベシ。日獨關稅關係ニ就テ尙ホ注意スベキハ、改正條約ニ於テハ、通商航海條約ト關稅條約トヲ分離シ、一般通商條約ガ明治五十五年七月十七日以後ニ於テ、始メテ一箇年前ノ廢棄豫告ヲ行フコトヲ得ルニ反シ、關稅條約ハ明治五十年一月一日以後、何時ニテモ一箇年ノ豫告ヲ以テ之ヲ廢棄スルコトヲ得ルコト、及ビ舊條約ニハ我邦國定稅率ノ改正モ公布後六箇月ヲ經テ始メテ獨逸輸入品ニ適用シ得ベク、他ノ諸國モ亦此利益ニ浴シ、之ガ爲見越輸入ノ弊ヲ大ナラシメシガ、改正條約ハ此制限ヲ撤去シタリ。是レ亦一成功ニ相違ナシト雖モ、此ノ如キ制限ヲ加ヘラレタルハ、元來異例ノ屈辱ニシテ、之ヲ除去シ得タルハ寧ロ當然ナリト謂フヲ得ベシ。而シテ大戰後ハ通商條約ノ效力モ亦當然消滅シ、隨テ日獨協定稅率モ亦消滅スルコトト爲リタルモ、通商關係モ亦之ナカリシガユエニ、其影響ハ異ルコトナシ、但シ日獨協定率ノ恩惠ニ浴セシ國ノ特典モ亦之ヲ享受スルコト能ハザルニ至リタルノミ。

大戰終熄後大正八年巴里ニ於テ調印セラレタル平和條約ニ依リ、爾來我邦ハ獨逸ニ於テ最惠國對遇ヲ享ケタルモ、其期限ハ同條約ニ依リ、大正十四年一月十日ヲ以テ到達シ、其後ハ無條約ノ狀態ニ在リタルヲ以テ、昭和二年七月二十日新ニ通商條約ヲ締結シ(田中、ゾルフ)、其有效期間ヲ實施後三箇年ト定メタリ、此條約ハ大體舊日獨通商條約ニ准ジテ締結セラレタルモノニテ、關稅ニ關スル點ヲ擧グレバ(一)輸出入稅ニ付最惠國待遇ヲ與ヘ(二)原產地證明書及見本、雜形ニ關シ一九二二年壽府ニ於テ署名セラレタル稅關手續簡捷ニ關スル國際條約ニ遵由スベキコトヲ約シ、(三)對手國ノ生產品ニ對シ輸出入ノ禁止若クハ制限ヲ行フ場合ニハ、第三國ニ對シテモ亦之ヲ適用スベキコトヲ約シ(四)通過稅ハ相互免除スルコト等ナリトス。

染料取極　我邦ニ於テハ大戰前輸入染料ニ對シ、單ニ關稅ヲ賦課スルニ止リシモ、大正四年日本染料會社ノ設立ヲ勸奬シ、爾後十箇年間年八分ノ利益配當ヲ保證スル外、關稅率ヲ高ムルノミナラズ、獨逸ノ染料輸入ヲ禁ジ、特許ヲ與ヘテ製造不可能ノ品種ノミノ輸入ヲ許シタリシガ、大正十五年八月六日獨逸染料會社代表「ワイベル」氏ト染料取極ヲ爲シ、其附屬表記載ノ染料六十五種並ニ其中間物ハ、本邦ガ反對セザル場合ノミ之ヲ輸入シ得ルコト、シ、尙ホ其ノ以外ノ染料ニテモ、將來同一品質ノモノヲ充分生產シ得ルニ至レバ、附屬表ニ追加シ得ルコト、シ、輸入港ヲ神戸及橫濱ニ限定シ、日獨通商航海條約實施ト共ニ實行スルコト、爲セリ、其後昭和二年七月更ニ細目ヲ協定スルコト、爲セシガ(協定稅率ヲモ定ムル筈ナリ)其品目ハ左記七十八種ニシテ獨逸ハ日本ヘノ輸出ヲ自發的ニ禁止シ、(一)我邦ノ需要ニ依リ、特ニ或モノヲ輸出セントスルトキ、

(二)品目ヲ增減セントスルトキハ、日獨官民合同ノ染料委員會ニ付議シ、其承認ヲ經ルコト、爲セリ（我邦外務省通商局長、生產者側代表一人、消費者側一人、獨逸染料會社側一人）協定ノ期限ハ三箇年ナレドモ、兩國ノ合意ニ依リ、之ヲ延長スルコトヲ得ルモノトス。

鹽基性染料（八種）、直接木綿染料（十二種）、酸性染料（十五種）、酸性媒染々料及「アリザリン」染料（七種）、硫化染料（七種）建築染料（一種）「ニゲロシン」其他ノ油解染料、中間物（二十七種）

尙ホ大正十四年利益配當保證ノ滿期後ニ至リ、六箇年間ニ亙リ、總額四百萬圓マデ、奬勵金ヲ交付スルコト、爲セリ、然ルニ右紳士協約實施ノ曉ハ從來ヨリ制限ノ範圍ガ幾分縮少セラル、爲メ、新ニ我會社ノ賣出シタル染料ハ、獨逸品ノ競爭ニ耐ヘズト爲シ、當業者ハ、右表ニ漏レタル染料ノ輸入稅ヲ引上グルコトヲ希望シ、當局者モ亦之ニ同意セリト云フ、而モ優良品ハ未ダ製出セラルヽニ至ラズ、米國品ノ如キモノスラ、僅ニ關稅ノ改正ニ依テ阻止スルニ過ギズ、保護策ノ弊モ亦茲ニ至テ極マレリト謂フベシ。

五、日佛條約　ハ兩國利害ノ衝突ト、佛國ニ於テハ批准ノ爲メ、議會ノ協贊ヲ要スルトノ爲メ一時行惱ミ、四十四年八月四日ヨリ一時無條約ノ狀態ニ在リシガ、其後協商成リ四十五年二月二十九日ヲ以テ新條約ノ批准交換ヲ了シ、卽日之ヲ施行セシガ、其第五條ニ於テ、關稅ニ關シ相互最惠國待遇ヲ與フルコトヲ約シ、第二十條ニ於テ、條約ノ有效期間ハ十箇年ナルモ、第五條ノミハ、何時ニテモ一箇年ノ豫告ヲ以テ之ヲ無效ト爲スヲ得トシ、更ニ其附屬議定書ニ於テ、佛國ヨリ我國ヘ輸入スル鰮油漬、天然バター、葡萄酒、「シヤンパン」、阿列布油、石鹼、香油、香水、毛織物、毛綿交織物、自動車及其部分品等約十五種ノ品目ニ對スル輸入稅ヲ、「バター」ノ外、二分ノ一若クハ三分ノ二以上我國定稅率ヨリ低減シ、我邦ヨリ同國ヘ輸入スル貨物中羽二重ノミヲ百基ニ付キ六百法（同國最低稅率）ニ止ムルコト、爲セリ、是レ亦成效ニハアラザルナリ。

六、日瑞條約　瑞典トノ條約モ亦關稅條約ヲ獨立セシメ、通商條約ノ存續期間ガ十二箇年ナルニ反シ、關稅條約ハ一箇年ノ豫告ヲ以テ、何時ニテモ廢棄スルコトヲ得トシタリ、日諸條約亦然リ。

七、日伊條約　ハ大正元年十一月二十五日羅馬ニ於テ調印セラレ、同二年六月十七日東京ニ於テ批准書ヲ交換シ、翌十八日實施セラル、コトヽナリ、是レ亦其第五條ニ於テ相互ニ最低率ノ關稅ヲ賦課スルコトヲ約シ、且ツ後ニ示ス諸品目ニ就キ双務的ニ稅率ヲ協定スルコト、爲シ、年末期限到來シタルヲ以テ、一箇年ノ暫定取極ヲ爲セシガ、八年十月一日以來一方ノ聲明アルマデハ、無期限ニ存續スルコト、爲セリ、然レドモ經濟狀態ノ變化ニ應ズル爲メ、兩國共ニ改訂ノ意アリ、目下交涉中ナリト云フ。

【註】日伊條約第五條（前段）――兩締盟國ノ一方ノ版圖內ノ生產又ハ製造ニ係ル物品ハ、他ノ一方ノ版圖內ニ輸入セラルヽニ當リ、別國ノ製產ニ係ル同樣ノ物品ニ適用セラルヽ、最低率ノ關稅ヲ課セラルヘシ。